

# 実践的な活動等を通じた地方創生の理解度等調査

## 結果報告書

令和2年3月27日

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局

■ 作業概要	2
■ 地方創生ワカモノ会合（フォーラム等）の実施概要	7
■ 会場アンケート結果	69
■ グループインタビューの結果概要	97
■ 広報アプローチ案【一次仮説】	134
■ 有識者の評価	138
■ 広報アプローチ案【修正案】	141
■ 理解促進に向けた周知資料	145
■ グループインタビュー時の呈示資料	185



## 作業概要

■ 本事業の目的

地方創生ワカモノ会合（フォーラム等）・地方創生ワカモノ調査（グループインタビュー）等の活動を通じて、地方に住む若者の意識を把握し、「地元定着・将来的なUターン促進」に向けた広報アプローチ案を検討し、東京一極集中是正の取組を国民運動として浸透する端緒とすることを目的とする。

**1. “地方創生ワカモノ会合” フォーラム等**

地元定着を目的に、G20サミットに合わせて、若者向け普及・啓発イベントを実施。

- ・イベントの中で若者の理解を進め、率直な意見を集約。
- ・アンケートにより、来場者や参加者の参加前後の変化を把握。
- ・自分事化、行動化していくのに効果的な方策を検討。

**2. “地方創生ワカモノ調査” グループインタビュー**

地方創生に関する若者の意識調査を実施。

- ・現状の意識を把握。
- ・地方の学生は自分事化し、何に取り組むべきか考え、
- ・東京の学生は地元に戻る（地方に行く）可能性に気づききっかけを模索。

**3. 地方に住む若者の「地元定着・将来的なUターン促進」に資する広報アプローチ案を検討**

東京一極集中是正に向けて、地方在住の若者に対する効果的なコミュニケーションのあり方等を検討。有識者の評価を得て、最終取りまとめを行った。

「地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる」をテーマに「地方創生ワカモノ会合」を全国8か所で開催した

N o.	都 市	日 程	テ ー マ	形 式	内 容	参 加 人 数	取 材 社 数
1	新 潟	5月 25日	スマート農業で、 地域は変わる	講演 +パネ ルディスカッション	農業におけるスマート農業技術、その実装、今後の活用可能性等をセミナー形式で紹介。実際にスマート農業の技術開発や現場への実装に取り組んでいる方からその取組内容についてご説明いただいた。	248名	5社 11名
2	福 岡	6月 1日	ファイナンス×ス タートアップで、 地域は変わる	講演 +パネ ルディスカッション	起業した若者・起業を目指す若者に向けたセミナーを実施。事例報告、パネルディスカッションでは、福岡で起業した方やスタートアップを支援している方から、取組・注意点等をご説明いただいた。	82名	10社 18名
3	つ く ば	6月 30日	ICTで、地域は 変わる 未来のまちを 考えよう！	ワーク ショップ	ドローンやAIなどの先端技術を学習しながら、グループで地域課題を解決する新しい道具や仕組みを考えて、未来の暮らしを提案するアイデアソンワークショップを行った。	84名	2社 2名
4	長 野	7月 13日	環境×観光で、 地域は変わる	講演 +パネ ルディスカッション	自然環境等の地域資源を生かしたツーリズム振興についてのセミナーを実施。事例報告等では、観光振興や地域の魅力の発掘・発信に取り組む方等から、その内容についてご説明いただいた。	142名	1社 1名
5	松 山	8月 4日	働き方改革× 起業で、 地域は変わる	講演 +パネ ルディスカッション	新しい働き方や起業について若者に向けたエールも含めセミナー形式で実施。パネルディスカッションでは、地域と共創する働き方を実践している方々に、その取組内容についてご説明いただいた。	237名	3社 3名
6	札 幌	8月 27・ 28日	観光で、地域 は変わる	講演 +グル ープディスカッション	「観光」をテーマにした特別講演の後、北海道への観光客を増やすためのアイデアを考えるグループディスカッションを行った。	313名	11社 14名
7	岡 山	9月 29日	ヘルステックで、 地域は変わる	講演 +パネ ルディスカッション	健康・体調管理のテクノロジー、予防医学等についてのセミナーを実施。事例報告、パネルディスカッションでは、ヘルステック企業の方々や、健康分野で地域活性化に取り組む方から、その取組内容についてご説明いただいた。	105名	2社 2名
8	名 古 屋	11月 9日	SDGsで、地 域は変わる	コンテ スト 表彰・発表 +公開授業	全国の中学生・高校生から募集した「SDGsまちづくりアイデアコンテスト」の表彰式を行い、優秀作品に選ばれた5作品の皆様によるプレゼンテーションを実施した。	168名	7社 19名
(延べ人数) 合計						<b>1379名</b>	<b>41社 70名</b>

■ **作業の目的** グループインタビューを通じて大学進学時の進路決定の実態とその後の就職に対する意識を把握すると同時に、東京一極集中是正の取組を国民運動として浸透させる端緒とすることを目的として調査を実施した。

- **業務内容**
- 地方創生に関する若者の意識調査のため、グループインタビューを企画、実施。
  - 開催場所は、東京1カ所、地方3カ所(新潟県、愛知県、福岡県での実施)。
  - 1カ所当たりの対象者は24人(4グループ)、2時間程度のインタビューを行った。

■ **実施概要**

地域	対象者属性	留意点	日程
地方の若者 新潟・愛知・福岡	A <b>地元に残った</b> 、大学生・専門学校生／ 男性・女性（各6名） B <b>東京の大学・専門学校進学を視野</b> に入れて 考えている高校3年生／男性・女性 （各6名）	人口減少や少子高齢化等地方が直面する課題を 認識してもらうこと 自分たちが地方創生のために何に取り組むべきかを 考えさせること	新潟：6月15・16日 福岡：7月13・14日 愛知：8月03・04日
東京の若者	C <b>地方出身</b> の大学2-3年生／ 男性・女性（各6名） D <b>東京出身</b> の高校3年生／ 男性・女性（各6名）	人口減少や高齢化等地方が直面する課題を 認識してもらうこと 地元との関わり方や地元に戻ることを考えさせること 人口減少や高齢化等、地方が直面する課題を 認識してもらうこと 地方に対するイメージを確認するとともに、地方が 活躍や生活の場として可能性があることを認識して もらうこと	大学生：6月29日 高校生：6月30日

東京一極集中是正に向けて、地方在住の若者に対する効果的なコミュニケーションのあり方等を検討。有識者の評価を得て、最終取りまとめを行った。

■ 有識者ヒアリング対象者は以下の通り

土屋 有 氏	宮崎大学地域資源創成学部講師 (株)カヤックLiving代表取締役	在鎌倉のカヤックLivingは、地方自治体と移住検討・希望者とのマッチングサイト「smout」を運営する企業。宮崎に移住し宮崎大学で地方創生を教えると共に、日南市ローカルベンチャープロデューサーとして移住者の創業を支援。
武田佳奈 氏	野村総研未来価値研究室 上級コンサルタント	野村総合研究所に入社後、官公庁の政策立案支援、民間企業の事業戦略立案や新規事業創造支援などに従事。専門は、女性活躍推進や働き方改革などの企業における人材マネジメント、保育や生活支援関連サービス産業など。
伊藤淳司 氏	NPO法人ETIC.ローカルイノベーション 事業部事業部長	NPO法人ETIC.にて、主に関係人口・移住を生み出すためのプログラム作りを担当。
御手洗瑞子 氏	(株)気仙沼ニッティング代表取締役社長 気仙沼高校学校評議員	マッキンゼー・アンド・カンパニー を経て2010年から約1年、ブータン政府で観光産業の育成に携わる。(株)東京糸井重里事務所で気仙沼ニッティング・プロジェクトリーダーに就任後、(株)気仙沼ニッティング 設立。
矢田明子 氏	Community Nurse Company(株) 代表取締役	出身地の島根県雲南市と東京を拠点に、コミュニティナース（病院に所属せず、地域の中で健康的なまちづくりを目指す医療人材）の活動を行う看護師・保健師。ローカルチャレンジャーの起業を支援する「おっちラボ」の創業者でもある。 地方創生ワカモノ会合in岡山にて講演。

## ■ 地方創生ワカモノ会合（フォーラム等）の実施概要

※登壇者の役職は開催当時のもの



## 実施概要

地方創生ワカモノ会合 in 新潟

# スマート農業で、地域は変わる

地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる地方創生ワカモノ会合を、全国8か所で開催。

新潟では、「スマート農業」をテーマに、農業におけるスマート農業技術、その実装、今後の活用可能性等をセミナー形式で紹介しました。

事例報告、パネルディスカッションでは、実際にスマート農業の技術開発や現場への実装に取り組んでいる方や、地方創生に取り組んでいる方から、その取組内容についてご説明いただきました。

日 時：2019年5月25日（土）13:00～15:30（開場12:30）

会 場：新潟市民プラザ（新潟県新潟市中央区西堀通6番町866 NEXT21ビル6階）

参加費：無料

主 催：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局

共 催：新潟県、新潟市

協 力：農林水産省

チラシ

地方創生ワカモノ会合 in 新潟【セミナー】

**スマート農業**  
で、地域は変わる

定員 200名  
参加無料

**2019年5月25日(土) 13:00~15:30** 予定  
**新潟市民プラザ**

主催：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局  
共催：新潟県、新潟市 協力：農林水産省

地方創生ワカモノ会合 in 新潟 スマート農業で、地域は変わる

地域で活躍する。地域を元気にするヒントが見つかる地方創生ワカモノ会合を、全国8か所で開催します。新潟では、「スマート農業」をテーマに、農業におけるスマート農業技術、その実装、今後の活用可能性等をセミナー形式で紹介いたします。事例報告、パネルディスカッションでは、実際にスマート農業の技術開発や現場への実装に取り組んでいる方や、地方創生に取り組んでいる方から、その取組内容についてご説明いただきます。

**開催日時：2019年5月25日(土)** 開場・受付開始 12:30  
開会 13:00 / 閉会 15:30 (予定)

**場所：新潟市民プラザ**  
新潟県新潟市中央区西堀通 6 番町 866 NEXT21 ビル 6 階

定員 200名  
参加無料

プログラム		司会員 山下 亮
開会挨拶	片山 さつ子 (まち・ひと・しごと創生担当大臣)	
	瀧口 洋 (新潟県知事)	
	中根 ハー (新潟市長)	
地方創生に関する説明	川合 雄洋 (内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)	
取組事例紹介 / パネルディスカッション	尾畑 留美子 (農研機構株式会社 首席研究員)	
	小池 謙 (ベテリア株式会社 代表取締役社長)	
	瀧戸 リカ (日本電信電話株式会社 研究企画部IT推進プロセス担当 / アプリガール 001)	
	野口 幸 (北海道大学大学院農学研究院 副研究員長・教授)	
	フアンシローグー (産科 田村 (フリーアナウンサー))	

●プログラム・登壇者等事前の予告なく変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。  
※片山大臣写真：(白)谷本啓典 17 号掲載写真より。(https://www.jp-sushin.jp/interiew/17\_katayama/)

参加申込 参加をご希望の方は下記ホームページよりお申し込みください。  
参加申し込み後、ご登録いただいたメールアドレスに「参加証」メールをお送りいたします。  
当日は「参加証」メールを印刷してお持ちいただくが、スマートフォン・携帯電話等の画面を受付でご提示ください。

ホームページはこちら **ワカモノ会合** <https://www.chihou-wakamono.go.jp>

お問合せ 地方創生ワカモノ会合参加受付事務局 03-5408-1014  
(10:00~17:00 土日祝日を除く)

募集締切：2019年5月20日(月)  
※参加無料 ※先着順。定員となり次第、締め切らせていただきます。※記事等の個人情報は記事の実施のみに使用します。

地方創生ワカモノ会合は G20 関係閣僚会合と連動して 全国 8 か所で開催！	地方創生ワカモノ会合 in 新潟 ～スマート農業で、地域は変わる～ 開催日時：2019年5月25日(土) 場所：新潟市民プラザ	地方創生ワカモノ会合 in 福岡 ～フィナンテック × スマートアグリで、 地域は変わる～ 開催日時：2019年6月1日(土) 場所：Fukuoka Growth Next
地方創生ワカモノ会合 in つくば ～ICTで、地域は変わる～ 開催日時：2019年6月30日(日) 場所：つくば国際会議場 中央ホール300	地方創生ワカモノ会合 in 長野 ～観光 × 観光で、地域は変わる～ 開催日時：2019年7月13日(土) 場所：長野市芸術館 アフタスペース	地方創生ワカモノ会合 in 松山 ～働き方改革 × 観光で、地域は変わる～ 開催日時：2019年8月4日(日) 場所：愛媛大学 高松記念ホール
地方創生ワカモノ会合 in 札幌 ～観光で、地域は変わる～ 開催日時：2019年8月27日(水)・28(木) 場所：札幌国際大観望 大講堂 劇場	地方創生ワカモノ会合 in 岡山 ～ヘルステックで、地域は変わる～ 開催日時：2019年9月29日(日) 場所：岡山大学 Junko Fukutake Hall	地方創生ワカモノ会合 in 名古屋 ～SDGsで、地域は変わる～ 開催日時：2019年11月9日(土) 場所：愛知県産業創造大会 会場

## 開会挨拶



### 片山 さつき まち・ひと・しごと創生担当大臣

日本の持続可能な発展のカギは地方創生にあります。本日は、地域にとって大きな可能性を持つ農業について事例報告等を行っていただき、人生100年時代に最も適した働き方ができるスマート農業を新潟から発信したいと思います。ワカモノ主役の時代のシナリオを描き、郷土への愛情とパッションを発揮し活躍していただくことを期待しています。



### 溝口 洋 新潟県副知事

農業は地域の元気を作る重要なカギであり、中でもスマート農業は、農業を志そうとする多くのワカモノにとって、農業を魅力的に、そして稼げる産業にしていく可能性があります。ここ新潟は、その無限の可能性にあふれている地域です。地域の元気を、皆さんの力で大いに盛り上げていただきたいと思います。



### 中原 八一 新潟市長

G20新潟農業大臣会合では、世界各国の方々が新潟の食と農の素晴らしさを体験し、新潟市がこれまで取り組んできたスマート農業についても高い評価をいただきました。農業や食の最先端でご活躍されている皆様とともに、今までとは違う未来の農業について考え、地方創生に役立てていきたいと思っています。

## 地方創生に関する説明



### 川合 靖洋 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長

政府では、東京一極集中を是正し、人口減少の中でも成長力を維持していくために、様々な地方創生施策に取り組んでいます。農業分野では2025年までに担い手のほぼすべてがスマート農業を実践することを目標とするなど、農業者の所得増や農林水産物の輸出拡大等に取り組み、誰もが活躍できる地域づくりを目指しています。

## 事例紹介



### 野口 伸 北海道大学大学院農学研究院 副研究院長・教授

スマート農業技術はいよいよ社会実装される段階に来ています。“経験と勘”の農業からデータに基づく農業へ。そのために良質なデータを効率的に集め、そのビッグデータを解析してみんなが使えるようにする「農業データ連携基盤」を新たに構築しました。グローバル競争に勝てる強い農業を実現し、農林水産業及び関連産業の市場規模を拡大することを目標に取り組んでいます。



### 小池 聡 ベジタリア株式会社 代表取締役社長

10年前に就農しましたが、様々な課題に直面し、科学とテクノロジーを融合させた解決に取り組みました。その経験からIoTセンサーでデータを測り、クラウドで管理分析する栽培管理システムを提供しています。これから農業を始める人にも“匠の技”を伝承できるようになり、スマート農業によって、農業は最先端産業になっていくでしょう。今から2050年までには世界で約25億人分の食糧需要が増える試算もあり、その解決に日本の技術が貢献するはずです。

## 事例紹介



### 瀬戸 りか 日本電信電話株式会社 研究企画部門 食農プロデュース担当アグリガール001

アグリガールはICTを使った農業のソリューションを生産者に伝える役割、いわば生産者と先端技術をつなぐ架け橋です。地域を、日本を元気にしたいという思いから、実際に農業の現場に飛び込んで、ICTの導入にまだ馴染みのない農家の方々と一緒に試行錯誤しながらソリューションの導入を支えています。そこにはそれぞれの物語があり、農家の方たちの気持ちに共感しながら取り組むことが大切だと感じています。



### 尾畑 留美子 尾畑酒造株式会社 専務取締役

高品質なお米がとれることで有名な佐渡ヶ島で酒造りをしています。日本酒の海外輸出は伸び続けており、当社でも既に15か国に輸出しています。また、酒蔵ツーリズムとして国内外から多くの方が訪れるようになり、佐渡に居ながらにして世界との結びつきが生まれています。世界と佐渡をつなぐ、そして世代をつなぐ酒造りを目指しています。

## パネルディスカッション



**野口 伸** スマート農業は、実はスマホを使いこなしているワカモノに適した技術です。これをどう使っていくかは皆さん次第です。それには地域ごとに成功事例を作り、ワカモノが農業の世界に飛び込みやすくすることが大事です。農業は変わってきています。農業って意外と入りやすい、儲かるかもしれないと、ぜひ農業分野に関心を持ってもらいたと思います。

**小池 聡** 農林水産業と、食と健康を結びつけたところに地方創生のカギがあると思います。しかし、消費者と生産者の距離はまだ遠く、生産側のスマート化だけでなく、フードチェーン全体をスマート化することも大切です。まずは興味を持って、若い皆さんが農業分野にどんどん参入し地域で活躍することを願っています。

**瀬戸 りか** 地域を、農業を元気にするという気持ちで、好奇心をもって楽しんで取り組んでみてほしい。働くことはつながることです。様々な年齢、多種多様な能力を持つ人たちがつながってチームを作り、地域や農業を活性化して欲しいと思います。地域を元気にするチームにアグリガールもご一緒させてください。

**尾畑 留美子** グローバリゼーションの時代にあって、大事なのはこの地域にしかないものを磨き続けることです。スマート化は経験や勘を支え、誰もが付加価値のあるものづくりやビジネスができるように可能性を広げてくれます。ICTを導入することで、地方から直接世界マーケットに打って出るものづくりが広がることを願います。

## 実施概要

地方創生ワカモノ会合 in 福岡

# ファイナンス×スタートアップで、 地域は変わる

地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる地方創生ワカモノ会合を、全国8か所で開催。

福岡では、「ファイナンス×スタートアップ」をテーマに、起業した若者・起業を目指す若者に向けたセミナーを実施しました。

基調講演では、(株)ユーグレナを起業した出雲社長に、若者へのエールも含めてご自身の体験談・心構え等を話していただきました。事例報告、パネルディスカッションでは、福岡で起業した方やスタートアップを支援している方から、取り組み・注意点等をご説明いただきました。

日 時：2019年6月1日（土）13:20～16:20（開場12:50）

会 場：Fukuoka Growth Next（福岡県福岡市中央区大名2丁目6番11号）

参加費：無料

主 催：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局

共 催：福岡市

協 力：福岡県、金融庁

チラシ

G20 福岡開催記念フィンテックイベント  
地方創生ワカモノ会合 in 福岡 【セミナー】

**地方創生  
ワカモノ  
会合**

**ファイナンス  
×  
スタートアップ  
で、地域は変わる**

定員 100名  
参加無料

**2019年6月1日(土) 13:20~16:20 予定**  
**Fukuoka Growth Next**

主催：内閣府まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局  
共催：福岡市 後援：福岡県、直轄庁

地方創生ワカモノ会合 in 福岡 **ファイナンス × スタートアップ  
で、地域は変わる**

地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる地方創生ワカモノ会合を、全国8か所で開催します。  
福岡では、「ファイナンス × スタートアップ」をテーマに、起業した若者・起業を目指す若者に向けたセミナーを実施します。福岡県では、(株)ユーブレナを起業した出雲社社長、若者へのエールも含めてご自身の体験談・心構え等を話していただきます。事例報告、パネルディスカッションでは、福岡で起業した方やスタートアップを支援している方から、取り組み・注意点を伺っていただきます。

**開催日時：2019年6月1日(土)** 開場・受付開始 12:50  
開会 13:20 / 閉会 16:20 (予定)

**場所：Fukuoka Growth Next**  
福岡県福岡市中央区大名2丁目6番11号

定員 100名  
参加無料

**プログラム**

開会挨拶	片山 さつき (まち・ひと・しごと創生担当大臣)
地方創生に関する説明	辻 庄市 (内閣府 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)
基調講演	出雲 充 (株式会社ユーブレナ 代表取締役社長)
市長挨拶	高島 宗一郎 (福岡市長)
取組事例報告/ パネルディスカッション	赤井 厚雄 (株式会社ナウキャスト 取締役会長) 河野 純一 (福岡ひびき信用金庫 ソリューション営業部 専務役) 栗元 繁一 (株式会社 Nayuta 代表取締役) 谷口 紗香子 (株式会社 nyans 代表取締役社長) ファシリテーター：飯塚 仁真 (フリーアナウンサー)

●プログラム・登壇者は事前の予告なく変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。  
※片山大臣写真：(白抜体)17号掲載写真より。(https://www.jesushin.jp/interview/j17\_jatayama/)

参加申込 参加をご希望の方は下記ホームページよりお申し込みください。  
参加申し込み後、ご登録いただいたメールアドレスに「参加証」メールをお送りいたします。  
当日は「参加証」メールを印刷してお持ちいただくか、スマートフォン・携帯電話等の端末で受け取っていただけます。

ホームページはこちら **ワカモノ会合** <https://www.chihou-wakamono.go.jp>

お問合せ 地方創生ワカモノ会合参加受付事務局 03-5408-1014  
(10:00~17:00 土日祝日を除く)

詳細締切：2019年5月24日(金)  
※参加無料 ※先着順。定員となり次第、締め切らせていただきます。※応募者の個人情報は当事務の運営のみに使用します。

**地方創生ワカモノ会合は  
G20 関係閣僚会合と連動して  
全国8カ所で開催!**

地方創生ワカモノ会合 in 新潟 ～スマート農業で、地域は変わる～ 開催日時：2019年5月25日(土) 場所：新潟市ビッグザック	地方創生ワカモノ会合 in 新潟 ～ファイナンス×スタートアップで、 地域は変わる～ 開催日時：2019年6月4日(土) 場所：Fukuoka Growth Next	
地方創生ワカモノ会合 in つくば ～ICTで、地域は変わる～ 開催日時：2019年6月30日(日) 場所：つくば国際会議場 中ホール300	地方創生ワカモノ会合 in 長野 ～農機×観光で、地域は変わる～ 開催日時：2019年7月13日(土) 場所：長野市芸術館 アウトスペース	地方創生ワカモノ会合 in 松山 ～働き方改善×起業で、地域は変わる～ 開催日時：2019年8月4日(日) 場所：愛媛大学 青年記念ホール
地方創生ワカモノ会合 in 札幌 ～観光で、地域は変わる～ 開催日時：2019年8月27日(火)・28(水) 場所：札幌国際大学 大講堂 登壇	地方創生ワカモノ会合 in 岡山 ～ヘルステックで、地域は変わる～ 開催日時：2019年9月29日(日) 場所：岡山大学 Juniko Fukutake Hall	地方創生ワカモノ会合 in 名古屋 ～SDGsで、地域は変わる～ 開催日時：2019年11月9日(土) 場所：愛知国際会議場 大会堂



## 開会挨拶



### 片山 さつき まち・ひと・しごと創生担当大臣

地域にこそチャンスがある、地方だからこそ創業できるという流れを作るために地方創生を始めて4年が経ちました。福岡では、国家戦略特区「グローバル創業・雇用創出特区」としてグローバルに人が集まり、創業を活性化する取り組みを行っています。地方創生がさらに加速し、福岡が輝くことを心から期待しています。

## 基調講演



### 出雲 充 株式会社ユーグレナ代表取締役社長

社会にイノベーションを起こすのがベンチャー企業の使命です。そして、それは適切な科学技術と繰り返し努力する試行の掛け算によって初めて成功します。前例のないものを否定するのではなく、これはおもしろいとマインドセットを変えて、前向きな眼差しをワカモノたちに注ぎ込んでいただくことをお願いしたい。

## 地方創生に関する説明



### 辻 庄市 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局次長

人口減少、東京一極集中という状況を踏まえ、地方に仕事を作る、地方に人の流れを作る、結婚・出産・子育ての希望を叶える、まちづくりといった4つの基本目標のもとに、各種施策を講じることによって地方創生に取り組み、様々な成果を上げています。現在、次の5か年の戦略策定に向けて検討を進めているところです。

## 市長挨拶



### 高島 宗一郎 福岡市長

普通の発想や常識で行動していてもイノベーションは生まれません。どれだけ思いが強いのか、好きか、信じる力があるか、そしてやり抜く根気や体力があるかということが、世界を変えていくのだと思います。皆さんと一緒に、福岡から次の時代を作っていくチャレンジができるといいと思います。

## 取組事例紹介



### 栗元 憲一 株式会社Nayuta代表取締役

フィンテック分野で仮想通貨やブロックチェーンの技術を使ったリアルタイム決済の開発をしています。例えば、電力会社とともにブロックチェーンを用いて電気自動車の充電の支払いや管理に活用する実証実験を行っています。この分野は、世界中で協力してソフトウェアの仕様を作るオープンプラットフォームの世界ですが、我々は得意のIoTの技術を活用して実装段階の競争に取り組んでいます。



### 谷口 紗喜子 株式会社nyans代表取締役社長

猫の飼い主や猫好きの人が仲良くなって、旅行や出張の時に世話し合おうというマッチングサービスを作っています。このFUKUOKA GROWTH NEXTのコワーキングスペースで立ち上げ、既に多くのマッチングが生まれています。猫のサービス市場はさらに大きくなる可能性を秘めており、猫をインフルエンサーとしたIPビジネス化にも取り組んでいます。



### 赤井 厚雄 株式会社ナウキャスト取締役会長

ビッグデータを扱うフィンテックのベンチャーやクラウドファンディング、証券化など長く金融の分野で仕事をしてきました。社会がデジタル化する中で金融ビジネスのあり方も大きな岐路にあり、テクノロジー主導の金融システムへのニーズが高まるなど、若い世代にこそチャンスがあると考えています。クリエイティブな発想で日本発の新しいものを創造してほしい。



### 河野 祐一 福岡ひびき信用金庫ソリューション営業部審議役

まちの金融機関として創業のお手伝いをしています。その柱の一つが女性創業塾で10年間続けています。そこでは、我々が手助けするというよりも、互いに刺激しながら事業を成功させたり、女性同士のビジネスネットワークを広げ、さらに新たな起業家を生むことにもつながっています。地方創生には、女性や障がい者の活躍が大切だと考えています。

## パネルディスカッション



**栗元 憲一** 自分が本当にやりたいことをやっているかが最も重要です。これをやれば世の中がよくなるはずだと一所懸命にやっていたら、応援してくれる人もきっと出てくるはずです。福岡は、住環境もいいし、食べ物もいいし、じっくりと何かに取り組むには魅力的な場所です。目線をしっかり上げて頑張ってもらいたいと思います。

**谷口 紗喜子** スタートアップにとって情報や人と人とのつながりは大切です。情報交換ができるスタートアップイベントなどのコミュニティをうまく活用するのも一つの方法です。そして、自分が信じる世界観を何としても実現したいという気持ちをもって進むことです。まずは最初の一步を踏み出してみませんか。

**赤井 厚雄** クラウドファンディングは、数年前とは比較にならないほどのスピードで多くの資金が集まるようになってきました。地域資源や特色を活かしたビジネスなど、アイデアによっては資金調達も容易になっていますが、それに甘えず、きちんとビジネスプランを練って持続可能なビジネスの構築に取り組んでいくことが重要です。

**河野 祐一** どんなことがあっても乗り越えられるマインドをもつことが大切です。金融機関としてはその気持ちに応えられるように、スタートアップを目指す方々と一緒に悩んで、計画の早い段階からお手伝いをさせていただきたい。うまくコミュニケーションをとりながら、金融機関を上手に使ってほしいと思います。

## 実施概要

地方創生ワカモノ会合 in つくば

# ICTで、地域は変わる 未来のまちを考えよう！

地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる地方創生ワカモノ会合を、全国8か所で開催。

つくばでは、ドローンやAIなどの先端技術を学習しながら、グループで地域課題を解決する新しい道具や仕組みを考えて、未来の暮らしを提案するアイデアソンワークショップを行いました。

日 時：2019年6月30日（日）13:00～16:30（開場12:30）

会 場：つくば国際会議場中ホール300（茨城県つくば市竹園2丁目20番3号）

参加費：無料

主 催：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局

共 催：つくば市

後 援：茨城県

協 力：総務省、外務省、経済産業省

企画協力：CANVAS

展示協力：つくば科学万博記念財団

チラシ

地方創生ワカモノ会合 in つくば 【ワークショップ】

**ICTで、地域は変わる  
未来のまちを考えよう！**

未来のまちをもっと楽しく、もっと住みやすくするために  
今はまだない、あったらいいなと思う道具を考えて  
未来の暮らしを提案しよう！



**抽選  
30名  
参加無料**

**開催日：2019年6月30日(日) 13:00～16:30(予定)**  
**場所：つくば国際会議場 中ホール300**  
**対象：小学校5年生～中学校3年生**

主催：内閣府まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局  
 共催：つくば市 後援：茨城県 協力：総務省、外務省、経済産業省 企画協力：CANVAS


地方創生ワカモノ会合 in つくば 【ワークショップ】  
ICTで、地域は変わる  
未来のまちを考えよう！

**プログラム**

ドローンやAIなどの先端技術を学習しながら、グループで地域課題を解決する新しい道具や仕組みを考えて、未来の暮らしを提案するアイデアソンワークショップを行います。

アイデアソンとは？  
アイデア(Idea)とマラソン(Marathon)を組み合わせた造語で、チームで競い合い新しいアイデアを創り出すイベントの形式。

- 開会挨拶  
片山さつき大臣(まち・ひと・しごと創生大臣)  
五十嵐立骨市長(つくば市)
- 地方創生に関する説明  
高橋文昭次長(内閣府まち・ひと・しごと創生本部事務局)
- アイデアソンワークショップ  
-①未来のテクノロジーの説明  
-②ワークショップの進め方説明  
-③グループワーク
- 発表/講評



※プログラム・登壇者は事前の予告なく変更となる場合がございます。  
あらかじめご了承ください。

**参加申込**

開催日：6月30日(日)13:00～16:30(予定) ※開場・受付 12:30  
 場所：つくば国際会議場 中ホール300  
 (茨城県つくば市竹園2丁目20番3号)  
 対象：小学校5年生～中学校3年生

**抽選30名  
参加無料**

参加をご希望の方は下記ホームページよりお申し込みください。  
<https://www.chihou-wakamono.go.jp/>

※募集期間：2019年5月28日(火)～6月14日(金)  
 ※抽選結果通知：2019年6月21日(金)  
 ※応募者の個人情報は当事業の運営のみに使用します。

お問合せ | 地方創生ワカモノ会合参加受付事務局 03-5408-1014  
 (10:00～17:00 土日祝日を除く)



## 開会挨拶



### 稲山 博司 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局地方創生総括官

人間が思い描ける、夢見るものの多くは新しい技術で実現できるものだと思います。今日は、未来のまちを、新しい技術を使ってこんな便利で楽しいまちになったらいいなと思い描いていただき、新しい未来を切り開ききっかけにしてもらいたいです。地方を元気にするために、考え、行動し、応援してほしいと思います。



### 五十嵐 立青 つくば市長

これからのまちを創っていく主役は皆さんです。新しい技術や柔軟な発想で、“正解のない時代”の答えを少しずつ見出してほしいと思います。いろいろな人と対話することで様々な考え方に触れ、みんなで一緒に方向性を見つけていくことはとても大切です。ぜひ、今日のこの機会をきっかけにさせていただきたいです。

## 地方創生に関する説明



### 高橋 文昭 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長

人口減少に歯止めをかけ、東京への行き過ぎた人口集中を直そうというのが政府の目標です。便利で住みやすいまちにすれば地方に住みたいという人も多くなるでしょう。そういうまちを未来の技術で作ってみましょう。今はできないことでも、いずれできるようになることもたくさんあるはずです。

## グループワーク



グループワークは7グループに分かれて、「ICTで、地域は変わる」をテーマに、ICT技術を活用して困っている人々を助けてくれる道具、暮らしをより良くしてくれる新しいアイデアとともに「住みたくなる未来のまち」をみんなで提案しました。



## グループワーク



### グループ①「だれでもゆたかにつながるしんせつな町」

#### 【実現のためのアイデア】

- ・お店の人がいつでも宣伝できる「誰でも乗れるスマートモビリティ」
- ・入院している子どもたちのための「病院勉強ロボット」
- ・赤ちゃんや病気の人が何を食べれば元気になれるかを教えてくれる「栄養ロボット」
- ・石につまづきそうになったときに教えてくれる「靴+センサー」

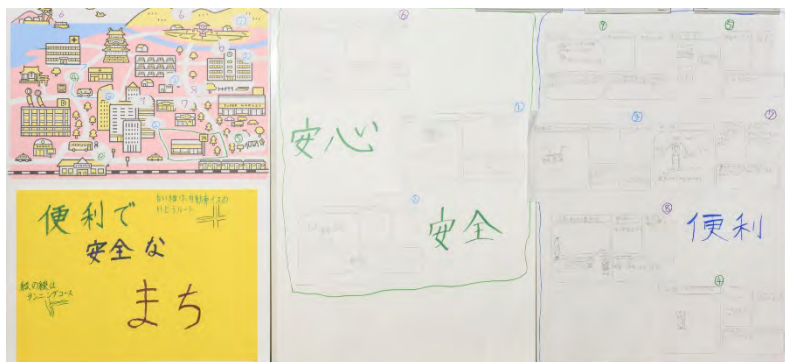
#### 【審査員コメント】

科学技術はいろいろな人の力や知恵をつなぐことが大切です。「つながる」というキーワードで、誰もがつながって助けられたり助けたりできるまちにしようという発想がとてもいいと思います。

(つくば市顧問、筑波大学システム情報系社会工学域 川島教授)



## グループワーク



### グループ②「便利で安全なまち」

#### 【実現のためのアイデア】

- ・外国人観光客と話ができる「通訳マイク」
- ・台風や大雨などの状況を教えてくれる「サイネージ時計」
- ・高齢者が自由に移動できる「自動車いす」

#### 【審査員コメント】

意見を出し合って、3人のグループとは思えないくらいたくさんのアイデアを生み出していたのが印象的でした。どれも困っている人たちのためになるようなアイデアだったと思います。

(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 高橋次長)



## グループワーク



### グループ③「すべてがそろうまち」

#### 【実現のためのアイデア】

- ・外国人観光客や旅行者が他の地域に来た時に「温度を調節してくれる洋服」
- ・スマホで品物や場所を指定すると届けてくれる「移動式自動販売機」
- ・入院中の子どもが学校のみんたとテレビ電話ができる「スマートウォッチ」
- ・眼鏡がディスプレイになって手軽に天気が分かる「人工知能付き眼鏡」
- ・警察や足の不自由な人のための「ロボット服」

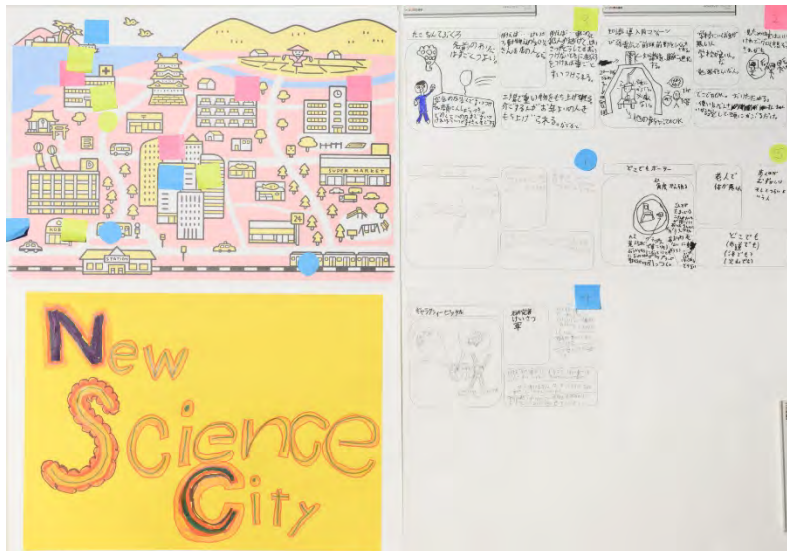
#### 【審査員コメント】

社会が求めているニーズを的確に捉えていたと思います。人々が困っていることを具体的にイメージできているからこそ、一つひとつのアイデアが機能まで丁寧に設計されていて完成度が高いと感じました。

(CANVAS 石戸代表)



## グループワーク



### グループ④「New Science City」

#### 【実現のためのアイデア】

- ・プライバシーを守りながらネットやゲームなどができる「人工知能眼鏡」
- ・かぶるだけで知識を脳に追加できる「知識導入用マシン」
- ・手が不自由な人などが吸い付けて物をつかめる「たこちゃん手袋」
- ・入手困難な素材などを大気圏外からオフィスに送ってくれる研究者のための「ギャラクシーピッケル」
- ・高齢者など移動が難しい人のための折り畳み式乗り物「どこでもローラー」

#### 【審査員コメント】

野心的なテーマ設定自体が素晴らしい。未来の夢を描きつつ、プライバシーなど現実的な問題も捉えており、夢と実際のニーズのバランスがうまくとれていてとてもよかったと思います

(つくば市顧問、筑波大学システム情報系社会工学域 川島教授)



## グループワーク



### グループ⑤「ユニバーサル×思いやり=フューチャーシティ」

#### 【実現のためのアイデア】

- ・イヤホンをつけて臨場感たっぷりで誰でも楽しめる「目からうろこの本」
- ・情報が届きづらい離島などに住む人に災害時などに情報を届ける「事前時計」
- ・不登校の子供がAI搭載のランドセルに助けてもらう「登校支援ランドセル」
- ・まちの落ち葉やごみも簡単に掃除できる「ほうきちりとり合体掃除機」
- ・長さや芯の濃さが調節でき手をケガしている人も使いやすい「万能鉛筆」

#### 【審査員コメント】

テーマにはこれからの社会に大事なキーワードが込められていてとてもいいと思います。それぞれのアイデアもよく練られていて、実現すれば楽しく社会を生きていける人が増えるのではないかと思います。

(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 高橋次長)



## グループワーク



### グループ⑥「ラクすぎる町」

#### 【実現のためのアイデア】

- ・トラックの中に畑が入っていて天候に合わせて移動できる「トラック+ロボット」
- ・木の光合成の力を使った「環境を直す木々の細胞」
- ・服にAIチップを埋め込みスマホのように使える「着られるAI」
- ・外国人や観光客が初めて来た場所のおすすめ情報がみられる「眼鏡とオープンデータをあわせたもの」

#### 【審査員コメント】

テクノロジー情報を駆使し、地域の課題解決につながる新しいアイデアを作っていたのは素晴らしい。テクノロジーを使い、便利さを超えて楽すぎるまちを目指すという発想がきちんと表れていたと思います。

(CANVAS 石戸代表)



## グループワーク



### グループ⑦「みんなが楽しく便利な街」

#### 【実現のためのアイデア】

- ・VRと飛行機やヘリコプターが合体して運転体験ができる「あなたは運転手」
- ・映像が3Dで浮き上がり理科の実験も効率よく勉強できる「飛び出る教科書」
- ・バスの窓にニュースなどを移すことができる「なんでもお知らせするよ」
- ・スマホとオープンデータを組み合わせてお店のデータや地域の行事などを調べられる「地域が見れるデータくん」
- ・地域のおすすめスポットや通訳機能などを備えた「観光サポート眼鏡」

#### 【審査員コメント】

まちというのはそこで仕事をしたり、暮らしたりということだけではなく、憩う、楽しむということも非常に大切な要素なので、そこに焦点を当てたことは素晴らしいと思います。

(つくば市顧問、筑波大学システム情報系社会工学域 川島教授)

## 審査員講評



### 石戸 奈々子

#### CANVAS代表／慶應義塾大学教授

地域にある課題を自分で発見し、どうやって解決するかをみんなと一緒に考えたことはとてもいい経験だったと思います。一人で解決できる課題はほとんどありません。だからこそ協力して、解決に向けて一歩踏み出して行動することに挑戦してほしいと思います。



### 川島 宏一

#### つくば市顧問／筑波大学システム情報系社会工学域 教授

普段は出会わない、話したことがない、自分とは違った考えを持つ人と交流することはとても大切です。今日、皆さんが考えたことは、明日すぐに実現できることではないかもしれませんが、気づいたことや刺激を受けた体験はいつか必ず役に立つと思います。



### 高橋 文昭

#### 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長

新しい発想や斬新なアイデアをたくさんいただきありがとうございました。社会のためにという興味や関心を持って、誰かのことを考えて、一所懸命に工夫することはとても大切です。ぜひ続けていってほしいと思います。



## 実施概要

地方創生ワカモノ会合 in 長野

# 環境×観光で、地域は変わる

地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる地方創生ワカモノ会合を、全国8か所で開催。

長野では、「環境×観光」をテーマに、自然環境等の地域資源を生かしたツーリズム振興についてのセミナーを実施しました。

基調講演では、ローカルの魅力に関する情報発信を行うWeb マガジン・コロカルの及川編集長にお話しいただきました。

事例報告等では、観光振興や地域の魅力の発掘・発信に取り組む方等から、その内容についてご説明いただきました。

日 時：2019年7月13日（土）13:00～16:00（開場12:30）

会 場：長野市芸術館 アクトスペース（長野県長野市大字鶴賀緑町1613番地）

参加費：無料

主 催：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局

共 催：長野県

後 援：環境省、観光庁、長野市

## チラシ

地方創生ワカモノ会合 in 長野【セミナー】

**環境 × 観光  
で、地域は変わる**

定員 200名  
参加無料

**2019年7月13日(土) 13:00~16:00 予定**  
**長野市芸術館 アクトスペース**

主催：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局  
共催：長野県 後援：環境省、観光庁、長野市

## 地方創生ワカモノ会合 in 長野 環境 × 観光で、地域は変わる

地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる地方創生ワカモノ会合を、全国8か所で開催します。  
長野では、「環境 × 観光」をテーマに、自然環境等の地域資源を生かしたツーリズム振興についてのセミナーを実施します。  
基調講演では、ローカルの魅力に関する情報発信を行う Web マガジン・コロカルの及川園長にお話しいただきます。事例  
報告等では、観光振興や地域の魅力の発掘・発信に取り組みの方から、その内容についてご説明いただきます。

開催日時：2019年7月13日(土) 開場・受付開始 12:30  
開会 13:00 / 閉会 16:00 (予定)  
場所：長野市芸術館 アクトスペース  
長野県長野市大字鶴賀緑町 1613 番地

定員 200名  
参加無料

### プログラム

開会挨拶	稲山 博司 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 地方創生推進官)	稲山 博司	内藤 守一
地方創生に関する説明	高橋 文昭 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)	高橋 文昭	園田 美子
基調講演	及川 卓也 (株式会社マガジンハウス クロスメディア事務局 コロカル事務局 部長 / 園長)	及川 卓也	園田 美子
基調事例紹介 / パネルディスカッション	園田 美子 (株式会社スペースキー アウトドア推進事務局 部長) 竹山 史朗 (株式会社ペンベル 常務取締役 広報本部長) 田中 海月 (株式会社ビートル・カメラガールズ プロデューサー) 山田 拓 (株式会社東の地球 CEO) ファシリテーター：小井 克典 (フリーパーソナリティ)	竹山 史朗	田中 海月

※プログラム・登壇者は事前の子供なく変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

### 参加申込

参加をご希望の方は下記ホームページよりお申し込みください。  
参加申し込み後、ご登録いただいたメールアドレスに「参加証」メールをお送りいたします。  
当日は「参加証」メールを印刷してお持ちいただくか、スマートフォン・携帯電話等の画面で受付でご表示ください。  
駐車場に限りがございますので、できるだけ公共交通機関または乗り合わせでご来場ください。

ホームページはこちら

ワカモノ会合

<https://www.chihou-wakamono.go.jp>

お問合せ | 地方創生ワカモノ会合参加受付事務局 03-5408-1014  
(10:00~17:00 土日祝日を除く)

募集締切：2019年7月5日(金)

※参加無料 ※先着順。定員となり次第、締め切らせていただきます。※応募者の個人情報は当事業の運営のみに利用します。



地方創生ワカモノ会合は  
620 関係機関会合と連携して  
全国 8 か所で開催！

地方創生ワカモノ会合 in 新潟  
～スマート農業で、地味は変わる～  
開催日時：2019年5月25日(土)  
場所：新潟市市民プラザ

地方創生ワカモノ会合 in 福岡  
～ファイナンス × スタートアップで、  
地域は変わる～  
開催日時：2019年6月1日(土)  
場所：Fukuoka Growth Next

地方創生ワカモノ会合 in つくば  
～ICTで、地味は変わる～  
開催日時：2019年6月30日(日)  
場所：つくば国際会議場 中ホール300

地方創生ワカモノ会合 in 横浜  
～環境 × 観光で、地味は変わる～  
開催日時：2019年7月13日(土)  
場所：長崎市回廊 アクトスペース

地方創生ワカモノ会合 in 岡山  
～働き方改革 × 起業で、地味は変わる～  
開催日時：2019年8月4日(日)  
場所：慶応大学 基盤記念ホール

地方創生ワカモノ会合 in 札幌  
～観光で、地味は変わる～  
開催日時：2019年8月27日(水・28(木))  
場所：札幌国際大学 大講堂 劇場

地方創生ワカモノ会合 in 岡山  
～ヘルスチェックで、地味は変わる～  
開催日時：2019年9月29日(日)  
場所：岡山大学 Junko Fukutake Hall

地方創生ワカモノ会合 in 名古屋  
～SDGsで、地味は変わる～  
開催日時：2019年11月9日(土)  
場所：愛知県庁舎 大会ホール

## 開会挨拶



### 多田 健一郎 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 地方創生総括官補

人口減少や東京一極集中に歯止めをかけるべく、地方創生に取り組んでいます。ワカモノの中には、地方に移住して新しい仕事を始めたいという人も出てきています。地方には、仕事が、そして生活を豊かに楽しく過ごせるチャンスがたくさんあることを感じてほしいと思います。



### 阿部 守一 長野県知事

快適に暮らせる、魅力ある地域をつくり、定住人口、交流人口、つながり人口を増やしたいと思っています。長野県には環境も観光も優れた資源や取組があります。多くの人に魅力を伝え、人を惹きつける力をさらに強くするにはどうしたらよいか、一緒に学び、考え、行動する契機にさせていただくことを強く期待しています。

## 地方創生に関する説明



### 高橋 文昭 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長

地方創生は、人口減少や少子高齢化への対策、東京の一極集中の是正が大きな柱となっています。これらは簡単に解決できる課題ではありませんが、地方に仕事をつくる、発展する情報通信技術を使って地方を元気にする、そしてインバウンド需要を取り込み地方を活性化するなど、一つひとつの活動に取り組んでいます。

## 基調講演



### 及川 卓也 株式会社マガジンハウス クロスメディア事業局コロカル事業部 部長/編集長

都市部で暮らし、働くということは、専門性の高い人々が高度な分業によってモノを作るというおもしろさがありますが、一方で、システムの中に取り込まれていくという窮屈さも存在している気がします。一方で、ローカルは課題も多いですが、「常識（ステレオタイプ）」をリセットして、新しいライフスタイルを自分でクリエイティブできる自由さ、新しいやりがいを実践している人が多く存在します。ローカルにこそ、可能性が、むしろ最先端が、広がっていると思います。

## 取組事例紹介



### 竹山 史朗 株式会社モンベル 常務取締役 広報本部長

自然環境の大切さを学びながら、アウトドアアクティビティで地方の魅力を体感するイベント「SEA TO SUMMIT」は、地元の人々にもおもてなしに協力していただいている人気のイベントです。さらに、ジャパンエコトラックではツーリスト目線で便利で楽しいことを大事にしながら、アウトドアを通じて地域の自然の魅力を感じていただくための仕組みづくりにも取り組んでいます。



### 山田 拓 株式会社美ら地球 CEO

我が社は飛騨地域で「SATOYAMA EXPERIENCE」というガイドツアーを運営しており、70ヶ国以上から多くの外国人が参加しています。地方の暮らしぶりに触れる体験が外国人の満足度の源泉になっており、地域の人々にとっても、海外の方とふれあい、褒めてもらえる機会になっています。地方には自分たちは気づいていないが、たくさんの宝物があると感じています。

## 取組事例紹介



### 國定 康子 株式会社スペースキー アウトドア推進事業部 部長

スペースキーはアウトドアレジャーをフックに、ユーザーと地域をつなぐ情報発信とサービス提供をしています。単に景色を見るだけでなく、訪れた時の体験や楽しさを旅前から想像させるような情報発信をすることが重要です。そして、50年、100年後もアウトドアレジャーを継続していくためには自然を守る環境づくりが大切だと思います。



### 田中 海月 株式会社ビートル・カメラガールズ プロデューサー

「カメラガールズ」はカメラ好きの女性の交流の場です。地方ならではの自然環境はフォトジェニックなものに溢れています。地域とコラボし、参加者が自分で行きたい所を企画して実施するモニターツアーはいつも大人気です。好きな写真を通して、行ったことも考えたこともなかった地方といつのまにかつながっている、そんな関係づくりをしています。

## パネルディスカッション



**竹山 史朗** イベントは地域の自然などの魅力を発信するきっかけになりますが、同時に、地域住民にとっての気づきにもなります。自分たちの地域を楽しんでいる人を見ることによって、アウトドア文化が地元で自然と根づき、訪れる人々を歓迎する。訪れる人々もそういう空気を感じて地域が心地よい空気感に包まれる。そんな循環ができるといいと思います。

**山田 拓** 観光はこれからもどんどん伸びる分野であり、地方には外国人を相手にビジネスする場も増えていくと思います。地方は、多くのワカモノに、世界とダイレクトにつながってチャレンジをもたらしてくれる場所であり、自分の尺度で自分らしい生き方ができる可能性を秘めている場所です。皆さんもチャレンジしてみてもうどうでしょうか。

**國定 康子** 海や森、川など地方の自然資源は魅力的な観光資源です。アウトドア人口を増やすことが、結果として地方に行く人を増やすことにもつながります。いかに地方に行きやすくするか、行きたいと思わせるか。地域の課題を自分事化し、解決していこうという情熱を持って行動する人を増やしていくことが地方創生のカギだと思います。

**田中 海月** カメラという趣味を通じて、地域と自然な形でつながる機会をつくるというのも地方創生の一つの形だと思います。私はカメラが好きでこれを仕事にしようと起業しましたが、これだという自分の好きなものを見つけて継続してやっていくことが大事です。それができるのは東京なのか、地方なのか。いろいろと試しながら見つけてみてください。

## 実施概要

地方創生ワカモノ会合 in 松山

# 働き方改革×起業で、地域は変わる

地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる地方創生ワカモノ会合を、全国8か所で開催。

松山では、「働き方改革× 起業」をテーマに、基調講演では、芸人や絵本作家として多方面で活躍されている西野亮廣氏に、若者へのエールも含め、新しい働き方について講演いただきました。

事例報告、パネルディスカッションでは、地域と共創する働き方を実践している方々に、その取組内容についてご説明いただきました。

日 時：2019年8月4日（日）13:00～16:10（開場12:30）

会 場：愛媛大学 南加記念ホール（愛媛県松山市文京町3）

参加費：無料

主 催：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局

共 催：G20愛媛・松山労働雇用大臣会合推進協議会

協 力：厚生労働省、愛媛大学

チラシ

地方創生ワカモノ会合 in 松山【セミナー】

**働き方改革 × 起業**  
で、地域は変わる

定員 200名  
参加無料

**2019年8月4日(日) 13:00~16:10 予定**  
**愛媛大学 南加記念ホール**

主催：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局  
共催：G20 愛媛・松山労働雇用大臣会合推進協議会 後援：厚生労働省、愛媛大学

2019年7月1日(日) 10:00より  
申込受付開始

## 地方創生ワカモノ会合 in 松山 働き方改革 × 起業で、地域は変わる

地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる地方創生ワカモノ会合を、全国8か所で開催します。  
松山では、「働き方改革 × 起業」をテーマに、表人や輪本作家として多方面で活躍されている西野亮廣氏に、若者へのエールも含め、新しい働き方について講演いただきます。また地域と共創する働き方を実践している方々に、活動内容を紹介していただいた後、パネルディスカッションを行います。

**開催日時：2019年8月4日(日)** 開場・受付開始 12:30  
開会 13:00 / 閉会 16:10 (予定)  
**場所：愛媛大学 南加記念ホール**  
愛媛県松山市文京町3番

定員 200名  
参加無料

プログラム	講師/ 講演者
地方創生に関する説明	内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局
起業支援 (EGF) に関する説明	愛媛県経済労働部産業支援課
基調講演	西野 亮廣 (五人/ 輪本作家)
取組事例紹介 / パネルディスカッション	岡野 春樹 (原上カンパニー チェイクター) 河合 崇 (株式会社リバープロジェクトレーディング 代表取締役) 正能 栄護 (株式会社ハビキラ FACTORY 代表取締役) 辰瀬 健一 (Sansan株式会社 Eight事業部エンジニア) ファシリテーター：作道 泰子 (フリーアナウンサー)

※プログラム・講演者等は事前の子供らく変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

2019年7月1日(月)10:00より申込受付開始

参加申込 参加をご希望の方は下記ホームページよりお申し込みください。  
参加申し込み後、ご登録いただいたメールアドレスに「参加証」メールをお送りいたします。  
当日は「参加証」メールを印刷してお持ちいただくか、スマートフォン・携帯電話等の画面を受付でご提示ください。  
駐車場の用意はありませんので、公共交通機関のご利用をお願いします。

ホームページはこちら [ワカモノ会合 https://www.chihou-wakamono.go.jp](https://www.chihou-wakamono.go.jp)

お問合せ 地方創生ワカモノ会合参加受付事務局 03-5408-1014  
(10:00~17:00 土日祝日を除く)

開催時期：2019年7月26日(日)  
※参加無料 ※先着順。定員と残り次第、締め切らせていただきます。※応募者の個人情報は当事業の運営のみに使用します。



地方創生ワカモノ会合は G20 関係国催事会と連携して 全国8か所で開催！	地方創生ワカモノ会合 in 新潟 ～スマート農業で、地域は変わる～ 開催日時：2019年5月25日(土) 場所：新潟市民プラザ	地方創生ワカモノ会合 in 福岡 ～ファイナンス × スタートアップで、 地域は変わる～ 開催日時：2019年6月1日(土) 場所：Fukuoka Growth Next
地方創生ワカモノ会合 in つくば ～ICTで、地域は変わる～ 開催日時：2019年6月30日(日) 場所：つくば国際会議場 中ホール300	地方創生ワカモノ会合 in 長野 ～農業 × 観光で、地域は変わる～ 開催日時：2019年7月13日(土) 場所：長野市芸術館 アクトスペース	地方創生ワカモノ会合 in 松山 ～働き方改革 × 起業で、地域は変わる～ 開催日時：2019年8月4日(日) 場所：愛媛大学 南加記念ホール
地方創生ワカモノ会合 in 札幌 ～観光で、地域は変わる～ 開催日時：2019年8月27日(水)・28(木) 場所：札幌国際大学 大講堂劇場	地方創生ワカモノ会合 in 岡山 ～ヘルステックで、地域は変わる～ 開催日時：2019年9月29日(日) 場所：岡山大学 Junko Fukutake Hall	地方創生ワカモノ会合 in 名古屋 ～SDGsで、地域は変わる～ 開催日時：2019年11月9日(土) 場所：愛知県国際総合大会場



## 開会挨拶



### 田中 由紀 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長

本日のイベントを通じて、地域にこそチャンスある、地域の未来は明るくなる、自分たちにも何かできるかもしれない、といったヒントをつかんでいただければ大変うれしく思います。地域の未来への希望をもっていただくとともに、地方創生の動きがさらに加速することを期待しています。



### 中村 時広 愛媛県知事

AI、IoT、5Gなどの新しい技術により、人々の価値観や働き方そのものが変わってくる時代となるなか、愛媛県では「愛媛グローバル・フロンティア・プログラム」により、優秀な起業アイデアの立ち上げをバックアップしています。新しい時代を築くため、新たな起業家が愛媛県内に誕生することを心から期待しています。



### 野志 克仁 松山市長

愛媛・松山は、通勤・通学時間が最も短いなど、全国の中でも非常に暮らしやすい、働きやすいまちとして知られ、移住者や新たな企業が増えてきています。市としては、中小企業における定型業務の自動化システム導入支援といった全国初の取り組みなどにより、働き方改革をますます進めていきたいと思っています。

## 地方創生に関する説明



### 田中 由紀 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長

地方創生は、地方に仕事や人の流れをつくり活性化するための戦略です。少子化や東京一極集中の流れが続く中で、東京圏から地方に移住する人を増やすことは大きな目標ですが、特定の地域に継続的に関わる「関係人口」を増やすことも大事です。若者に地方での可能性を実感してもらえらる視点を、今後の戦略の中で強化していきたいと思っています。

## 起業支援（EFGF）に関する説明



### 佐藤 努 愛媛県経済労働部 産業支援局長

愛媛グローバル・フロンティア・プログラム（EGF）は愛媛から世界に通用するビジネスプランを実現する創業支援の取り組みです。県内の人々をエンカレッジすることはもちろん、県外の創業意欲のある人を呼び込み、地域資源で地域課題を解決するビジネスを生み出すことを目指しています。ぜひチャレンジしてみてください。

## 基調講演



### 西野 亮 廣芸人/絵本作家

どんなビジネスでも挑戦を続けるためには「お金」と「広告」の問題が必ずついて回り、全てのクオリティが上がり均一化している今、「信用」がとても重要になっていると論及。

クラウドファンディングが資金調達の実践として注目されているが、ここでも大切なのは信用であり、嘘をつかずに“信用を稼ぐ”ことを大切にほしいと、ワカモノたちに向けてメッセージを送りました。

## 取組事例紹介



### 岡野 春樹 郡上カンパニー ディレクター

東京の会社からの出向で岐阜県郡上市に家族で移住し、根っこのある生きかたを大切に仕事をしています。大切なことは、やりたいことに没入してまずやってみる＝「あそぶ」ことです。身体の感覚に素直になって、何か新しいものが湧き出てくる隙間を作ることが大事です。それができるのが僕にとっては郡上であり、郡上でしかできないプロジェクトを模索しています。



### 正能 茉優 株式会社ハピキラFACTORY 代表取締役

大学時代に起業した会社の代表、東京の電機メーカー社員、大学の特任助教という3つの仕事をしています。「ハピキラFACTORY」は学生時代に長野県小布施町に行ったことをきっかけに、“かわいい”を入りに若者や女性に地域に興味を持ってもらえたらと始めました。地域“を”どうするかではなく、地域“で”得意なことをやってみる、結果として、地域も元気になっていくという発想に変えてみるとチャレンジの幅が広がるかもしれません。



### 辰濱 健一 Sansan株式会社 Eight事業部エンジニア

人口約5,500人の徳島県神山町のサテライトオフィスにいて、リモートワークでアプリ開発をしています。本社は東京で、私だけが神山町で勤務しています。最初はみんなが同じ場所で働くのが当たり前とと思っていましたが、今は私も東京にいる社員もこの働き方が当たり前になっています。また、地方では多種多様な人々との関わりの中で自分の役割も見出し、自発的に動くことで充実した毎日を送れる環境があります。



### 河合 崇 株式会社リバースプロジェクトトレーディング 代表取締役

大阪から愛媛に10年前に移住し、地域資源の大切さを愛媛から伝えるべく、3年前に「愛媛シルクプロジェクト」を立ち上げました。シルクには様々な活用方法がありますが、生糸になる残りの部分を使った商品開発に着目し、様々な方々を巻き込んだ官民連携で取り組んでいます。情熱と思い、そして行動力でアイデアや発想を実現し、みんなでイノベーションを起こして未来を作っていきたいと思っています。

## パネルディスカッション



**岡野 春樹** 頭でばかり考えるのではなく、自分の身体からの声に素直になって、好きかどうか、違和感はないか、自分に嘘をつかずにやってみることが大事だと思っています。地域をよくしようと気負わずに、自分が楽しくて、さらに、それが少しでも地域の役に立つといいというスタンスがビジネスを作るうえでも大切です。

**正能 茉優** なかなか想像が付きにくい組み合わせのキャリアを掛け算することで、自分をオンリーワンの存在にできるのではないかと考えました。あくまでもベースにあるのは、自分がやってみたいと思えるかどうか。自分がやりたいと思えること、居心地がいいことは、プロジェクトを継続させていく上で大切なことです。結果を出すところまで継続できれば、社会や地域を幸せにすることも大事にしていけると思います。

**辰濱 健一** 自分の中で何がやりたいかを何度も咀嚼してみてください。そうすると自分が何をやりたいのかという信念の確認ができます。そしてチャレンジしてみてください。地方で働きながら、さらに遠くの世界にも目を向けて、グローバルな仕事を地方でやる。それはカッコよくて楽しいことではありませんか。

**河合 崇** 最初は「都会から来たよそ者が何を言っているのか」と言われることも多かったですが、あきらめずに通い続けて熱い思いを伝えることが大切だと感じました。我々はSDGsのゴールをともに目指すことで思いを共有できました。志のある人々とともに、切磋琢磨して一緒に夢を追い続けることが大切だと思います。

## 実施概要

### 地方創生ワカモノ会合 in 札幌 観光で、地域は変わる

地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる地方創生ワカモノ会合を、全国8か所で開催。  
札幌では「観光」をテーマに、「2016年リオデジャネイロオリンピック」閉会式の旗引き継ぎ式のクリエイティブ・ディレクターを務め、「2020年東京オリンピック・パラリンピック」開会式・閉会式4式典総合プランニングチームの一員にも選出された(株)電通・Dentsu Lab Tokyo の菅野薫氏と初音ミクを開発した札幌在住のクリプトン・フューチャー・メディア(株) 伊藤博之代表取締役より、講演いただきました。

日 時：2019年8月27日（火）13:30～14:50（開場13:00）

会 場：札幌国際大学 大講堂「創風」（北海道札幌市清田区清田4条1丁目4-1）

参加費：無料

主 催：G20観光大臣会合実行委員会、G20MTM学生サポーターズ、  
内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局

共 催：札幌国際大学

後 援：観光庁

チラシ

G20 観光大臣会合「学生サミット」  
地方創生ワカモノ会合 in 札幌 【セミナー／グループディスカッション】

**観光**  
で、地域は変わる

セミナー 2019年8月27日(火) 13:30~14:50 予定  
札幌国際大学 大講堂「創風」

グループディスカッション 2019年8月27日(火)15:00~19:00 / 28日(水)9:30~12:00 札幌国際大学

主催：G20 観光大臣会合実行委員会、G20MTM 学生サポーターズ、  
内閣官庁まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局  
共催：札幌国際大学 後援：観光庁

地方創生ワカモノ会合  
150名参加無料

地方創生ワカモノ会合 in 札幌 観光で、地域は変わる

地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる地方創生ワカモノ会合を、全国8か所で開催します。  
札幌では「観光」をテーマにセミナーを実施します。「2016年リオデジャネイロオリンピック」閉会式の導引と歴史的クリエーティブ・ディレクターを務め、「2020年東京オリンピック・パラリンピック」開会式・閉会式4式典総合プランニングチームの一員にも選出された後藤博・Dentsu Lab Tokyoの豊野薫氏に「グローバルに対する魅力の発見と発掘」についてお話しいただきます。また、初自ミクを開発した札幌在住のクリプトン・フューチャー・メディア強 伊藤博之代表取締役は、「北海道の価値創造、クリエイターが切り拓く北海道の未来」についてお話しいただきます。

開催日時：2019年8月27日(火) 開場・受付開始 13:00  
開会 13:30 / 閉会 14:50(予定)  
場所：札幌国際大学 大講堂「創風」  
北海道札幌市清田区清田4条1丁目4-1

セミナー 150名参加無料

プログラム		講師 後藤博
開会挨拶	中根 一幸 (内閣府副大臣) G20 観光大臣会合実行委員会	
地方創生に関する説明	田中 住誠 (内閣官庁まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)	
特別講演①	豊野 薫 (株式会社電通 CDC / Dentsu Lab Tokyo エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター、クリエイティブ・テクノロジー)	
特別講演②	伊藤 博之 (クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 代表取締役 / NoMaps 実行委員会 委員長)	

●プログラム・講演者は事前の予告なく変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

参加申込  
参加ご希望の方は下記ホームページより申し込みください。  
当日は「参加証」メールを送りたい場合は、「参加証」メールを印刷してお持ちいただくか、スマートフォン・携帯電話等の画面を写真で撮影してください。  
駐車場をご用意しております。

ホームページはこちら ▶ [ワカモノ会合 https://www.chihou-wakamono.go.jp](https://www.chihou-wakamono.go.jp)

お問合せ | 地方創生ワカモノ会合参加受付事務局 03-5408-1014  
(10:00~17:00 土日祝日を除く)

要領印刷：2019年8月21日(水)  
※郵送無料 ※先着順。定員となり次第、締め切らせていただきます。※応募者の個人情報は当事業の運営のためにのみ使用します。

グループディスカッション 開催日時：2019年8月27日(火) 15:00~19:00 / 28日(水) 9:30~12:00(予定)  
場所：札幌国際大学 テーマ：北海道観光 対象者：大学生・専門学校生 100名  
G20 観光大臣会合に参加する各国の大使等に対し、学生として提言を行うための、グループディスカッションを行います。  
※お問合せは、G20MTM 学生サポーターズ (gakusei0827summit@gmail.com) まで。

地方創生ワカモノ会合は G20 関係閣僚会合と連動して 全国8カ所で開催！	地方創生ワカモノ会合 in 新潟 ～スマート農業で、地域は変わる～ 開催日時：2019年5月25日(土) 場所：新潟市東区プラザ	地方創生ワカモノ会合 in 福岡 ～ファイナンス×スタートアップで、 地域は変わる～ 開催日時：2019年6月1日(土) 場所：Fukuoka Growth Next
地方創生ワカモノ会合 in つくば ～ICTで、地域は変わる～ 開催日時：2019年6月30日(日) 場所：つくば国際会議場 中ホール-300	地方創生ワカモノ会合 in 長野 ～農業×観光で、地域は変わる～ 開催日時：2019年7月13日(土) 場所：長野市芸術館 アクトスペース	地方創生ワカモノ会合 in 松山 ～働き方改善×起業で、地域は変わる～ 開催日時：2019年8月4日(日) 場所：愛媛大学 南創設ホール
地方創生ワカモノ会合 in 札幌 ～観光で、地域は変わる～ 開催日時：2019年8月27日(火)・28日(水) 場所：札幌国際大学 大講堂 創風	地方創生ワカモノ会合 in 岡山 ～ヘルスケアで、地域は変わる～ 開催日時：2019年9月29日(日) 場所：岡山大学 Juniko Fukuzake Hall	地方創生ワカモノ会合 in 名古屋 ～SDGsで、地域は変わる～ 開催日時：2019年11月9日(土) 場所：愛知国際センター 大会場

## 開会挨拶



### 中根 一幸 内閣府副大臣

来年度から始まる第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に向けて、その主役である地方の皆さまが、地域にこそチャンスがある、地域の未来は明るくなる、自分にも何かできるかもしれないといった気づきを得て、今後の活動につなげていただければ幸いです。そして、地方創生の動きがさらに加速することを期待しております。



### 土屋 俊亮 北海道副知事

北海道では、豊かな自然や美味しく新鮮な食、独自の歴史や文化を活かして、滞在交流型の観光地づくりを進めています。近年では、道内を訪れる外国人の方々が急激に増加し、まさに観光で地域は変わるということが実践されています。G20観光大臣会合を控え、若者の視点で熱い議論が行われることを期待しています。

## 地方創生に関する説明



### 田中 由紀 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長

地方創生では、地方に移住する人を増やすことが究極のテーマです。来年度からの新しい国の戦略では、特定の地域に何らかの形で関わりをもつ「関係人口」のすそ野を広げていくことにも注目しています。そのためには観光に関する取組がとても重要です。地方の皆様と協力して元気な地方を作れるように頑張っていきたいと思えます。

## 特別講演①



**菅野 薫** 株式会社電通 CDC/Dentsu Lab Tokyo

エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター、クリエイティブ・テクノロジスト

リオ五輪閉会式の旗引継式で東京の魅力を世界に発信するにあたり、当初は、特別な場なので普段の仕事ではやらないような特殊なことをやらなくてはならないのではないか、という気負いがチーム（※）内にありました。しかし、“我々が日々表現していることを丁寧にやりきって伝えるべき”と気づき、普段と同じ通常運転で企画することに決めたことでうまく回り始め、得意分野が異なる4人の相乗効果が発揮されました。また、各人が“何があっても絶対に実現したい企画”を持ち寄ったことで、様々な苦難も楽しく乗り越えることができたと思います。

※リオ五輪閉会式の旗引継式クリエイティブチーム佐々木宏（クリエイティブ・ディレクター）、椎名林檎（音楽家）、MIKIKO（振付師）、菅野薫

## 特別講演②



**伊藤 博之** クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 代表取締役/NoMaps実行委員会 委員長

北海道を拠点に、「ツクルを創る」をスローガンに様々な「ツクル」人をサポートしていますが、北海道を盛り上げていくための様々な取り組みも行っています。例えば、「初音ミク」から派生した「雪ミク」は雪まつりの雪像として始まりましたが、毎年恒例のイベントとなり多くの観光客を集めています。他にも「NoMaps」では、地場産業×テクノロジーをテーマにしたビジネスカンファレンスを始め、様々なイベントを札幌のまち全体を会場に展開しています。今後も、様々な道内企業ともコラボレーションしながらいろいろな形で北海道を盛り上げていきたいと思っています。



## G20観光大臣会合「学生サミット」



G20観光大臣会合を機に、若者世代が「北海道の未来」や「観光」を考えるきっかけになればという想いのもと、学生ボランティア団体であるG20MTM学生サポーターズが企画・運営に関わり、学生サミットを開催しました。

参加した約70人の学生たちは、グループに分かれてディスカッションを行い、それぞれの議論結果と、議論を総括した「学生サミット宣言」を発表しました。

日 時：2019年8月27日(火)15:00～19:00／28日(水)9:30～12:00

会 場：札幌国際大学



### グループA 若者 x 北海道観光 ～道外・海外から呼ぶには～

問題意識：

どうすれば若者を呼べるか

解決策：

- 道内各地の観光地で働くことができるオール北海道のインターンシップ制度の創設
- 個人の嗜好に合わせてオススメ観光地を紹介するアプリの開発
- e-sportsに着目し、既存のコスプレイベント等と連携したイベントの実施
- 北海道の食の更なる展開を考え、ハラル対応など新しいアプローチ

G20観光大臣会合「学生サミット」



グループB 若者と観光 ～若者にとって北海道は魅力的なのか～

問題意識：	道内大学生は、就職で北海道を離れる人が多い。 その理由として、あまり北海道を旅行せず、魅力を知らないまま卒業することがあげられる。
解決策：	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 旅の楽しさを教える「旅育」制度の北海道版の創設等、小中学生から旅行に親しむ環境整備</li> <li>■ 観光に興味を持った次世代が専門的に観光を学べる環境整備</li> </ul>

グループC 若者が文化的景観に興味を持つためには

問題意識：	北海道に豊富にある文化的景観が若者に知られていない。 また、それらの情報発信が不足しているため、若者の文化的景観への関心が低い。
解決策：	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「イベント」「体験」「グルメ」といった若者が興味を持つものと「文化的景観」とのコラボ</li> <li>■ 今の若者にはかかせない「SNS」でのプロモーションの実施</li> </ul>

グループD 新北海道格安旅 ～未来型交通～

問題意識：	若者にとって移動コストの高さや不便さ等から二次交通が北海道観光の課題であり、そのことから地域の豊富な観光資源を活かせていない。
解決策：	次世代の情報技術によるアプリと連動した、道内各地で乗り捨てが可能な自動運転付きレンタル電気自動車の開発



## G20観光大臣会合「学生サミット」



### グループE 若者の観光意識 ～行きたいけど行けないギャップを埋めるには～

問題意識：	動画やSNS等で満足してしまい、旅行しない若者が多い。
解決策：	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学割、期間限定等の特別感とPR・リア度・ブームとの掛け合わせによる観光需要の喚起</li> <li>■ 戦略的マーケティング及びターゲティング（長期的かつ波及的なバズリ）による旅の魅力の発信</li> </ul>



### グループF ニセコにおける観光と地域経済

問題意識：	ニセコエリアは観光で本当に潤っているのか。地域が儲からなければ、オーバーツーリズム等の課題を乗り越えられないのではないか。
解決策：	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 冬季のスキー以外の文化体験など、日本らしいアクティビティの提案</li> <li>■ ヒラフ地区と他地域における温泉や食べ物、サイクリングなどを連携させたプランづくり</li> </ul>

## 実施概要

地方創生ワカモノ会合 in 岡山

# ヘルステックで、地域は変わる

地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる地方創生ワカモノ会合を、全国8か所で開催。

岡山では、「ヘルステック」をテーマに、健康・体調管理のテクノロジー、予防医学等についてのセミナーを実施しました。

基調講演では、予防医学研究者の石川善樹氏に「ウェルビーイング」という考え方についてお話しいただきました。

事例報告、パネルディスカッションでは、ヘルステック企業の方々や、健康分野で地域活性化に取り組む方から、その取組内容についてご説明いただきました。

日 時：2019年9月29日（日）13:00～15:35（開場12:30）

会 場：岡山大学 Junko Fukutake Hall（岡山県岡山市北区鹿田町2-5-1）

参加費：無料

主 催：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局

共 催：岡山市

後 援：岡山県、厚生労働省

チラシ

地方創生ワカモノ会合 in 岡山 [セミナー]

**ヘルステック  
で、地域は変わる**

**定員 200名  
参加無料**

**2019年9月29日(日) 13:00~15:35 予定**  
**岡山大学 Junko Fukutake Hall**

主催：内閣官庁まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局  
 共催：岡山市 後援：岡山県、厚生労働省  
※ヘルステックとは「ヘルス」と「テクノロジー」を掛け合わせた造語で、医療・ヘルスケア分野にテクノロジーを導入する新しい領域のこと。

地方創生ワカモノ会合 in 岡山 ヘルステックで、地域は変わる

地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる地方創生ワカモノ会合を、全国8か所で開催します。岡山では、「ヘルステック」をテーマに、健康・体調管理のテクノロジー、予防医学等についてのセミナーを実施します。基調講演では、予防医学研究者の石川善樹氏に「ウェルビーイング」という考え方についてお話しいただきます。事例報告、パネルディスカッションでは、ヘルステック企業の方々や、健康分野で地域活性化に取り組む方から、その取組内容についてご説明いただきます。

**開催日時：2019年9月29日(日) 開場・受付開始 12:30  
 開会 13:00 / 閉会 15:35 (予定)**

**場所：岡山大学 Junko Fukutake Hall  
 岡山県岡山市北区鹿田町 2-5-1**

**定員 200名  
 参加無料**

プログラム		登壇者(順不同)	
開会挨拶	木下 賢志 (内閣官庁 まち・ひと・しごと創生本部事務局 地方創生推進官) 大森 雅夫 (岡山市長)		
地方創生に関する説明	田中 由紀 (内閣官庁 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)		
基調講演	石川 善樹 (予防医学研究者)		
事例紹介/ パネルディスカッション	宮本 大樹 (株式会社エムティエイ 執行役員ヘルスケア事業本部 ルナルナ事業部長 経歴特約) 矢田 明子 (Community Nurse Company 株式会社 代表取締役) 力丸 昌弘 (株式会社タニダヘルスリンク 経営管理部 副部長 兼 IoTデバイス推進部 部長代理) ファシリテーター：江原 敬典 (フリーアナウンサー)		

●プログラム・登壇者は事前予告なく変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

参加申込 参加をご希望の方は下記ホームページよりお申し込みください。参加申し込み後、ご登録いただいたメールアドレスに「参加証」メールをお送りいたします。当日は「参加証」メールを印刷してお持ちいただくか、スマートフォン・携帯電話等の通信を受付でご提示ください。駐車場のご用意はありませんので、公共交通機関のご利用をお願いいたします。

ホームページはこちら [ワカモノ会合 https://www.chihou-wakamono.go.jp](https://www.chihou-wakamono.go.jp)

お問合せ 地方創生ワカモノ会合参加受付事務局 03-5408-1014 (10:00~17:00 土日祝日を除く)

開催期日：2019年9月26日(木)  
※参加無料 ※先着順、定員とあり次第、締め切らせていただきます。※応募者の個人情報は当事業の運営のみに使用します。

<b>地方創生ワカモノ会合は 620 関係機関会合と連携して 全国 8 か所で開催!</b>	地方創生ワカモノ会合 in 新潟 ～スマート農業で、地域は変わる～ 開催日時：2019年5月25日(土) 場所：新潟市民プラザ	地方創生ワカモノ会合 in 福岡 ～フューチャーズ × スタートアップで、 地域は変わる～ 開催日時：2019年6月1日(土) 場所：Fukuoka Growth Next
地方創生ワカモノ会合 in つくば ～ICTで、地域は変わる～ 開催日時：2019年6月30日(日) 場所：つくば国際会議場 中ホール300	地方創生ワカモノ会合 in 長野 ～観光 × 観光で、地域は変わる～ 開催日時：2019年7月13日(土) 場所：長野市田代町 アウトスペース	地方創生ワカモノ会合 in 松山 ～働き改革 × 観光で、地域は変わる～ 開催日時：2019年8月4日(日) 場所：愛媛大学 南加記念ホール
地方創生ワカモノ会合 in 札幌 ～観光で、地域は変わる～ 開催日時：2019年8月27日(日)・28(日) 場所：札幌国際大学 大講堂 劇場	地方創生ワカモノ会合 in 岡山 ～ヘルステックで、地域は変わる～ 開催日時：2019年9月29日(日) 場所：岡山大学 Junko Fukutake Hall	地方創生ワカモノ会合 in 名古屋 ～SDGsで、地域は変わる～ 開催日時：2019年11月9日(土) 場所：愛知国際センター 大会場

## 開会挨拶



### 木下 賢志 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 地方創生総括官

若い方々を始めとして、世代を超えて少しでも多くの方々に地方創生について考えていただき、お住まいの地域の未来、これから進むべき道を共に考え、思いを巡らせてほしい。そして、我が事として様々な形で地域に参画いただき、人が集まって元気なまちになるという流れができることを願っています。



### 大森 雅夫 岡山市長

Society5.0といわれるように世の中は大きく変わってきています。これは、実はとてもおもしろい時代でもあると思います。「自分はこんなことをやってみたい」ということがあれば、そのアイデアや夢を実現するために行政もサポートしています。一緒に、岡山のまちを元気にしていきましょう。

## 地方創生に関する説明



### 田中 由紀 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長

地域に人や仕事を集めて、誰もが活躍できる地域社会をつくるためには、健康づくりも非常に重要です。岡山を始め、様々な自治体でも健康をテーマとした地方創生に取り組む事例が出てきています。来年度から始まる新戦略にも健康という視点を組み込みながら、国と地域が連携して活力ある地域づくりに取り組んでいきたいと思っています。

## 基調講演



### 石川 善樹 予防医学研究者

予防医学の観点から「幸せ～Well Being(よく生きる)～」の研究をしていますが、日本のGDPは増えているのに、「幸せ」を感じる人は増えていないという衝撃的なデータがあります。

22世紀に向けてこれからのヘルスケアが向き合う課題とは何か。退屈、孤独、不安を解消し、より多くの人に「幸せ」を感じてもらうにはどうすればいいか？

1つの方法として、各地域に暮らす人達みんなで、どんな「生き方」をしたいのかを話し合いそれを達成するためのアイデアを具体化するという、ボトムアップ型のアプローチもあると考えています

## 取組事例



**力丸 昌弘** 株式会社タニタヘルスリンク 経営管理部 副部長 兼 IoT デバイス推進部 部長代理

「はかる、わかる、きづく、かわる」というサイクルによる健康づくりを目指しています。地域各所への体組成計などの機器の設置や、地元の食堂と連携したタニタの社員食堂のレシピコンセプトに基づいたヘルシーメニューの監修など、様々な自治体や企業の健康づくり事業のサポートをしています。岡山では、歩数に応じてポイントが溜まる健康ポイント事業への協力の他、AIを活用した健康見える化事業の準備も進めています。



**宮本 大樹** 株式会社エムティーアイ 執行役員 ヘルスケア事業本部 ルナルナ事業統括部 統括部長

女性の健康情報サービス「ルナルナ」は、妊活の支援ツールとして少子化対策に、体調管理支援ツールとして女性の活躍推進に、データを医療機関と連携することで地域医療の利便性向上にもつながっています。全国のプレママ・ママからの要望で生まれた「母子モ」は、多くの自治体と連携し、母子健康手帳と併用することで妊娠・出産・子育てを切れ目なくサポートしています。子育てをする保護者の負担の軽減や不安の解消をはじめ、家族や地域と繋がりを生み誰もが自然に子育てに参加できる未来に向けて地域全体を変えていくことを目指しています。



**矢田 明子** Community Nurse Company 株式会社 代表取締役

健康のために自ら健診に行こうという意識が低い“おっちゃん”でも、暮らしのすぐそばにいていつも声をかけてくれる“お姉ちゃん”から言われると「じゃあ行ってみるか」という気持ちになります。コミュニティナースはそんな“お姉ちゃん”を育成し、地域で元気に楽しく暮らす人を増やす実験です。10年前に島根県雲南市で開始し、今では全国の自治体や企業へ、地域それぞれの個性を活かしたコミュニティナースが広がっています。



## パネルディスカッション



**カ丸 昌弘** 若者が地域で活躍するには、仕事がないと安心感が生まれません。我々は、ヘルシーメニューというノウハウを使って地域の飲食店を活性化したり、計測機器やシステムを運用していくにも人が不可欠だと思いますので、そういった形で仕事を作っていくことに貢献していきたい。情熱をもって、自分がやりたい仕事のためにがんばってください

**宮本 大樹** 住みやすい地域、子育てしやすい環境をいかに作っていくかが大切です。AIやIoT、ビッグデータなどテクノロジーの世界はできることがどんどん広がっています。自分の地域で、このテクノロジーをどのように活用することが出来るか？と思いながら生活していると、見えてくるものの幅が広がってくると思います。チャンスはたくさん転がっているはずですよ。

**矢田 明子** 仕事を作るというのは創業だけではありません。社員として目の前の仕事をアップデートすることも大切です。先輩たちが教えてくれることを大事にしつつも「そもそもそうだろうか」という問いを常に持ちながら、若者ならではの熱狂をもって取り組んでみてください。自分たちこそが地域を一番おもしろくできるはずですよ。

## 実施概要

地方創生ワカモノ会合 in 名古屋

# SDGsで、地域は変わる

## SDGsまちづくりアイデアコンテスト表彰式 & 蟹江教授のSDGs公開授業

地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる地方創生ワカモノ会合を、全国8か所で開催します。  
名古屋では、全国の中学生・高校生から募集した「SDGsまちづくりアイデアコンテスト」の表彰式を行い、優秀作品に選ばれた5作品の皆様によるプレゼンテーションを実施しました。  
また、SDGs研究の第一人者で、コンテストの審査委員長でもある蟹江憲史氏による「SDGs公開授業」を行いました。

- 日 時： 2019年11月9日（土）13:00～16:00（開場12:30）  
会 場： 愛知県図書館 大会議室（愛知県名古屋市中区三の丸1丁目9-3）  
参加費： 無料  
主 催： 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局  
共 催： 愛知県、名古屋市  
後 援： 外務省  
企画協力：一般社団法人 Think the Earth（SDGs for School事務局）

募集チラシ



**中高生限定**

**SDGsまちづくり  
アイデアコンテスト**  
募集期間 7/19(金)～9/9(月)

**「まちづくり」アイデア募集**  
あなたが住みたい「まち」はどんな「まち」でしょう？  
そんな「まち」をつくるためにはどうすればいいでしょう？  
SDGsの考え方をを使って、自由に発想してください！

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**  
SDGsとは、2015年9月の国連サミットで全会一致で採択された「持続可能な開発目標」のことです。すべての国の社会課題を対象とした17のゴールで構成され、包括的で持続可能な社会の構築を目指しています。  
貧困や飢餓から環境問題、経済成長やジェンダーにいたる広範な課題が顕微鏡されており、「誰一人取り残さない」ことを強調し、2030年までに達成することが目標とされています。

**A3サイズの  
エントリーシートを  
提出するだけ！**

**優秀5作品の受賞者は、  
11/9に名古屋でプレゼン！**

**募集要項**  
テーマ：あなたの住んでいる「まち」や関心のある「まち」を「誇りを持って住み続けたいまち」にするためのアイデア  
応募資格：全国の中学生、高校生  
応募方法：指定のエントリーシート（A3サイズ）に記入し、提出  
詳細は、<https://www.chihou-wakamono.go.jp/nagoya.php> をご参照下さい。

**賞**  
最優秀作品 1作品  
優秀作品 4作品  
※受賞者には、11/9開催の「地方創生ワカモノ会合in名古屋」にてプレゼンテーションしていただきます。  
(ただし、応募条件ではありません。)

**主催** 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局  
**企画協力** 一般社団法人Think the Earth

7/19(金)より  
ホームページ公開

**募集要項**

**テーマ** SDGsの考え方をを使って、あなたの住んでいる「まち」や関心のある「まち」を「誇りを持って住み続けたいまち」にするためのアイデアを提案して下さい。

**提案内容**  
① 対象とするまち、その現状・課題点  
② 誇りを持って住み続けたいまちの姿（目標・ゴールイメージ）（SDGsのゴールを2つ以上選び、それらをヒントに考える）  
③ 住み続けたいまちに近づけるためのプロジェクトアイデア（具体的施策）  
④ プロジェクトタイトル  
⑤ プロジェクトを拡げるための協力先（自治体・企業・学校・地域の仲間等）や連携のイメージ

**応募資格** 全国の中学生・高校生（個人でもグループでも可）

**募集期間** 令和元年7月19日（金）～令和元年9月9日（月）

**審査方法** 以下審査員が厳正なる審査の上、受賞作品を決定します。  
審査委員長：堀江憲史（慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科教授）  
審査員：河口真理子（株式会社大和総研 研究主幹）  
山藤旅純（新渡戸文化小中学校・高等学校教諭/一般社団法人 Think the Earth コミュニケーター）  
竹崎理恵（株式会社電通 TeamSDGs プロジェクトリーダー）

**表彰対象**  
最優秀賞：1作品  
優秀賞：4作品  
・受賞者（グループ応募の場合は代表者）には、「地方創生ワカモノ会合in名古屋」にてプレゼンテーションを行っていただきます。（ただし、応募条件ではありません。）  
・優秀5作品は、今後の地方創生の取組の参考にさせていただくとともに、内閣官房のホームページ等に掲載予定です。  
・最優秀賞の受賞者は、来年初旬に開催を検討している地方創生イベントで、プレゼンテーションをしていただく予定です。

**地方創生ワカモノ会合in名古屋**  
令和元年11月9日（土）13時00分～16時00分（予定）  
愛知県図書館 大会議室（愛知県名古屋市中区三の丸一丁目9-3）

**応募方法**  
・エントリーシート（A3サイズ）を提出してください。  
（<https://www.chihou-wakamono.go.jp/nagoya.php> よりダウンロードできます。）  
参考資料の添付も可能です。  
・送付方法 地方創生ワカモノ会合事務局にメールにて送付（郵送不可）  
メールアドレス [sdgs@chihou-wakamono.go.jp](mailto:sdgs@chihou-wakamono.go.jp)  
・締切 令和元年9月9日（月）24:00

※優秀5作品受賞者には、  
プレゼンテーション用資料を  
別途ご用意いただきます。

**個人情報の取扱い** いただいた個人情報は、「SDGsまちづくりコンテスト」の審査やコンテスト運営に関することのみに使用します。

ホームページはこちら → [ワカモノ会合 https://www.chihou-wakamono.go.jp](https://www.chihou-wakamono.go.jp)

お問合せ 地方創生ワカモノ会合参加受付事務局 03-5408-1014  
(10:00～17:00 土日祝日を除く)

チラシ

地方創生ワカモノ会合 in 名古屋 【アワード/セミナー】



**SDGs**  
で、地域は変わる

**SDGs まちづくり  
アイデアコンテスト表彰式  
&  
蟹江教授のSDGs 公開授業**

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで全会一致で採択された「持続可能な開発目標」のことです。すべての国の社会課題を対象とした17のゴールで構成され、包括的で持続可能な社会の構築を目指しています。貧困や飢餓から環境問題、経済成長やジェンダーにいたる広範囲な課題が認識されており、「誰一人取り残さない」ということを強調し、2030年までに達成することが目標とされています。

定員 150名  
参加無料

**2019年11月9日(土) 13:00~16:00 予定**

**愛知県図書館 大会議室**

主催：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局  
共催：愛知県、名古屋市 後援：外務省 企画協力：一般社団法人 Think the Earth (SDGs for School事務局)

地方創生ワカモノ会合 in 名古屋 SDGs で、地域は変わる

地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる地方創生ワカモノ会合を、全国8か所で開催します。名古屋では、全国の中学生・高校生から募集した「SDGs まちづくりアイデアコンテスト」の表彰式を行い、優秀作品に選ばれた5作品の冒険によるプレゼンテーションを実施します。また、SDGs研究の第一人者で、コンテストの審査委員長でもある蟹江憲史氏による「SDGs 公開授業」を行います。

**開催日時：2019年11月9日(土)** 開場・受付開始 12:30  
開会 13:00 / 閉会 16:00 (予定)

**場所：愛知県図書館 大会議室**  
愛知県名古屋市中区三の丸1丁目9-3

定員 150名  
参加無料

**プログラム**

地方創生に関する説明	田中 由紀 (内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)
表彰式 / 受賞者プレゼンテーション / 審査員総評	優秀5作品受賞者代表者 審査委員長：蟹江 憲史 (徳津義塾大学大学院 政策・メディア研究科教授) 審査員：河川 真理子 (株式会社大塚研 研究主幹) 山藤 悠美 (新瀬戸文化が中学校・高等学校教諭 / 一般社団法人 Think the Earth コミュニケーター) 竹崎 理恵 (株式会社電通 TeamSDGs プロジェクトリーダー)
SDGs 公開授業	蟹江 憲史 (徳津義塾大学大学院 政策・メディア研究科教授)

※プログラム・登壇者は事前の予告なく変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

参加申込 告知をご希望の方は下記ホームページよりお申し込みください。参加申し込み後、ご登録いただいたメールアドレスに「参加証」メールをお送りいたします。当日は「参加証」メールを印刷してお持ちいただくか、スマートフォン・携帯電話等の画像を受付でご提示ください。駐車場のご用意はありませんので、公共交通機関のご利用をお願いします。

ホームページはこちら [ワカモノ会合 https://www.chihou-wakamono.go.jp](https://www.chihou-wakamono.go.jp)

お問合せ 地方創生ワカモノ会合参加受付事務局 03-5408-1014 (10:00~17:00 土日祝日を除く)

募集締切：2019年11月1日(日)  
※参加無料 ※先着順。定員となり次第、締め切らせていただきます。※応募者の個人情報は当事業の運営のみに使用します。

<b>地方創生ワカモノ会合は C20 関係関係会合と連動して 全国8カ所で開催!</b>	地方創生ワカモノ会合 in 新潟 ～スマート農業で、地域は変わる～ 開催日時：2019年5月25日(土) 場所：新潟市佐野プラザ	地方創生ワカモノ会合 in 福岡 ～ファイナンス×スタートアップで、 地域は変わる～ 開催日時：2019年6月1日(土) 場所：Fukuoka Growth Next
地方創生ワカモノ会合 in つくば ～ICTで、地域は変わる～ 開催日時：2019年6月30日(日) 場所：つくば国際会議場 中ホール300	地方創生ワカモノ会合 in 長野 ～環境×観光で、地域は変わる～ 開催日時：2019年7月13日(土) 場所：長野市芸術館 アクトスペース	地方創生ワカモノ会合 in 松山 ～働き改革×産業で、地域は変わる～ 開催日時：2019年8月4日(日) 場所：愛媛大学 再建記念ホール
地方創生ワカモノ会合 in 札幌 ～観光で、地域は変わる～ 開催日時：2019年8月27日(水)・28日(木) 場所：札幌国際大学 大講堂 新風	地方創生ワカモノ会合 in 岡山 ～ヘルスケアで、地域は変わる～ 開催日時：2019年9月29日(日) 場所：岡山大学 Juniko Fukutake Hall	地方創生ワカモノ会合 in 名古屋 ～SDGsで、地域は変わる～ 開催日時：2019年11月9日(土) 場所：愛知県図書館 大会議室

## 開会挨拶



### 田中 由紀 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局次長

SDGsや地方創生は、若い方たちに自ら考えてもらい、気づいていただくことが大事です。本日の会合が、地域にこそチャンスがある、地域の未来は明るくなる、自分たちでも何かができるのではないかとということに気づききっかけになり、地方創生の動きがさらに加速し、SDGsの達成に向けた動きが広がっていくことを期待しています。



### 近藤 雅俊 愛知県政策企画局国際監

今年、愛知県はSDGs未来都市に指定されるなど、SDGsの達成に向けた取り組みを推進しています。本日の会合を通じて、皆様に改めて地方の多様性を知っていただき、特に若い方には、持続可能なまちづくりに何が必要かを考えるきっかけになることを期待しております。



### 高岡 豊彦 名古屋市観光文化交流局観光交流部長

日本全国から選ばれた学生の皆さんの素晴らしいアイデアが、地域を越えて地方全体、さらには国全体など、もっと大きな変化を生み出していくことができるのではないかと思います。そして将来、本日の会合がいかにか実り多きものだったかと振り返って思い出していただけるのではないかと期待しています。

## ■ 地方創生ワカモノ会合in名古屋 SDGsで、地域は変わる

### 開会挨拶



#### 田中 由紀 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長

政府では地方創生を最重要課題の一つとし、まち・ひと・しごと創生総合戦略のもとに取り組んでいます。来年度から始まる第二期の戦略ではSDGsが重要な視点となります。持続可能に自立していくためには経済・社会・環境の3つを統合して政策を進めることが重要であり、国や自治体を始め、様々なプレーヤーが協力していく枠組みを作っていくしたいと思います。

### 表彰式



## 受賞者プレゼンテーション

### 最優秀賞 「新・ムーンライト伝説 ～月夜の農業は、ワクワク感がたまらないよ♪～」



<チーム名> (株)氷川のぎろっちょ  
 熊本高等専門学校 竹山実李  
 宇土市立鶴城中学校 堀川桃子  
 白百合学園八代白百合学園高等学校 上田友香  
 鎮西学園真和高等学校 高木萌衣  
 熊本県立熊本商業高校 清田日和  
 対象地域：熊本県 氷川町

#### 【プレゼンテーション概要】

「新・ムーンライト伝説」は、耕作放棄地を減らすために、満月を含む1週間、夜に農作業をやるという事業です。昨年2月に中学生女子5人で会社を設立し、小中学生を巻き込んだ後継者の育成、婚活事業としての活用など、この事業に多くのものを結びつけて“一石五鳥”以上を目指しています。大好きな氷川町がもっと住み続けたいなるまちになるように、私たちも進化し続けます。

#### 【審査員コメント】

- 地方創生と起業というSDGsで大事な点を、中高生ながら両方やっているのは素晴らしい、最先端の取組だと思いました。(蟹江審査委員長)
- 大人顔負けの戦略と子どもらしさが見事にブレンドされていて、将来性を感じました。まちへの愛があふれているのもとても素敵でした。(河口審査員)
- すごいアイデアで、ワクワク感もあり、夜に農業をやるという視点をずらした発想も素晴らしいと思いました。様々な世代が関わっているのも素晴らしいです。(山藤審査員)
- 特別な資産や道具などを必要とせず、ただ時間帯を夜にずらして考えるという、発想の転換で様々な地域の課題を解決し、乗り越えようとしたアイデアが素晴らしいと思いました。(竹嶋審査員)

## 受賞者プレゼンテーション

### 最優秀賞次席「Kakishibuを世界基準に！」



<チーム名> ソーシャルビジネス研究班  
 京都府立木津高等学校 近美夕子  
 高屋友里  
 伊藤一紗  
 対象地域：京都府 木津川市

#### 【プレゼンテーション概要】

木津川市は渋柿の産地ということもあり、「柿渋」の耐久性や防水・消臭機能を活かし、紙袋等をコーティングしてレジ袋などに利用することを考えました。実際に機能性の検証実験を行い、行政や地元企業等と協力して生産・導入を目指しています。プラスチックごみは世界的な問題です。Kakishibuを世界基準にすることで木津川市を世界に誇れるまちにしたいです。

#### 【審査員コメント】

- 地域にあるものを見直して、それが実は世界につながる、すごく使えるのになぜ使わないんだろうというところから発想しているのがいいと思います。この資源の発見、発想の仕方は他でも参考にできると思います。 (蟹江審査委員長)
- 技術の性能点検から、市場性、社会性、実現可能性までを調べ、さらに多くの人々を巻き込んだ戦略性に感銘をうけました。伝統技術である柿渋を現在のプラスチックゴミ解決に結びつける発想も素敵。3年後には柿渋がカタカナで世界に広まっているといいと思いました。 (河口審査員)
- 地域の資源を活用し、解決に向かう素晴らしいアイデアになっていたと思います。さらに行政としっかりパートナーシップを組み、全国が真似できる素晴らしい事例だと思います。 (山藤審査員)
- プロジェクトタイトルも力強く目指すところも明確だし、シンプルでいい。地域にある資産を活かして、日本発の取組みとして、世界に発信していけるものになるのではないかと思います。 (竹嶋審査員)



## 受賞者プレゼンテーション

### 優秀賞「NICEツアー ～みんなで作ろう、森の楽園～」



＜チーム名＞ チームNICE  
 根羽村立根羽中学校 佐藤颯太  
 鈴木琉央  
 石原世奈  
 北澤ひより  
 塩澤薫  
 水野莉音  
 対象地域：長野県 根羽村

#### 【プレゼンテーション概要】

総面積の94%が森という根羽村に暮らしながら、普段は家の中でゲームをして遊ぶことも多く、森をうまく活かしていません。大人になっても帰りたくなる、人が集まる村にするにはどうすればいいか。私たちは、森の中で遊んだり泊ったりできる森のテーマパークを、2030年を目標に作ることを計画しました。その第一歩として2020年に体験ツアーを企画しています。

#### 【審査員コメント】

- 地域の良い所を探そう、どういう村なら帰りたかということをみんなが思っているというのが素晴らしいし、様々な地域にも広がりうるものだと思います。  
 (蟹江審査委員長)
- 自分たちにとっていいものは何か、実は森ではないか、背を向けてきた森に目が行くという流れが素晴らしい。青い鳥のように、一番の宝は自分たちの足元にあるのだ、外にばかり目を向けがちな大人に夢を見させてくれる素晴らしい企画だと思いました。  
 (河口審査員)
- 自分たちが大人になったときにどんな村だったら帰りたかという大きな問いを立てて未来を想像し、バックカastingして考えていることに感動しました。  
 (山藤審査員)
- 森のテーマパークをいろいろな人を巻き込みながら少しずつ完成させていくというのは、まさに持続可能な取り組みそのものだと思います。「NICE」という名前のつけ方も魅力的でした。  
 (竹嶋審査員)

## 受賞者プレゼンテーション

### 優秀賞「地域が教材！「なかのうスタイル」～中標津発！地域創造型プロジェクト～」



<チーム名> 農産加工研究班NSB no.3  
 北海道中標津農業高等学校 佐藤日菜  
 土井上若那  
 対象地域：北海道 中標津町

#### 【プレゼンテーション概要】

「なかのうスタイル」は、私たち高校生が、地域の小中学生と地元企業、農家、行政などを結びつけ、一緒に特産品開発や普及活動に取り組むことで、農産加工研究班の活動を持続的に発展させ、郷土愛を育んでいくことを目指しています。町全体をOne Teamに新たな活動にトライし、地域と共に中標津の未来を拓き、変革の激しい社会を担っていける大人になれるよう頑張ります。

#### 【審査員コメント】

- ネーミングも素晴らしいと思いました。現実的なアイデアで、小さい地域だからこそできるということもあると思います。世界的にも広がっていける発想があると感じました。(蟹江審査委員長)
- 酪農は重労働にもかかわらず、地域の基幹産業、としてそれを愛し、情緒ではなく経済としっかり結びつけ、しっかりと計画を作り上げている点が大変すばらしい。それを大人からではなく自発的に自分たちでやっていこうというところがいいと思いました。(河口審査員)
- 教育現場にお金が回っていくことを通じて、地域資源の見直しや持続可能な社会活動につながっていくと感じさせる、わくわくするようなプレゼンテーションでした。(山藤審査員)
- 地域を知るだけでなく、教材にしてみんなで学んでいく、高校生が主体となって小中学生を巻き込んでいく、それによって継続性や郷土愛ができ、地域の課題が解決できるというのがとても素晴らしいと思いました。(竹嶋審査員)

## 受賞者プレゼンテーション

### 優秀賞「ええがや！ナゴヤ！」



<チーム名> Sus-Teen!

名古屋国際高等学校 石川愛子

伊藤衣音

大島梨紗子

対象地域：愛知県 名古屋市

#### 【プレゼンテーション概要】

名古屋にはたくさん魅力があるはずなのに、気づいていない、アピールできていない。私たちは“三英傑”を生んだ歴史に着目した「那古野の星」や、伝統に着目して伝統野菜・八事五寸人参を使った「No!歩きスマホ Yes!歩きニンジン」というプロジェクトを考えました。おもしろそう、楽しそうという気持ちで持続可能な未来につながっていくと思います。

#### 【審査員コメント】

- SDGsの良い所は大きな目標を持つという所だと思います。大きな目標をもってそこから逆算して考える。名古屋はそんなにダメなのかなと思いましたが、だからこそ伸びしろはたくさんあるという発想は素晴らしい。(蟹江審査委員長)
- 大都会でも、自分たちのまちとして、魅力は何かをしっかりと踏みとどまって考えればこういうことができるんだと感じました。歩きスマホの代わりに歩き人参、それも伝統野菜で！という発想が高校生らしく、大人にも素晴らしいメッセージになったと思います。(河口審査員)
- SDGsの課題の中で「文化の継承」が弱いのではないかという指摘がありますが、地域の歴史や文化、自然資本の使い方を絡めると十分にできるのではないかと感じました。(山藤審査員)
- ピンチをチャンスに変え、地域の歴史や資産を最大限に活用しようという姿勢が良かったと思います。歩きスマホという現代的な課題を地域に昔からある名産品にニンジンで解決するという発想はとてもおもしろかったです。(竹嶋審査員)

審査員講評



**蟹江 憲史** 審査委員長／慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授

SDGsは世界共通の課題ですが、やり方が決まっています。それぞれの地域なりの方法がたくさんあるというメッセージを最もよく受け取っているのが若者の自由な発想だと思いました。地方創生にこの発想を活かすことはとても大切だと思います。



**河口 真理子** 審査員／株式会社大和総研 研究主幹

自分たちが住むまちを、時に突き放した見方をしながら、そこをどう愛していくのかを考え、戦略や出口までちゃんと組み立てているのは素晴らしいと思いました。子どもたちから元気づけられ、教わるのがたくさんあったと思います。



**山藤 旅間** 審査員／新渡戸文化小中学校・高等学校 教諭  
／一般財団法人 Think the Earth コミュニケーター

皆さんの言葉一つひとつがとても魅力的で、この素晴らしいアイデアを実現したいという、心震えるような感覚を覚えました。皆さんのアイデアが次の世代にもつながっていく、そんな素晴らしいスタートになったのではないかと思います。



**竹嶋 理恵** 審査員／株式会社電通 TeamSDGsプロジェクトリーダー

皆さんのそれぞれの地域に対する熱い思いが伝わる素晴らしいアイデア、そしてプレゼンテーションでした。アイデアやプロジェクトをわかりやすく魅力的に伝えることは、賛同してくれる人を増やし、巻き込むためにはとても重要です。子どもも大人もなく、チームになっていろいろなことをやれたらいいなと思いました。

## SDGs公開授業



### 蟹江 憲史 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 教授

SDGsには環境と経済と社会、いろいろな観点が盛り込まれており、すべてが絡み合っているので、全体を見て総合的に考えることが重要です。SDGsの目標はそれを達成するために何をやればいいのかを考えるヒントになります。そのためには柔軟なアイデア、飛び越えた発想への転換が必要です。

## トークセッション



**蟹江 憲史** SDGsにおいて日本は先頭集団にいると思いますが、ここから先が勝負です。特に地方創生は非常に個性が活かせる分野です。日本の強みでもあるので、どんどん進めていってほしい。大人たちも同じ目線で耳を傾け、しっかりサポートしていってほしいと思います。

**山藤 旅間** 環境や社会に対して強い思いをもっている中高生の皆さんと、経済にも思いをもつ経験豊富な大人が出会い、一緒に考え、アイデアを広げていくことが大切です。SDGsをツールにして、新しいベクトルを作っていくチャンスの時代です。世代やセクターを超えた仲間を広げて、皆さんからどんどん発信してってください。



## ■ 会場アンケート結果



**【アンケートの概要】**

- 地方創生ワカモノ会合の各会場において、イベント終了後アンケートの回収を行った。
- 回収数は8会場で計949票だった。
- 調査項目は以下の通り
  - イベントの認知経路
  - イベントに参加したきっかけ・理由
  - 「地方創生」の認知度
  - プログラムの評価（関心があったプログラム／参考になったプログラム）
  - 将来の居住地への考え方
  - イベント満足度
  - 今後の参加意向
  - 地元で働くことへの関心・意欲変化
  - 今後「地方創生」への貢献意向

## 8都市計949票回収

8回のイベントを通じて計949票のアンケートを回収した。

No.	都市	日程	テーマ	参加対象	回収数
1	新潟	5月25日	『スマート農業で、地域は変わる』	一般	197
2	福岡	6月1日	『ファイナンス×スタートアップで、地域は変わる』	一般	33
3	つくば	6月30日	『ICTで地域は変わる 未来のまちを考えよう！』	小中学生	30
4	長野	7月13日	『環境×観光で、地域は変わる』	一般	106
5	松山	8月4日	『働き方改革×起業で、地域は変わる』	一般	167
6	札幌	8月27日	『観光で、地域は変わる』	一般	217
7	岡山	9月29日	『ヘルステックで、地域は変わる』	一般	82
8	名古屋	11月9日	『SDGsで、地域は変わる』	一般	117
合計					<b>949</b>



## 【アンケート回答者の属性】

- 全体平均では男性67.7%を占め、全体の2 / 3を上回った。つくば（ワークショップ参加の小中学生、当事者アンケート）を除く7都市は総じて男性比率が高い結果となった。
- 年齢では、全体平均で10代が12.4%、20代が25.3%、30代が20.6%となっている。39歳以下を50%以上収容したものの、「ワカモノ会合」としては壮年層が高い結果となった。
  - ※ 岡山では40代以上が3 / 4を超えた。
- 学生は全体平均25.7%、最多の長野で33%であった。夏季休暇と開催日が重なるなどの要因もあるが 学生参加は今後の課題と考えられる。

## 【アンケート結果の概要】

- ◎ **地元定着意向の維持・向上のためには、若い頃に地元について考える機会の提供が重要。**
- ◎ **この成功のためには、「刺さる講演内容」で集客し、「インタラクティブ」な「ワークショップ」等参加型のやり方で、地方定着、地方で働くことについて「自分事化」することが重要。**
- 認知経路は「友人・知人・家族」、「県・市からのお知らせ」が多く、オンラインメディアからの認知はまだ少数だった。
- 参加のきっかけ、では「**イベントのテーマに関心があった**」が「**講演者に関心**」を上回り、**テーマ自体に訴求力があつた**と考えられる。
- 「地方創生」の事前認知度は「詳しく+少しは」で全体平均62.1%。「全く知らない」は8.9%。ある程度事前に興味関心を持っている層が多く参加していた。
- プログラム（講演者）の評価は、**ほとんどの者が事前期待を事後評価が上回り**、会合の満足度に寄与していた。
- 「地方（地元）に残りたい」意向は参加前から高い（69.6%）ものの、事後に微増（72.7%）する結果となった。
- 都市別では、福岡、つくば、名古屋の3都市の意向上昇率が高い。これらのイベント内容は**インタラクティブであったり参加型の何れかを満たしており、企画当初からの〈自分事化〉しやすい条件を満たしたことが奏功した**と推察される。
- 「イベント満足度」も押しなべて高い。「地元に残りたい意向」と同様に、参加型会場は好スコアであった。
  - \* 松山・札幌の好スコアは講演者評価が突出していた事に起因すると考えられる。
- 「**地元に残り働く意欲**」の高まり、「**今後の地方創生への貢献意欲**」いずれも、**福岡、つくば、松山、名古屋が高い**。
- 名古屋のコンテストの今後参加意向理由にも「**同世代の意見を知ることができる**」とあり、自己参加型は好評であった。

新潟、福岡、長野、松山、札幌、岡山、名古屋 7都市

『働き方改革×起業で、地域は変わる』に関するアンケート 令和元年8月4日

本日は、地方創生ワカモノ会合『働き方改革×起業で、地域は変わる』にご参加いただき、誠にありがとうございます。  
是非、皆さまのご感想をいただき、よりよい会合にしていきたく思いますのでアンケートのご協力をお願い致します。

- Q1 今回のイベントについては、どのようなところで知りになりましたか。(☑はいくつでも)
- ネット広告
  - チラシ
  - 県や市からのお知らせ
  - Twitter
  - Facebook
  - 新聞・テレビ・ラジオ
  - 友人・知人や家族から聞いた
  - 学校( )
  - その他( )

- Q2 今回のイベントは、どのようなきっかけ・理由で参加されましたか。(☑はいくつでも)
- イベントのテーマに関心があったから
  - プログラムに関心があったから
  - 講演者に関心があったから
  - 地方創生について関心があったから
  - 自分自身の将来の進路や生活の参考になりそうだから
  - 人に勧められたから
  - その他( )

- Q3 今回のイベントに参加される前に、あなたは「地方創生」についてどの程度ご存知でしたか。(☑は1つ)
- 詳しく知っている
  - 少しは知っている
  - 聞いたことがある程度
  - 全く知らない

- Q4 今回のイベントに参加される前に、あなたは将来の居住地についてどのように考えていらっしゃいましたか。(☑は1つ)
- 今のまま、地元で生活したい
  - 東京(首都圏)で生活したい
  - 地元以外の地方(国内)で生活したい
  - その他

- Q5 今回のイベントの参加に当たって、来場前に関心があったプログラムの内容をお知らせ下さい。(☑はいくつでも)
- 基調講演 西野 亮廣氏
  - 事例紹介① 岡野 春樹氏
  - 事例紹介② 正能 茉優氏
  - 事例紹介③ 辰濱 健一氏
  - 事例紹介④ 河合 崇氏
  - パネルディスカッション

- Q6 今回のイベントで、あなたにとって参考になった、と感じられたプログラムをお知らせ下さい。(☑はいくつでも)
- 基調講演 西野 亮廣氏
  - 事例紹介① 岡野 春樹氏
  - 事例紹介② 正能 茉優氏
  - 事例紹介③ 辰濱 健一氏
  - 事例紹介④ 河合 崇氏
  - パネルディスカッション

※Q5・Q6は都市ごとに異なる。

(裏面へ)

(例)

- Q7 今回のイベントの全体を通じて、総合的な満足度をお知らせ下さい。(☑は1つ)
- 満足
  - やや満足
  - どちらともいえない
  - やや不満足
  - 不満足

理由: \_\_\_\_\_

- Q8 今後、このようなイベントが開催された場合、また参加してみたいと思いますか。(☑は1つ)
- 参加したい
  - やや参加したい
  - どちらともいえない
  - あまり参加したくない
  - 参加したくない

- Q9 今回のイベントに参加したことで、あなたの将来の居住地に対する考え方に変化はありましたか。(☑は1つ) また、その理由についてもお知らせ下さい。(参加前と変わらなかった方もお答えください)

- 今のまま、地元で生活したい
- 東京(首都圏)で生活したい
- 地元以外の地方(国内)で生活したい
- その他

理由: \_\_\_\_\_

- Q10 今回のイベントに参加したことで、地方(地元)で働くことへの関心・意欲に変化はありましたか。(☑は1つ)
- 高まった
  - やや高まった
  - あまり変わらない
  - その他( )

- Q11 今回のイベントに参加したことで、今後何らかの形で地方創生活動に貢献してゆきたいと思いましたが。(☑は1つ)
- そう思う
  - やや思う
  - あまり思わない
  - その他( )

最後に、あなたご自身についてお伺いします。

性別  男性  女性  その他

年齢  10代以下  20代  30代  40代  50代  60代以上

既未婚  既婚  未婚

職業  学生  会社員・公務員  主婦・主夫  自営業・個人事業主  その他( )

居住地 \_\_\_\_\_ 県 \_\_\_\_\_ 市 \_\_\_\_\_ 区 \_\_\_\_\_ 町(村)

ご協力ありがとうございました。

つくば

『ICTで地域は変わる 未来のまちを考えよう!』に関するアンケート 令和元年6月30日

今日は、地方創生ワカモノ会合『ICTで、地域は変わる 未来のまちを考えよう!』にご参加いただき、まことにありがとうございます。ぜひ、皆さんのご感想をいただき、よりよい会合にしていきたいと思っておりますのでアンケートのご協力をお願いいたします。

Q1 今回のイベントは、どこで知りましたか。(いくつ☑をつけてもいいです)

- インターネットの広告
- チラシ
- 県や市からのお知らせ
- ツイッター・ライン
- フェイスブック
- 新聞・テレビ・ラジオ
- 友だちや家族から聞いた
- 学校・先生から聞いた
- その他

Q2 今回のイベントに参加した理由を教えてください。(いくつ☑をつけてもいいです)

- イベントのテーマがおもしろそうだったから
- プログラムがおもしろそうだったから
- 自分の将来の生活に役立ちそうだったから
- 地方創生について知りたかったから
- 親や先生にすすめられたから
- その他

Q3 今回のイベントに参加する前に、「地方創生(そうせい)」ということばを知っていましたか。(☑は1つだけつけてください)

- くわしく知っている
- 少しは知っている
- 聞いたことがある程度
- まったく知らない

Q4 今回のイベントに参加する前に、あなたは将来どこで生活したいと思っていましたか。(☑は1つだけつけてください)

- 今のまま、地元で生活したい
- 東京で生活したい
- 地元以外の地方(国内)で生活したい
- その他

Q5 今日の『未来のまち』グループ発表について、どのように思いますか。(☑は1つだけつけてください)

- おもしろい
- 少しおもしろい
- どちらともいえない
- おもしろくない

Q6 今日それぞれのグループが発表した『未来のまち』のアイデアの中で、一番印象に残るものをひとつ選んでください。また、それを選んだ理由も書いてください。

一番印象に残ったアイデア : \_\_\_\_\_

選んだ理由: \_\_\_\_\_

Q7 みなさんの発表を最後にアドバイスして下さった3人のお話の中で印象に残ったことを自由に書いてください。

\_\_\_\_\_

Q8 今回のイベントについて、どれくらい満足しましたか。(☑は1つだけつけてください)

- 満足
- やや満足
- どちらともいえない
- やや不満足
- 不満足

理由: \_\_\_\_\_

Q9 今後、このようなイベントに、また参加したいですか。(☑は1つだけつけてください)

- 参加したい
- やや参加したい
- どちらともいえない
- あまり参加したくない
- 参加したくない

Q10 今回のイベントに参加してみた後で、あなたは将来どこで生活したいですか。(☑は1つだけつけてください)

- 今のまま、地元で生活したい
- 東京で生活したい
- 地元以外の地方(国内)で生活したい
- その他

理由: \_\_\_\_\_

Q11 今回のイベントに参加したことで、将来自分のまちの発展(はってん)に参加していきたいと思いませんか。(☑は1つだけつけてください)

- そう思う
- やや思う
- あまり思わない
- 思わない

最後に、あなたご自身についてお伺いします。

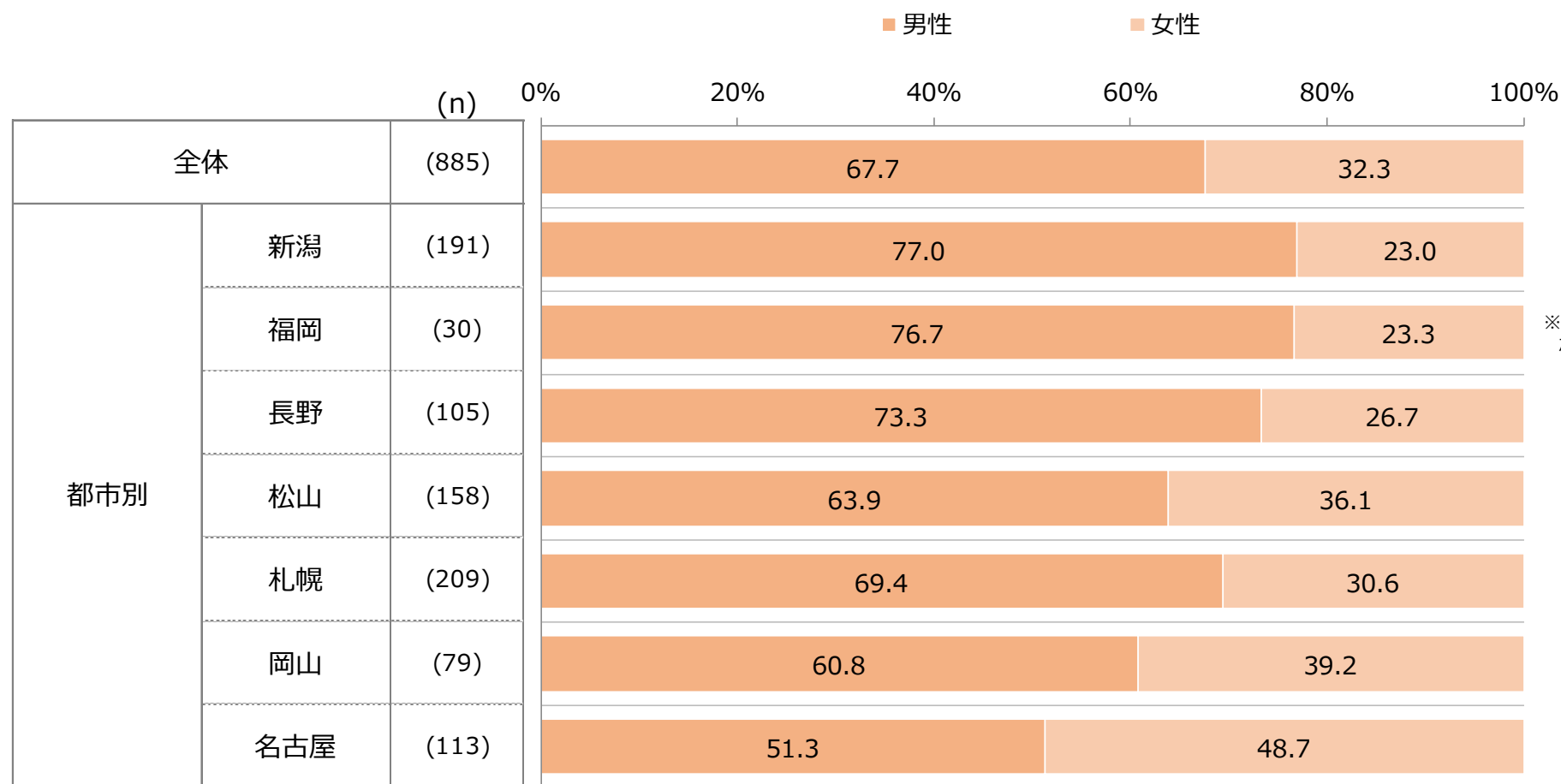
性別  男性  女性  その他

学年  小学5年  小学6年  中学1年  中学2年  中学3年

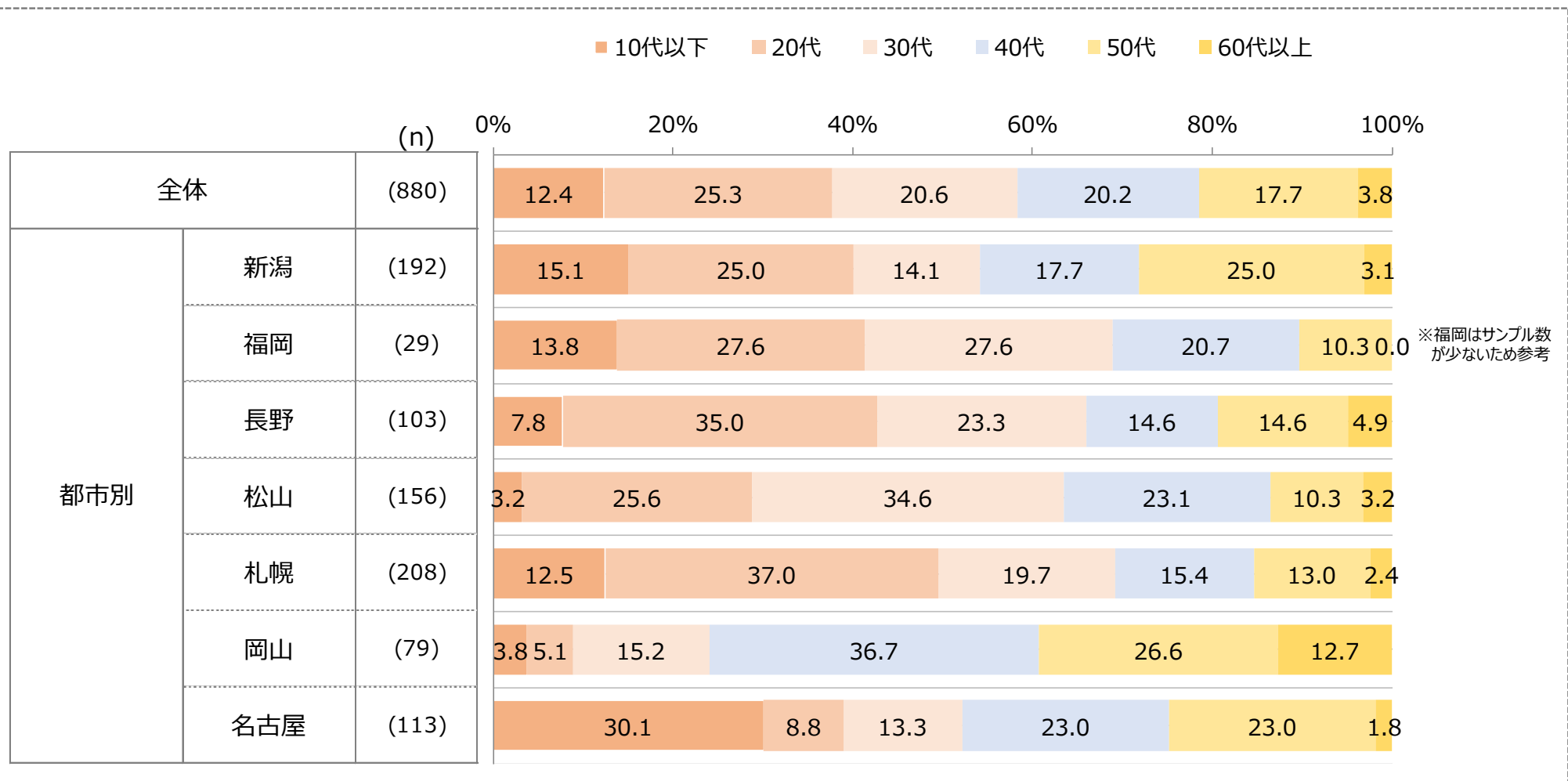
居住地 \_\_\_\_\_ 県 \_\_\_\_\_ 市 \_\_\_\_\_ 区 \_\_\_\_\_ 町(村)

ご協力ありがとうございました。

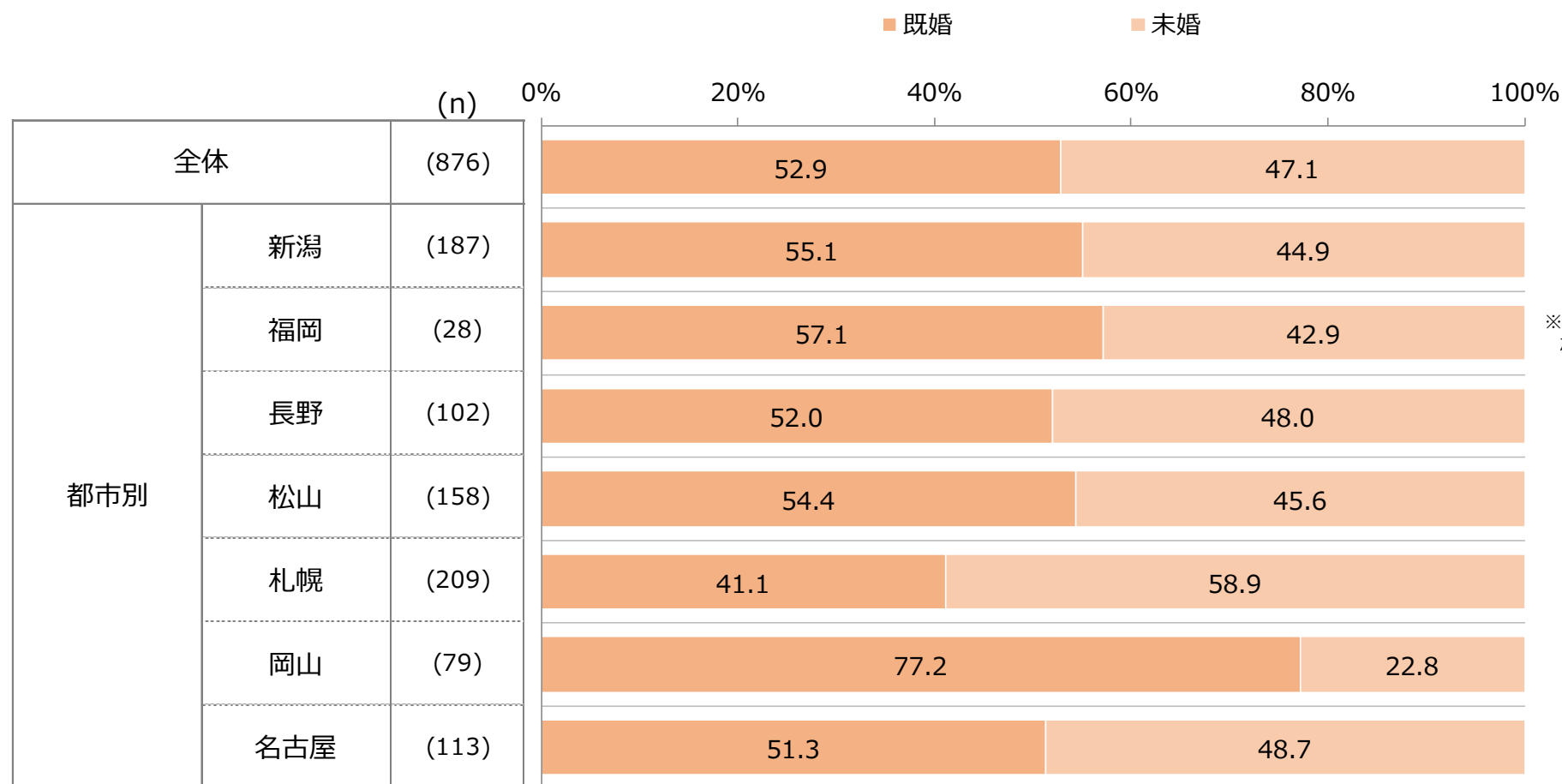
新潟、福岡、長野、松山、札幌、岡山、名古屋 7都市



新潟、福岡、長野、松山、札幌、岡山、名古屋 7都市



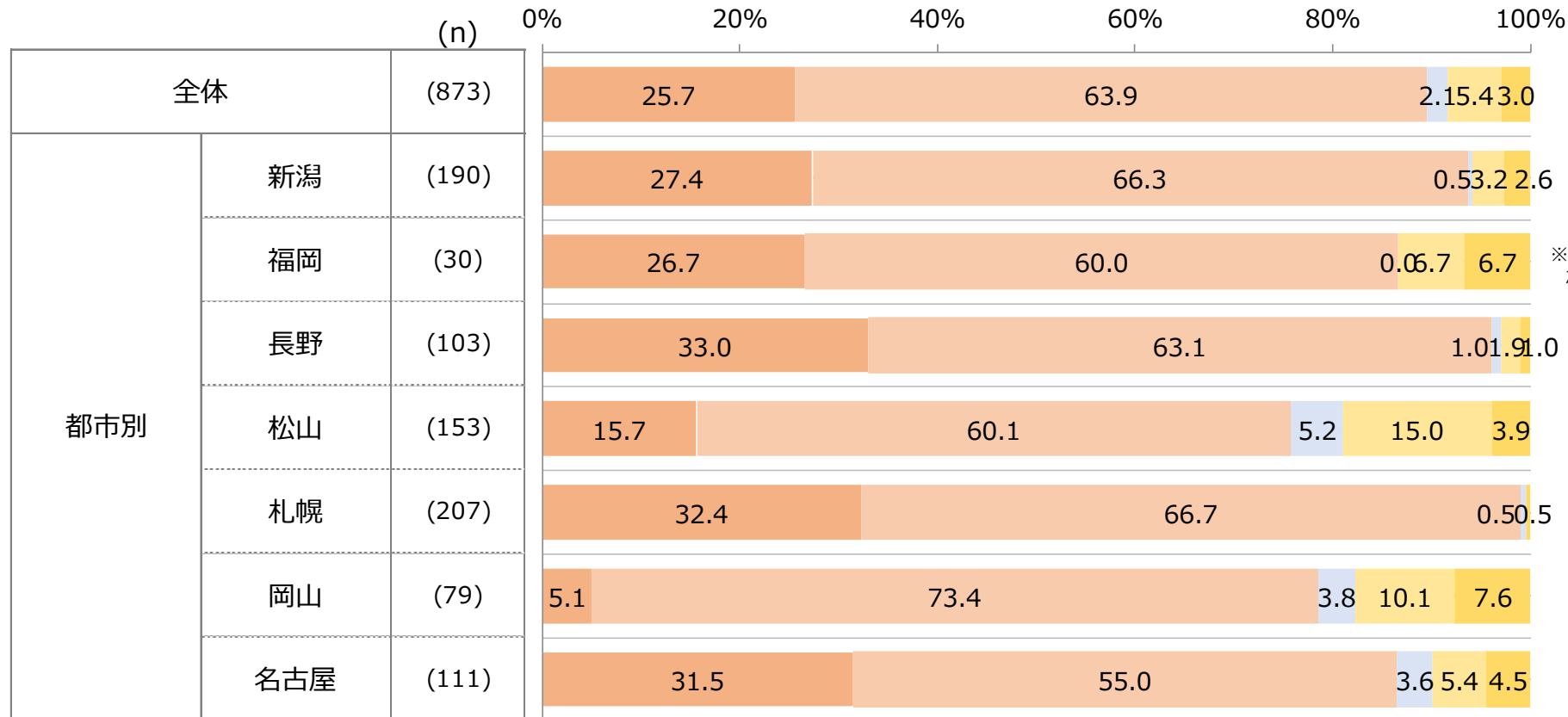
新潟、福岡、長野、松山、札幌、岡山、名古屋 7都市



※福岡はサンプル数が少ないため参考

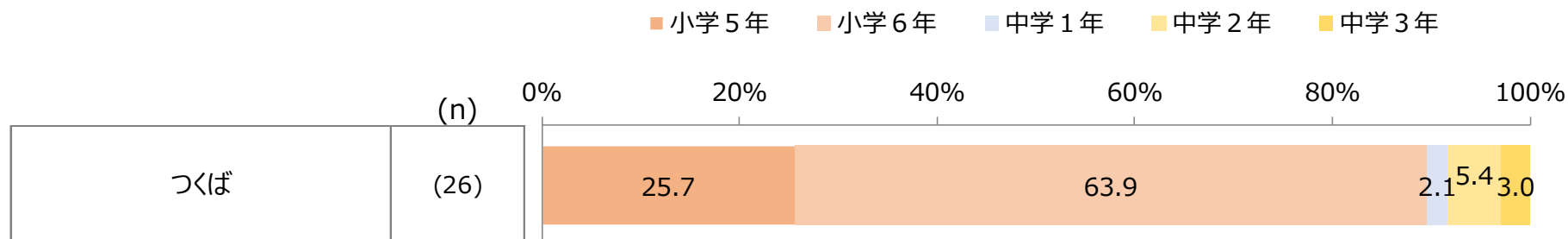
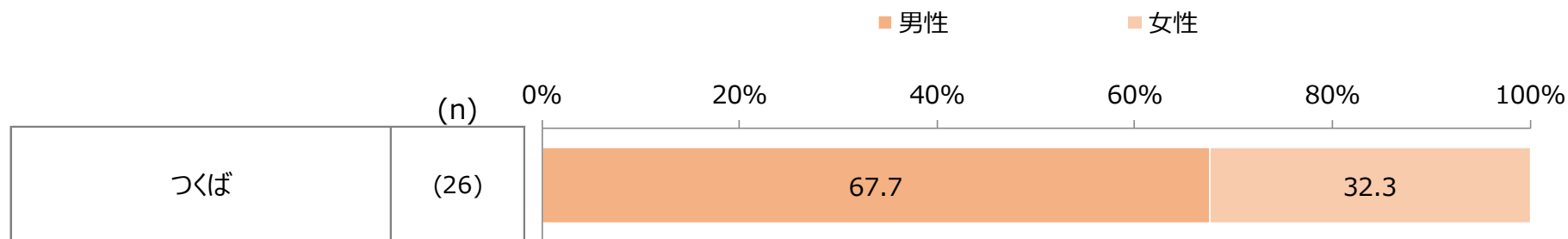
新潟、福岡、長野、松山、札幌、岡山、名古屋 7都市

■ 学生 ■ 会社員・公務員 ■ 主婦・主夫 ■ 自営業・個人事業主 ■ その他





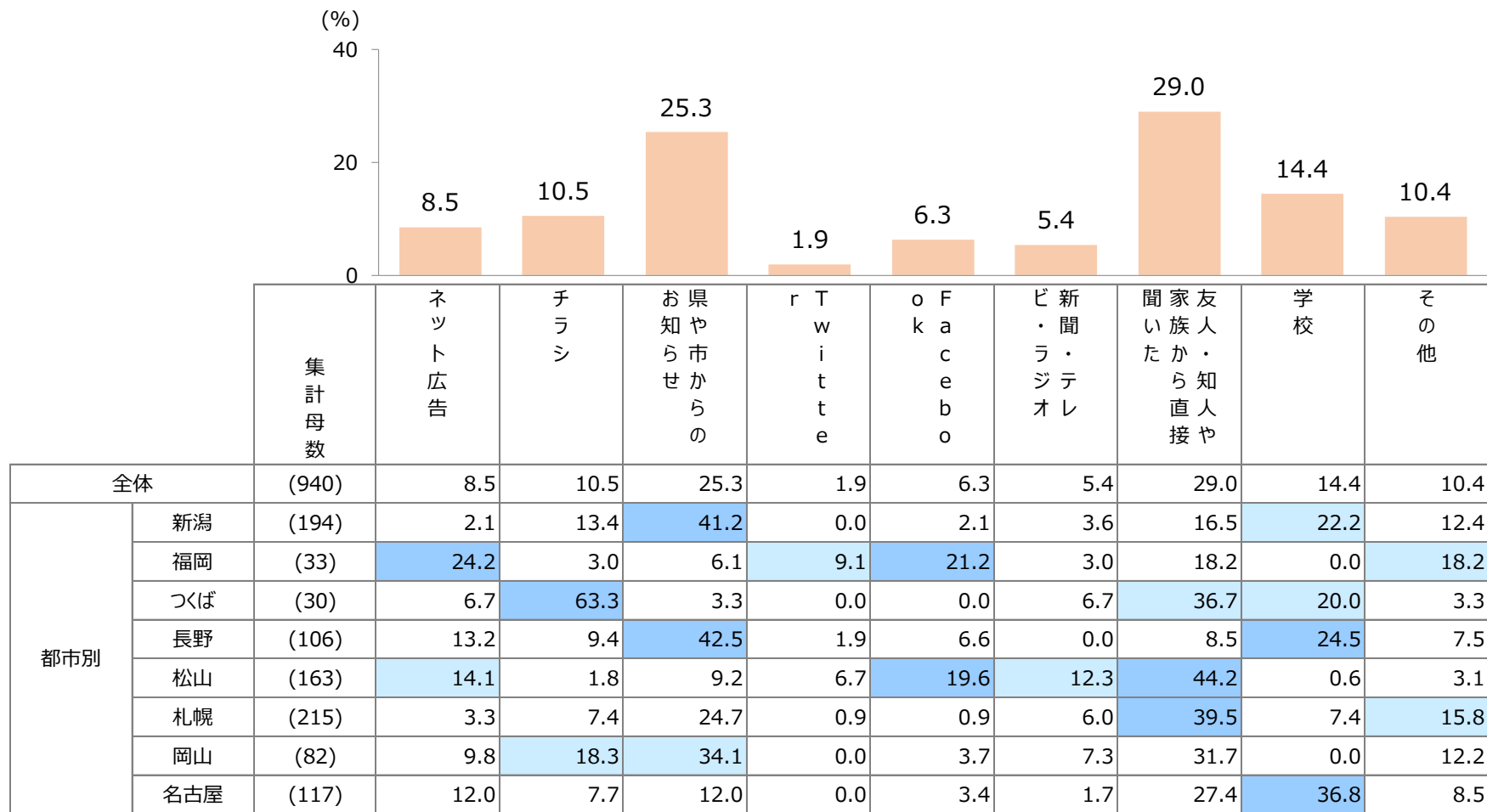
つくば 1都市



※つくばはサンプル数が少ないため参考

イベント内容及び募集参加者により各都市で異なるが、全体的に「友人・知人・家族」「県や市からののお知らせ」が上位。

Q1. 今回のイベントについては、どのようなところでお知りになりましたか。（複数選択可）



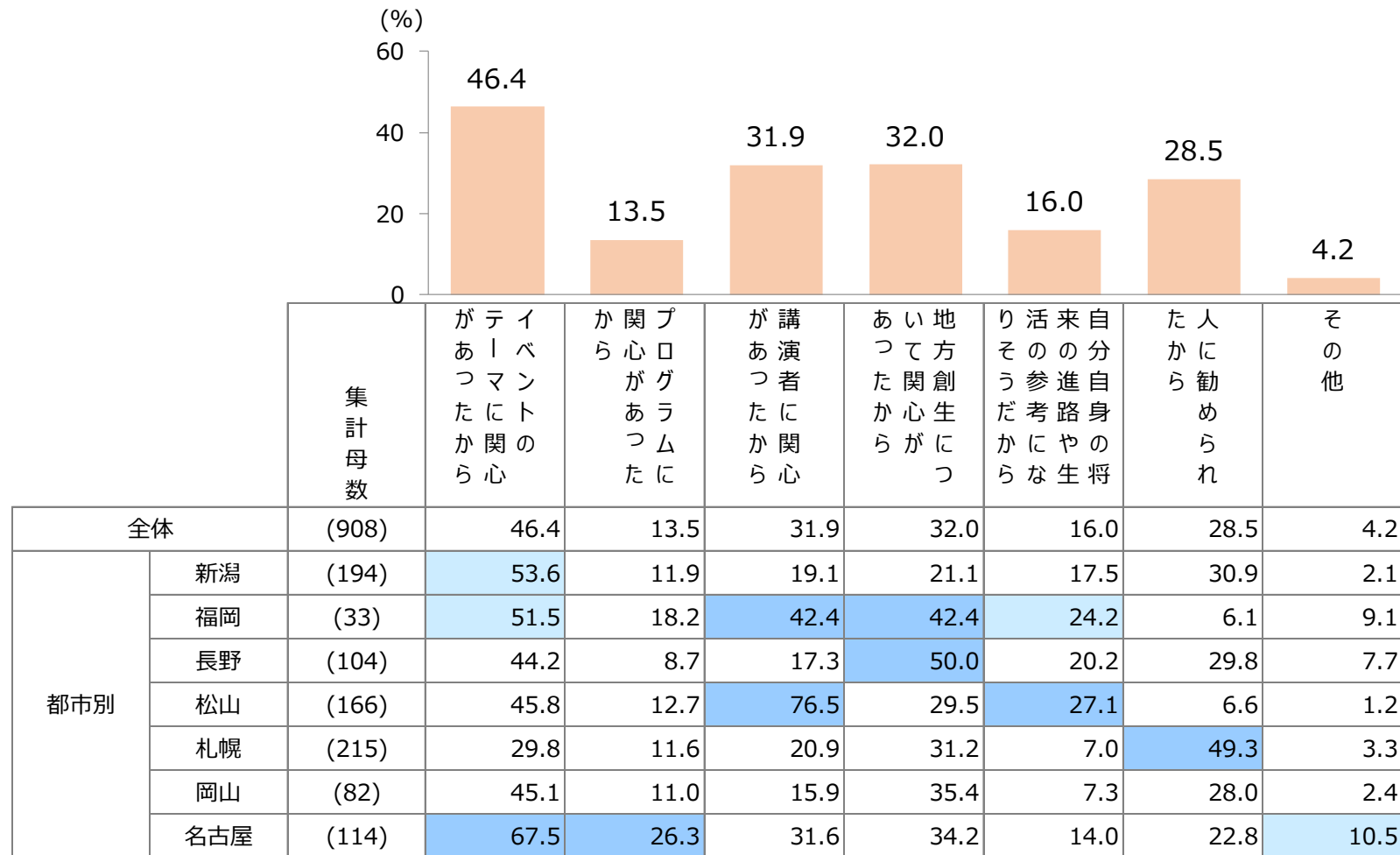
※福岡はサンプル数が少ないため参考  
※つくばはサンプル数が少ないため参考

30ss以上、全体より5%以上高い

30ss以上、全体より10%以上高い

「イベントのテーマに関心があったから」がトップで、イベント内容への関心の高さが伺える。

Q2. 今回のイベントは、どのようなきっかけ・理由で参加されましたか。（複数選択可）



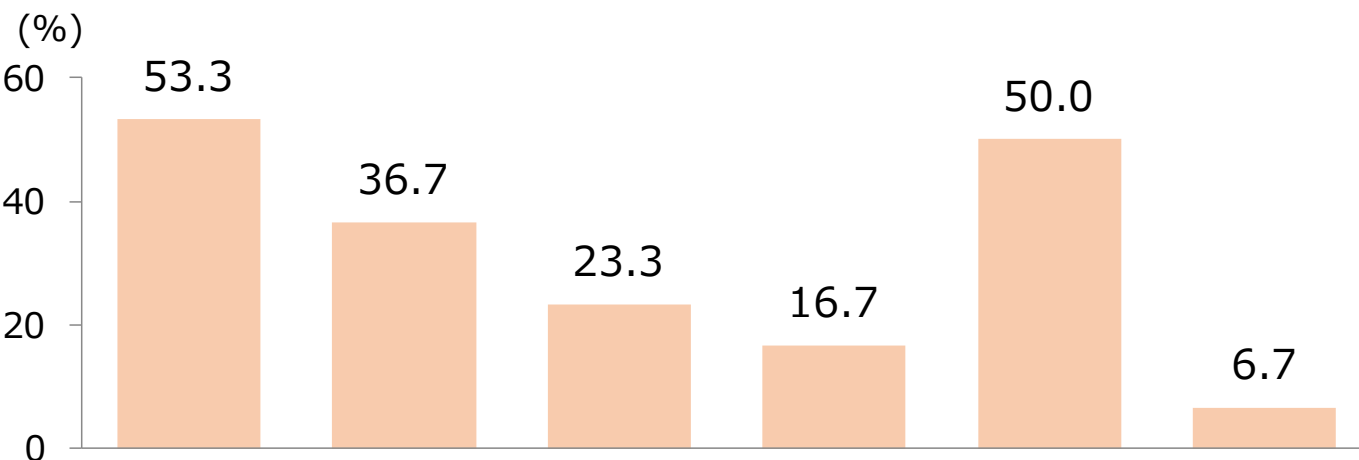
※福岡はサンプル数が少ないため参考

30ss以上、全体より5%以上高い

30ss以上、全体より10%以上高い

「イベントのテーマがおもしろそうだったから」「親や先生にすすめられたから」が上位。

Q2. 今回のイベントは、どのようなきっかけ・理由で参加されましたか。（複数選択可）



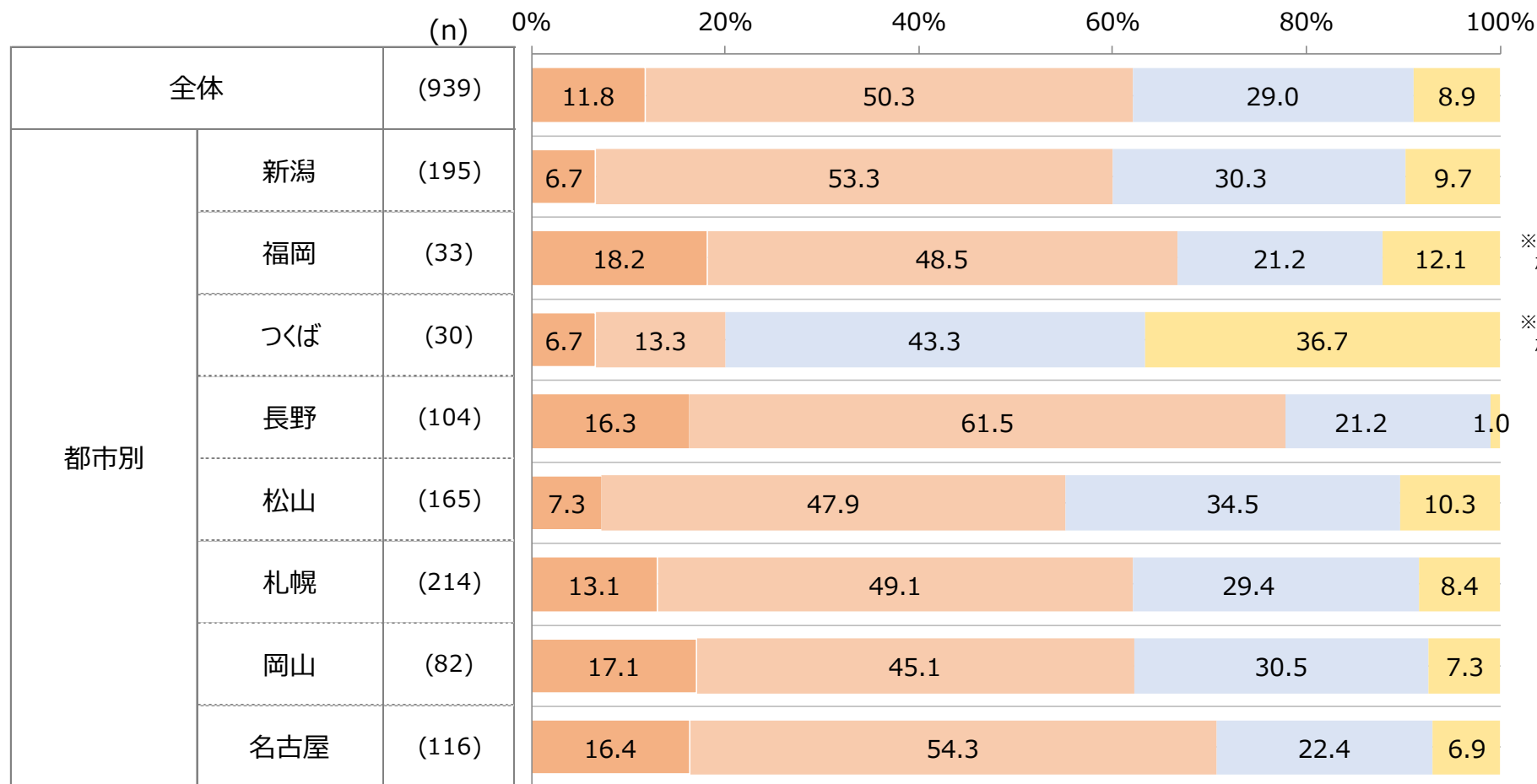
集計母数	たしテ イ / かりーベ / らそマン / うがト / だおの / つも	だおプ / つもロ / たしグ / らそム / うが	らそ生自 / う活分 / だにの / つ役将 / た立来 / かちの	かいて地 / つか方創 / たり知生 / らたり / につ	らす親 / らめや / ら先 / れた生 / たにか / す	その他
つくば (30)	53.3	36.7	23.3	16.7	50.0	6.7

※つくばはサンプル数が少ないため参考

小中学生対象のつくばをのぞき、TOP 2（詳しく知っている＋少しは知っている）で約6割の認知度となっている。

Q3. 今回のイベントに参加される前に、あなたは「地方創生」についてどの程度ご存知でしたか。（1つ選択）

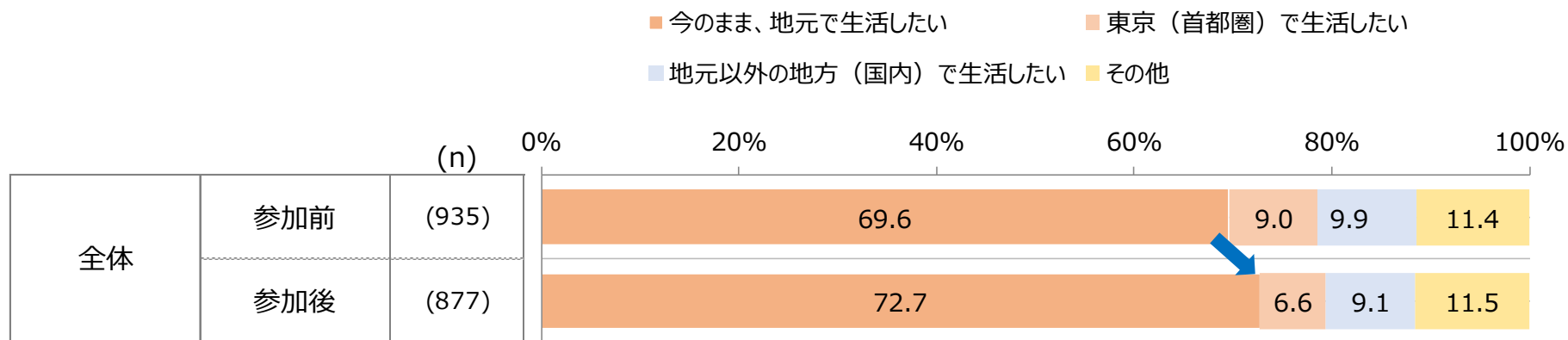
■ 詳しく知っている ■ 少しは知っている ■ 聞いたことがある程度 ■ 全く知らない



大半の都市で「地元への残留意向」がイベント参加後にやや高くなった傾向がみられた。

Q4. 今回のイベントに参加される前に、あなたは将来の居住地についてどのように考えていらっしゃいましたか。（1つ選択）

Q9. 今回のイベントに参加したことで、あなたの将来の居住地に対する考え方に変化はありましたか。（1つ選択）



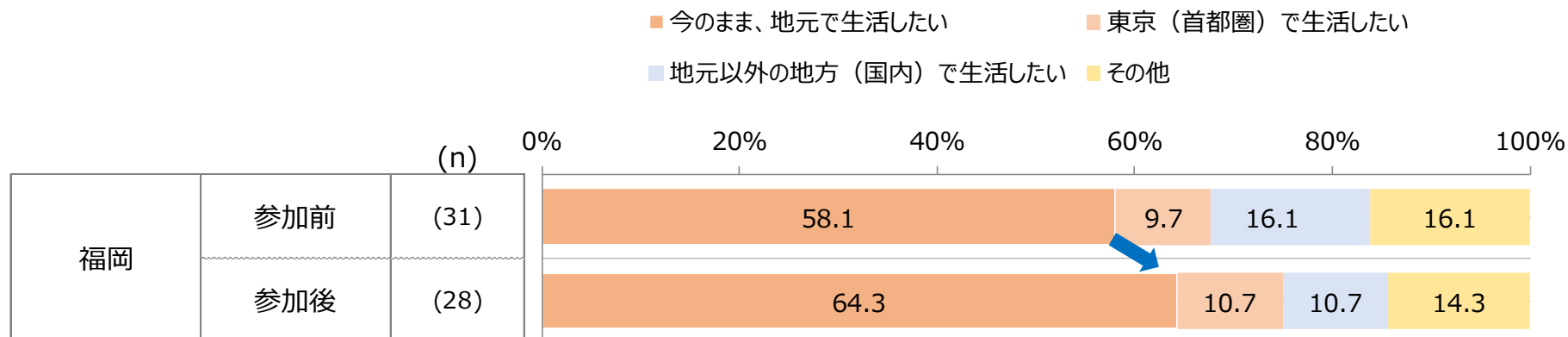
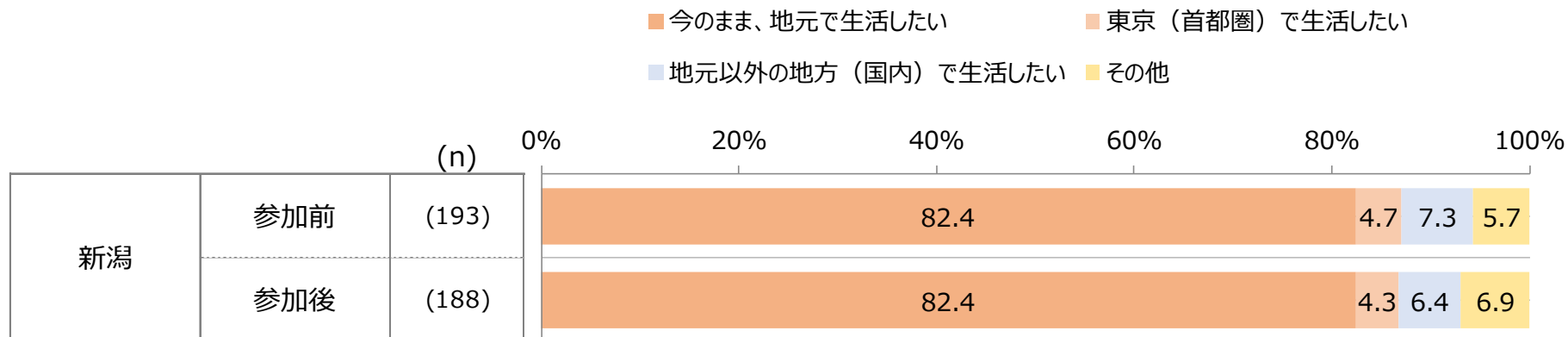
「今のまま、地元で生活したい」理由では、イベント参加を契機に「地元の魅力や可能性を改めて感じたから」の意見が多い。

「今のまま地元で生活したい」--理由（抜粋）		発言者属性	会場
☞	現状の課題と将来への不安に対して I O T や A I といった技術力で解決を図る取組がなされていることを知ったので。	男性、50代、既婚、会社員・公務員	新潟
☞	新潟にも先端技術が活用されてきていて、変化のある日々を過ごせそうだから	男性、20代、未婚、会社員・公務員	新潟
☞	福岡の可能性を改めて感じたので。	男性、30代、既婚、会社員・公務員	福岡
☞	福岡っていいなって思ったし、地元で貢献したいと思ったからです。	女性、10代、未婚、学生	福岡
☞	今までは東京は地方より自由で快適な暮らしができると感じていたが、今回のイベントに参加したことで、地方の可能性を感じたから。	女性、20代、未婚、学生	長野
☞	地方創生の力は大きいものなので、これからの地域の未来を考えていくために、地方創生に取り組んでより良い地域になって欲しいと思ったから。	男性、20代、未婚、学生	長野
☞	地域でいても多くのはたらき方の可能性があることをあらためて認識できた。	男性、30代、既婚、会社員・公務員	松山
☞	地方だからこそ、若者が影響を与えることのできる仕事が多いということに気づくことができました。受け身ではなく、自分の人生より豊かにするために、地域でできることを積極的にみつけていきたいと思いました。	女性、20代、未婚、会社員・公務員	松山
☞	菅野さんの講演の際に、旗引き継ぎのプロジェクトに携われたときに、「通常運転」「絶対実現したいアイデア」という言葉を大事にされていたというお話が印象に残っていると、地方創生にあたって、そういった「今あるもの」を活用したり、こうしたという強い思いが大事になるのではないかと考えた。自分も仕事で地域（札幌）の活性化などに関わる際には大事にしたい視点だと感じた。	女性、30代、未婚、会社員・公務員	札幌
☞	地元にはまだまだ魅力は多くあると思うのでそれを今後発信できればと思う。	男性、20代、未婚、学生	札幌
☞	精神科デイケア似ています。もっと地域と関わっていききたいそのヒントを得ることができました。ありがとうございました。	男性、60代、既婚	岡山
☞	I T 技術の発展、A I の進化などにより、地方にいても首都圏に住んでいるような感覚になってくると思うから	男性、30代、既婚、会社員・公務員	岡山
☞	各チームのプレゼンを聞いたが、それぞれが地元に対して、誇りと愛着を持っているのが分かり、私自身も地元に対しての意識を改めてもつきかけになりました。	女性、10代、未婚、学生	名古屋
☞	自分の足もとに魅力や資源がたくさんつまっていることを改めて感じました。「自分ごと」を自分の生活半径から着実にやることで S D G s の達成につながると確信しました。	男性、40代、既婚、会社員・公務員	名古屋

（全体同様）

Q4. 今回のイベントに参加される前に、あなたは将来の居住地についてどのように考えていらっしゃいましたか。（1つ選択）

Q9. 今回のイベントに参加したことで、あなたの将来の居住地に対する考え方に変化はありましたか。（1つ選択）



※福岡はサンプル数が少ないため参考

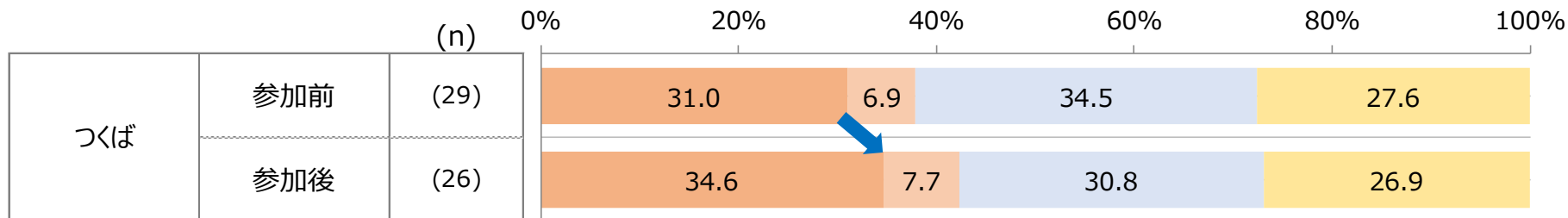


（全体同様）

Q4. 今回のイベントに参加される前に、あなたは将来の居住地についてどのように考えていらっしゃいましたか。（1つ選択）

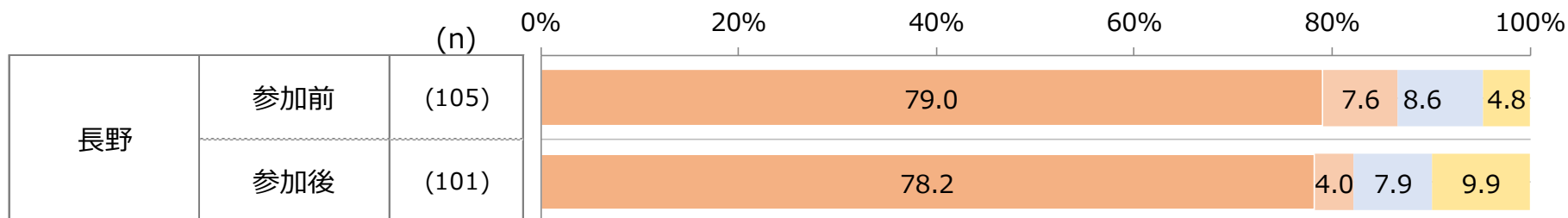
Q9. 今回のイベントに参加したことで、あなたの将来の居住地に対する考え方に変化はありましたか。（1つ選択）

■ 今のまま、地元で生活したい      ■ 東京（首都圏）で生活したい  
■ 地元以外の地方（国内）で生活したい      ■ その他



※つくばはサンプル数が少ないため参考

■ 今のまま、地元で生活したい      ■ 東京（首都圏）で生活したい  
■ 地元以外の地方（国内）で生活したい      ■ その他

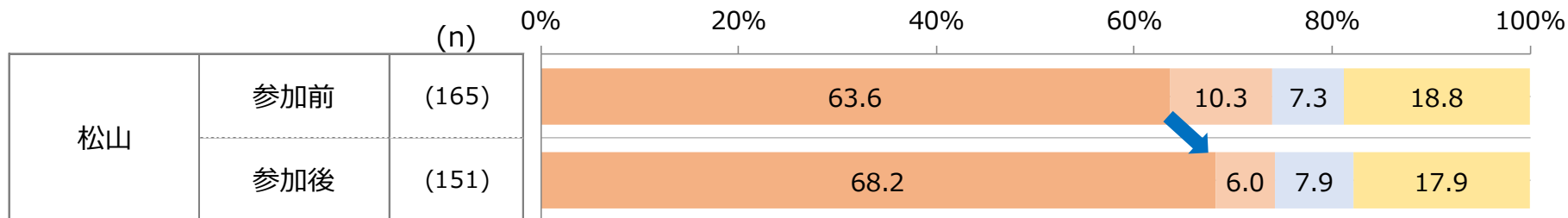


（全体同様）

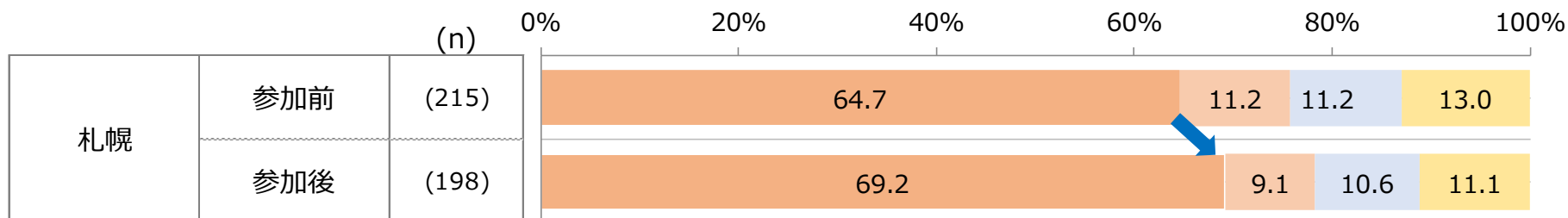
Q4. 今回のイベントに参加される前に、あなたは将来の居住地についてどのように考えていらっしゃいましたか。（1つ選択）

Q9. 今回のイベントに参加したことで、あなたの将来の居住地に対する考え方に変化はありましたか。（1つ選択）

■ 今のまま、地元で生活したい      ■ 東京（首都圏）で生活したい  
■ 地元以外の地方（国内）で生活したい      ■ その他



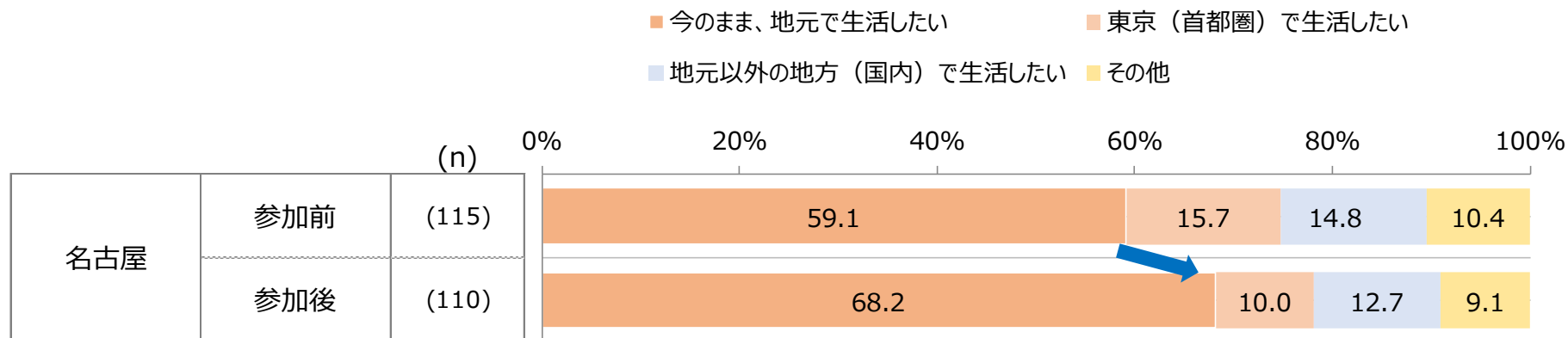
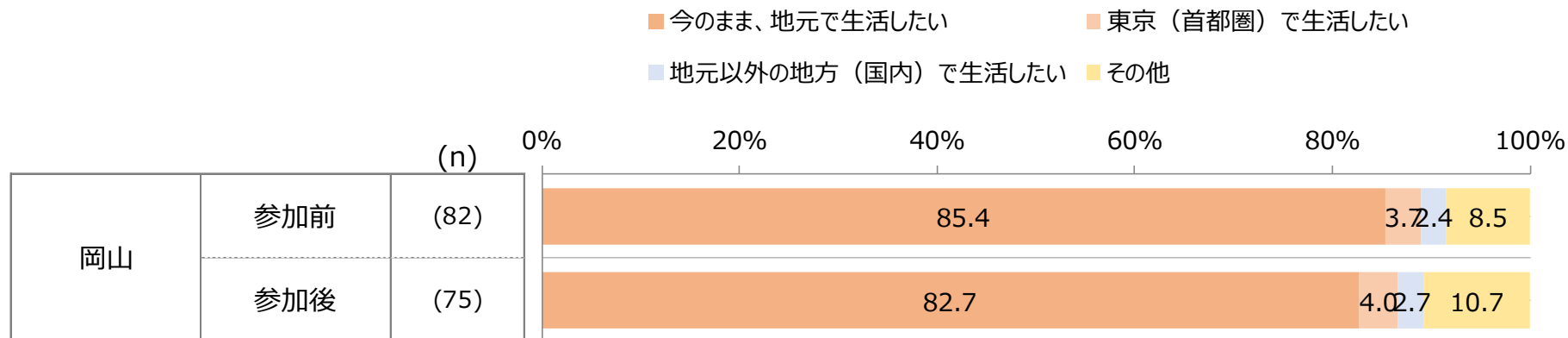
■ 今のまま、地元で生活したい      ■ 東京（首都圏）で生活したい  
■ 地元以外の地方（国内）で生活したい      ■ その他



（全体同様）

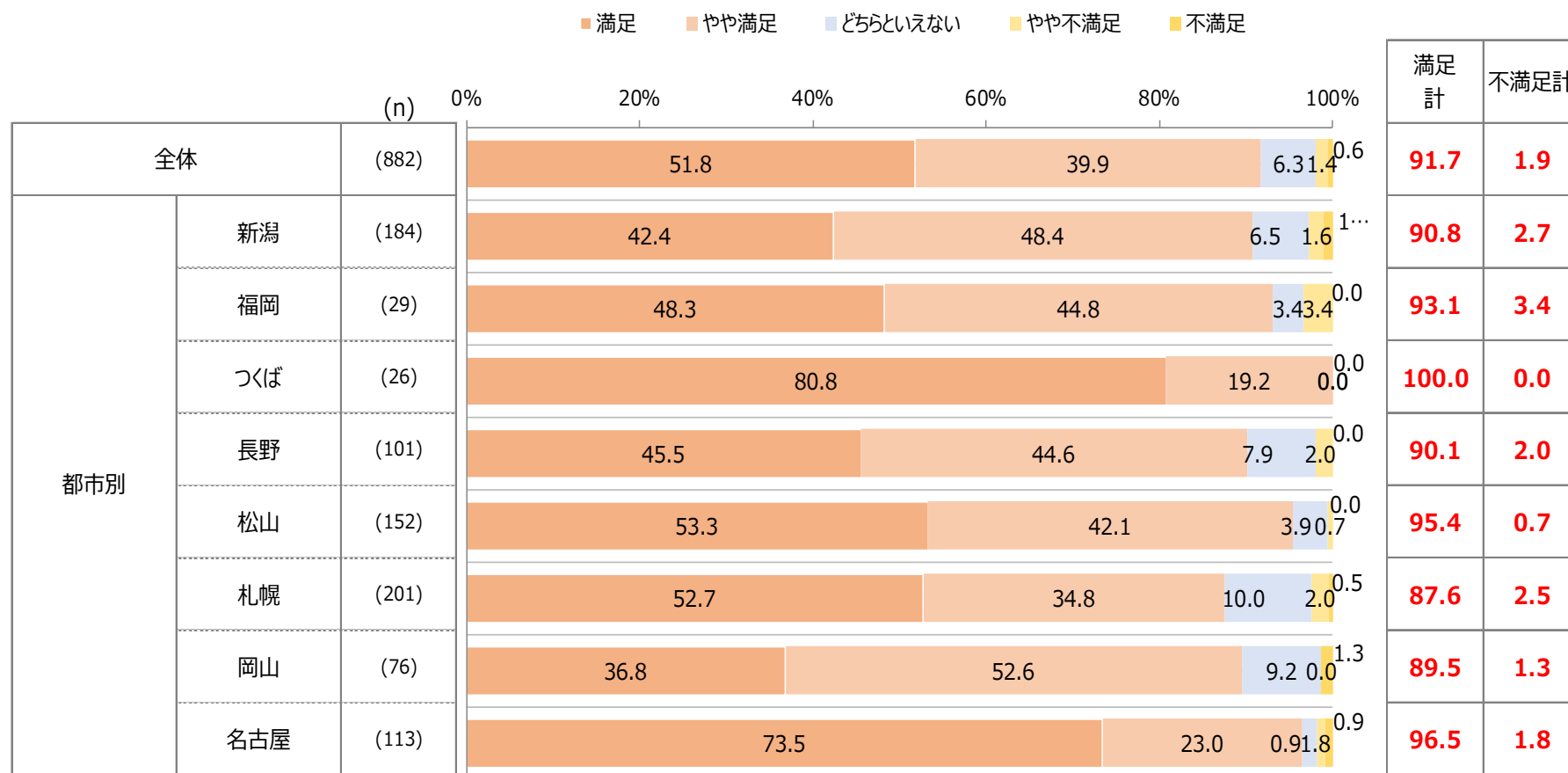
Q4. 今回のイベントに参加される前に、あなたは将来の居住地についてどのように考えていらっしゃいましたか。（1つ選択）

Q9. 今回のイベントに参加したことで、あなたの将来の居住地に対する考え方に変化はありましたか。（1つ選択）



都市別で差はあるものの、9割強の参加者が満足している。

Q7. 今回のイベントの全体を通じて、総合的な満足度をお知らせ下さい。（1つ選択）



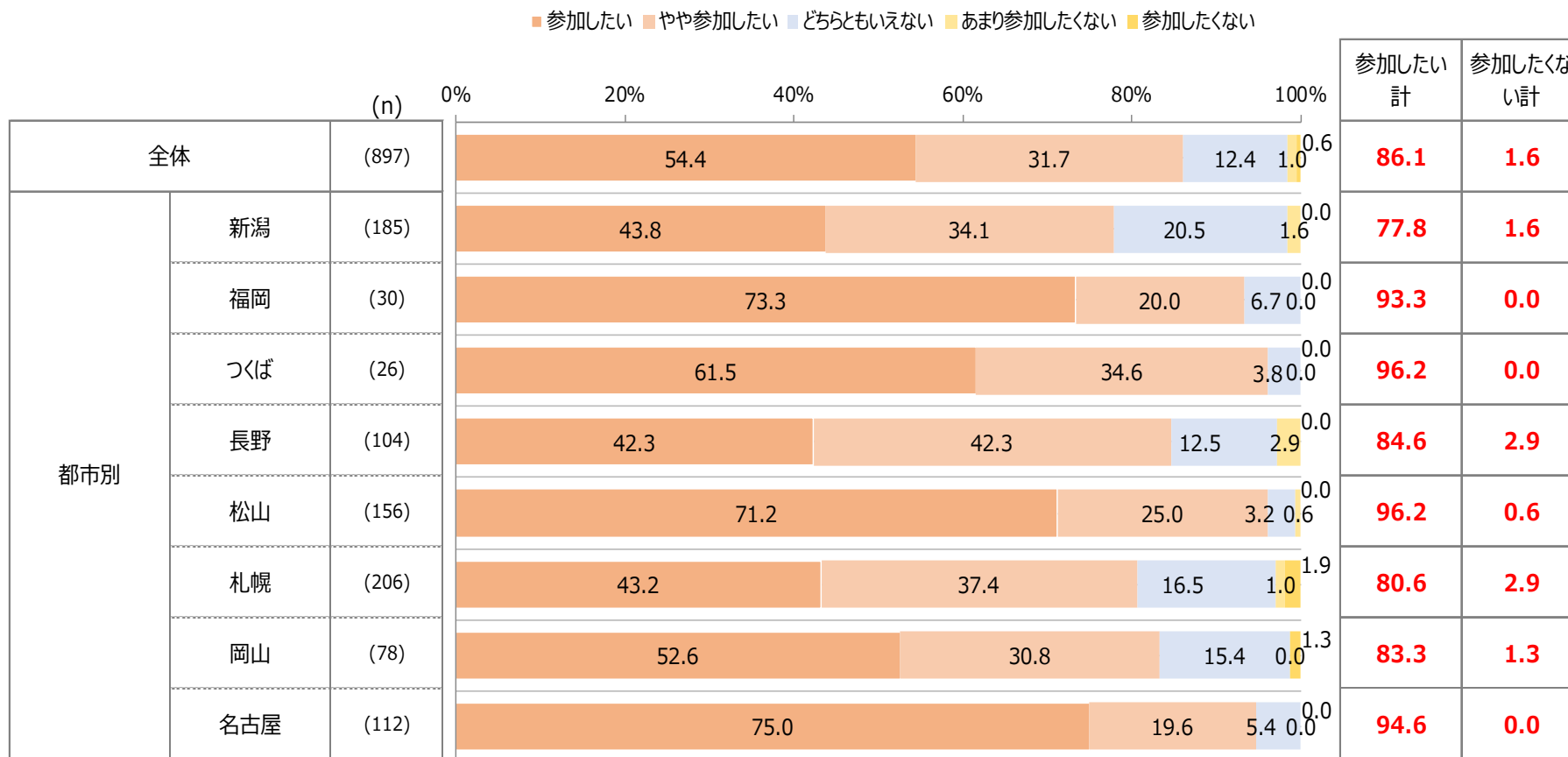
「地方創生への理解が深まった」「いろんなアイデアやヒントに出会えた」など役に立った・勉強になったとの意見が多い。

※新潟未聴取

イベント満足理由（抜粋）		発言者属性	会場
👉	スタートアップについてまだ自分にはハードルがあると感じているが、今日の話聞いて地元で仕事を作るイメージをもてた。資金についての不安も少し減った。	男性、30代、既婚、会社員・公務員	福岡
👉	今の地方創生、フィンテックの状況を産官（学）の面から知ることができたから。スタートアップへの気持ちの持ち方やとりくみ方を知ることができたから。	女性、10代、未婚、学生	福岡
👉	新たな知識を得ることができたから。	男性、中学3年	つくば
👉	みんなで自分のアイデアが話し合えて良かったから。	女性、小学6年	つくば
👉	大学で地方創生について勉強しているけど、今回のイベントでは、様々な地方創生の事例が知れたから大学では教えてもらえない経験ができてよかった。	男性、20代、未婚、学生	長野
👉	インターネット等で情報は得られるが、実際に取組をされている方々の生の声を聴けたことで、より理解が深まった。また、こういったシンポジウムは大都市に行かないと参加できないことが多いが、地元で参加できたということが良かった	女性、40代、未婚、会社員・公務員	長野
👉	リモートワークなど地方創生の取り組み事例を知ることができ、参考になりました。	男性、30代、既婚、会社員・公務員	松山
👉	多方面で活躍されている起業家や多様な働き方をされてる方々の話に今後のキャリアのヒントをもらえた気がします。特に正能さんの、地域創生を考えるより、自分のやりたいことを地域でどうやっていくかという最後の言葉は刺さりました。	女性、30代、既婚、主婦	松山
👉	地方創生と一口に言っても多くのアイデア、様々な切り口から盛り上げていく幅の広さが面白かったです。	男性、20代、未婚、学生	札幌
👉	初音ミクをつくった方のお話で、北海道で行っている取り組み枠が自分の知っているものもあって驚いた。自分の知らない所も知れたので満足。	女性、10代、未婚、学生	札幌
👉	I C Tやインターネットの活用が具体的に理解できた。相手に届くメッセージを考えるコミュニティナース病院から地域へ発想が参考になった。	男性、60代、既婚	岡山
👉	矢田さんの取組が、ヘルステックが本当に機能している事例なのではないか。既成概念を超えた考え方が参考になった。	女性、40代、既婚、会社員・公務員	岡山
👉	同じくらい年代の子が多いアイデアを考え、それを実現させるために考えを深めていることに感動した。自分にも出来ることのないかと考えさせられた。	女性、10代、未婚、学生	名古屋
👉	授業でSDGSについて学び、過疎化している僕の町をどうするかと考え出した意見とはまったく違う意見が何個も知れ、色々な視点から見るのが大事だと思ったから。	男性、10代、未婚、学生	名古屋
👉	2030年社会を担う世代がこんなに刺激的なアイデアを堂々と発表している姿こそ希望の光！来週からの私の教育実践にも還元したいワクワクをたくさんもらいました。	男性、40代、既婚、会社員・公務員	名古屋

都市別に差はあるものの、今後の参加意向度は8割強と高い。

Q8. 今後、このようなイベントが開催された場合、また参加してみたいと思いますか。（1つ選択）

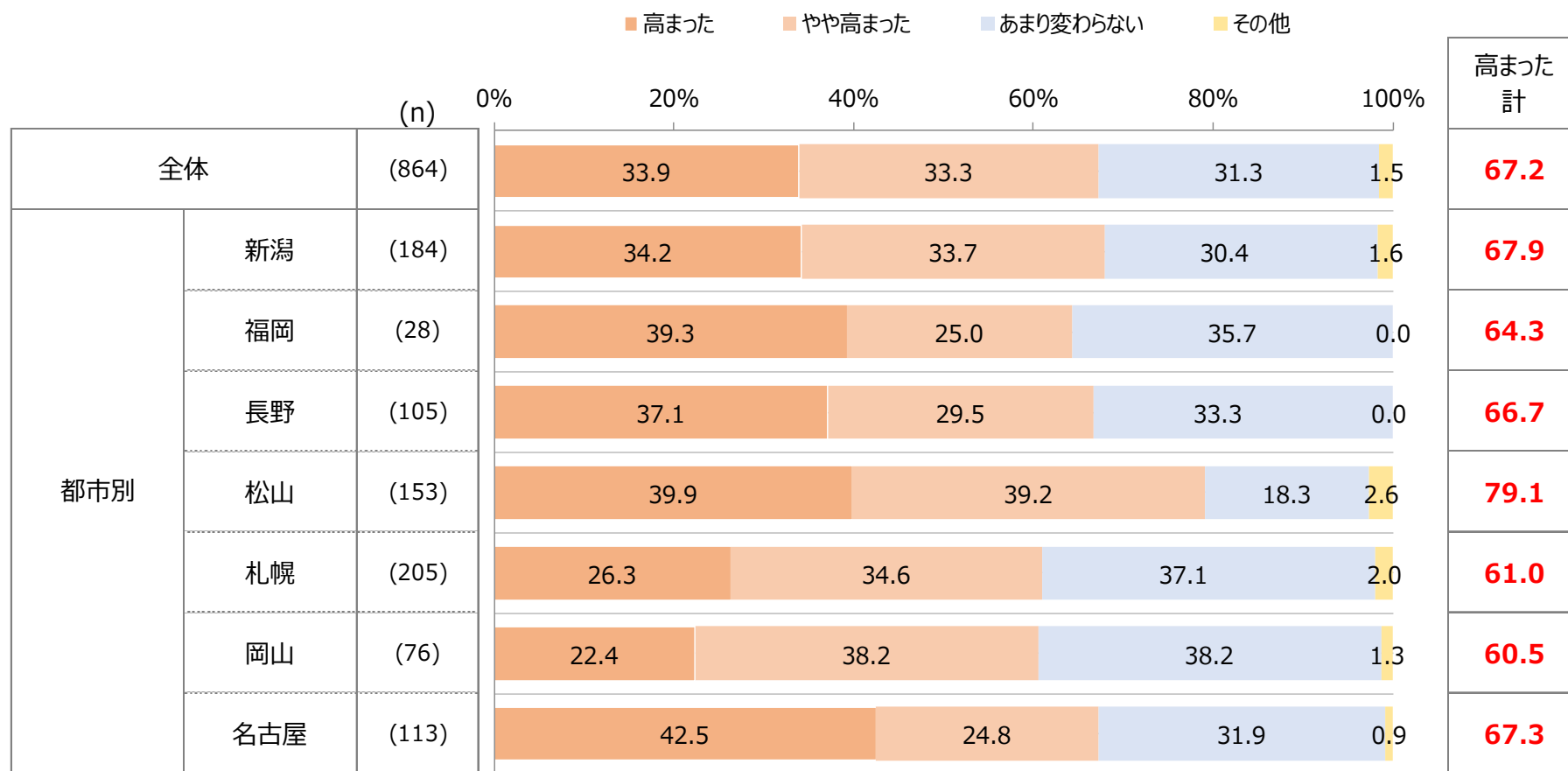


※福岡はサンプル数が少ないため参考

※つくばはサンプル数が少ないため参考

今回のイベントをきっかけに、約7割の方が「地元で働くことへの関心・意欲」が高まったと答えている。

Q10. 今回のイベントに参加したことで、地方（地元）で働くことへの関心・意欲に変化はありましたか（1つ選択）

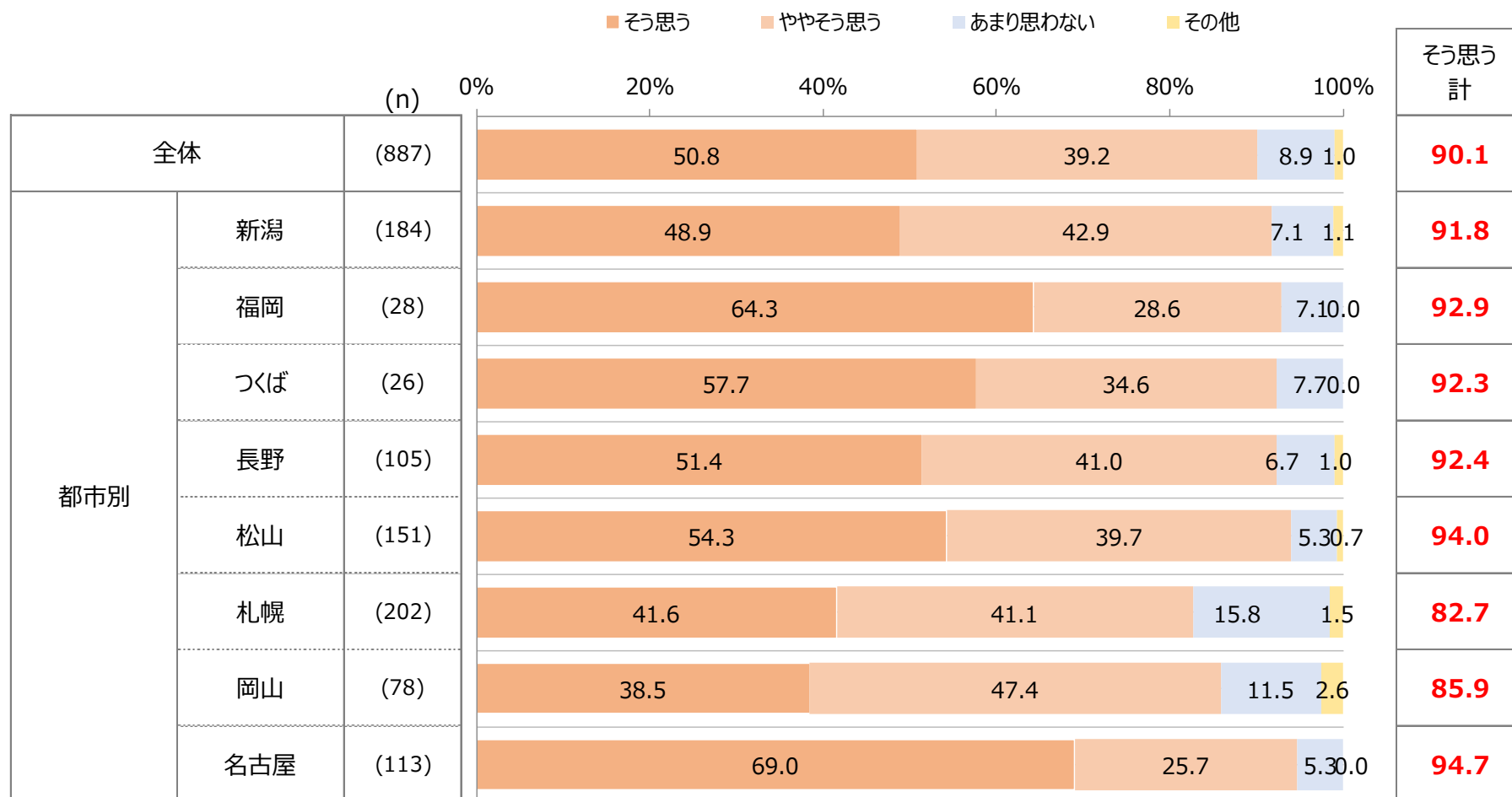


※福岡はサンプル数が少ないため参考

※つくばは未聴取

今回のイベントをきっかけに、9割の方が「今後の地方創生」に貢献していきたいとしている。

Q11. 今回のイベントに参加したことで、今後何らかの形で地方創生活動に貢献してゆきたいと思われましたか。（1つ選択）



※福岡はサンプル数が少ないため参考

※つくばはサンプル数が少ないため参考



## 【アンケート結果の概要】

- ◎「SDGsまちづくりアイデアコンテスト」は、教師主導でエントリー。
- ◎「自分の手を動かす」、「協働する」、「同世代の考えを知る」ことで課題意識を高め、今後の地域貢献への当事者意識の向上をもたらしていた。

<1都2府1道15県、合計23グループが回答>

- ・**エントリー決定者は指導教師（76.2%）が多く**、認知経路は行政からの案内（47.6%）、ネット広告（19%）であった
- ・応募の動機、きっかけは「SDGsへの興味（31.6%）」を**「まちづくりに興味があった」（47.4%）**が上回る。
- ・今後の参加意向は「参加したい」（69.6%）、「やや参加したい」（17.4%）と高かった。
- ・コンテスト参加によって、今後（も）**地域貢献をして行きたい、とする意見は「やや（19%）」も含め回答者（23グループ）全員**となった。
- ・今後参加意向に関しての自由回答から、「**同世代の考えを知ることができる**」（徳島）「**（アイデアが）コンテストのためではなく、  
**香岐の未来のために実行できればよい**」（長崎）、「**SDGsを今後考えていかなければならないのは我々子供**」（福岡）などこの機会を能動的に捉え、触発されている状況がうかがえる。**



## ■ グループインタビューの結果概要

- **作業の目的** グループインタビューを通じて、若者の大学進学時の進路決定の実態と、その後の居住地に対する意識を把握する事によって東京一極集中是正の取組検討するための基礎資料とすることを目的とする。
- **業務内容**
  - 地方創生に関する若者の意識調査のため、グループインタビューを企画、実施する。
  - 開催場所は、東京1カ所、地方3カ所(新潟県、愛知県、福岡県での実施)とする。
  - 1カ所当たりの対象者は23-24名(4グループ)、総計95名。インタビューの時間は2時間程度とする。
- **実施概要**

地域	対象者属性	日程案
地方の若者 新潟・愛知・福岡	A <b>地元に残った</b> 、大学生・専門学校生／ 男性・女性（各6名） B <b>東京の大学・専門学校進学を視野</b> に入れて考えている 高校3年生／男性・女性（各6名）	新潟：6月15・16日 福岡：7月13・14日 愛知：8月03・04日
東京の若者	C <b>地方出身</b> の大学2-3年生／男性・女性（各6名） D <b>東京出身</b> の高校3年生／男性・女性（各6名）	大学生：6月29日 高校生：6月30日

## 主な調査項目は以下の通り

**1. 地元に対する意識**： 流出入の背景にある地域の特性を、若者たちはどのように意識しているのか

**2. 進学先の選定プロセス**： 大学や専門学校はどのように選ばれているのか、居住地についてどう考えているのか

- 地元定着の場合と、東京への流出のパターンではどのような違いがあるのか
- 東京の高校生は、地方をどの程度視野に入れて進路を検討しているのか

**3. 進学先の選定要因**： 東京進学と地方進学を加速する要因はそれぞれどのようなことか

**4. 就職以降の居住地についての意向**：  
就職や、結婚・子育て、その先にある親の介護を視野に入れた時、若者はどこで暮らすことを考えているのか

**5. 広報・コミュニケーションに対する評価**：

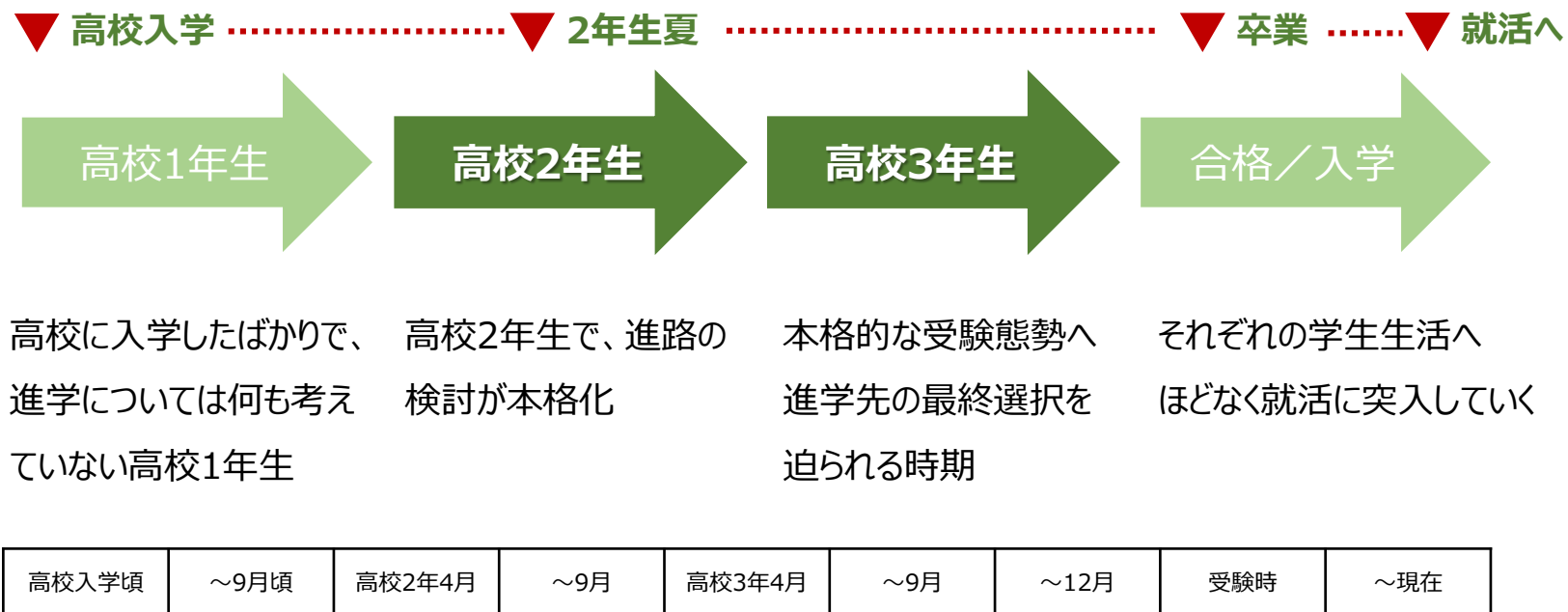
- 日本の人口減少や東京一極集中の問題を、どのように伝えればよいのか
- 自分事化してもらうためにはどのように伝えればよいのか、どうすれば行動へと誘引できるのか

## 1. 地元に対する意識：流出入の背景にある地域の特性を、若者たちはどのように意識しているのか

- 新潟・福岡・名古屋では、いずれも「自分たちの住む地域は、東京に比べて住みやすい」と評価されており、愛着が持たれている。
- これに対して東京は、ヒト・モノ・情報のすべてに大きな集積があり、大学や専門学校の選択肢も豊富で、就職にも有利であると考えられている。

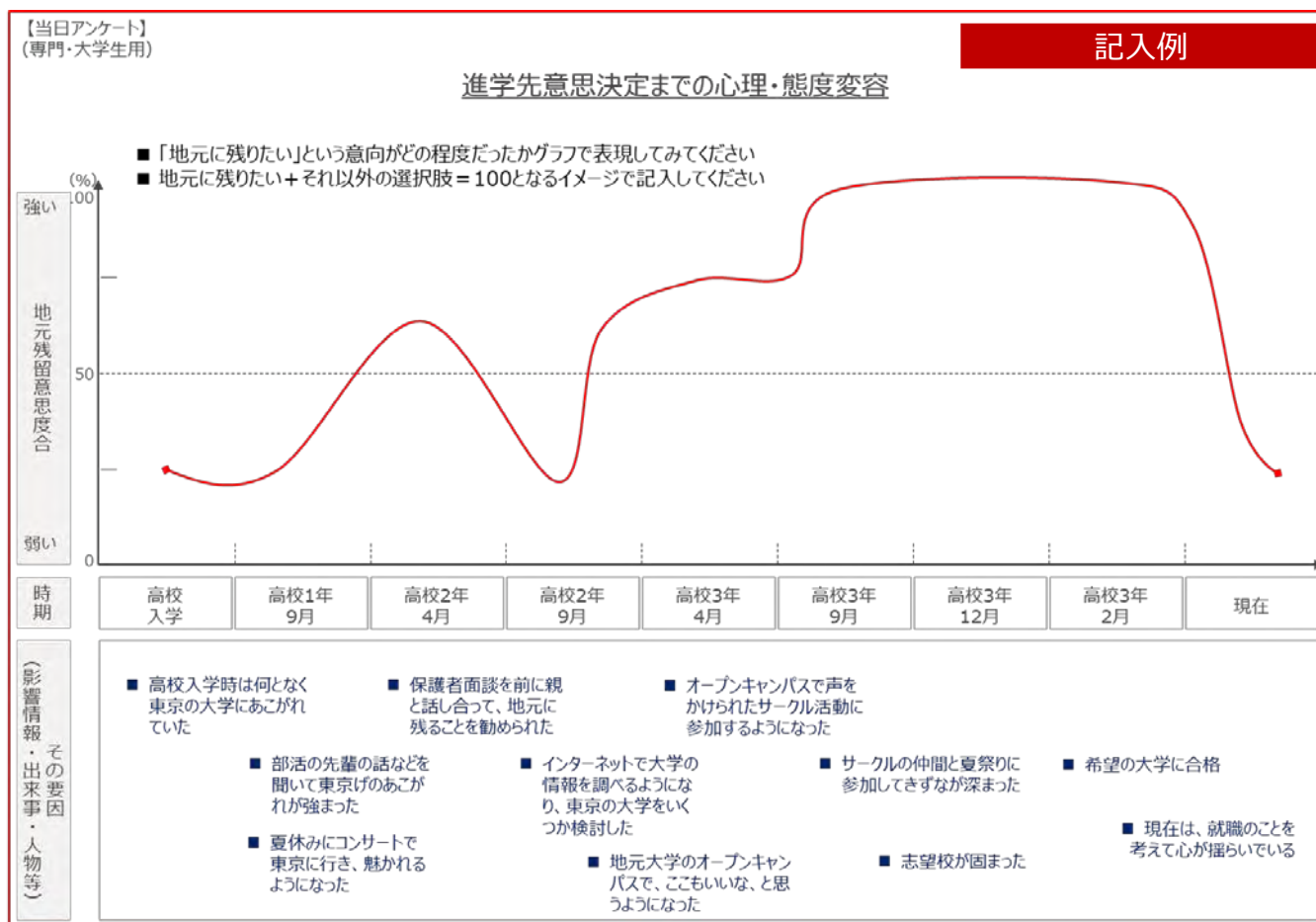
- |    |  |
|----|--|
| 新潟 | ■ 自然環境に恵まれた住みやすい地域として愛着が持たれているが、交通インフラなどの利便性には東京との大きな格差が感じられている。                           |
| 福岡 | ■ 福岡は都会としての利便性を備えているだけでなく、自然環境にも恵まれた住みやすい場所であると認識されている。                                    |
| 愛知 | ■ 名古屋は「ほどよく住みやすい街」として愛着が持たれている。ただし、若者にとっては遊ぶ場所がなく、刺激に乏しい面白みのない地域、というイメージが持たれている。           |
| 東京 | ■ 東京はヒト・モノ・情報のすべてに大きな集積があり、多様性に富んでいる。<br>■ 大学や専門学校の選択肢が豊富で、企業が集中していることから就職にも有利であると考えられている。 |

- 進路検討のプロセスには全国共通のパターンが存在していた。
- 特に重要な局面は高校2年生の夏と高校3年の秋、その前後で大きな意識の変化があり、進学先が絞り込まれていく。



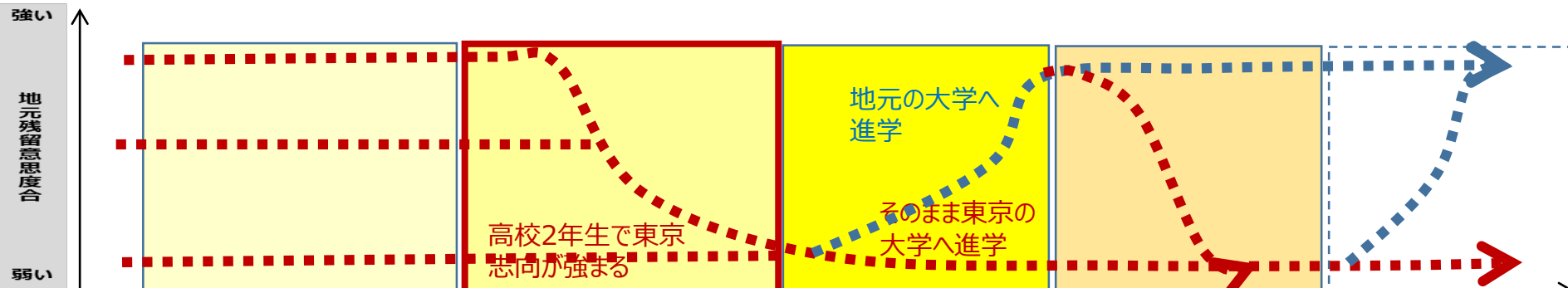
- インタビューに先駆けて、進路先意思決定までの心理・態度変容 (ローカルマインドバロメーター) をアンケート記入していただき、それに基づいてインタビューを実施した。次ページ以降のチャート図はこの個票集計 (総数95票) とインタビュー発言により作成した。

→ ローカルマインドバロメーターでは、高校入学から現在まで「地方に残りたい気持ち」がどのように推移してきたかをグラフ化、態度変容のきっかけとなったできごとについて記入していただいた。

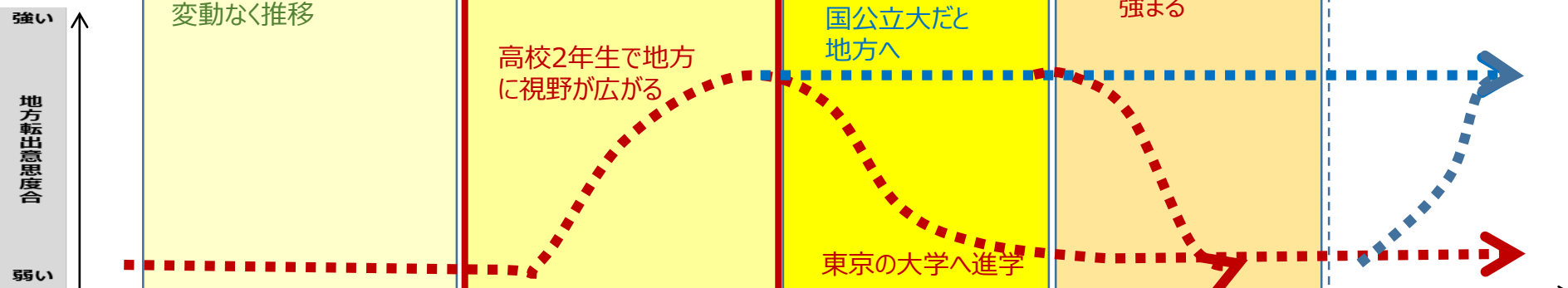


5つの揺れ動きのフェーズがあり、現在一番大きく影響しているのが高校2年生（ついで地方揺り戻しの高校3年生）

■ 地方の高校生



■ 東京の高校生



高校1年生

高校2年生

高校3年生

就職時

結婚・子育て・介護

あまり考えていない

いきなり偏差値の世界で  
大学選択が始まる  
夏休み前後に  
地方では東京志向が強まり、  
東京では、地方に視野が広がる

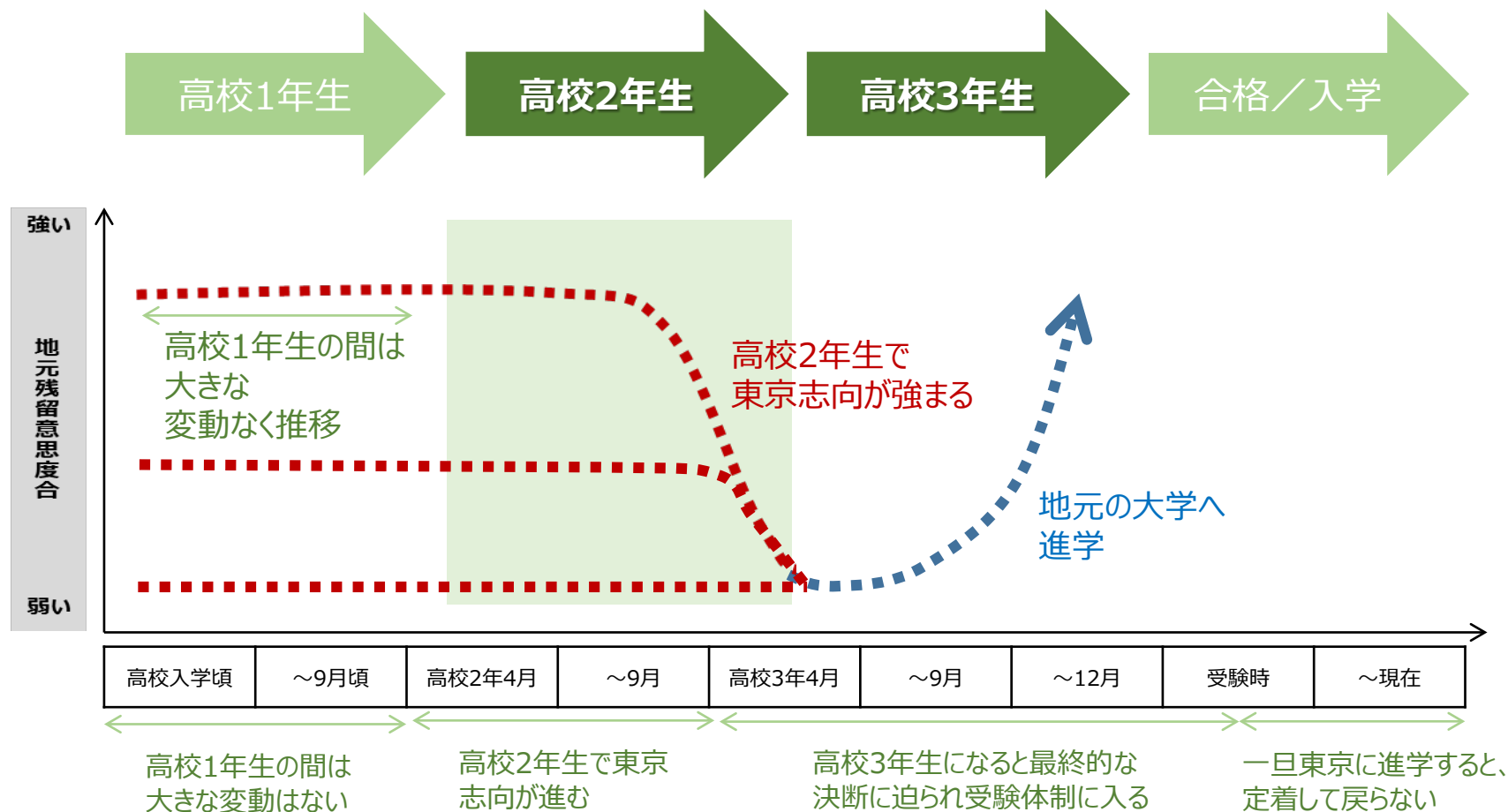
現実と妥協しながら  
最終的選択に至る  
地方回帰への  
揺り戻しがある

選択肢の多さ、  
仕事の可能性から  
再び  
東京集中が強まる

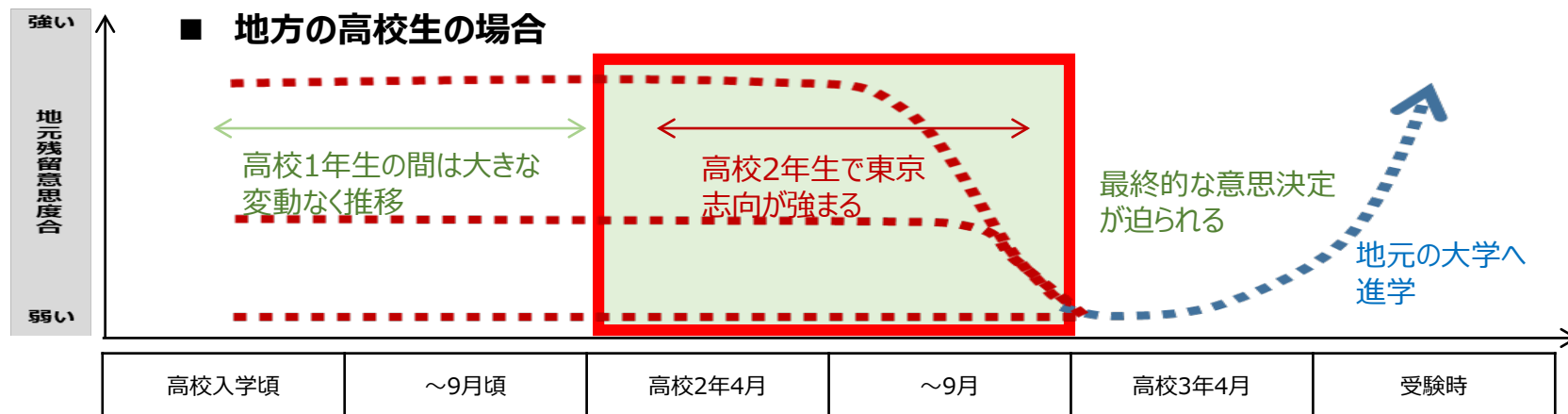
ライフイベントを考えると  
地方居住意向が高まる  
ならば進学・就職時も  
長期の人生設計を  
織り込むのがよい



- 新潟だけでなく、福岡、名古屋でも、進路選択のパターンは共通。高校2年生で東京の大学への意向を強め、その後、高校3年生で志望校を地元大学に変更している。
- 高校生のグループでも高校3年生の夏までのプロセスは共通のパターンを描いている。



- 心の準備がないままに、進路の選択が本格化することで、偏差値主体の大学選びが始まり、その結果一気に東京志向が強まっていく。



### 東京志向が加速するタイミングで何が起きているのか：主要な発言

#### ■ 情報収集が本格化する

- ネットやSNSで東京や他県の情報を調べるようになった：新潟男子
- 情報収集して、福岡にはない学部・学科が東京にはあることを知り、東京に興味を持つようになった：福岡女子

#### ■ オープンキャンパスや旅行がきっかけで憧れが強まる

- オープンキャンパスがきっかけで、東京への憧れが強まった：新潟女子
- 学校行事の東京研修をきっかけに東京への進学を考えるようになった：福岡男子

#### ■ 模試の結果から、偏差値をモノサシにした大学選びが始まる

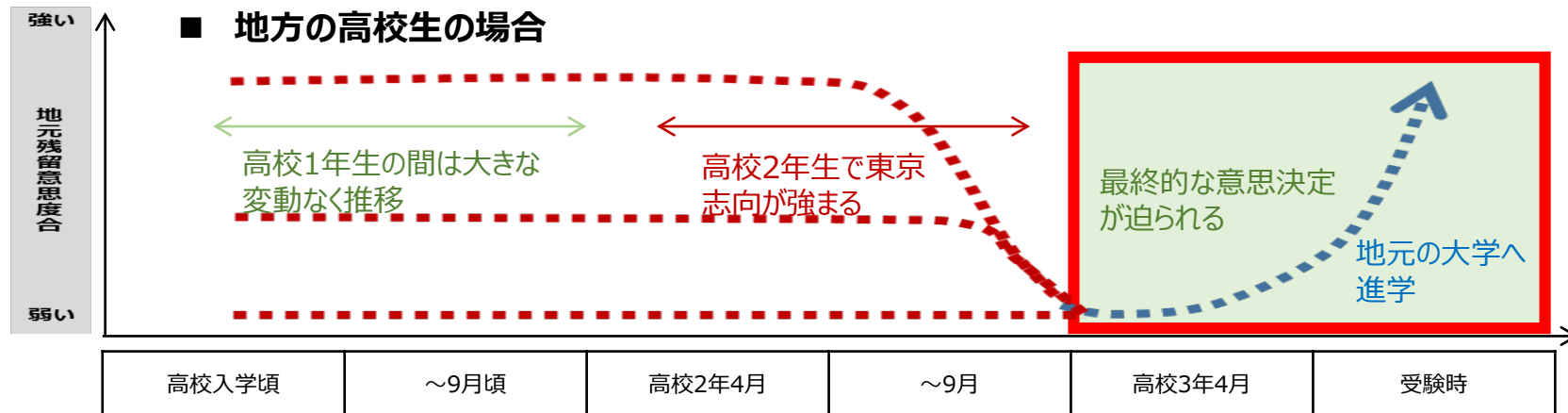
- 模試が始まったのをきっかけに志望校の検討を始めた：熊本男子
- 模試の成績が思ったより良かったので、東京の大学にも志望校を広げて考えるようになった：名古屋男子

#### ■ 友人や先輩と一緒に進学について会話するようになる

- 塾の仲間と東京の大学を見に行き、東京の大学に興味を持つようになった：新潟男子
- 東京に進学した先輩と話して東京に憧れるようになった：名古屋女子

## 2. 進学先選定プロセス：地元の大学・専門学校に進学する場合

- 最終的な決断を迫られる高校3年次。偏差値だけでなく、家計の負担など、様々な現実と向き合いながら東京進学をあきらめ、地元進学への揺り戻しがおこっている。



### 地元志向に揺り戻すタイミングで何が起きているのか：主要な発言

#### ■ 偏差値の現実を見て

- 模試で成績が上がらなかった：新潟男子
- 自分の学力や友人の動向を見て判断した：福岡女子
- 学力が足らず県内に決定した：名古屋男子

#### ■ 経済的負担を考慮する

- 経済的な負担を考慮して、実家から通った方がいいと思った：名古屋女子
- 東京の生活や経済的負担で悩んだ：新潟女子

#### ■ 両親や先生と相談して決めた

- 両親と話し合い、地元進学を決められた：新潟女子
- 親の意向にしたがった：名古屋男子
- 学校の先生と相談した：福岡女子

#### ■ 地元大学のオープンキャンパスに参加した

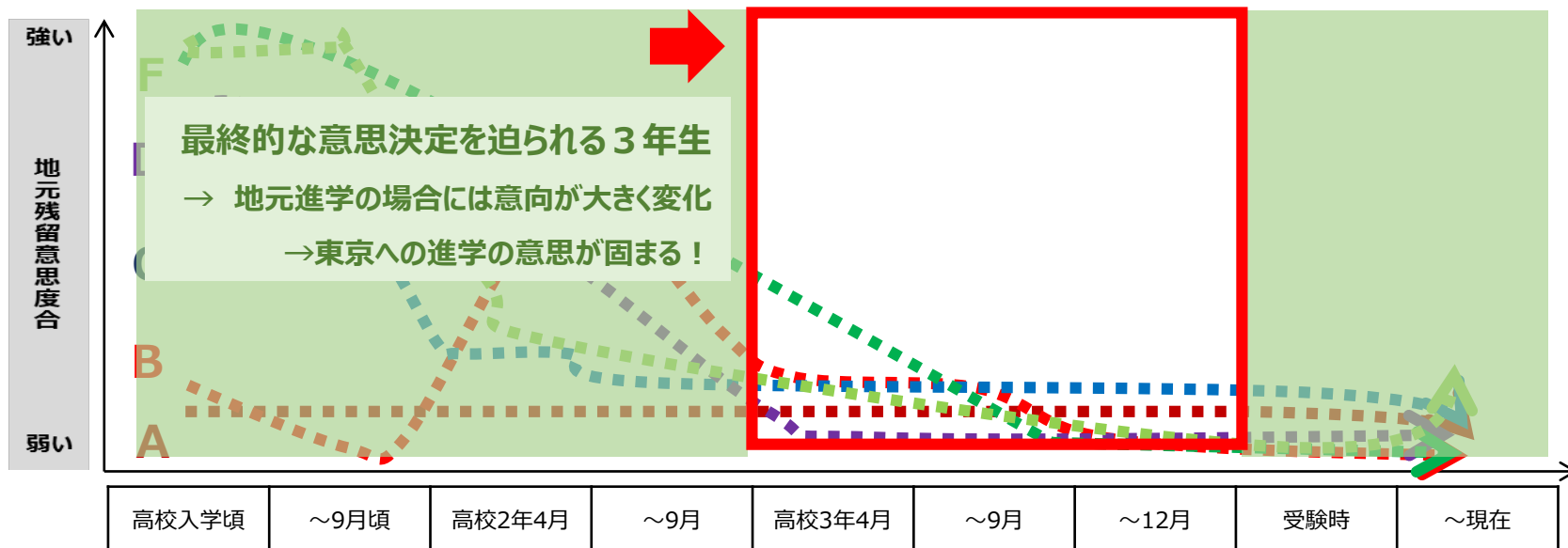
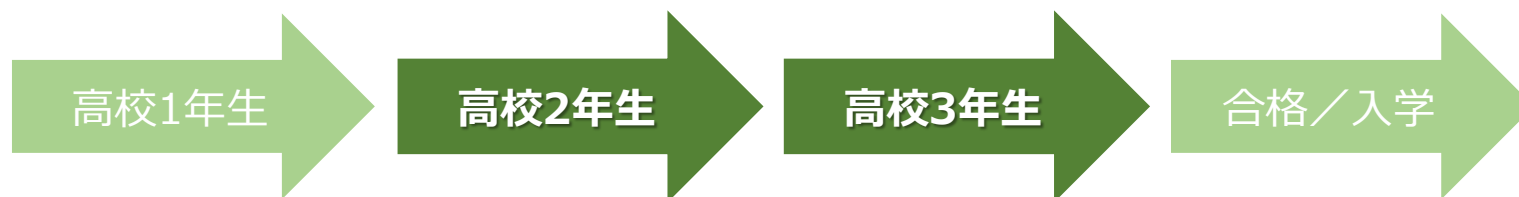
- 地元大学のオープンキャンパスに参加した：新潟女子、他

東京調査

地方出身  
男子大生・専門学校生  
グループ

■ 地方から東京に進学した男子大学生の場合

東京志向を強める高校2年生までの経過は地元進学と同様だが、東京への進学の意味を固めた後、地元志向への揺り戻しなく受験を迎えている。葛藤のない状態は、地方出身の女子大生グループでも同様だった。



高校1年生の間は  
大きな変動はない

高校2年生で東京  
志向が進む

高校3年生になると東京進学  
の意思が固まり、受験を迎える

一旦東京に進学すると、  
定着して戻らない

## 2. 進学先選定プロセス：東京に進学した地方出身者の場合

地方から東京に進学した者では、進学校であるだけでなく、親の寛容な態度や、東京にいる縁者の存在などが、東京進学へのハードルを低くしている。

### 親の勧め・寛容な態度

- 母親が東京の大学に通っていて、小さい頃から東京に行ったほうが経験としていいとずっと言われていた。反抗とかもなく、私も行けたら行きたいという感じだった。母は大学ではなく、東京がいいと言っていた。何でもできるし、いろんな経験ができると言っていた。：愛知県出身女子
- 両親は地元の出身だが、母は地元の大学で父は京都の大学に行っていた。ひとり暮らしをする良さも地元に残る良さもどちらも聞いていた。：新潟県出身女子。
- 両親の影響であんな風になつたらいいと思っていた。：長野県出身男子

### 進学校であること・学校や塾の勧め

- 高校が半分くらい東京に進学する高校だったので、そんなに不安はなかった。東京への研修旅行があって、東京の大学を見たり、観光したりして、それを機に東京に行きたいと思うようになった。：福岡県出身男子
- 高校選びの時からいちばん東京に進学しているところにした。：愛知県出身男子
- 塾の先生からのアドバイスがほとんど東京に集中していたので、東京を意識するようになった。：福島県出身男子

### 東京の身寄り

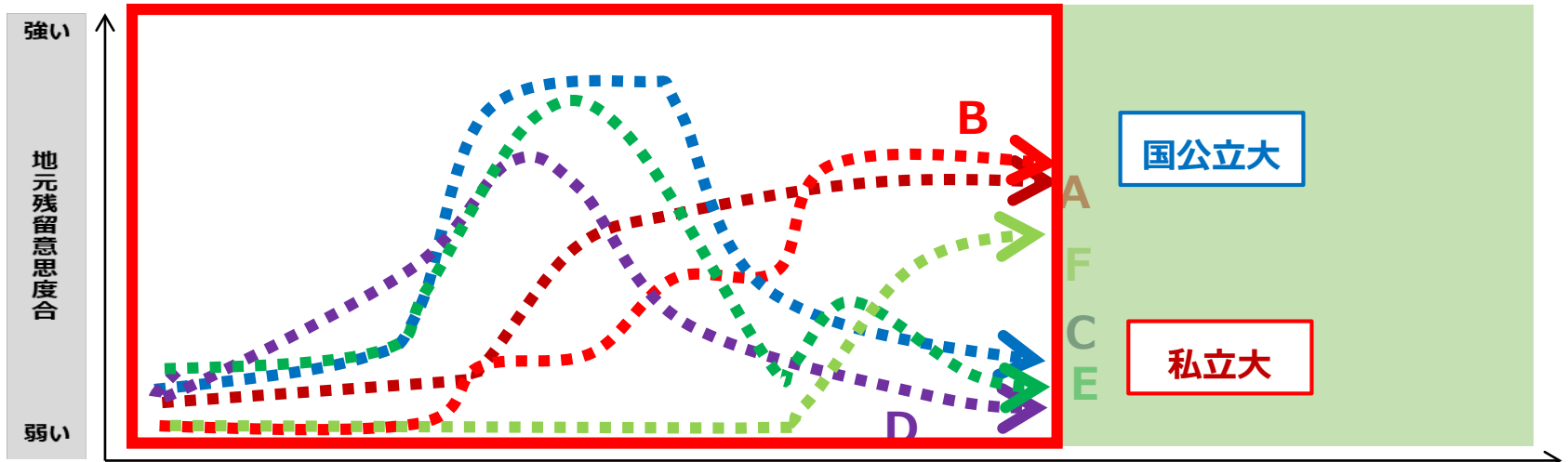
- 叔母の家族、従兄弟の一家が今東京にいて、結構助けてもらっている。僕から連絡することはあまりないが、母が僕のこと連絡してくれていたりして、安心材料になっている。：熊本県出身男子
- 母方の祖父母の兄弟たちが千葉、ディズニーランドの辺りにいたり、電車で1駅くらいのところに住んでいる親戚もいる。病気の時は、その人に聞くと医者場所を教えてください。自分がというよりは母が連絡したりする。：新潟県出身男子
- 兄・姉が東京にいる。：長野県出身女子／熊本県出身女子

## 2. 進学先選定プロセス：東京出身の高校生の場合

東京調査  
男子高校生グループ

東京の高校生の場合には、高校2年生になると地方の大学にも目を向けている。が、選択肢が東京周辺に多いことから、結局は東京周辺での進学に落ち着いている。ただし、国公立大学を志望する者についてはこのパターンから外れている。

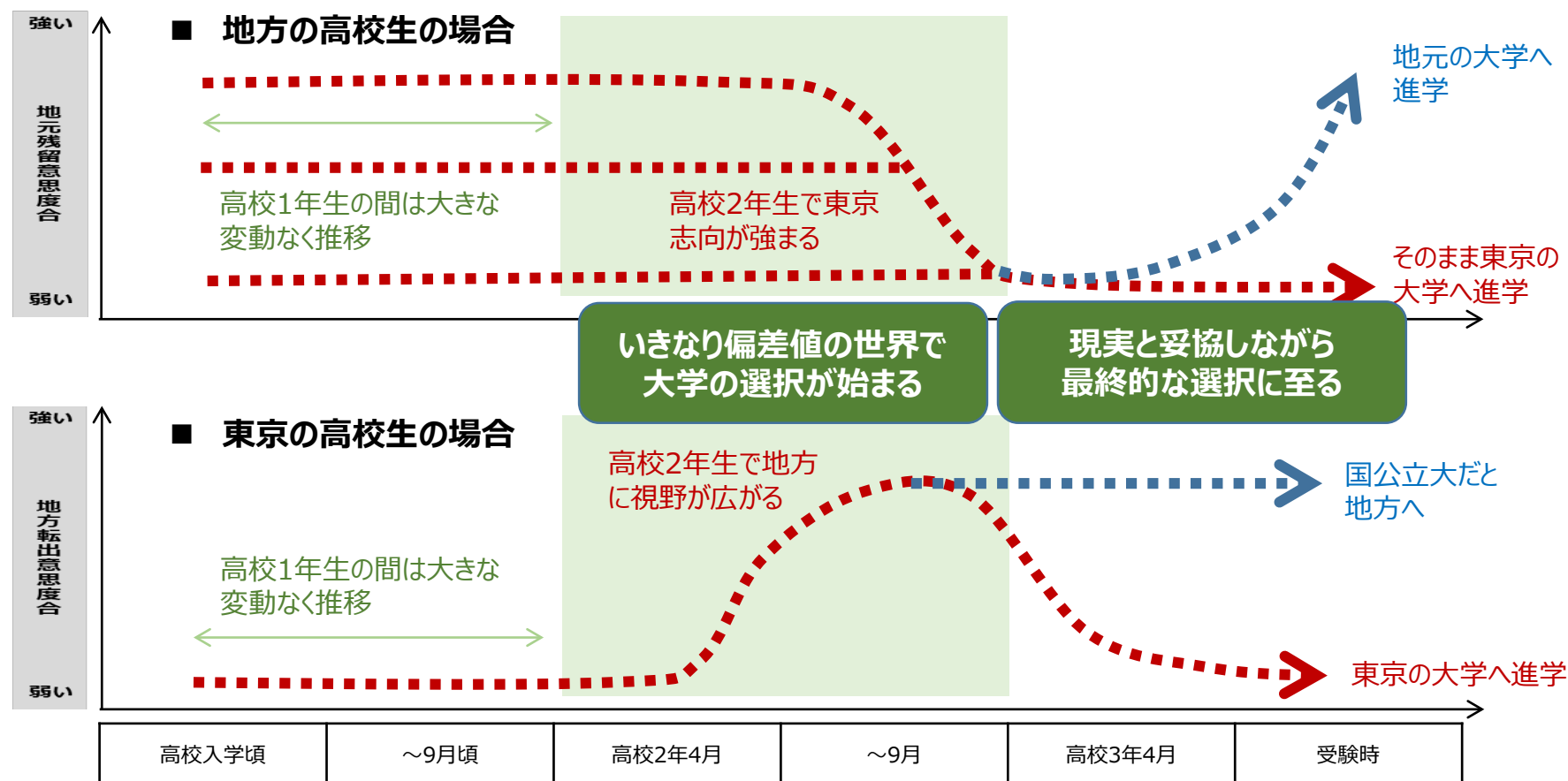
※下図のローカルマインドバロメーターは上に行くほど地方進学での意向が強く、下に行くほど、東京の大学への進学意向が強いことを示している。



高校入学頃	～9月頃	高校2年4月	～9月	高校3年4月	～9月	～12月	受験時	～現在
-------	------	--------	-----	--------	-----	------	-----	-----

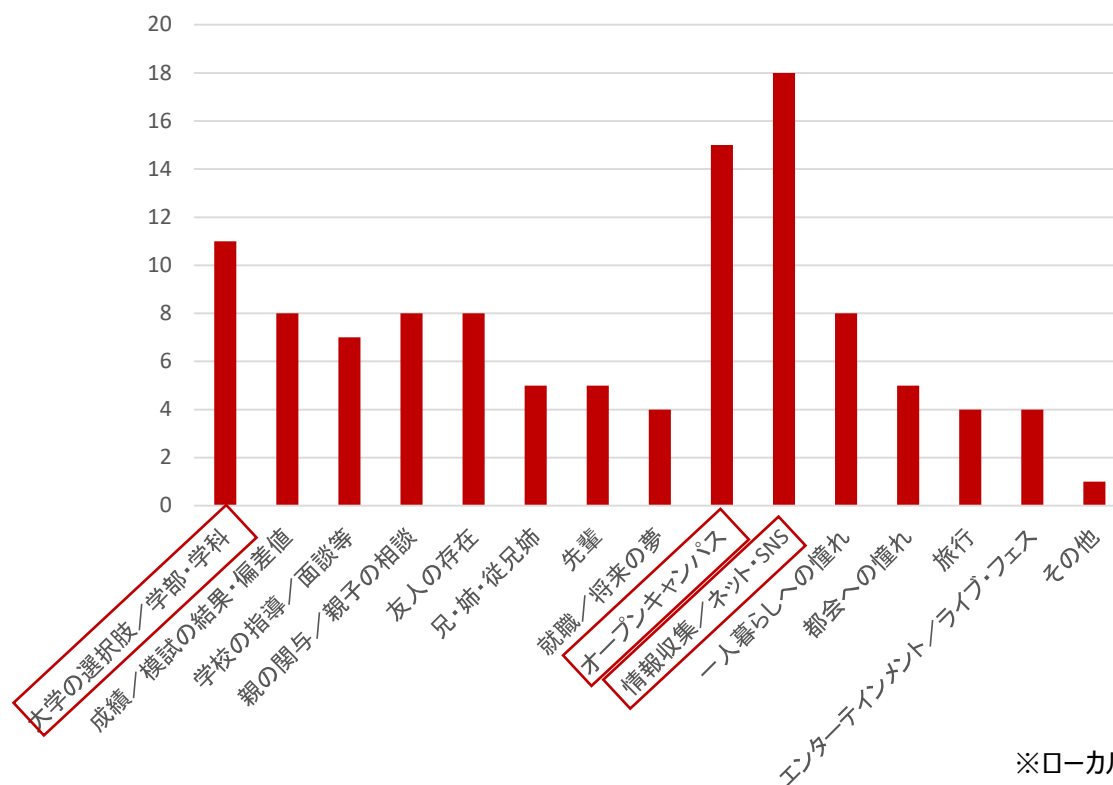
高校1年生の間は大きな変動はない  
 高校2年生で地方に視野を広げる  
 高校3年生では結局東京の大学を選択

- 進路検討のプロセスはほぼ全国共通。
- 進路選択が本格化する高校2年生の夏から、地方の高校生は東京志向を強めていく。
- 高校3年生になると最終的な意思決定が迫られ、進路が分かれていく。



- 東京志向を強めるタイミングで記述されたできごとを集計すると、**ネットなどで情報検索**を行いながら、**自分の成績**と突合せ、**オープンキャンパス**で夢を膨らませて、東京の進学先を絞り込んでいく、といった実態が見えてくる。
- 偏差値中心の大学選びが、東京進学を加速させている。

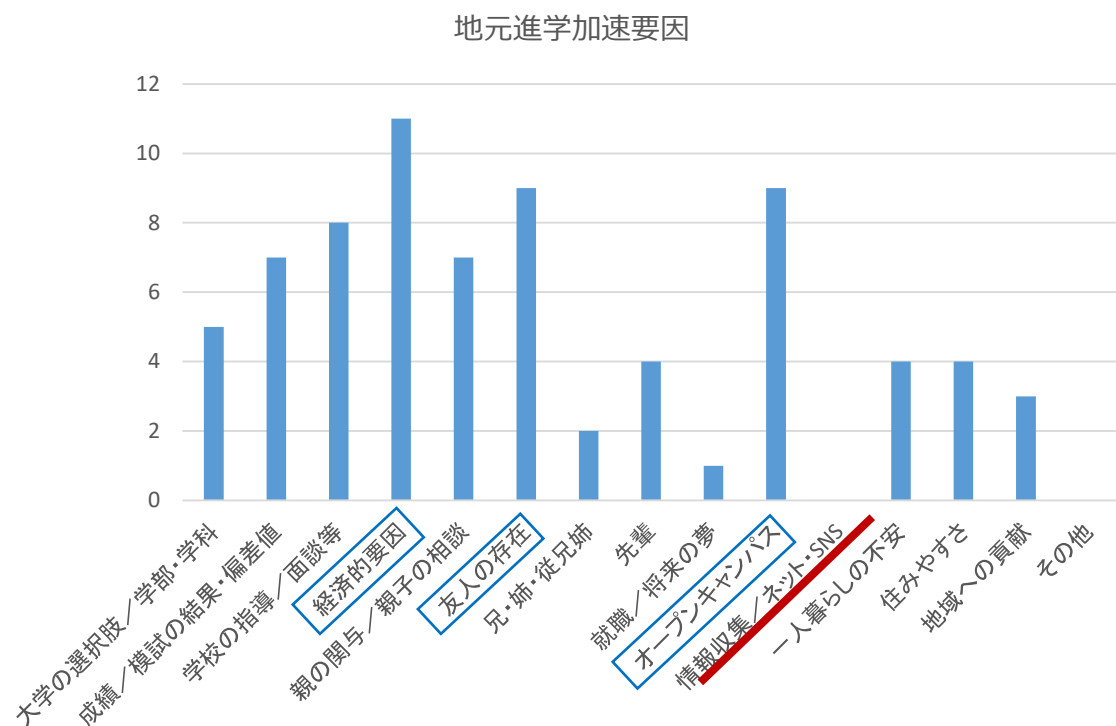
東京進学加速要因計



※ローカルマインドバロメーターの記述内容を集計



- 地元志向を強めるタイミングでのできごとは、**経済的な要因**がトップだが、他には**友人の存在**、**地元大学のオープンキャンパス**などがあがっている。
- ネットなどの情報収集はあがっておらず、東京進学と様相は大きく異なっている。



※ローカルマインドバロメーターの記述内容を集計

### 東京進学 of 加速要因

- 大学や学部・学科の選択肢の多さ
- 親の承諾／勧め
- 東京の大学のオープンキャンパス
- ネット・SNSなどの情報収集
- 一人暮らしや都会への憧れ／都会への旅行
- 私立大／文系
- 学校（進学校の場合）・塾の指導
- 兄・姉・親戚などの身寄りがある
- 仕事の選択肢の多さ

- 自分にとってどんな生き方が幸せなのか、というモノサシがないままに、偏差値の世界に入っていくことで、大学が集中している東京へと若者は吸い寄せられていく。
- この過程に東京への旅行やオープンキャンパスが重なっていくことで、東京への憧れが広がっていく。

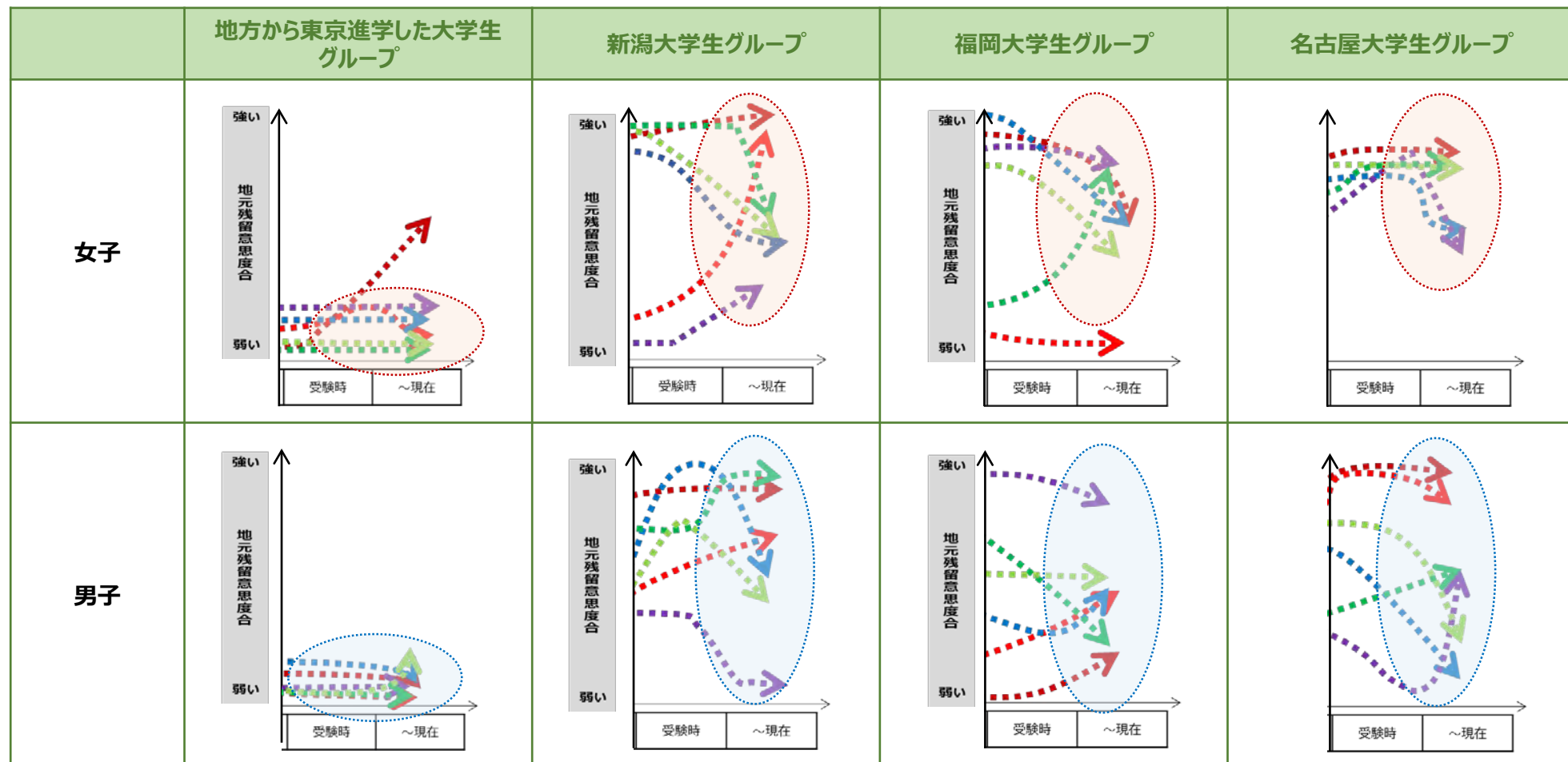
### 地元進学 of 加速要因

- 家計の状況や経済的負担の検討
- 地元の友人の存在
- 地元大学のオープンキャンパス
- 親・家族の存在
- 一人暮らしの不安
- 地元の住みやすさ
- 国公立大／理系
- 地域コミュニティとの関係

- 受験にいたる最終局面では、親の存在が急浮上し、経済的な負担感や自分の成績などを考慮しながら、東京進学をあきらめ、地元進学を決断する、というプロセスが明らかになった。
- 本人にとってはやや不本意ではあるが、この過程が地元定着を促すことになっている。

下の図は、就職に向けてのローカルマインドを示したもので、上にいくほど地方での就職を意識することを示している。

- 地方から東京に進学した若者の多くはそのまま東京での就職を考えており、地元での就職は視界から外れている。
- 地元に進学した若者は比較的地元志向が強いが、それでも就職時には再び東京志向を強めている。



- 就職の段階では、東京や福岡の学生では東京での就職意向が高いことを示していた。
- 一方、結婚・子育て・介護を想定させてその時どこで暮らしているのが良いかを聞くと、どの地域でも地方が良いという回答が多くを占めた。

東京進学した  
地方出身学生

- 就職は東京で、という者がほとんど
- 一旦東京へ出ると、地元に戻る選択は難しい

就職時は再び東京集中が強まる傾向

地元進学した  
大学生

- 地元志向は比較的強いが、東京志向への揺り戻しも見られている
- 流動性が再び高まっている

結婚・子育て・介護  
などのライフイベント  
に地元への回帰の  
チャンスが生じる

- 結婚や子育て・親の介護などのライフイベントを想定すると、地元居住への意向が高まる
- ひいては進学・就職時も長期の人生設計を織り込むのがよいのではないかとする者も多い

- 情報提供の方法では、自分の暮らしに関わるような、自分事化しやすい情報提供の方法に関心が集まっている。
- 今回のグループインタビューのように、将来の生き方について考える機会が地方に目を向けるきっかけになることが明らかになった。

■ 呈示資料①



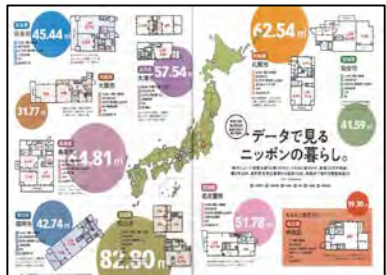
■ 呈示資料②

子育て地域のキョウゴ

※ 調査対象は、調査の人口の集約により、特異性が強い、育児と仕事の両立といった課題を抱えている。

調査対象自治体数	子育て世代の人口比率	子育て世代の人口比率
自治体別	人口比率	人口比率
岩手県	21.3%	21.3%
宮城県	20.8%	20.8%
秋田県	20.3%	20.3%
山形県	19.8%	19.8%
福島県	19.3%	19.3%
茨城県	18.8%	18.8%
栃木県	18.3%	18.3%
群馬県	17.8%	17.8%
埼玉県	17.3%	17.3%
千葉県	16.8%	16.8%
東京都	16.3%	16.3%
神奈川県	15.8%	15.8%
新潟県	15.3%	15.3%
富山県	14.8%	14.8%
石川県	14.3%	14.3%
福井県	13.8%	13.8%
岐阜県	13.3%	13.3%
静岡県	12.8%	12.8%
愛知県	12.3%	12.3%
三重県	11.8%	11.8%
滋賀県	11.3%	11.3%
京都府	10.8%	10.8%
大阪府	10.3%	10.3%
兵庫県	9.8%	9.8%
奈良県	9.3%	9.3%
和歌山県	8.8%	8.8%
徳島県	8.3%	8.3%
香川県	7.8%	7.8%
高松県	7.3%	7.3%
愛媛県	6.8%	6.8%
高知県	6.3%	6.3%
福岡県	5.8%	5.8%
佐賀県	5.3%	5.3%
長門県	4.8%	4.8%
大分県	4.3%	4.3%
熊本県	3.8%	3.8%
鹿児島県	3.3%	3.3%
沖縄県	2.8%	2.8%

■ 呈示資料③



..... 暮らしぶりの実感値が伝わる情報提供の方法ほど評価が高い ..... ➤

③は地方学生が地元のよさを見直すだけでなく、東京の高校生が地方の暮らしやすさに気づききっかけにもなっている

■ 動画呈示



東京に進学した地方出身者では期待した効果が得られなかった

■ 呈示資料④



生き方に対しては共感が持たれているが、自分事化するためには、「特別」でないリアルライフが求められている

■ 呈示資料⑤



利用しやすい情報提供の方法が求められている

※実際の呈示資料は報告書巻末に添付

1

流出入の背景にある地域の特性を、高校生や大学生・専門学校生はどのように意識しているのか

- **地方の学生にとって、東京は大学や専門学校の選択肢が多いだけでなく、ヒト・モノ・情報のすべてが集積する憧れの都会、と考えられている。**
- 新潟・福岡・名古屋のいずれの地域も「東京に比べて住みやすい場所」と考えられている。

2

大学や専門学校の選定プロセスはどのように行われているのか

- **進学先の検討は高校2年生の夏頃から本格化し、**選択肢を広げていく。
- 3年生になると受験に向けて志望校を絞り込んでいく。
- **高校2年生になると地方の高校生は東京の大学に目を向けるようになり、**東京の高校生は地方の大学にも視野を広げている。
- 地元進学を決めた者の多くは、一旦東京進学に傾きながら、受験を前に地元の大学に志望校を変更している。

3

東京進学と地方進学を加速する要因は何か

- **模試などの結果を受けて、偏差値をモノサシにして進学先の候補を広げていくと、大学数の多い東京に目が向くようになっていく。**
- 最終的に志望校を絞り込む際に、親との話し合いの中で経済的な負担を考慮することで、地元進学に傾く者が多くなっている。
- オープンキャンパスは東京・地元いずれの場合にも重要な体験となっている。
- **地元大学に関する情報収集は疎かにされる傾向がある。**
- 東京の高校生でも国公立大学（理系）志望の者は地方を検討している

4

将来の就職や、結婚・子育て、さらにその先にある親の介護などをどのように考えているのか

- **地方から一旦東京の大学に流出すると、就職の際に地方を選択する者は少数で、地方に呼び戻すことは困難になる。**
- **地方大学に進学した者も、就職の際は再び東京の企業を意識するようになり、流動性が高まる。**
- どこで暮らすのかを、職業ではなく生活に軸を置いて考えれば、地方の方が暮らしやすいことには多くの若者が気づいている。

5

日本の人口減少や東京一極集中の問題を、どのように伝えれば、若者にとって自分事化されるのか

- **人口減少や東京一極集中の問題を一般論として扱っても、若者には響かない。**
- 自分自身の生活にどのような影響が及ぶのか、を伝える視点が重要になる。
- 数字で伝えるよりは、生活のイメージがよりリアルに伝わるように（「MEETS」のような手法で）見える化することが求められている。
- 地方に暮らす人の生き方を紹介することは若者の共感を呼ぶアプローチになっているが、その際「成功者」の生き方ではなく、自分に置き換えることのできるリアルな暮らしぶりが知りたい、と若者は考えている。
- 自分にとって幸福な生き方とはどのようなことか。そのためにはどこでどのように暮らすのが良いのか。そのように考える機会が欲しい、と若者は考えている。

6

若者の自分事化へのヒントは今回グループインタビューの様な、自分の将来のことを考え、話し合うアプローチから見い出すことができるのではないか

- **日常生活の中で、自分の生き方について考える機会はなかなかないし、友人と話し合うこともない。** 今回のグループインタビューであらためて自分たちの地方の良さにも気づくことができた、との感想が多く聞かれた。
- **大学生からは、このような機会はできれば大学生になる前に経験しておきたかった、そうすれば大学の選択の方法が変わっていたかもしれないという声**が聞かれた。高校生からもあらためて視野が広がった、という声が多く聞かれた。



地方進学を加速する要因 (反面教師として**東京進学**を加速する要因)

- 家計の状況や経済的負担の検討
- 地元の友人の存在
- 地元大学のオープンキャンパス
- 親・家族の存在
- 一人暮らしの不安
- 地元の住みやすさ
- 国公立大／理系
- 地域コミュニティとの関係

×

- リアルな伝達手法 (ex.Meets)
- 地方での暮らしや自分の生き方を考える機会 (ex.グループインタビュー／ワークショップ)

再掲

- 大学や学部・学科の選択肢の多さ
- 親の承諾／勧め
- 親が学生時代を東京で過ごした
- 東京の大学のオープンキャンパス
- ネット・SNSなどの情報収集
- 一人暮らしや都会への憧れ
- 都会への旅行
- 私立大／文系
- 学校 (進学校の場合) ・塾の指導
- 兄・姉・親戚などの身寄りがある
- 仕事の選択肢の多さ

日本の人口減少や東京一極集中の問題を、どのように伝えればよいのか

- 自分事化してもらうためにはどのように伝えればよいのか、どうすれば行動へと誘引できるのか

### 今回のグループインタビューそのものが貴重な体験だった、と評価された

日常生活の中で、自分の生き方について考える機会はなかなかないし、友人と話し合うこともない。

あらためて自分たちの地方の良さにも気づくことができた、との感想が多く聞かれた。



### 自分自身の将来や、生活のことを考えれば大学や仕事の選び方は変わってくる

大学生からは、このような機会があれば大学生になる前に経験しておきたかった、という声が聞かれた。

そうすれば大学の選択の方法が変わっていたかもしれない、とされている。

高校生からもあらためて視野が広がった、という声が多く聞かれた。

今回、高校3年の夏休みというタイミングは、ちょうど部活も終わり、本格的に受験に向かう時期だけに、

今後の最終的な検討に向けて、よい機会になった、と感想が多かった。



### 今回のグループインタビューのような方法は若者の心に響くアプローチだった

## ■ 地元大学生で強い「郷土愛」

- 対象者4グループとも、ほぼ全員が祖父母の代から地元新潟に暮らしており、「ふるさととは新潟」と回答している。
- しかしながらグループによって、郷土への愛着の度合いは大きく異なっており、特に地元大学や専門学校を選択したグループと、東京への進学を目指す高校生では、地元意識に大きな乖離があった。
- 地元の大学生・専門学校生では、消極的に地元を選んだ者も少なくはないが、大学生活が充実していることに加えて、家族とともに暮らすことの安心感や友人の存在、自然に囲まれて暮らす心のゆとりなど、生活の満足度は高い。
- 家族や学校の友人以外の活動や人的なネットワークがあり、地元のイベントにも積極的に参加するなど、地元を根を張った生活の様子がうかがえる。

## ■ 強い一人暮らしと東京への憧れ／検討初期

- 進学先の本格的な検討は高校2年生の2学期くらいから、という者が多い。
- それまでの検討初期段階では、進学先についての情報も乏しく、漠然としたイメージで進学先が考えられている。
- 一人暮らしに対する憧れは比較的共通の意識であるが、その際、選択肢としてまず最初にイメージされるのが、大学数も多く、旅行先として馴染みのある「東京」である。
- 東京には、交通インフラも整い便利な生活がある、ファッションなどのショップも多く楽しい生活が送れそう、ライブやスポーツイベントなど刺激にあふれている、などのイメージがある。
- ただし、人が多く、忙しない印象があり、実際に生活した時に馴染めるかどうか、不安もある。
- これに対し、地元に残ることの背景には、授業料や生活費の負担が少ないこと、家族とともに暮らす安心感、友人の存在などがあげられている。

## ■ 大学主体で進路の選択が行われることで、選択の幅の狭い地元は選ばれにくくなっている／本格検討期

- 高校2年生の2学期～3学期のころに進学先の検討が本格化するが、まずは学部・学科、偏差値などで進学先が具体化し、地域や暮らし方については副次的に検討されている。
- 一人暮らしを考える際に、東京は大学の選択肢も多く、その先にある就職先も選びやすい地域として地元以外の選択肢の筆頭にあげられている。
- 生活の利便性が確保されている他に、文化やスポーツ、買い物など、学生生活を多様な形で楽しめる都市としてイメージされている。
- 東京の生活環境にはネガティブな印象があり、そうした観点から、東京周辺の千葉や埼玉、仙台や石川、山梨、静岡などの地域も選択の範囲には入っているが、大学の選択肢が少ないことで選択肢からはずれていくケースが多い。
- 地元新潟でも私立大学や専門学校を選択肢は豊富だが、国公立大学は限られており、大学選択の際の選択肢は狭いと感じられている。
- 地元進学の特長は授業料、生活費などの経済的な負担が少ないこと、家族とともに住み慣れた環境で生活できること、友人の存在などがあげられている。また、地元を選択する際に、自然環境や食材のおいしさなどもプラス材料になっている。
- 半面、一人暮らしの束縛のない自由な生活はあきらめざるを得ない。
- 進学先を検討する際に、女子学生では親や教師と相談しながら意思決定を行う傾向が強く、親の意向が反映されやすい。
- 男子学生の場合には「自分で決める」とする者が多い。
- 意思決定の際のロールモデルは兄や姉、先輩などのことが多い。
- 親の生き方は参考にされるケースが少ない。

## ■ 地元での生活満足度は高く、「負け組」の意識はほぼない

- 進学先として地元を選択した者の満足度は高く、負い目は感じられていない。
- 現在の若者の特質として、お互いを否定することは少なく、互いの立場を尊重する傾向が強い。
- 都会を選択した者も、地元に残った者も、それぞれの事情を抱えており、いずれもメリットもあればデメリットもある。
- 地元に残ったものも、その選択を肯定的に受け止めており、地元での生活を楽しんでいる様子が見えてくる。

## ■ マクロな視点のPRは自分事化されにくい

### ■ 自分の生活に投影されて、はじめて関心がしめされている

- 人口減少や東京一極集中に対して危機感や不安感はあるものの、そのこと自体を自分事としてとらえるのは難しい。特に男性では「自分たちではどうしようもない」といった感想を持つ者が多い。
- それに比べると、資料②のように、実際の生活に関わるデータを紹介した方が、自分事として受け止めやすい様子が見えてくる。特に女性の場合には結婚してからの働き方や子育てに対する関心が高く、こうしたデータを示すことで「地方の暮らしやすさ」が伝わっている。
- さらに資料③のようにイラストのような形でわかりやすく表現されると、男性にもアピール力が強まっている。
- 動画「どう生きる、どこで生きる」やPopeyeの特集のように「人」が登場する表現方法は共感をよびやすい。ただし、若者の間では人それぞれの選択を尊重する傾向が強く、都会での暮らしに対してもネガティブではない。「都会よりも地方がよい」のではなく、「その土地なりのよさがあり、人それぞれの選択がある」という語り口の方が共感が得やすい。
- 新潟市のPR動画は「知らない事が結構あった」などの肯定評価もあるが、基本的には「ピンとこない」ものになっている。

## ■ 男女間で大きく異なる価値観

- グループインタビューを通じて、男女間の意識の違いが極めて大きいことが明らかになった。
- 結婚、子育てなどに関して女性の関心は高く、どこでどのように暮らすのがよいのか、高い関心が示されるのに対して、男性は学校や企業など目先の選択を優先する傾向がある。

## ■ 人生設計を持たない進学先の選定

- 現在の進学先の選定のプロセスは、まずは偏差値ありきで、どの大学なら入れるかがスタートラインになっている。
- どんなふうに生きたいのか、どんなふうに住むのが自分にとっての幸福なのかはほとんど考えられることなく、ただただ入れそうな大学が選ばれ、その延長に待遇のよい企業への就職が目指されている。
- そうした選択のプロセスから地方は取り残されている。
- 本来、地方には地方の良さがあり、そこでの生活を選択した地元学生の満足度は高い。
- 特に男性では、結婚・出産へのリアリティの欠如から、生活視点の人生設計はほぼ皆無といってよい。ただひたすらに効率的に人生が設計され、ほぼ何も考えずにそのルートの上を歩んでいる。
- そうした価値観や人生設計のあり様が、東京一極集中の問題の背景に垣間見えており、今後東京・福岡・名古屋での実査を通じて検証を行っていきたい。

## ■ 強い都市的な性格

- 対象者の多くは子どものころから福岡市周辺で育っているが、新潟と比べると他の地域からの流入も多く、北海道や中部地方から転入している者も見受けられる。
- また、九州全体の中での中核都市としての性格から、他県からの流入も見られている。
- 先祖代々土着の者が多かった新潟に比べ流動性が高い傾向が見受けられる。
- 福岡は、都市的な機能が充実しており、新潟で聞かれたような交通インフラへの不満はほとんど語られなかった。
- 福岡には天神やキャナルシティなどの繁華街もあり、商業の集積も大きい。一方で糸島に代表されるような自然に恵まれた地域も身近にあり、都市機能にも自然にも恵まれた場所として愛着が持たれている。
- 新潟のように「郷土愛」と言うほどではないが、住みやすい場所として意識されている。

## ■ 強い東京への憧れ

- 東京まで新幹線で1本の新潟に比べ、福岡⇄東京の距離感は心理的にも大きい。
- 高校の修学旅行で初めて東京に行った、とする者も多い。
- 多くは、ライブやコンサート、TDLなど、エンターテインメント目的で東京を訪れており、東京の生活のイメージは持たれていない。
- 東京にはアーティストや芸能人があふれているイメージがあり、東京に行けばジャニーズのアイドルに日常的に会えるような妄想を膨らませている。
- 「福岡の人は優しい」というアイデンティティが強い反面、「大阪は怖い」という印象を語る者が多く、都市伝説のようになっている。
- 名古屋の印象は薄く、福岡以上の都市的な生活を求めるとすれば、即東京という連想につながっている。

## ■ 濃密な人間関係

- 対象者の中では、比較的濃密な家族の関係を語る者が多く、特に母親との絆は強く意識されている。
- 生活への満足や家族・友人との関係から、高校入学段階では地元での進学を考える者も多い。
- 「自分の周りには地元志向の者が多い」という印象を語る者が多く、この点、東京の大学に進学し、そのまま東京で進学するというライフコースのイメージが強い新潟の若者とは大きく環境が異なっている。
- 東京の大学を志望している高校生のグループでは「こんなふうには東京の大学を志望する仲間が集まって話が聞ける機会は珍しい」という感想が聞かれた。
- 一人暮らしへの憧れを語る者は他地域での調査ほどは多くはなかった。

## ■ 進学先検討のプロセスで強く反映される家族との関係

- 高校の教員と進学先を相談する中で、選択肢を広げて検討するよう指導されるケースが多く、こうしたプロセスで東京の大学を候補に加えていく。
- 修学旅行で東京に行ったり、東京の大学に進学した先輩の話を聞くなど、学校行事の中で東京との接点が作られていくケースも比較的多く見受けられた。
- 東京にいる兄や姉、従兄妹、親戚などの存在は、東京へのハードルを下げている。
- 地元大学生の進学先検討のプロセスで目立っていたのは親との相談で、家族との関係や経済的な負担を理由に地元大学を選択する者が目立っている。
- 親の側からも経済的な負担が重いことを明確に口にする者も多い。
- 相手の気持ちを慮りながら進学先が決定していく新潟に比べ、福岡では親子での率直な話し合いが持たれている様子が見える。
- この場合登場するのは主に母親で、父親の影は薄い。



## ■ 仕事を生きがいにするなら東京、暮らしに重点を置くなら福岡

- 就職を考える際に、企業の選択肢が多いのは東京、というイメージが強く持たれている。
- 就きたい職業は東京にしかない、とする者も多く、進学先の場所に関わらず、就職の段階で東京を意識する者が多い。
- 「東京の人はバリバリと仕事をしているイメージ」などが語られることが多く、やりがいのある仕事を志向するなら東京、というパーセプションが持たれている。
- 一方で、東京は暮らしにくそう、というイメージは強く、生活に軸足を置くなら福岡で、と語る者も多い。
- 関西には「仕事のやりがい」のイメージは希薄で、関西と比較するなら福岡の方がよい、とされている。
- 将来、結婚や子育てを考えるなら福岡に戻りたい、という者も多く、特に子育ての環境としては福岡がよい、とされている。

## ■ 福岡は住みやすい場所、そのことが数字では伝わらない

- 福岡にはインバウンドの入込も多く、福岡市内にいる限りは人口減少や日本の衰退に対する危機感は希薄で自分事化しにくい、と感じられている。
- 東京との生活環境を数字で比較した資料については、福岡の数字が思いのほか東京に近く、そのことに意外性が持たれていた。生活実感としては福岡は暮らしやすい、と感じられており、生活の質が数字だけでは伝わらないことが示唆されている。
- 一方、住宅環境を図示している資料に関しては違いが分かりやすい、と考えられている。
- 動画に関しては、人と人との絆が感じられることで好感がもたれている。東京で一人暮らしをしたら寂しさが募ることもあるだろう、という連想は男女を問わず持たれていて、距離感が強く意識されている。
- 地元大学を選択した大学生ではインターンシップの情報や奨学金は魅力的なものに映っているが、東京を志向する高校生にとっては意向を変更する材料にはならない、とされている。

## ■ ローカルな性格を持つ大都会・名古屋

- 対象者の多くは子どもの頃から名古屋およびその周辺で育っており、両親や祖父母の代から地元に着している者が多い。
- 域内での流動性もさほど大きくはなく、子どもの頃から同じところで育ったという者が大半を占めた。
- 愛三岐、静岡や長野など中部圏の中核都市の性格もあり、両親のうちのどちらかがそうした地域から名古屋に流入し結婚したというケースも見られている。
- 東京・大阪の中間的な位置にあり、身近な大都市としては東京だけでなく大阪も名前があがっている。
- 福岡では大阪に対してやや拒否反応が見られたが、名古屋では比較的好意的な反応が多かった。反対に東京に対しては福岡で見られたような幻想に近いイメージは乏しく、「憧れの大都会」というレベルになっている。
- 自らの帰属する地域としては名古屋の他、みよし、一宮、あま、大治、津島など暮らしている地域をイメージする者が多く、地域のコミュニティを意識する傾向が強い。
- 「愛知県」というアイデンティティの形成はほぼなく、自分が暮らす地域へのアイデンティティが強い。
- 名古屋については「程よく住みやすいところ」と評価しており、それなりに愛着は持たれているが、特段誇れるものもなく印象の薄い地域というイメージが強い。
- TDLやUSJのようなシンボリックなエンターテインメント施設もなく、遊ぶ場所が少ない、刺激がない、飽きる、といったネガティブな印象が強い。
- 手羽先や味噌煮込みうどんなど独特の食文化があり、独自の生活文化が色濃い地域ではあるが、圏外の者に対して特段自慢することもない平凡な地域、と考えられている。

## ■ 学費・生活費に見合う価値があるか、という視点で検討が行われる傾向が強い

- 高校進学段階では、地元での進学を志望する傾向が比較的強く、周囲の友人も同じように考える者が多い、とされている。
- 特に具体的に学びたいことが見つからなければ、自宅から通える地元の大学や専門学校で十分、といった考え方が根強い。
- 一方、県外への進学を考える者は、東京だけでなく大阪・京都など関西圏も視野に入れながら、候補先を検討している。
- 検討の過程で学費や生活費など、経済的な負担を織り込みながら検討を行う傾向が強く、「それだけのお金をかける価値があるか」といった評価の基準は地域の価値観を反映しているものと考えられる。
- 進学先の検討プロセスで、親が関与する傾向が強く、特に経済的な負担に耐えられるかどうか、について話し合われるケースが多い。
- 男女に関わりなく、親の意向を受け入れる傾向も強く、「許してもらえた」「許してもらえなかった」などの発言も多かった。親の意向に対して自分の意向を通すケースは少なく、比較的従順にしたがっている。
- 関係人口という観点では、兄や姉、親戚などの他に、先輩の存在も大きく、具体的なアドバイスを素直に受け止める者が多い。
- また趣味のつながりなどで、SNSを通じて進学の情報を交換するケースも見られ、広域の情報交換が行われている。

## ■ 就職・結婚・子育て・介護などのライフコースを意識すると地元で暮らすのが良い

- 就職のイメージは漠然としており、東京で進学したら就職も東京で、地元で進学したら就職も地元で、といった考え方が根強い。
- しかしながら、地元にも有力な企業が比較的多いこと、地元経済が比較的好調であることなどから、「地元でもよい」とする者も多かった。
- 就職の先の結婚、子育て、親の介護など、日常的には意識されることは少ないが、そうしたことを考えると地元で就職するのがよい、という考え方が強まっている。
- 特に子育てについては親のサポートが必要だし、介護が必要になったらすぐに対応できるように親の傍にいたい、という意識は男女ともに見られている。

## ■ 将来の生活のことを考えると、東京は暮らしにくそう


- 日本の人口減少や東京一極集中については、身近なところで意識することもあり、問題だとは思いますが、実効性のある対策は難しいし、まして自分自身でどうこうできることではない。
- 子育てや住まいの統計的な比較では、愛知県のランクが低く、東京と大きく変わらないことに驚きを持たれている。地元での住みやすさは統計では表しきれない、と考えられている。
- 東京の住まいは狭いだけでなく、駐車場料金なども高く、生活費が総じて高いことが実感されると、「あえて東京で暮らす必要はないのではないか」という感想が聞かれた。特に、結婚してからの東京の暮らしは想像以上に大変そう、というイメージを持たれている。
- 東京の暮らしは孤独で寂しそう、というイメージも持たれており、「こっちは元気だ、東京はどうだ。」の映像は、そうした連想を強めている。
- やりたいことに取り組むことのできる地方の暮らしは、憧れや理想ではあるが、やりたいことが見つからないうちは難しい、という印象が持たれている。また、不便な田舎暮らしは受け入れにくい、という感想も多かった。

## ■ 地方出身の大学生の意識

- 地方出身の大学生でも、郷土愛は強く、豊かな自然や穏やかな暮らしが愛着が持たれている。
- 地方にいても東京に関する情報は多く、東京への心理的な距離は近い。
- 交通網の発達で時間距離も近いことから、東京は身近な都会になっている。
- 東京にはヒト・モノ・情報などすべての集積があり、多様性に富んでいる。大学も企業も集中しており、進学や就職の選択肢が多い。
- CVSなどの生活インフラも整っていることから、一人暮らしになっても不安はない。
- 地方出身の大学生は、新潟調査での「東京の大学を志望する高校生」の延長で、基本的な考え方は変わっていない。
- 進学先の選択のプロセスでは、大学や専門学校を選択する過程であり、地域やそこでの暮らしはほとんど考慮されていない。
- 上記の観点から、学校数が圧倒的に集中している東京に進学先が絞り込まれ、この間にこれをとどめる力はほとんど働いていない。
- 学校や塾も首都圏の有力大学の合格を競い合っており、偏差値の高い高校ほど、東京集中を加速させる傾向が強い。
- 親もこうした価値観を同様に有しており、地元に残ることを薦めることは少ない。
- 経済的な負担についても比較的寛容で、子どもの可能性を広げてあげたい、と考えている。
- 就職についても同様の考え方で、東京の大学→東京での就職、というコースはほぼ規定の路線となっている。
- 特に、都会暮らしの利便性や刺激にいったん馴染んでしまうと、手放すことはできないと感じられている。
- ただし、結婚や子育てなど、家族の環境が変わると、東京は必ずしも暮らしやすいわけではなく、特に子育ての際には地方の暮らしも意識されている。
- この傾向は男性よりも女性で圧倒的に強く、身近な問題として意識されている。
- 地元の衰退を身近に意識する者が多く、東京一極集中は大きな問題、とされている。
- ただし、自分事化されやすいの生活まわりの情報であり、呈示資料②、さらには③の方が実感がわきやすい。
- 動画に関しては「東京にいる自分たちへのエール」として受け止められており、「東京で頑張ろう！という気持ちになる」という者が多かった。

## ■ 東京出身の高校3年生の意識

- 東京出身の高校生にとって地方の情報に触れる機会は少なく、関心も高くはない。
- ただし、地方からの転入者や、祖父母が地方出身で、両親の帰省先になっている場合などは地方暮らしを身近に感じており、地方との心理的な距離感は本人のバックグラウンドによって異なっている。
- 地方のイメージは自然や、静かで穏やかな生活で、東京にはない良さがあると認識されている。
- 高校入学段階で、地方大学への進学はほぼイメージされておらず、自宅から通える大学や専門学校への進学が考えられている。
- ただし、一人暮らしへの願望は比較的強く意識されている。
- 進学先の情報収集の過程で、地方大学や専門学校が意識されるようになり、選択肢の一つとして比較検討されるようになる。
- 国公立大学を志望する場合は、地方大学は有力な選択肢であり、志望校として最後まで残る可能性が高い。
- また、そこにしかない学部・学科で選択されている場合には、受験期まで選択肢の中にとどまっていく。
- 反対に、首都圏にも同様の学部・学科がある場合には、経済的な負担を軽減するなどの観点から選択肢から外れていくケースが多い。
- 就職については具体的なイメージを持っているわけではないが、東京での就職を考える者が多い。
- 東京には企業が集中するだけでなく、仕事のやりがいや給与の水準から考えても、東京での就職が有利と考えられている。
- 結婚や子育てについての考え方で男女間の格差が大きいのは他のグループと同様。特に男子高校生では結婚・子育てのリアリティは希薄である。
- 人口減少や東京一極集中については、自分事としての危機感は感じられていない。
- 生活関連の統計や資料を見ると、地方暮らしの良さと東京の暮らしにくさが実感され、地方の生活に目が向くようになる。
- 動画像に関しては男女ともに好感度が高く、地方の暮らしの良さが伝わるとされている。
- 同様にPopeyeの特集に関しても、地方暮らしのライフスタイルに共感されている。



## ■ 広報アプローチ案【一次仮説】

## ■「イベント」及び「グループインタビュー」から、地元定着・将来的なUターン促進に向けての示唆

### イベントからの示唆

- 関心の高い、面白いと感じるテーマ設定が参加率を高める。
- 参加することにより、イベント内容への評価が高まる。
- 参加することにより、地元への残留意向が高まる。
- レクチャー形式より、ワークショップなどコミットが高いイベントが満足度が高い。
- コミットが高いイベントの方が地方創生貢献意欲が高い。



### ● 施策の方向性

SDGsを始めとした**若い頃に地元について考える機会を提供**そのため「刺さる内容」で集客し、「ワークショップ」等のインタラクティブで参加型の施策で地方定着について「自分ごと化」させる。

### グループインタビューのファインディングスからの示唆

- 地方暮らしの可能性
  - ①「進学、就職の視点からは東京が選ばれる」 → 住みやすさからは地方暮らしが選ばれる
- タイミング
  - ②「高校2年に、地方への視野も広がる」 → **高校2年より前に**施策展開が必要
  - ③「一旦東京に出ると、呼び戻すことは困難」 → **東京に出る前に**施策展開が必要
- 施策の条件
  - ④「偏差値モノサシになると、東京に集中」 → **偏差値モノサシ以外を差し込む**必要性
  - ⑤「一般論を提示して、若者には響かない」 → **自分事化する**施策が必要



### ● 施策の方向性

⑥「生き方について考える機会が効果的」  
**若い頃に将来の生き方について同世代の人と議論する機会を提供**

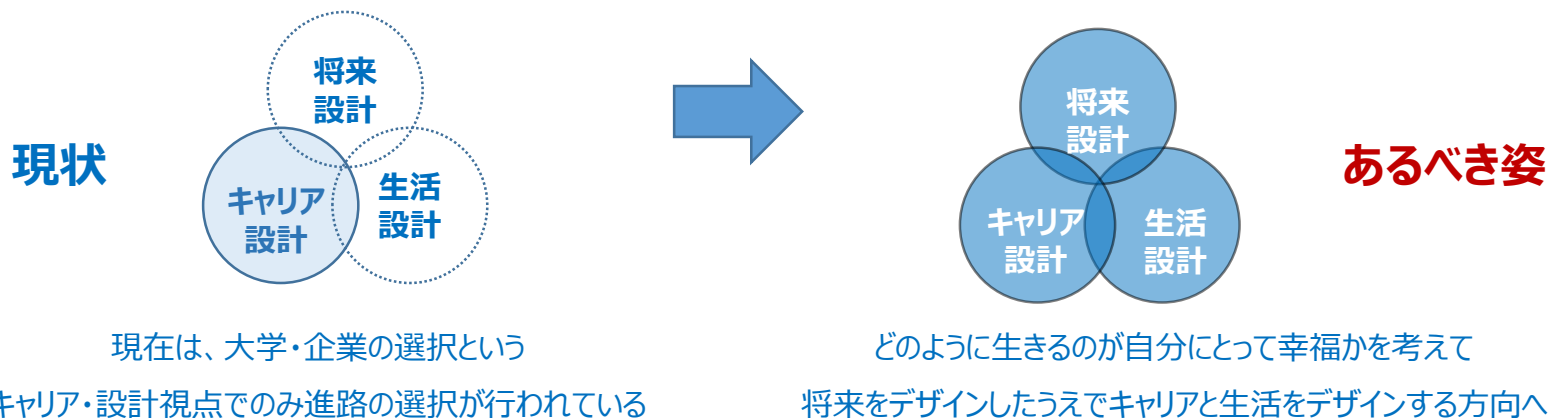
「地方暮らし」の住みやすさは認めつつも、目の前の進学・就職を考えると東京が選択されている  
一旦は地方も視野に入るものの、偏差値モノサシが入ると東京が選択される。  
その前に、偏差値以外のモノサシを差し込み、「地方暮らし」を自分事化させることが求められる。

そのために効果的なのは、

**地元について考え、自分の将来の生き方を考える機会の提供。**



従来の、偏差値偏重の進路決定であったことが、若者の東京集中に大きく影響していたものを「人生・設計」「キャリア・設計」「生活・設計」という3つの視点を加えた施策により、長い人生に向けて、本当に幸せな選択を加速していく



上記の考え方から、進路の選択をサポートするために、

- 若い頃に、**地元**について考える機会の提供
- 若い頃に、**自分の将来の生き方**について考える機会の提供  
をサポートしていく。

その実現のためには、「刺さる内容」で集客し、ワークショップ等のインタラクティブで参加型の施策により、同世代の仲間と議論する機会を提供し、地方居住や地方で働くことについて「自分事化」していく。  
最終的に、一人ひとりの幸福度を高めるとともに同時に、地域社会の持続性を高めていくことを目指す。

## 目的：地元定着・将来的なUターン意向の向上

地方に住む若者（中学生～高校2年）に対し、地方暮らしへの受容性を高め、地元定着意向、将来的なUターン意向を高め、東京一極集中の解消に寄与する。

### 方向性1 （グループインタビュー型）

- **自分の将来に向け、長い視野での生き方を考える機会**を提供する。  
同世代の仲間と議論できる場を設定する。

### 方向性2 （アイデアコンテスト型）

- **地元について考える機会**を提供し、故郷の良さを再確認し、地元愛を高める機会とする。  
地元での生活、地元企業への就職、地元での職業、地域とのつながり等を自分に当てはめて考える機会を提供する。  
知識の付与ではなく、自ら考え、自ら地元の良さを探索するような施策とする。

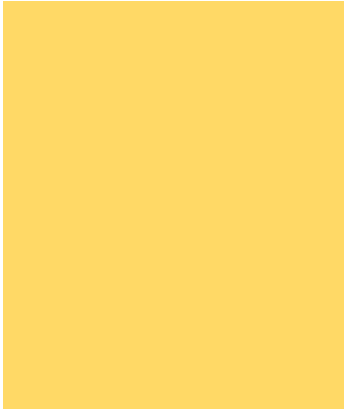
## 付与すべき要素

上述の「機会」は、普通の若者には「関係ない」と思われる可能性があるため、以下によって誘引する。

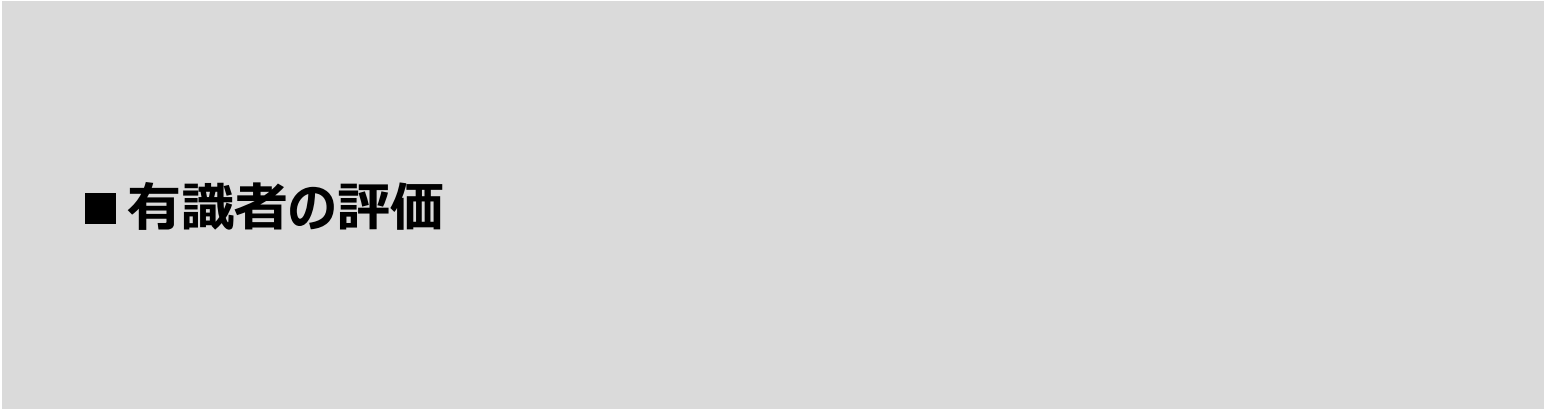
- **若者が魅力を感じる著名人・テーマ設定、参加して得られる具体的なメリット**の提示。
- **先生や親等の大人経由**で、参加の呼び掛け。

## 方策：参加型

ワークショップ等の**インタラクティブ**で、**参加型の施策**とする。



## ■ 有識者の評価



■ 有識者ヒアリングは以下の通り実施

<p><b>土屋 有 氏</b></p>	<p>宮崎大学地域資源創成学部講師 (株)カヤックLiving代表取締役</p>	<p>在鎌倉のカヤックLivingは、地方自治体と移住検討・希望者とのマッチングサイト「smout」を運営する企業。宮崎に移住し宮崎大学で地方創生を教えると共に、日南市ローカルベンチャープロデューサーとして移住者の創業を支援。</p>	<p>2020年1月22日 宮崎大学にて実施</p>
<p><b>武田佳奈 氏</b></p>	<p>野村総研未来価値研究室 上級コンサルタント</p>	<p>野村総合研究所に入社後、官公庁の政策立案支援、民間企業の事業戦略立案や新規事業創造支援などに従事。専門は、女性活躍推進や働き方改革などの企業における人材マネジメント、保育や生活支援関連サービス産業など。</p>	<p>2020年1月23日 野村総研にて実施</p>
<p><b>伊藤淳司 氏</b></p>	<p>NPO法人ETIC.ローカルイノベーション事業部事業部長</p>	<p>NPO法人ETIC.にて、主に関係人口・移住を生み出すためのプログラム作りを担当。</p>	<p>2020年1月23日 ETICにて実施</p>
<p><b>御手洗瑞子 氏</b></p>	<p>(株)気仙沼ニッティング代表取締役社長 気仙沼高校学校評議員</p>	<p>マッキンゼー・アンド・カンパニー を経て2010年から約1年、ブータン政府で観光産業の育成に携わる。(株)東京糸井重里事務所で気仙沼ニッティング・プロジェクトリーダーに就任後、(株)気仙沼ニッティング 設立。</p>	<p>2020年1月28日 気仙沼ニッティングにて実施</p>
<p><b>矢田明子 氏</b></p>	<p>Community Nurse Company(株) 代表取締役</p>	<p>出身地の島根県雲南市と東京を拠点に、コミュニティナース（病院に所属せず、地域の中で健康的なまちづくりを目指す医療人材）の活動を行う看護師・保健師。ローカルチャレンジャーの起業を支援する「おっちらボ」の創業者でもある。地方創生ワカモノ会合in岡山にて講演。</p>	<p>2020年2月6日 元麻布にて実施</p>

■ ヒアリング内容

- ①「フォーラム」やそこでの「会場アンケート」結果、「グループインタビュー」の結果をお聞きになってのお気づきの点。
- ②東京一極集中の背景にある若者の意識や行動についてのご意見。
- ③広報アプローチ案に対するご意見。
- ④若者に対して今後とるべき有効なアプローチ方法、コミュニケーションについてのご意見。
- ⑤若者へのアプローチで成功しているとお考えの事例。

■ 基本的考え方：

- ・構造的な問題が大きく、広報施策だけでは解決しにくい、**進学前、地元に住んでいる学生をターゲット**とすることは正しい。
- ・地元定住、将来的なUターン促進だけでなく、**関係人口の促進**を含めた方が現実的。
- ・彼らには、地元のよさをアピールするのではなく、**地域で暮らす、幅広く多様なロールモデルを示すことが重要**。
- ・様々なロールモデルに触れさせることで、仕事だけでなく、暮らし全体を考えることに早期に気づかせること、  
それを通して自分の人生は自分で切り開いていってよいのだと気づかせること、が重要。

■ ターゲット：・多くの**中高生が無理に東京に行かず、地元定着への意識変革を狙う**。


- ・さらに一旦東京進学した後も、**将来のUターン、関係人口化を狙い、引き続きアプローチを続ける**べき。
- ・地方での生活に対する固定観念の強い**大人たち**の意識改革も必要。

■ 広報施策：・**地域における多様な生き方のロールモデルを提示**し、普通に働きたい人の受け皿を示す。

(短期的) ・移住型だけでなく、**関係人口として域外で活動するロールモデルも呈示**する。

- ・地域で正義感をもってきちんと暮らしている人、歳の近い同じ感性を持つ人が、失敗も含めてリアルに語り、共感させる。
- ・ロールモデルの呈示の仕方は、**事例紹介ではなく、対面での対話型**のものが効果的。
- ・**インターンで経験**させることも効果が高い。
- ・自分の場合に当てはめて「考えさせる」ことが重要なので、**事例を分析し、問いかけるファシリテーターが必要**。

(継続的) ・**SNS等で継続的につながり続け**、「地域に居場所がある」と感じさせる。



## ■ 広報アプローチ案【修正案】

## 目的：地元定着・将来的なUターン意向、および、関係人口への興味の上昇。

地方に住む若者に対し、地方暮らしへの受容性を高め、地元定着意向、将来的なUターン意向、関係人口への興味を高め、東京一極集中の解消に寄与する。

## 課題：早期に若者に気づきを与える。

**地元を捉えなおし、地元と自分の向き合い方を考える機会**を与える。

自分の将来に向けて**長い視野での生き方を考える機会**を与える。

- ・「仕事」だけでなく**「暮らし」全体を考える**。という視点に気づかせる
- ・自分の人生を、先生や親ではなく、**自分で切り開くことができる**ということに気づかせる

## ターゲット：メイン＝地方に住む**中学生～高校2年(夏前)**

(併せて、その中高生の両親(都会対田舎の固定観念が強く、大学へ、東京へ行くべきと考えてる)にも訴求)

サブ＝東京に出た後の地方出身者(のフォロー)

(東京の大学に進学した地方学生、東京の企業で専門スキルを身につけた20代)

## 施策の基本方針：「多様なロールモデル」を示し、経験させ、自分事化させる

**ターゲットの興味をひく「多様なロールモデル」を示し、経験させ、自分事化して考えさせる**ワークショップやインターン等の**インタラクティブで、参加型の施策を実施する**

その後、継続的につながり続け、地域から求められている。地域に居場所がある。と感ずることができる施策。

### ■ 地方ならではのやりがいを感じられる仕事のモデル：普通の人が普通に働いている姿

- ・インターネットにより、**普通の仕事**が場所を問わず実現でき、それどころか、家賃、物価を考えると東京よりも地方の方が良い。
- ・都会と異なり、**お客様との距離が近く、より求めていることを提供できている**という実感が感じられる。

### ■ 地域への貢献を感じられるモデル：関係人口的な貢献も含めたモデル

- ・自分の住む**地域のために、仕事を役立てることができる**喜び。
- ・都会に住みながら、**愛する故郷について、それまで培ったスキルを活かして貢献**できる喜び。

### ■ プライベートの時間が充実しているモデル：地方ならではのゆったりした時間の中で穏やかに過ごしている

- ・通勤時間が短く、自分のペースで生活できる。自分の**趣味の時間がたっぷりとれる**。
- ・（場所によるが）利便性もあり、自然が近くにあり、**いつでも自然の中で解放感に浸れ**、ストレスを感じない。

### ■ 家族との時間が充実している生活のモデル：家族との時間を持ち、楽しめ、生きがいを感じている

- ・**子供が当たり前**に自然に触れ合い、たくましく、かつおおらかな子供に育てることができる幸せ。
- ・**家族との時間、子供との時間をたっぷりと取れ**、一緒に遊んだり、食事をしたり、四季のイベントをしたりする時間が取れる幸せ。

× あまりにも成功した起業事例など、キラキラして凄いいけれど、自分との距離を感じさせる事例や、趣味が活かされているが、特殊すぎて自分に関係ないと感じさせる事例



### 方向性1 (ワークショップ型 <グループインタビュー型の発展形>)

- 関係人口による貢献も含め、縁遠い成功モデルだけでない、**多様なロールモデルに触れる機会**とする。  
ファシリテーターがそれぞれのモデルを解釈し、問いかけ、グループワークにより同世代の人と議論する中で自分事化していき、仕事だけでなく、**自分が「地元で暮らす」「貢献する」というこということをリアルに考える**施策とする。

※参考：地方創生ワカモノ会合inつくば p20～

※参考：地方創生ワカモノ会合in札幌 p44～

### 方向性2 (アイデアコンテスト型)

- **地元について考える機会**を提供し、故郷の良さを再確認し、地元愛を高める機会とする。  
地元での生活、地元企業への就職、地元での職業、地域とのつながり等を自分に当てはめて考える機会を提供する。  
知識の付与ではなく、自ら考え、自ら地元の良さを探索するような施策とする。

※参考：地方創生ワカモノ会合in名古屋 p57～

### 方向性3 (継続的につながり続けるSNS型)

- 方向性1～2への**参加者(域外に出た人も含む)とのコミュニティをSNS上に作り、継続的な会話を続け、暮らし全体のことを考えるように視野を広げる**。必要に応じて地元へ貢献している実際の事例を紹介したり、自治体の支援施策やNPOの紹介、マッチングプラットフォーム等を紹介し、将来の地方回帰に向けての意向を高めていく。

#### 付与すべき要素

上述の「機会」は、普通の若者には「関係ない」と思われる可能性があるため、以下によって誘引する。

- **若者が魅力を感じる著名人・テーマ設定、参加して得られる具体的なメリット**の提示。
- **先生や親等の大人経由**で、参加の呼び掛け。



■ 理解促進に向けた周知資料



# 地方創生ワカモノ会合 開催実施レポート

地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる  
地方創生ワカモノ会合、全国8か所で開催

地方創生

内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局  
〒100-8968  
東京都千代田区永田町 1-6-1 中央合同庁舎第8号館  
電話番号 03-5253-2111

内閣府 地方創生推進事務局  
〒100-0014  
東京都千代田区永田町 1-11-39 永田町合同庁舎 6,7,8F  
電話番号 03-5510-2151



## INDEX

地方創生ワカモノ会合 In 新潟 スマート農業で、地域は変わる……………4

地方創生ワカモノ会合 In 福岡 ファイナンス × スタートアップで、地域は変わる……………5

地方創生ワカモノ会合 In つくば ICT で、地域は変わる 未来のまちを考えよう!……………6

地方創生ワカモノ会合 In 長野 環境 × 観光で、地域は変わる……………7

地方創生ワカモノ会合 In 松山 働き方改革 × 起業で、地域は変わる……………8

地方創生ワカモノ会合 In 札幌 観光で、地域は変わる……………9

地方創生ワカモノ会合 In 岡山 ヘルステックで、地域は変わる……………10

地方創生ワカモノ会合 In 名古屋 SDGs で、地域は変わる……………11

SDGs まちづくりアイデアコンテスト表彰式&豊田市のSDGs公開授業



## 総括

## 1 開催趣旨

「地方創生ワカモノ会合」は、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局と内閣府地方創生推進事務局が、G20 関係国総会合が行われた全国8か所にて開催自治体（または周辺自治体）と連携し、各会合に近いテーマで開催したイベントである。

若者に対する地方創生の啓発を目的に「地域で活躍する、地域を元気にするヒントが見つかる」をコンセプトとし、イノベティブな考え方・やり方を取り入れれば、地域の未来は明るくなる、自分にも何かできるという「気づき」を持ち帰ってもらうために開催した。

## 2 開催概要

NO	都府	日程	テーマ	形式	内容	参加人数	総社数	
1	新潟	5月25日	スマート農業で、地域は変わる	講演 +パネルディスカッション	農産物におけるスマート農業の現状、その課題、今後の活用可能性等セミナー形式で紹介。実際にスマート農業の体験や産後への実際に取り組んでいる方からのその経験内容についてご講演いただいた。	248名	5社 11社	
2	福岡	6月1日	ファイナンス × スタートアップで、地域は変わる	講演 +パネルディスカッション	起業した若者・企業を支援する者に向けたセミナーを開催。事例発表、パネルディスカッションでは、課題で起業した方やスタートアップを支援している方から、経験・教訓を御講演いただいた。	62名	10社 18社	
3	つくば	6月30日	ICTで、地域は変わる 未来のまちを考えよう!	ワークショップ	ドローンやAIなどの先端技術を活用し、グループで地域課題を解決する新しい課題や提案を考えた。未来の暮らしを想像するアイデアソンワークショップを行った。	84名	2社 2社	
4	長野	7月13日	環境 × 観光で、地域は変わる	講演 +パネルディスカッション	自然環境の地域資源を生かしたツーリズム振興についてのセミナーを開催。事例発表等では、観光振興や地域の魅力の発信・発信に取組む方から、その経験についてご講演いただいた。	142名	1社 1社	
5	松山	8月4日	働き方改革 × 起業で、地域は変わる	講演 +パネルディスカッション	新しい働き方に関する若者に向けたイベントも含めセミナー形式で開催。パネルディスカッションでは、地域と共創する働き方を実践している方から、その経験についてご講演いただいた。	237名	3社 3社	
6	札幌	8月27-28日	観光で、地域は変わる	講演 +グループディスカッション	「観光」をテーマにした事例発表の後、北海道への観光客を増やすためのアイデアを考えるグループディスカッションを行った。	313名	11社 14社	
7	岡山	9月29日	ヘルステックで、地域は変わる	講演 +パネルディスカッション	健康・医療技術のテクノロジー、活用事例についてのセミナーを開催。事例発表、パネルディスカッションでは、ヘルステック企業の方や、健康分野で地域活性化に取り組む方から、その経験内容についてご講演いただいた。	105名	2社 2社	
8	名古屋	11月9日	SDGsで、地域は変わる	コンテスト表彰式・発表 +公開授業	全国の中学生・高校生から募集した「SDGsまちづくりアイデアコンテスト」の表彰式を行い、優秀作品に選ばれた5作品の体験によるプレゼンテーションを開催した。	168名	7社 19社	
(総人数) 合計							1,379名	41社 70社

「地方創生ワカモノ会合」開催場所



## 3 開催結果

各会場において来場者にアンケートを実施し、地方創生に関する理解度やイベントによる地元への定着意識の向上について調査を行った。結果は以下のとおりである。

- ・参加者の年齢 10代～30代 58.3%
- ・イベント全体の満足度 5段階評価 満足計 91.7%(満足 51.8%、やや満足 39.9%)
- ・イベントに参加したことで、今後地方創生活動に興味を持ちたいと思った 90.1%
- ・イベントに参加したことで、地元で、働くことへの関心・意欲が高まった 67.2%

## スマート農業で、地域は変わる

in 新潟

日時：2019年5月25日（土）  
13:00～15:30（開場 12:30）

会場：新潟市民プラザ  
（新潟県新潟市中央区西堀通 6 番町 886  
NEXT21 ビル 6 階）

主催：内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局  
内閣府 地方創生推進事務局

共催：新潟県、新潟市  
協力：農林水産省

参加者数：248名



### イベント開催概要

前半では、ビッグデータの活用、IoT システムの導入による「経験と勘」に頼らない農業、ICT の農家への導入、温度管理センサ等を活用した産直りと、国内外の観光客を対象とした産直りツアーの取組など、スマート農業に関する事例が紹介された。

後半のパネルディスカッションでは、生産側のスマート化だけでなくフードチェーン全体のスマート化の必要性や、IoT や ICT の導入により地方から直接世界マーケットへと繋がるものづくりへの期待など、若者に農業分野への関心を持ってもらえるようなスマート農業の可能性・今後の広がりについて議論が交わされた。また、新しい技術を活かすとともに地域にしかないものを磨き続けることが重要だと伝えられた。

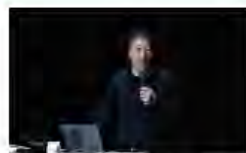
### 当日プログラム

- 開会挨拶
  - 片山 さつせ（まち・ひと・しごと創生担当大臣）
  - 清口 洋（新潟県副知事）
  - 中原 ハー（新潟市長）
- 地方創生に関する説明
  - 川合 靖洋（内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局次長）
- 取組事例紹介
  - パネルディスカッション
  - パネリスト
  - 進行 庄司 由加（フリーアナウンサー）
- 閉会挨拶
  - 川合 靖洋（内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局次長）

### 会場風景



■ 取組事例紹介・パネリスト  
野口 伸  
（北海道大学大学院農学研究院 副院長 教授）



■ 取組事例紹介・パネリスト  
小池 聡  
（ベジタリア株式会社 代表取締役社長）



■ 取組事例紹介・パネリスト  
瀬口 りか  
（日本電産電機株式会社 研究企画部門  
食農プロデュース担当 / アグリカル 001）



■ 取組事例紹介・パネリスト  
尾田 留美子  
（尾田建設株式会社 専務取締役）



※開催中は敬称略。写真はイベント当日のものになります。（以下同）

## ファイナンス × スタートアップで、 地域は変わる

in 福岡

日時：2019年6月1日（土）  
13:20～16:20（開場 12:50）

会場：Fukuoka Growth Next  
（福岡県福岡市中央区大名 2 丁目 6 番 11 号）

主催：内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局  
内閣府 地方創生推進事務局

共催：福岡市  
後援：福岡県、金融庁

参加者数：82名



### イベント開催概要

基調講演では、社会にイノベーションを起こすのがベンチャー企業の使命であり、それは適切な科学技術と繰り返し努力する試行の掛け算によって初めて成功するというメッセージが送られた。その後、IoT 技術やスタートアップ施設を活用した起業に関する事例とともに、テックノロジーを導入した新たな金融システムや女性の起業支援に関する事例が紹介された。

後半のパネルディスカッションでは、スタートアップにとっての情報や人と人との繋がり大切さや、地域資源や特色を活かしてしっかりビジネスプランを練る重要性を伝えつつも、一番大切なのは自分が本当にやりたいことを信じてチャレンジし続けることであると若者にエールが送られた。

### 当日プログラム

- 開会挨拶
  - 片山 さつせ（まち・ひと・しごと創生担当大臣）
- 基調講演
  - 地方創生に関する説明
  - 辻 庄市（内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長）
  - 福岡市長挨拶
  - 高島 宗一郎（福岡市長）
- 取組事例紹介
  - パネルディスカッション
  - パネリスト
  - 進行 飯塚 仁美（フリーアナウンサー）
- 閉会挨拶
  - 辻 庄市（内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長）

### 会場風景



■ 基調講演  
出雲 充  
（株式会社ユグレナ 代表取締役社長）



■ 取組事例紹介・パネリスト  
栗元 肇一  
（株式会社 Nayuta 代表取締役）



■ 取組事例紹介・パネリスト  
谷口 紗高子  
（株式会社 ryans 代表取締役社長）



■ 取組事例紹介・パネリスト  
赤井 輝雄  
（株式会社ナウキャスト 取締役会長）



■ 取組事例紹介・パネリスト  
河野 祐一  
（福岡ひびき信用金庫 ソリューションセンター 管理役）



※開催中は敬称略。写真はイベント当日のものになります。（以下同）

## ICTで、地域は変わる 未来のまちを考えよう!

in つくば

日時：2019年6月30日(日) 13:00～16:30(開場12:30)  
会場：つくば国際会議場 中ホール300  
(茨城県つくば市竹園2丁目20番3号)  
主催：内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局  
内閣府 地方創生推進事務局  
共催：つくば市  
後援：茨城県  
協力：総務省、外務省、経済産業省  
企画協力：CANVAS  
展示協力：つくば科学万博記念財団

参加者数：84名



### イベント開催概要

参加した子供達は、ドローンやAI、VRなどの先端技術を用いた事例を通して学習した後、グループに分かれて「未来の暮らしを良くする新しい道具」をテーマに、地域課題を解決する新しい道具や仕組みを考え、未来の暮らしを提案するアイデアソンワークショップを行った。

発表では高齢者や体の不自由な人、外国人、様々な人々の抱える問題への解決策や、より便利で楽しい街にするための道具やシステムなど、子供ならではの斬新なアイデアがたくさん紹介された。審査員からは「社会が求めるニーズを的確に捉えていたと思う」「科学技術はいろいろな人の力や知恵を繋ぐことが大切」といったコメントが送られた。

### 当日プログラム

- 開会挨拶  
稲山 博司 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 地方創生総括官)  
五十嵐 立博 (つくば市長)
- フォトセッション
- 地方創生に関する説明  
高橋 文昭 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)
- グループワーク  
・オープニング ワークショップの説明 ・アイスブレイク グループごとに自己紹介  
・イントロダクション 事例紹介 ・グループワーク 未来の道具を考えよう!
- 発表  
・グループでまとめたアイデアを発表
- 講評  
石井 琴々子 (CANVAS 代表/慶應義塾大学教授)  
川島 宏一 (つくば市顧問/筑波大学システム情報系社会工学科 教授)
- 閉会挨拶  
高橋 文昭 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)

### 会場風景



グループ①  
「だれでもゆたかにつながる  
しんせつな町」



グループ②  
「便利で安全なまち」



グループ③  
「すべてがそろうまち」



グループ④  
「New Science City」



グループ⑤  
「ユニバーサル × 思いやり  
=フューチャーシティ」



グループ⑥  
「ラクすぎる町」



グループ⑦  
「みんなが楽しく便利な街」



集合写真

## 環境 × 観光で、地域は変わる

in 長野

日時：2019年7月13日(土)  
13:00～16:00(開場12:30)  
会場：長野市芸術館 アクトスペース  
(長野県長野市大字鶴賀緑町1613番地)  
主催：内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局  
内閣府 地方創生推進事務局  
共催：長野県  
後援：環境省、観光庁、長野市

参加者数：142名



### イベント開催概要

基調講演では、東京より地方の方が自由度が高くやりがいのある仕事があり、ローカルにこそ伸びる可能性や最先端が広がっていると発言があった。事例紹介ではローカルの魅力に関する情報発信や観光振興に取り組み方々から、自然環境等の地域資源と、住民、観光客を繋ぐそれぞれの取組が紹介され、地方にはたくさんの宝物があると伝えられた。

後半のパネルディスカッションでは、地域資源を生かしたツーリズム振興が地域の魅力を発信するきっかけになると同時に、地域住民にとっての地元の魅力の再認識に繋がるといった意見が交わされた。自分の好きなものを見つけて情熱を持って継続して取り組むことが大切だとエールが送られた。

### 当日プログラム

- 開会挨拶  
多田 健一郎 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 地方創生総括官補)
- 基調講演  
及川 卓也 (株式会社マガパンハウス クロスメディア事業部 コロカル事業部 部長/兼部長)
- 取組事例紹介  
阿部 守一 (長野県知事)
- パネルディスカッション  
●パネリスト  
●進行 小林 知美 (フリーパーソナリティ)
- 閉会挨拶  
高橋 文昭 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)
- 閉会挨拶  
田中 由紀 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)

### 会場風景



■ 基調講演  
及川 卓也  
(株式会社マガパンハウス クロスメディア事業部  
コロカル事業部 部長/兼部長)



■ 取組事例紹介・パネリスト  
竹山 史朗  
(株式会社モンベル 業務取締役 広報本部長)



■ 取組事例紹介・パネリスト  
山田 拓  
(株式会社東ら地球 CEO)



■ 取組事例紹介・パネリスト  
藤定 麻子  
(株式会社スペースキープ アウトドア推進事業部  
部長)



■ 取組事例紹介・パネリスト  
田中 海月  
(株式会社ビートル・カメラガールズ  
プロデューサー)



## 働き方改革 × 起業で、 地域は変わる

in 松山

日時：2019年8月4日(日)  
13:00～16:10(開場12:30)

会場：愛媛大学 南加記念ホール  
(愛媛県松山市文京町3番)

主催：内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局  
内閣府 地方創生推進事務局

共催：G20 愛媛・松山労働雇用大臣会合推進協議会  
後援：厚生労働省、愛媛大学

参加者数：237名



### イベント開催概要

基調講演では、ビジネスの資金調達するには「信用」が重要であり、信用を稼ぐためには嘘をつかないことが大切だとメッセージが送られた。起業や新しい働き方に挑戦する方々からの具体例の紹介では、起業する地域の選択についてや、地方で働く上での気づきについて発言があった。

パネルディスカッションは、地域で仕事を創り、地域で活躍する、地域を元気にするには何が重要かをテーマに行われ、地域をよくしようと思わずに、自分が楽しく、本当にやりたいことに挑戦し続けることが、社会や地域を幸せにすることに繋がるというメッセージが送られた。また、グローバルな仕事を地方でやることも魅力的であるといった意見も伝えられた。

### 当日プログラム

- 開会挨拶  
田中 由紀 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)
- 基調講演  
中村 時広 (愛媛県知事)  
野志 克仁 (松山市長)
- 地方創生に関する説明  
田中 由紀 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)
- 起業支援 (EGF) に関する説明  
佐藤 努 (愛媛県経済労働部産業支援局長)
- 基調講演  
取組事例紹介
- パネルディスカッション  
●パネリスト  
●進行 作道 泰子 (フリーアナウンサー)
- 閉会挨拶  
田中 由紀 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)

### 会場風景



■ 基調講演  
西野 秀漢  
(五人ノ輪本作家)



■ 取組事例紹介・パネリスト  
前野 春樹  
(海上カンパニー ディレクター)



■ 取組事例紹介・パネリスト  
正能 実穂  
(株式会社ハピネラ FACTORY 代表取締役)



■ 取組事例紹介・パネリスト  
辰濱 健一  
(Sansan 株式会社 Eight 専属エンジニア)



■ 取組事例紹介・パネリスト  
河合 樹  
(株式会社リバープロジェクトレーディング 代表取締役)



## 観光で、地域は変わる

in 札幌

日時：2019年8月27日(火)・28日(水)  
13:30～14:50(開場13:00)

会場：札幌国際大学 大講堂「創風」  
(北海道札幌市清田区清田4条1丁目4番1号)

主催：G20 観光大臣会合実行委員会  
G20MTM 学生サポーターズ  
内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局  
内閣府 地方創生推進事務局

共催：札幌国際大学  
後援：観光庁

参加者数：313名



### イベント開催概要

これからの地方創生においては「関係人口」の裾野を広げていくことが重要である。講演では地域の魅力を国内外に発信している登録者の事例より、気負って特別なことをやるよりも、ありのままの魅力を丁寧に伝える大切さと、絶対に実現させたいといった熱い思いが重要であることや、テクノロジーと地場産業のコラボレーションによるイベント開催の取組から、今ある魅力を再認識すること、それを柔軟に多分野と繋げ、広げていくことで新たな価値を創出していくヒントを学んだ。

また、若者世代が「北海道の未来」や「観光」を考える「学生サミット」が開催され、道内の大学生約70人が集まり、グループディスカッションを行い、「学生サミット宣言」が発表された。

### 当日プログラム

- 開会挨拶  
中根 一幸 (内閣府副大臣)  
土屋 俊亮 (北海道副知事)
- 地方創生に関する説明  
田中 由紀 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)
- 特別講演①  
■ 特別講演②  
■ 閉会挨拶  
田中 由紀 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)

### 会場風景



■ 特別講演①  
菅野 薫  
(株式会社電通 CDC / Dentsu Lab Tokyo  
エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター、  
クリエイティブ・テクノロジスト)



■ 特別講演②  
伊藤 博之  
(クリプトン・フューチャー・メディア株式会社  
代表取締役 / NoMisps 実行委員会 委員長)



G20 観光大臣会合「学生サミット」



## ヘルステックで、地域は変わる

in 岡山

日時：2019年9月29日(日)  
13:00～15:35(開場 12:30)  
会場：岡山大学 Junko Fukutake Hall  
(岡山県岡山市北区鹿田町2丁目5番1号)  
主催：内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局  
内閣府 地方創生推進事務局  
共催：岡山市  
後援：岡山県、厚生労働省

参加者数：105名



### イベント開催概要

地方で健康に仕事に励みつつ暮らしていく為に重要なことは何か。基調講演では、地域の人々が繋がること・どんな「生き方」をしたいのか地域の皆で話し合い実現に向けて取り組むことが地域全体の健康、更には幸せに繋がるという考えが示されたほか、AIやICTを活用することで健康寿命延伸や子育てをサポートする取組が紹介された。

後半のパネルディスカッションでは、「テクノロジーが進化しても運用する人が不可欠である」「常に問題意識を持ちながら生活することで、地域ならではのテクノロジーの活かし方など見えてくるものがある」「目の前の仕事をより良くすることも大切であり、若者ならではの熱意をもって取り組んで欲しい」といった意見が上がった。

### 当日プログラム

- 開会挨拶  
木下 賢志 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 地方創生総括官)  
大森 雅夫 (岡山市長)
- 地方創生に関する説明  
田中 由紀 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)
- 基調講演  
取組事例紹介
- パネルディスカッション  
●パネリスト  
●進行 江草 聡美 (フリーアナウンサー)
- 閉会挨拶  
田中 由紀 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)

### 会場風景



■ 基調講演  
石川 善徳  
(予防医学研究所)



■ 取組事例紹介・パネリスト  
方丸 昌弘  
(株式会社タニクスヘルスリンク 経営開発部副部長  
兼 IoT デバイス推進部 部長(代理))



■ 取組事例紹介・パネリスト  
宮本 大樹  
(株式会社エムティーアイ 執行役員  
ヘルスケア事業本部 法人事業統括部 統括部長)



■ 取組事例紹介・パネリスト  
矢田 明子  
(Community Nurse Company 株式会社代表取締役)



## SDGs で、地域は変わる

in 名古屋

### SDGs まちづくりアイデアコンテスト 表彰式&蟹江教授のSDGs 公開授業

日時：2019年11月9日(土)  
13:00～16:00(開場 12:30)  
会場：愛知県図書館 大会議室(愛知県名古屋市中区三の丸1丁目9番3号)  
主催：内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局  
内閣府 地方創生推進事務局  
共催：愛知県、名古屋市長  
後援：外務省  
企画協力：一般社団法人 Think the Earth  
(SDGs for School 事務局)

参加者数：168名



### イベント開催概要

「SDGs まちづくりアイデアコンテスト」の表彰式と受賞作品のプレゼンテーションが行われ、最優秀賞の「夜に農業を行うことで耕作放棄地を減らす取組」や、最優秀賞次席の「柿渋という地域資源に新たに価値を創造する取組」、優秀賞の「自分たちの地域の課題や良さを見つめ直し、より良い街にするための取組」など、学生たちの考える「持続可能なまちづくり」が紹介された。

後半の講演、トークセッションでは、SDGs には環境・経済・社会の様々な観点が盛り込まれ絡み合っているため、全体を見て総合的に考えることが重要であることや、世代やセクターを超えた仲間を広げて、柔軟なアイデアや飛び抜けた発想をどんどん発信して欲しいといった意見が交わされた。

### 当日プログラム

- 開会挨拶  
田中 由紀 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)  
近藤 雅俊 (愛知県政策企画局国際部)  
斎岡 豊彦 (名古屋観光文化交流局 観光交流部長)
- 地方創生に関する説明  
田中 由紀 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)
- コンテスト趣旨・審査過程の説明  
審査委員長：  
蟹江 憲史 (慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科教授)
- 審査員：  
河口 真理子 (株式会社大和総研 研究主幹)  
山崎 祐樹 (新瀬戸文化小中学校・高等学校教諭 / 一般社団法人 Think the Earth コミュニケーター)  
竹崎 理恵 (株式会社電通 TeamSDGs プロジェクトリーダー)
- 表彰式・フォトセッション
- 受賞者プレゼンテーション
- 審査員総評
- 蟹江教授のSDGs 公開授業
- 閉会挨拶  
田中 由紀 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 次長)

### 会場風景



■ 最優秀賞  
(株)水川のぞろっちょ  
「新・ムーンライト伝説～月の裏側は、ワクワク感がたまらないよ～」



■ 最優秀賞次席  
ソーシャルビジネス研究部  
「Kakshbuを世界基準に！」



■ 優秀賞  
チーム NICE  
「NICE ツアー ～みんなで作ろう、森の楽園～」



■ 優秀賞  
農産加工研究部 NSB no.3  
「地域が輝け！『なかのうスタイル』～4年連続！地域創生型プロジェクト～」



■ 優秀賞  
Sus-Teen!  
「スエがや！ナゴヤ！」



■ 審査員



■ SDGs 公開授業  
蟹江 憲史  
山崎 祐樹







奨学金返還支援制度を活用した  
3名に聞きました！



本制度は、あなたの就職活動・企業選びにどのように影響しましたか？

数十年先まで奨学金を返還していくことに不安を感じていたので、本制度を利用できる企業であることは就職先を決める上で後押しになりました。

本制度を知ったことで、県内の対象企業に就職するという強い意志を持って就職活動にのぞむことができました。

本制度の利用の決め手やメリットを教えてください

奨学金を早期に返還するための無理のない計画を立てることができたため、結婚も現実的に考えられるようになりました。

経済的な負担の軽減はもちろんのこと、精神的な不安感の解消にもつながりました。

奨学金を利用しているあなたへ

奨学金の返還を始めると、毎月の経済的負担は非常に大きなものだと改めて感じました。本制度を利用できたことは、本当に有難く思っています。皆さんも是非利用してみてください。

地方での就職を検討されている方にとって、これほど良い制度はないと思います。地元志向の方はぜひ前向きに検討してみてください。

奨学金の返還という経済面での不安が減ることで、趣味や自己研鑽に前向きにチャレンジできました。本制度は新しいことに挑戦するチャンスにつながります。制度を利用する方が増えることで、地方の活気に繋がってほしいと思います。

奨学金返還支援に取り組む企業にも聞きました！



企業も若いあなたに期待しています！

奨学金返還支援制度が広まることにより、若い人の経済的負担が軽減され、経済の活性化、少子化の改善などに繋がると思い協力をしています。本制度を利用し、安心して働けることにより、自身の成長に繋がりが、仕事も私生活も充実した人生を過ごしてもらおうことを期待しています。

株式会社 片岡製作所 取締役 管理本部長 片岡寛也氏

地方では、若いあなたのチカラを求めています！

奨学金返還支援の仕組みを利用して、負担を減らし、不安なく仕事や学業に打ち込んでください！



奨学金の返還に不安を感じているあなたへ。

奨学金の返還の負担を減らす  
仕組みがあるの  
知っていましたか？



奨学金返還の負担が  
ぐっと軽減するのよ。\*

あなたの奨学金を  
全額肩代わり!

支援の内容や条件などは  
自治体によって異なるので、  
詳しくは次のページを確認してね。



地方で活躍する若者を  
応援するため  
自治体や企業が奨学金の返還を  
負担しているんだよ。

地方創生

内閣官庁まち・ひと・しごと創生本部事務局  
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/index.html

## 活躍のフィールドは日本全国。あなたに合ったエリアを探そう！

### 自治体による支援

以下の都道府県における取組のほか、355の市町村が奨学金返還支援に取り組んでいます。(平成31年4月時点)

	対象となる奨学金種別			出身地等の要件	申請可能年齢(学齢)の要件	返還支援に係る就業・居住等の要件	詳細はこちら
	第一種	第二種	その他				
青森県	×	×	○	保護者が県内居住	大学等入学前	大学等卒業後、1年以内に県内に就職し、県内で3年間就業及び居住	
岩手県	○	○	×	なし	大学等在学生又は35歳未満の既卒者	県内のものづくり企業に就職し、県内で8年間就業及び居住する見込み	
秋田県	○	○	○	なし	なし	以下の①、②の者が県内で就職し、県内で就業及び居住 ①大学等卒業後、県内に居住する者 ②転入者(県外居住実績が1年以上ある者)	
山形県	○	○	○	県内高等学校等を卒業・見込み	大学等進学予定者・大学等在学生	大学等卒業後、6ヶ月以内に県内の対象産業分野に就職し、県内で3年間就業及び居住	
福島県	○	○	×	なし	大学等在学生	大学等卒業後、6ヶ月以内に県内の対象産業分野へ就職し、県内で5年間就業及び居住	
栃木県	○	○	○	なし	大学等在学生	大学等卒業後、県内の対象産業分野に就職し、県内で8年間就業及び居住する見込み	
新潟県	○	○	○	県内高等学校等を卒業	県内転入時30歳未満の既卒者	大学等卒業後、県外で1年以上就業している者が、転入後6ヶ月以内に県内に就職し、県内で就業及び居住	
富山県	○	×	○	なし	大学等在学生	大学等を卒業した年の4月末日までに県内の対象企業に就職し、県内で10年間就業する見込み	
石川県	○	○	×	なし	なし	福井大学を修了後、県内の対象企業へ就職し3年間勤務。かつ、退学して2年以上開発・製造などの業務に従事	
福井県	○	○	○	なし	30歳未満の大学等在学生又は既卒者	県内の対象産業分野に就職し、県内で5年間就業及び居住する見込み	
山梨県	○	○	×	なし	大学等在学生	大学等を卒業した年の9月末日までに県内の対象企業に就職し、県内で8年間勤務及び居住する見込み	
岐阜県	×	×	○	県内高等学校等を卒業	大学等在学生	大学等卒業後、6ヶ月以内に県内に就職し、県内で5年間就業及び居住	
三重県	○	×	○	なし	35歳未満の大学等在学生	大学等卒業後就職し、8年間就業及び県内指定地域に居住する見込み	
奈良県	○	×	×	県内高等学校等を卒業見込み	高校等在学生	大学等卒業後、県内の対象企業に就職し、県内で8年間就業及び居住	
和歌山県	○	○	○	なし	翌年度卒業見込みの大学等在学生	雇工・情報・農学・薬学系大学等卒業後、県内の対象企業に就職し、県内で3年間就業	
鳥取県	○	○	○	なし	大学等在学生又は35歳未満の既卒者	県内の対象産業分野に就職し、県内で8年間就業及び居住する見込み	

もっと詳しく知りたくらば



内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局奨学金返還支援ポータルサイト  
<https://www.kantoku.go.jp/singi/sousai/about/shougakukin/map.html>

	対象となる奨学金種別			出身地等の要件	申請可能年齢(学齢)の要件	返還支援に係る就業・居住等の要件	詳細はこちら
	第一種	第二種	その他				
鳥取県	○	○	○	なし	なし	指定の資格等取得済又は取得予定の者が県内の中山間地域・離島の事業所に就職し、12年間就業する見込み	
山口県	○	○	○	なし	福井大学院1年生又は薬学部5年生	大学院等卒業後、翌年の4月末日までに製造業に就職し、県内事業所で就業	
徳島県	○	○	○	なし	大学等在学生又は30歳以下の既卒者	県内で3年を超えて就業及び居住する見込み	
香川県	○	×	○	保護者等が県内居住(県内大学等進学者は要件なし)	大学等在学生	大学等卒業後、6カ月以内に県内の対象産業分野に就職し、県内出身者は3年間、県外出身者は5年間県内で就業及び居住	
愛媛県	○	○	×	なし	大学等在学生	大学等を卒業した年の4月末日までに県内の対象企業に就職し、1年間就業	
高知県	○	×	×	なし	大学等在学生	大学等卒業後、6カ月以内に県内に本社を有する企業等に就職し、4年間就業	
長崎県	○	○	○	なし	大学等在学生	大学等卒業後、対象産業分野の県内事業所に就職し、県内で6年間就業及び居住する見込み	
熊本県	○	○	○	なし	大学等在学生	大学等卒業後、県内の対象企業に就職し、県内で10年間就業及び居住する見込み	
大分県	○	○	○	なし	大学等在学生	大学等卒業した年の4月末日までに県内の対象産業分野に就職し、6年間就業する見込み	
宮崎県	○	○	○	なし	なし	大学等卒業後、県内の対象企業に就職し、5年間就業する見込み	
鹿児島県	○	×	○	県内高等学校等を卒業	大学等在学生又は35歳未満の既卒者	大学等卒業後、県内で就業・居住	

※令和2年2月時点の情報です。

※[対象となる奨学金種別]のうち、「第一種」は日本学生支援機構第一種奨学金、「第二種」は日本学生支援機構第二種奨学金を指します。  
 ※要件における「大学等」「高等学校等」の定義は自治体によって異なります。また、掲載されている要件の他にも支援が受けられる場合がありますので、詳細は各自治体のホームページでご確認ください。

### 企業による支援

企業が従業員に対して行っている支援の一部を自治体が補助しています。

	制度導入企業数	詳細はこちら	制度導入企業数	詳細はこちら	
京都府	52		岡山県	34	
兵庫県	137		広島県	45	

※令和2年2月時点の情報です。

※企業によって要件は異なりますので、詳細は各自治体のホームページでご確認ください。



技術が進歩し、社会環境が変化していくなかで、仕事の幅は広がりを見せています。

そのなかには、地域で働くことに適したものが多数あります。

そこで内閣官房・内閣府「地方創生ワカモノ会合」と連携し、地域で新しい仕事を生み出し、暮らしていける可能性を考えました。

日本のローカルが持続可能な社会になっていくためのヒントを見つけてください。

Your own ways of working  
ローカルで見つける、これからの仕事。



vol.001

岡野春樹×大山りか×及川卓也 ローカルで働くには、「入り方」と「ふたり目」が大切だ



vol.002

農業改革を提案するドコモ女子（アグリガール）に聞く！ “ローカル”で働くということ



vol.003

猫の飼い主同士をつなぐマッチングサービス（nyatching）。福岡からベットの殺処分ゼロを目指す



vol.004

長良川の水辺で全世代教育を。〈郡上カンパニー〉が生み出す持続的な地方移住のかたちとは？



マガジンハウス  
Local Network Magazine

コロカル

掲載の一覧

記事の検索・掲載料無料のことの一覧

---

食・グルメ

ものづくり

活性化と創生

暮らしと移住

アート・デザイン・建築

旅行

エンタメ・お楽しみ

面白い・お取り寄せ

---

最新マガジン「コロカル」の紹介 > ローカルで見つける、これからの仕事。

---



## 岡野春樹 × 大山りか × 及川卓也

### ローカルで働くには、 「入り方」と「ふたり目」が大切だ

ローカルで興つける、これからの仕事。

vol.001

posted: 2020.1.27 from: 企画 ganna: [岡野春樹](#)  
PR: 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局

---

〈この連載・企画は〉 技術が進歩し、社会環境が変化していくなかで、仕事の幅は広がりを見せています。そのなかには、地域で働くことに選んだものが多数あります。そこで内閣官房・内閣府「地方創生つカモノノ会」と連携し、地域で新しい仕事を生み出し、暮らしていける可能性を考えました。日本のローカルが持続可能な社会になっていくためのヒントを見つけてください。



**writer profile**

**Satoshi Tsuchiya**  
記者 氏

とちぎよ・さとし●フリーライター、内閣府出身。映画、読書を中心としたストーリーを幅広く扱っています。著書に『日本クラフトビル紀行』(筑音で出版)など『この物語に描かれている 湧いた日本の物語』(ほか多数)。

**credit**

撮影:石渡大樹 (Hatos) / 代理店: 〇〇

2019年5月から11月にかけてG20関係関係者と連動して行われた「[地方創生つカモノノ会](#)」。

ICTやファイナンス、観光、働き方改革など、さまざまな視点から地域の可能性を探る場となった。

ここであらためて、地方創生つカモノノ会の登壇者でもある(尋上カンパニー)の岡野春樹さん、(アグリカール) (NTTドコモ) の大山りかさんをお話し、地域からアプローチするニッポンの可能性について考える座談会を独自に開催。ファシリテーターはコロカル編集長・及川卓也が務めた。

**日本人と土地の関係を探るため、郡上へ移住**

及川卓也(以下、及川) 本日は「地方創生つカモノノ会」のゲスト登壇者おふたりをお話させて、地方で暮らすこと、そして地方で働くことの可能性についてお話ししたいと思います。まずはおふたりそれぞれ、簡単な自己紹介とご自身の活動について教えてください。



岡野春樹さん(左)と大山りかさん(右)。

**同野香樹（以下、同野）** 僕はもともと東京の広告会社で、自治体のブランディングなどに携わっていました。昨年6月から岐阜県郡上市に移住して、現在は一般社団法人〈郡上・ふるさと定住機構〉を運営する傍ら、土地にひもづいた学びの場づくりを目的に、〈郡上カンパニー〉を立ち上げ、運営しています。

こうして地方に着目するようになったきっかけは、ハードな労働環境に体を壊し、ついには自律神経のバランスを崩して休職したことでした。そこで当時はやり始めていた[マインドフルネス](#)（今、この展開の体験に意図的に意識を向け、評価をせずに、とらわれない状態で、ただ観ること）などの勉強をしたりしているうちに、一流の起業家や研究者などはみんな、自身のバランスを整える“型”を持っているということに気づいたんです。

それは生活習慣であったりスポーツであったりさまざまなのですが、自分にとってのその型は何だろうと思い、いろいろと試していたところ、どうやら水に浸かることが大切らしいと気づきました。プールでも銭湯でも、あるいはどこかの河川でも、水に触れる時間をしっかり確保できてさえいれば、自分は未来志向で物事を考えられるんです。実はこのことが移住の遠因だったと思います。

**及川** そこで岐阜県の郡上市を選んだのは？

**同野** 職場に復帰してから。

仲間と一緒に「日本みつけ旅」という全国の地域を巡る活動をしていたのですが、その活動のなかで郡上を訪れる機会があったんです。郡上は長良川の源流域です。あるとき、郡上の人々の家で、夜の川で遊ぶ稀有な経験をさせてもらいました。真っ暗な川で魚をとり、それを焚火で焼いて食べながら、竹筒で日本酒を飲む。これが僕にとってとても衝撃的な体験でした。

おもしろいもので、つくり込まれたワークショップよりも、そうして自然の中で焚き火を囲んでいるときのほうがみんな、本音で話せるし、いいアイデアを口にする人が多い気がします。そのとき、人間はコンクリートに囲まれた都会よりも、土や川に近い場所で、その土地に寄りながら活動するのが本来の姿なのではないかと気づかされたんです。郡上の人に教えられた、身体感覚も含めた土地との関わり方を大切にした学びの場を立ち上げようと、それが、郡上カンパニーだったわけです。



コロナ禍発生後の及川早也がフジテレビでインタビューを受けた。

及川 なるほど、ありがとうございます。続いて大山さん、お願いします。

大山りか（以下、大山） 私はもともとNTTドコモの法人営業担当で、

主に地域や協会を担当していたんです〔※現在はNTTに出向中〕。

それが2014年に会社から「地方創生をやれ」と指令を受け、

農業分野のICTソリューションを手がけることになりました。

適任だと思われたのでしょうか、

ただ、多くのIT企業やベンチャーが農業分野に進出して久しいなか、

NTTドコモは後発中の後発です。そんな私たちに今から何ができるかというところ、

全国に拠点を持つネットワークを強みとして生かすしかありません。

そこで各営業所の協力を取りつけて、

各地の農業団体に農業ソリューションを提案する活動を始めたんです。

幸いだったのは、農業の世界はまだまだ男性社会なので、

女性が飛び込んでいくと、物珍しさもあってわりと歓迎に受け入れてもらえたことです。

この結果に男をよくして名づけたのが、

ICT推進のための女性部隊、〈アグリガール〉でした。

おニャン子クラブ世代なので、会員番号を1番、2番とつけてみたのですが、

これが今日では140番まで達していることに、私自身も驚いています。



## スマホを売っているときにはあり得なかった「ありがとう」の言葉

及川 ありがとうございます。

やはり、単に自分自身がいかんして地方で働くかという問題もさることながら、

各地域にICTやスマート農業などを根づかせていく取り組みは重要ですね。

その一方で、おふたりのように東京からやってきて地方創生に着手する人間が、

地域側からどう受け止められているのかというのにも気になるところです。

岡野 やはり大変な一面があるのは事実です。

まず「東京の広告会社」のような肩書きは、そもそもほとんど理解されにくいです〔苦笑〕。

でも標上カンパニーのような地域に関わるプロジェクトをやっていると、

どうしても地域のみなさんに、プロジェクト自体を理解していただく必要がある。

地域のみなさんからすれば、どこの誰が何をやろうとしているのか、

やっぱり気になるみたいで、

知り合いの誰かが関わっているプロジェクトだと知ると、

途端に安心して力を貸してくださるようなこともあります。



及川 やはり最初の壁をどう突破するかが問題なんですわ

大山 それはアグリガールも同様で、

私たちがいくらスマホやICTの導入を訴えたところで、

地方で農業をやっている年長者からすれば、

「そんなものいらないよ、ガラケーで十分」と言われてしまうことが多いんです。

そこでいかに詳しい話を聞いてもらうか、

いかに私たちを受け入れてもらうかが重要で、

あるアグリガールは競り市に足繁く通い続けたことで、

今ではすっかりコミュニティの一員になってもらっています。

競り市に若い女性が来ること自体が、彼らからすると相当珍しいことなので、

イヤでも興味を引くんですよね。

おかげで農業ICTソリューションについても耳を傾けてくれるようになりました。

例えば牛の分娩というのは過米、産まれるその期間のために

1週間近くも寝ずの番をしなければなりません。

私たちのソリューションを使えば、出産1日前にメールで知らせてくれます。

おかげで農家の方々の負担が大きく軽減し、最終的には「ありがとう」と言ってもらえる。

これはスマホを売っているときにはなかったことですね。



本館に、産産家を訪れて話を聞く新卒のアグリガール。

田野 その点で言うと、僕の場合は家族4人で移住したことは大きかったかもしれませんが、

妻が3歳と1歳の子を連れて散歩をしていると、

地元のおばあちゃんが「お家さん」と言って歓迎してくれるんです。

野菜などの農作物をお裾分けいただくことも多くて、

僕らはこの恩をどう返していけばいいのかなと悩んだこともありました。

でも、ある人に「君たち若い一家が来てくれたことで、おばあちゃんの寿命が延びている。

だからここで暮らしているだけで十分だよ」と言っていただけで、

うちの子にうまい野菜を食べさせてやると、

農作業にやり甲斐を感じてらっしゃるという話だったようで、

この言葉には本当に救われました。

及川 すごくいい話ですね。地域の人々と打ち解けるきっかけは

実はいろんなところに落ちていたのかもしれませんが、

田野 僕らの場合はもう、家族の協力感でコミュニティに向かっていった感じでした【笑】。



### 「地方で働く」ことへの、若い世代の意識の変化とは

**及川** 僕が2012年にローカルをテーマにした

ウェブマガジン『コロカル』を立ち上げてから、8年経ちます。

きっかけは東京のクリエイターたちが地方に目を向け始め、

地域で何かを仕かけようとするケースが急速に増えているのを感じたことでした。

新しいことが始まる舞台は今後、ローカルに移ろうとしている、と。

実際、効率化や高速化が求められていく風潮のなかで

ものごとへの関わり方が分業化してきたせいなのか、

地方創生ツカモノ会合を見ていると、働き方の多様化とともに、

若い世代がダイナミックさを実感できる場所として、

ローカルへの関心は年々高まっているように見えます。

このあたり、おふたりの感覚ではどう見えていますか。

**犬山** おもしろかったのは、九州のアグリガールが

先ほどの牛の分挽ソリューション（[モバイル牛温帯](#)）を導入した農家さんに、

「これがICTだよ」と言ったら、「え、これが？」と本気でびっくりされたことです。

向こうからすると、単に牛のお産の直前にメールが1通届くだけなので、

まさかそれがICTソリューションなどというたいそうなものとは

夢にも思っていなかったわけです。

でも、ICTが普及するというのは、結局こういうことなんですよな。

こうした体験は私たちにとっても新鮮で、

だからこそアグリガールがどんどん増えているのだと思います。

ひと昔前であれば地方より都市で働くことが花形とされていましたが、

最近では「アグリガールになりたい」と言ってNTTドコモを志望する学生もいますからね。

**岡野** それってすごいことですよな。アグリガールの影響力の大きさを感じます。

**犬山** うちの会社は定期的に異動があるのですが、

地方でアグリガールをやっている社員のなかには、

「このままここで働きたいです」と言う人もいます。

「もう東京に戻りたい」という社員は、はいいません。

だから個人的には、都市に異動しても週1度だけ参加するとか、

何らかのかたちでローカルの仕事に携われる仕組みを

つくるべきではないかと思っているほどです。



会場は東京の米田町にある（3331 Arts Chiyoda）。中学校跡地をリノベーションしてきた施設だ。

**及川** なるほど、地域で働くこと、地域に転勤になるということのニュアンスが、

若い世代の間でもだいぶ変わってきている様子がうかがえますね。





**岡野** 最近、大学生など若い人たちと話していて男うのは、

企業側がビジョンを語ったときに、

「あ、中身もないのに『イノベーション』という言葉を使って売っているな」と、

鋭く見抜いている学生が意外と増えてきているような印象を受けます。

企業のCSRレポートを見た学生が、

「ああ、これはSDGsへの貢献をアピールしたいだけの取り組みだな」と、

歯はちゃんと見抜いていますからね。

上っ面の言葉ではなく、ちゃんと手触りのあることや、

身体的にもリアリティのあることがより大事にされている気がしますね。

**及川** 企業側のコンセプトワークも、一考を強いられる時代になりつつあるわけですね。

**岡野** いくらメディアで自然保護の大切さを訴えられたところで、

そこにリアリティを感じないことも多い。僕自身、郡上へ来てから、

その場で魚をとって焼いたものを、

魚があまり好きじゃなかった自分の子どもたちが「おいしい、おいしい」と言って

食べているのを見たときに、

「なんで川の水、どんどん汚ってしまっているんだろう？」とか、

「渡辺川の森はどうなっているんだろう？」とか気になり始めましたからね。



郡上八幡のまちなかを流れる西田川の清流縁をたびたび訪れ、焚火などを楽しんでいるという。

## 地域への“ふたり目”に、いかにつないでいくか

**及川** 岡野さんが行ったような意味でも、地域の魅力をいかに啓蒙していくかが、これからますます重要になってくると感じます。

**岡野** そうですね。ただ、「〇〇をアピールしなければならぬ！」ではなくて、何をやるにしても、当事者が楽しそうに生き生きとやっているかどうかが大前提だと思います。楽しいから次の“ふたり目”につながる。誰かがひとりで東京からやってきて何かを始めても、その人がいなくなったら終わりというのでは意味がないですね。僕自身も都上カンパニーも、次の動きをつくる前頭に来ています。その点、企業の中でアグリガールという仕組みをつくりあげたのは素晴らしいですね。

**大山** 何よりも、預け預けできる仕組みだったのは良かったと思っています。彼女たちは各地域でそれぞれ、豊饒を元気にするという思いのもと、地域の人たちを巻き込んで、いろいろなプロジェクトをやっていますからね。



**及川** 岡野さんはこのまま都上に定住し、都上に骨を埋めるつもりなのでしょうか？

**岡野** それは正直、僕らにもわからないんですよ。というのも、世間的にはまだまだローカルに「移住」することイコール「定住」であると思われていますが、そのふたつを同じこととして考えることがおかしいのです。

大事なのは、どんな暮らしをしたいか、そしてそこで何に取り組みむか。そういう「自分たちの願い」と「地域とのご縁」がかけ合わさった結果、決まっていくことだと思っています。

僕も当初10か月限定の移住・出向だったものが、1年延び、さらに先のことまでも見えてきているので、都上でもっと多くのことを学び、担っていきたいと思っていますが、例えば3年後、自分がどこに住んでいるかは、今の時点では想像もつかないですね。

**大山** アグリガールにしても、土に触れ、日差しを浴びることが楽しくて仕方がないようで、まるでリフレッシュを兼ねて働いているようにすら見えます。でも、それでいいんですね。首都圏で心を病みながら働いている人も多岐なか、これほど豊かな働き方はありません。だからこそ、次のアグリガールへとしっかりバトンが渡されているのだと思います。

現時点で課題があるとすれば、彼女たちがローカルで得た経験、身につけた知識やスキルというのは、履歴書に書けるものではないということでしょう。これはいわゆる“人財”としての価値なので、人材評価として明確化する術が、いまはまだないんです。これは今後、私たちが考えていきたいポイントですね。

**及川** ありがとうございます。地域で働くスタイルは現状、着実に育まれ、さまざまな可能性を秘めていることが実感できました。「地域で働く」ことは「都会で働く」ことの対立構造ではなく、手法はまだたくさんある。柔軟な発想を持って働き方、生き方をこれからも模索していくことが重要ですね。それをサステナブルなカタチにすべく、ビジネススキームや仕組みを磨いていくことが大切だと感じました。そんなおふたりの今後のご活躍にも期待しています。

## 【あとがき】 コロカル編集長 及川卓也

内閣官房・内閣府が主催した「地方創生ワカモノ会議in長野」で  
基調講演をさせていただいた。

テーマは「環境×観光で、地域は変わる」。

お話しした内容は、従来の「観光」の概念を超えた取り組みのこと。

例えば、岩手県西和賀町で、豪雪地帯で住民の生活や健康維持の障害となっていた雪を  
プラスの価値に転換して、商品や観光のブランディングを行なっている

「ユキノチカラ」の事例。

ゴミステーションから集められた木材や窓枠を使った施設で、

果汁が絞られた後の柑橘の皮を利用してつくられたビールを提供する

ブルフリー（[RISE & WIN Brewing Co. BBQ & General Store](#)）。

つまり、ゴミゼロ“ゼロウェイスト”を観光資源にしている徳島県上勝町の事例。

これらを紹介しながら、

これまでの「常識」を突破して生きる場所として、

ローカルの可能性についてお話しさせていただいた。

内閣府のデータを見ると、日本の人口約1億2000万人のうち、

東京圏にはその30%が暮らしている。

人口移動状況を見ると、

東京圏では15歳から29歳までが流入するという鋭い山型を示し、

地方自治体の多くは15歳から29歳までが流出するという尖った谷型を示す。

つまり、進学や就職などで、地域から若者は転出し、都市圏に流入しているのだ。

その若者たちの意識や進路は、

地域で生まれ育ち自分自身も進学で上京した経験を持つ私としても理解ができる。

都市への憧れや可能性はやはりある。

しかし、高度経済成長時代の「片道切符」は終わり、

テクノロジーやインフラの進化、社会的な必要性、

新しい、あるいはソーシャルな「豊かさ」を求める個人的な感受性という変化が訪れ

「どこでも生きていける」という時代が始まっていることが、

コロカルというメディアを運営していくなかで強く感じられる。

そうした意味で、この「地方創生ワカモノ会議」は画期的であった。

さまざまなテーマで、地域を舞台に先進的革新的に活躍する人々が登壇し、

その実践を紹介するミーティング。

登壇者のなかから、この圓談会では、森上カンパニーの河野さん。

NTTドコモ アグリカールの大田さんにご登壇いただいたが、

やりがいと新しい豊かさを求めて生きる。

新しいライフスタイル、ワークスタイルを垣間見ることができた。

「常識」を超えて、新しい実践をスタートする場所として、

ローカルにこそ可能性があることを、

この会合は教えてくれている。

### Information



森上カンパニー

Web : <http://www.moriue.com/>

NTTドコモ アグリカール

Web : <http://ocompage.info.nttdocomo.co.jp/>

地方創生ワカモノ会議

Web : <http://www.lanta.jp/jp/information/03/03system/>



マガジンハウス  
Local Network Magazine

掲載の一覧

記事の検索・掲載履歴ごとの一覧

---

食・グルメ
ものづくり
活性化と観光
暮らしと移住
アート・デザイン・建築
旅行
エンタメ・お楽しみ
若い層・老取り寄せ

Webマガジン「コロカル」HOME >> [「ローカルで見つける、これからの仕事。」](#)



## 農業改革を提案するドコモ女子 〈アグリガール〉に聞く！ “ローカル”で働くということ

ローカルで見つける、これからの仕事。

vol.002

posted : 2020.2.7 from : 新潟県村上市 genre : [日常生活](#)  
PR 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局

---

〈この連載・企画は…〉 技術が進歩し、社会環境が変化していくなかで、仕事の幅広がりを見せています。そのなかには、地域で働くことに選んだものが多数あります。そこで内閣官房・内閣府「地方創生ツカモノ会合」と連携し、地域で新しい仕事を生み出し、暮らしていける可能性を考えました。日本のローカルが持続可能な社会になっていくためのヒントを見つけてください。



**writer profile**

**Kyoko Kawachi**  
林由代子

はやし・きよこ 70年勤務。読・食・暮の分野を専門とするライター・イラストレーター。IT旅行会社でwebディレクターを勤めた後、フリーランスに転身。お笑い会が中心で、朝晩の散歩を趣味。現在は読書・旅行にも興味あり。

**credit**

撮影：中田健司

〈地方創生ツカモノ会合in新潟〉で講演をした

〈NTTドコモ〉の大山りかさんが立ち上げた〈アグリガール〉プロジェクト。「ローカルで見つける、これからの仕事。」連載のvol.001で行われた座談会に参加してくれた大山さんは、その概要を紹介してくれた。そこで実際の現場のひとつである新潟のアグリガールの仕事を取材した。

**モバイル牛温恵をきっかけとした畜産農家とのコミュニケーション**

〈NTTドコモ〉といえば、ケータイなどの通信サービスを提供する大企業。そんなイメージが先行する人がほとんどだろう。実際はそれだけでなく、その通信インフラや技術を生かし、さまざまな分野の課題解決に寄与する取り組みを行う会社でもある。

なかでも、農業従事者の減少や高齢化など、日本の農業が抱える課題をICTソリューションや、ドコモのノウハウを用いて解決に導くプロジェクトチーム〈アグリガール〉が、日々注目を集めている。

ドコモの女性社員によって形成されるアグリガールは、現在全国に150人以上。農家、JA、自治体と連携しながら、農業生産者のサポートと、農業の活性化を目指している。

今回紹介する、ドコモCS新潟支店に勤務する市橋 咲さんもアグリガールのひとりだ。



幼い頃から機械修理や社会課題に強い関心を持っていた市橋 敬さん。ケータイの販売だけでなく、農業をはじめとした新しい事業にチャレンジできるアグリガールの存在を知り、ドコモに入社。東京生まれの埼玉育ちだが、自ら新潟勤務を希望したという。

田・畑・畜産、さらには水産分野まで、

アグリガールが提案するソリューションはさまざまだが、

そのなかのひとつに、牛の分娩監視システム（モバイル牛温患〈ぎゅうおんけい〉）がある。

これば、牛の分娩の24時間前、破水時、SOS時などを正確に検知し、

農家にメールで通知してくれるというもの。

新潟県村上市の畜産農家（santaふんいち）は、

市橋さんらの提案により、2019年にモバイル牛温患を導入したばかり。



モバイル牛温患は大分県のベンチャー企業（リモート）が開発したシステム。ドコモは通信回線と販売網でサポートしている。特許ある会社の優れた技術と、ドコモの地盤であるスマホやタブレットを連携させ、それぞれの強みを生かした。アグリガールは、ラッグを組む企業の特徴から農家への提案まで、あらゆる分野に関わっている。

新事業によって、仕事の負担が大きくなった頃、

村上地域振興局からモバイル牛温患とアグリガールを紹介された。

「1週間以内には産むだろうという牛を、ずっと気にかけて過ごしたり、

24時間態勢で牛につき添ったりしていると、どうしても体に負担がかかるんです。

1〜2頭ならまだしも、頭数が多いほど大変で、

でもモバイル牛温患があれば、分娩の24時間前や、破水時に知らせてくれるので、

精神的にかなり楽になりましたね。今では完全に頼りきっています」（三田さん）

三田さんは、モバイル牛温患の導入に満足そうだ。



santaふまーむの3代目・三田美樹さん。2代目が畜で村上牛を扱う《鉄塊ステーキ三田》を新潟市内で営んでいたが、多忙を理由、家族との時間が取れなくなったことをきっかけに家業継承を決意。4年務め村上市に渡ってきた。

これまで、さまざまな地域から仔牛を買い、肥育してきたsantaふまーむだが、繁殖に力を入れることで、村上生まれ、村上育ちの、新鮮な村上牛を生産することを目標している。

農家が新しい取り組みを始めれば、なにかと困難や問題に直面する。そんなとき、アグリワールが解決に導いてくれるのだ。

彼女たちの提案は、農家の省力化と、生産性の向上に大きく貢献するだけでなく、仕事へのやりがいをもち向上させ、さらにその先の、新たな事業拡大を目指す農家の手助けにもつながっていく。



2019年、santaふまーむでは30頭近くの仔牛が勝手に生まれた。

とはいえ、経験や協に頼る農業を行ってきた高齢の農家にも、最新技術の導入は受け入れられるのだろうか？

「本体を電源に差し込んで、通知先のメールアドレスを登録するだけで、牛肥の方にも扱いやすい、簡単な仕組みなんです。デモの環境も整っているので、トライアルを受け入れてもらえば、必ずといっていいほど、いい反応が返ってきます。長年、感嘆でやってこられた農家の方こそ、『そろそろじゃないかと思っていたら、やっぱり通知が来たんだよ〜』って、自身の感覚が間違っていなかったことをうれしそうに語る方もいます〈笑〉」



新製菓社のアグリガールのみなさん、三田さん、村上地域連携員のみなさんと、左から3人が石橋さん。

これらのソリューションは、なにも高齢者だけに対応したものではない。

世代交代にさしかかった今、

後継ぎで戻ってきた子どもに、農業のイロハを教える機も多い。

そんななかで、長年培ってきた経験や知識を継承することの難しさも

農家の悩みのひとつだという。

そんなとき、これらの機業を頼りながら、

後継者の不安を和らげつつ、経験不足を補うことができる。

「働き方改革」が叫ばれる昨今、

彼女たちの提案するソリューションは、農家の「働き方改革」にも大きく貢献しているのだ。



## 一人称で向き合える！ ローカルだからできること

大都市に本社を持つ企業に入社して、

地方へ配属となったとき、それを“格差”と感じる人がいるかもしれない。

だが、「地方こそおもしろい仕事ができる」と市橋さんは言う。

「地域の方とこれだけ近いかたちで仕事ができることに魅力を感じています」

もし東京の本社にいて、巨大企業の担当だったとしたら、

案件の一部にしか関われないことも多いでしょうし、

担当者どこまで密なコミュニケーションはとれていなかったかもしれません。

でもここなら、課題や現状をひとつひとつ確認しながら、

お客さまと一緒に考えて、悩んで……ということが重要になってきます。

だからこそ一人称で向き合え、案件のすべてに関われるんです」

農業のプロではないアグリガールだからこそ、

荷重で、農家とともに課題に向き合い、解決の道を探り、提案ができる。

問題が解決されたとき、それを喜ぶ農家を最前線で感じられることも、

この上ない喜びだという。

「そもそも農家さんを取り巻く環境って、すごくアットホームなんです。

その一員にまぎてもらっているのがうれしいですね」



新卒卒社のアグリガールたちは、ことあるごとに農家を訪問。牛舎の様子を見、農家の顔に目を凝らす。「田舎暮らしにお話できるのがうれしくて、農家さんに話さずには、私たちが自慢が聞かれています（笑）」

農業だけでなく、観光や製造業の営業も担当する市橋さんは、

農業×観光、農業×製造業など、

あらゆる分野をマッチングさせた新しい事業提案も行っている。

「やろうと思えば、なんでもできる。それがアグリガールの強みですね。

お客さまや社会の課題を、ドコモや社長のソリューションを交えて

解決する仕事やりたかった。まさに今、それができています。

担当している分野が観光・農業・製造業ということもあり、

新潟を元気にする、盛り上げることに直結する分野なので、やりがいがあります」





## 非公式の組織にもかかわらず、国を動かすアグリガール

2014年、たった2名からスタートしたアグリガールは、  
「非公式」の社内組織にもかかわらず、今や全国に150名以上。

ドコモはどの大企業となれば、

ルールや規則、マニュアルがしっかりと定められていそうなものだが、

非公式ゆえに、彼女たちの活動内容はおおむね自由で、メンバーになるのも自己申告制。

アグリガールの仕事として義務づけられているものはなく、

業務上で農業に関わる人、個人的に農業に関わりたい人など、

ドコモのスタッフなら誰でもなれるのだ。

ちなみにアグリガールは「会員番号制」となっていて、

これは80年代に一世を風靡したアイドルグループ〈おニャン子クラブ〉にならったもの、

農家の大部分はおニャン子クラブをテレビで観ていた世代で、

「きみは何者？」と、舌が捲り上がることもしばしば。

名刺を渡した瞬間に「アグリガールって何？」と興味を持たれることも多く、

メンバーになったことで得るメリットも大きいという。



会員番号制というのユニーク | 左からNo.151の増田穂子さん、No.088の宗條さん、No.116の何部莉緒さん。

アグリガールが発足して約5年、

短い月日のなかで、彼女たちの活動は社内外でみるみる話題になり、

そのユニークな取り組みは書籍化され、

総務省からのオファーで、国を巻き込んだプロジェクトにも発展、

2019年には、アグリガールが一瞥に会す、初めての全国大会が開かれた。

非公式で始まったアグリガールの活動が、全社的に認められたのだ。

「どちらかという、遊び心でゆる〜く立ち上がった活動なので、

四りからは『何をやっているんだ？』くらいに思われていたはずなんです（笑）。

でも、吉澤和弘社長（NTTドコモ代表取締役）にも認知され、

全国大会まで開かれるほどになるとは……立ち上げた本人たちも驚いていました」

彼女たちが抱く地域への思いが、農家に伝わり、社会に広まり、結実した証だ。

市嶋さんに限らず、全国のアグリガールたちの熱量は相当に高い。

## 地方のいち営業担当でも、新ビジネスは立ち上げられる

通信インフラを基盤とするドコモは、

さまざまな企業のサービスやネットワークに、幅広く関わりを持てるという強みがある。

また、全国に支社を持つことで得られる情報の集積も、強みのひとつ。

成功事例をほかの地域に横展開することも容易なことだ。

「課題は山積みなのに、解決方法がわからない。

そんな問題を抱えた地域こそ、ドコモが持つ強みをうまく使ってほしいんです。

とはいえ、私たちができるのは、あくまで“お手伝い”であって、

“主役”はやっぱりここに暮らす住民のみなさん。

でも、主役がどうしようもなくなっているときに

『こんな解決策がありますよ』っていうヒントを提示することはできますし、

そこから地域がもっとよくなっていけばいいなと思っています」（市嶋さん）

ドコモが所有するソリューションをちって、地域住民とコミュニケーションをはかり、課題解決を“デザイン”する。名刺にある「IoTデザイナー」とは、そういうことだ。

ドコモに入社し、アグリガールとして活動を始めて約3年。

市橋さんは、既存のサービスを売るだけに留まらず、

農業の課題を解決できる“新たなビジネス”を企画し、

新潟から発信するという目標を掲げ、歩みを進めている。

「地方のいち産業担当でも、必要なものを自分で見つけ、前社と手を組んで、

新しいモノづくりをすることができるんです。

私は「会社のなかで、どんどん新しい分野に取り組みたいってほしい」

というドコモのメッセージに惹かれ、新潟県に参り組みたくて入社しました。

私自身、この場所でやりたかったことができていると実感しています。

それはローカルという場所だからこそ。

新潟での勤務がけて、本当に良かったと思っています」

そう語る市橋さんの顔は、晴れやかで、楽しそうだ。

#### Information



#### NTTドコモ アグリガール

Web : [http://www.agnaga.jp/~nttdocomi/01\\_01/](http://www.agnaga.jp/~nttdocomi/01_01/)

地方創生ドコモノ会

Web : [http://www.tama.go.jp/region/01/01\\_01/](http://www.tama.go.jp/region/01/01_01/)

colocal マガジンハウス  
Local Network Magazine

食・グルメ    ものづくり    活性化と創生    暮らしと移住    アート・デザイン・建築    旅行    エンタメ・お楽しみ    面白い・お取り寄せ

Webマガジン「コロカル」HOMEPAGE    ローカルで見つける、これからの仕事。

連載

猫の飼い主同士をつなぐ  
マッチングサービス〈nyatching〉。  
福岡からペットの殺処分ゼロを目指す

ローカルで見つける、これからの仕事。  
Vol.003

posted: 2020.2.17 from: 福岡県福岡市    genre: [暮らしと移住](#) / [活性化と創生](#)  
PR 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局

〈この連載・企画は〉 技術が進歩し、社会環境が変化していくなかで、仕事の幅は広がりを見せています。そのなかには、地域で働くことに適したものが数多くあります。そこで内閣官房・内閣府「地方創生フカモノ会合」と連携し、地域で新しい仕事を生み出し、暮らしていける可能性を考えました。日本のローカルが持続可能な社会になっていくためのヒントを見つけてください。

writer  
**Yukihiro Yamada**  
山田祐一 様

やまだ・ゆういちろう●福岡県福岡市。京都府在住。日本で唯一（90人規模）のスタートアップライターとして活躍中。雑誌「実業家」など、様々な記事・コラムを執筆する。著書に「うどんのはなし 福岡」「スタートアップ福岡の1年 福岡」。  
<http://t44.jp/> を運営中。

credit  
—  
撮影：石渡大輔 (PACTOS)

〈地方創生フカモノ会合in福岡〉で講演をした（nyatching（ニヤッチング））というサービスを展開する谷口紗富子さん。京都で生まれて、東京と大阪で2年ほど働いた後、福岡市に移住。会社員として働くうちに、現在のサービスを思いついた。〈Fukuoka Growth Next〉などの創業支援もあり、福岡にて起業した谷口さんに、実際の事業展開や起業ストーリーを伺った。

猫好きが集まるコミュニティをつくる

ひと昔前までは、ペットといえば犬が多かった。しかし、近年では室内で飼いやし猫をペットに選ぶ傾向になり、2017年には猫の飼育頭数は犬のそれを超えている。

そんなペット事情の変化を察してくれたのが谷口紗富子さん。谷口さんはまさに猫にスポットを当てたさまざまなサービスを提供する〈nyans（ニヤンス）〉を起業し、代表取締役を務めている。

「ペットホテルはケージが狭いから猫がかわいそう」「預け先がないから猫が飼えない」「犬と違って外へ出ると一緒に散歩に出かけないから、猫の飼い主の友だちができてにくい」nyansは、そんな悩みを抱えている猫の飼い主、そして純粋な猫好きの人々がメインターゲット。マッチングならぬ「nyatching（ニヤッチング）」を通じて、困ったときや必要なときに登録者同士で互いに猫を世話し合ったり、愛猫の誕生日を一緒に祝ったり、もし迷子になるようなことがあれば捜索を手助けしたり、猫をきっかけとしたあたたかいコミュニティを日本中に広げたいことを目指している。

利用したいユーザーは公式サイトから居住地などの個人情報を登録。

その後、サイトの利用者同士でメッセージをやり取りし、

猫好きたちが親睦を深めていく仕組みになっている。



新入「猫」社員の小春ちゃん。

犬の場合、飼い主が外へ散歩に出かければ、別の飼い主と道で出会うことができる。

公園に行って愛犬と一緒にベンチに座っていれば、

同じような犬の飼い主に声をかけられることもあるだろう。

しかし、室内で飼うことが多い猫の場合、その機会が少ない。

猫の飼い主と外で出会う可能性は、犬よりも断然低いのだ。

「その場に猫がいるわけではないので、

『猫を飼っていますか?』とでも声をかけない限り、飼い主なのかどうかわかりません。」

そのため、飼い主同士の情報交換もままならないという状況になりがち。

そういった意味で、猫の飼い主に関するデータはとて集めにくいんです。

ちとちと集積していくデータであることに加え、昨今は猫ブームですから、

私たちのビジネスプランは絶対にうまくいくと思えました」



昨今の猫ブームがnyatchingの追い風になっているのだという岩口さん。

nyatchingのサービス内容だけに目を向けると一般消費者向けだ。

しかし最初からそこで大きな収益を出そうと考えていなかった。

「猫の飼い主が集まるコミュニティを持ち、

猫の飼い主たちにまつわるデータを集積していることで、

そのデータをBtoBの取引に活用して収益を両得というビジネスプランです。

例えば、私たちが持っているデータをベースにして、メーカーと協力することで

完成度の高い猫向け商品を独自に開発することが可能になります」

nyatchingのサービスをリリースして以降、さまざまな広がり生まれている。

例えば猫をキャラクター化し、

オリジナルのトレーディングカード（ニャンズカード）を制作した。

このカードが北海道で展開するドラッグストアの目に留まり、

キャットフードの付録として購入者にプレゼントされることになった。

また2019年8月には、nyatchingの登録猫が全国で2222匹に達したことを記念し、

猫好きによる猫好きのための「ねご祭り」を

福岡市にある（Fukuoka Growth Next）で開催。

会場ではお菓すくい、おみくじ、猫のお面などといったグッズ類を販売した。



ねご祭りの様子。（写真提供：nyatching）

「ねご祭りには400人もの方々に参加いただきました。

nyatchingを展開していくうえで、やはりネット上だけでなく、

実際に対面の交流があったほうが飼い主同士も安心できるということがあり、

オフ会に力を入れています。

お祭りはそういった意味でとても意義で、大規模なオフ会になりました」



登録されている猫たち。眺めているだけで癒されそう。

## なければ、自分がつくろう

「nyans」創業のきっかけは、猫への愛。

実際に猫の飼い主でもある谷口さん自身の体験に基づいているのだという。

「nyansを立ち上げる以前は営業員でした。

その際、実に多くの経営者にお会いしてきました。

経営者の方々と話をしていると、その言葉、考えがずっと理解できて、

次第に「私はずっとどこかの企業に所属して雇われるのではなく、

何か自分で事業を始めるのが向いているのでははないか\*と思うようになったんです。

無気力であるほど不安になる性格で、

不安定よりも安定のほうが偉いと思ってしまうんですよね。

自分でリスクをとって動いたほうが得られるものも多いですから」



オフィスで働く創業家私さん。かたわらには小春ちゃん。

そんな独立願望を胸に秘めた谷口さん。

いざ、何かを始めようと思った際、頭に浮かんだのが、愛猫にまつわる悩みだった。

出張、旅行のとき、毎回、猫をどうしたらよいかと頭を抱えていた。

「巷にはペットホテルがたくさんあるのに、どこも犬がメインなんです。

それほど、これまでではペットといえば犬でした。

ペットシッターに預けるという選択肢もありますが、

そもそもペットシッターの絶対数が少ないんです」

これは谷口さんが日々を生活する福岡市に限った話ではなく、

全国的にも同様の社会課題だ。

「もし近所に私と同じように猫が大好きな飼い主さんがいて、

お互いに預け合えたらどんなに良いだろうと思いましたが、

そういうマッチングサービスがない。

だったら自分でつくろう。

それが「nyatching」をつくろうと思ったきっかけですね」

アイデアを思いついた谷口さんは、  
そのアイデアをビジネスのプロシーに落とし込み、具現化させる準備を始める一方で、  
資金調達についても考えを巡らせた。

「甲斐台のビジネスプランが完成したら、  
そのプロトタイプとなるプログラムをつくれるスタッフを探しに、  
地元福岡の大学へ出かけ、学生たちに声をかけ、  
興味を持ってくれたふたりをスカウトしました」

谷口さんは知り合いのエンジニアに教えてもらいながら、  
先行してwebサービスにおけるプラットフォームをつくっていく。



nyansでは、猫をキャラクター化したトレーディングカード（ニャンスカード）も新作「ニャンスカード」になりた  
い日も募集中。（販売店：nyatching）

同時に、谷口さんは前職で出会った尊敬できる経営者たちにアボを取り、  
甲斐台のビジネスプランを持参し、訪問。  
アドバイスをもらいつつ、その流れで出資まで依頼した。

「これは良いビジネスプランだね、と喜んでくださった方に、  
『では、よかったら出資いただけないでしょうか』と頼んでみたんですよ」  
と谷口さんは笑顔を見せた。

最終的には、目標にしていた4000万円を上回る4500万円の資金調達に成功。  
こうして2019年2月22日、これまでこの世にひとつとして存在しなかった、  
猫の飼い主をつなぐマッチングサイト（nyatching）がローンチとなる。

nyansは創業から現在に至るまで、拠点は福岡である。

その最大の理由が福岡というまちの魅力だと谷口さんは教えてくれた。

「新たにビジネスを興すうえで

〈Fukuoka Growth Next〉の助けが大きかった」という谷口さん。

〈Fukuoka Growth Next〉とは、福岡市のほか、

地元企業が共同運営する創業支援施設だ。

グローバル企業・雇用創出特区である福岡市の熱心な支援、地元企業との連携によって、

さまざまな事業のスタートアップをサポートしている。



〈Fukuoka Growth Next〉は福岡市・大牟田の一角にある、シェアオフィスやコワーキング施設を併設。

資金面、webサイトの制作における問題は自力で解決してきたが、

当然、それだけで起業はできない。

「〈Fukuoka Growth Next〉が立ち上がったばかりというタイミングもあり、

私たちも丁寧にフォロー、サポートしていただきました」という谷口さん。

例えば、谷口さんは法律関係の問題に直面していた。

nyansで展開していくビジネスが今後、直面するであろう法的な問題について、

どうすれば対処できるのかわからない。その相談相手もいなかった。

そのような相談についても〈Fukuoka Growth Next〉で解決できた。

「もちろん暮らしやすさも大きいですね。

福岡は飲食店のレベルがとても高くて、どこに行っても安くおいしいですから、

家賃も東京と比較して安いですし、

新規でビジネスを立ち上げる人たちはかなり負担が軽くなり、

助かるんじゃないでしょうか」と谷口さんはやわらかな表情を見せた。



nyansオフィスでは、もちろん仕事でも愛猫と一緒に。

順調に登録数を増やし続けるnyatching。

谷口さんの今後のビジョンは明確だ。

「最終的には私たちはペットの殺処分ゼロの世界を目指しています。

今、日本では年間約5万匹ものペットたちが殺処分されているんです。

そのひとつひとつの要因を、

nyatchingをはじめとするテクノロジーの力を活用しながら

解決していきたいと考えています。

まだサービスを始めて間もないですから、利用者の満足度を高めるためのノウハウ、

成功事例をどんどんストックしている状態です」と谷口さんは意気込みを込める。





最後に、同じように、

起業を目指す人たちに向けてこのようなメッセージを送ってくれた。

「起業することがゴールではありませんから、

その先の目的が明確でないと、続けていけません。

その目的が曖昧だと、必ず、将来、どこかで心が折れてしまいます。

だから、心からやりたいものを見つけることが何よりも大切だと思います。

私にとって、それは猫が幸せなまち。

猫が幸せな世界は、きっと人も幸せな世界だと信じています」

#### information



#### nyans

住所：福岡県中央区大倉2-6-11 クロスネクスト308

TEL：090-4243-3879

Web：<https://www.nyans.info/>

Web：<https://nyatching.com/>

猫方経営つかモノ会

Web：<https://www.kantai.go.jp/jp/sing/toosai/wakareno/>

**colocal** マガジンハウス  
Local Network Magazine

表紙の一文

記事の検索・記事掲載ごとの一覧

---

食・グルメ
ものづくり
活性化と観光
暮らしと移住
アート・デザイン・建築
旅行
エンタメ・お楽しみ
買い物・お取り寄せ

---

Webマガジン「コロカル」HOME > ローカルで見つける、これからの仕事

---



**読**

長良川の水辺で全世代教育を。  
〈郡上カンパニー〉が生み出す  
持続的な地方移住のかたちとは？

ローカルで見つける、これからの仕事。

vol.004

posted: 2020.2.28 from: 岐阜県郡上市 genre: [暮らしと移住](#) / [活性化と観光](#)  
PR: 内閣官庁 まち・ひと・しごと創生本部事務局

---

〈この連載・企画は〉 技術が進歩し、社会環境が変化していくなかで、仕事の幅は広がりを見せています。そのなかには、地域で働くことに適したものが多数あります。そこで内閣官庁・内閣府「地方創生ワカモノ会議」と連携し、地域で新しい仕事を生み出し、暮らしていける可能性を考えました。日本のローカルが持続可能な社会になっていくためのヒントを届けてください。



**writer profile**

**Satoshi Tomochiyoshi**  
写真家

とちぎよ・さとし。フリーランス。写真・映像制作、講演、講師を中心に活動。シネマ・テレビを幅広く手がける。著書に『日本グラフィック』、『行方不明で帰郷せよ』、『この時代に求められる写真』、『日本グラフィック』の再編集。『NHK』の取材も行う。

**credit**

撮影: 石原大輔 (HATOSI)

〈地方創生ワカモノ会議in松山〉で講演をした〈郡上カンパニー〉の岡野善樹さん。

連載「ローカルで見つける、これからの仕事。」vol.001で行われた座談会にも参加してくれた岡野さんは、岐阜県郡上市で地域に根ざした新しい共創のあり方を仲間とともに模索している。

では、郡上で実際にどんな取り組みをしているのか？

**自分をリセットする“型”を求めて**

東京の広告会社に所属する岡野善樹さんが、総務省の「地域おこし企業人」という制度をつかって、一家で岐阜県郡上市に移住したのは2018年6月のこと。

各所で移住者受け入れの取り組みが活発化し、地方へのリターン、1ターンが現実的な選択肢になりつつあるけど、とはいえ地方で仕事を見つけ、現場との折り合いをつけるのはまだまだ簡単なことではない。

その点、会社に籍を残したまま移住に身を移し、「Deep Japan Lab」という一般社団法人を運営する傍ら、共同伴「郡上カンパニー」の活動を展開する岡野さんのケースはユニークな事例といえる。



郡上八幡のまちなかを横切る郡上川。

「郡上に移住するきっかけのひとつは、入社2年目に、ハードワークで体を壊したことだった気がします。まだ労働時間に慣習な時代だったこともあり、とにかく体力に任せて毎日深夜まで働き続けていたのですが、そのうち自律神経を壊してしまっていて……。あるときから体温が乱高下して、勝手に震えて起き上がることもできない状態になり、ついにはドクターストップで休職することになったんです」



郡上八幡は水のまま、川や水路がたくさんある。

長期離職を余儀なくされた岡野さんは、

しばし自身の不調と向き合いながら、再起の道を探る。

そんななか、貴重なヒントを与えてくれたのは、名のある歌人でもある祖父だった。

「祖父は94歳になりますが、今でも自分のクリエイティビティを守るために、

山を歩く時間や長く風呂に浸かる時間をすごく大切にしている人なんです、

その姿を見ているうちに、

そういえば僕が尊敬する企業家やクリエイターはみんな、自分をいったん“空っぽ”にし、

リセットする型を持っている人が多いということに気がきました。

自分の中に新たな何かが生まれる瞬間を、葛岡的につくっているわけです」

そう思い立ったとき、原因は環境にあるのではなく、

自分をうまくリセットする術を持たない己の責任なのだと気づかされたという岡野さん。

では、自分にとってリセットの型は何か？



「原上カンパニー」の岡野春樹さん。

「この時期は、ジョギングをしてみたり瞑想してみたり、

本当にいろんなことを試していました。そんななかでたどりついたのが“水”でした。

僕は、プールでも銭湯でも水にふれていると妙に心が落ち着くし、

未来志向で物事を考えられることに気がついたんです」

そこで本格的に「理論」という長くゆっくり泳ぐ泳法をプロのコーチから教わり、

プール通いを始めたところ、岡野さんの心身はみるみる快復。

3か月強の休職期間を終えて、職場復帰を果たすことになった。

## 夜の川で遊ぶ経験が、新たなプロジェクトの着想に

当初こそ復讐プログラムに則って時短で働いていたものの、

自分をリセットする型を身につけたおかげで、すっかり健康を取り戻した岡野さん。

やがて、そんな自身の体験を踏まえ、

以前から関心を持っていた地域での全世代教育を仕事にできないかと考え始める。

ここでも、ヒントになったのは祖父の存在であったという。



夜に行われる「おとまり」は、毎年たくさんの人を集める。

「うちの祖父に限らず、あの世代の人というのは本当に幅広い知識を持っています。

仲間と一緒に祖父に会いに行つたときなど、

昔、僕とは違った角度からあれこれ祖父に質問するので、

なおさらそう痛感させられたものです。

こういう知識や視点は、祖父が元気なうちに掘り起こしておかなければ、

もう二度と聞けなくなってしまいます。

そこで、若者たちが日々でいただいた貴重な“問い”をもとに全国をまわる。

〈日本みっけ旅〉という活動を始めたんです。」

素朴な疑問や、これまで答えを聞く機会がなかった話。

そんな問いを起点に地域をめぐり、持ち帰った発見を祖父に投げかけ、

募集のあるディスカッションを行う。

そんな目的から仲間を募り、その活動の一端で訪れたのが岐阜県郡上市だった。

「郡上は長良川の源流域で、現地の方の案内で夜の川に入って遊んだり、

魚をとって食べたりした体験が、僕にとってとにかく衝撃的でした。

まず、真っ暗な中で川遊びをする経験が新鮮でしたし、水からあがって焚き火を囲み、

とった魚を食べながら音で話すひときは、間違いなく東京では味わえないものです。

おもしろいもので、そうやって火を囲んでいるときって、

不器用とみんな未来の話をしたりするんですよ。」

ぜひ、この体験を多くの人に共有したい。

そして、世代を問わず遊んで学べる場をつくりたい。

それが岡野さんの次の活動へとつながった。



岐阜市の源流域に降る白雪。

### 生態系の力を借りて心をリセット。地域にもとづく学びの場を

「自然のそばで生活している人たちというのは、

自分らしさを保つ方法をたくさん持っている気がします。

たとえば郡上で出会ったある人は、その日の気分によって異なる山を使い分けていました。

今日は考えごとをしたいからあの山へ行こう。

今日はモヤモヤしているからあの山でストレスを燃焼しよう、などといったかたちで、

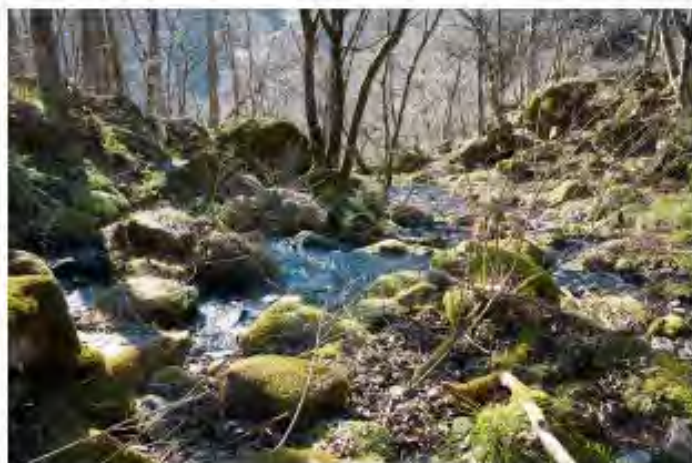
自然に没り、嫌がながら自分を整える術に長けているんです。

そもそも自分と自然との境界線すら溶んでいる。

こういう生活が、当時の僕にはすごく貴かに見えましたね」

自然と溶け合うことで、自分も生態系の一部であると再認識する。

それが安らぎを生み、心を整え、自分が本当にやりたいことを見つめ直すことにつながる。



水が谷の淵から流みどしていた。まさかここが奥鳥居の源流と。

郡上で多くの人々と出会ったことで、

これこそが目指す「地域にひもついた学びの場づくり」に直結するものだと

確信した岡野さん。本当にやりたいことが見つかった瞬間だった。

「しかし僕を移すとなると、家族の理解を得ることに苦労する人もいるかもしれませんが、

そこで僕の場合は、移住を決める前に一度、家族を連れて郡上を訪れました。

自分がじっくり来た景色、匂い、音を妻にも味わってもらい、

この地で出会った大切な人たちに、妻を紹介しました。

幸い、妻も郡上を好きになってくれたし、

郡上の皆さんも本当にあたたかく僕たち一家を迎えてくださいました」

移住の準備と並行して、〈郡上カンパニー〉の立ち上げも進み始めた。

活動内容は大きく3つ。

地域の人々と地域の特徴を生かした事業をプランニングし、

それをもとに郡市部の人々をましえてワークショップを行う。

そしてプランを事業化する共同経営者を郡市部から募集するというものだ。

しかもそれを軌上でワークショップを使って行うのではなく、

郡上の川に飛び込み、山奥をどったり、裏には歸ったりしながら、

土間に身体を浸しながら事業づくりを行っていく。

地域と関わりながら、かつて自分を助けてくれた郡上の水場を、

学びの場としてコンテンツ化する。

これこそ、岡野さんにとって約束の地というべきミッションだった。



岡野さんの「川の時間」 奥田木正之（ゆるゆるまきやき）さんが、PDFと文を焼いてくれた。

### 「地方には仕事がない」は大きな誤解

そんな郡上での生活も、間もなく2年になろうとしている。

この間、非常に多くの学びと発見があったという。

「あらためて実感しているのは、地域の一体感です。

たとえば僕が住んでいる集落では、同じ“里”のお家で不幸があると、

ときには仕事よりも優先して、みんなでお手伝いをするんです。

葬儀の段取りをしたり、帳簿をつけたり、それぞれがやれることを分担して助け合う様子は、

共同体の本来的な姿であるように思えてなりません」



たびたびこの水田屋敷を訪れては、のんびりした時間を過ごすという。

逆にいえば、共同体のために人手が必要なことがあれば、

仕事よりも優先してもよい環境がある。

郡上で暮らすことで、

あらためてそうした本質に立ち返ることができたという岡野さんは笑顔を込めて言う。

「こうした中山間地域ならではの働き方を体験してみて、

なぜ日本が先進国の中で生産性が低いのかのわかった気がします。

日本の企業には、生産に直接関わらない報告や連絡の業務があまりにも多く、

何をやるにしてもいちいち書面が求められます。

でも、郡上では職場での顔以外にも、

暮らしのなかでの顔もお互い知っているのて、信頼が担保されているんです。

だから電話一本で話が済んで次の働きに移れるので、非常にスムーズなことがあります」

各種手続きや段取りに翻弄されがちな現代人、

そうした無駄に求まれていない、地方の全人格的な人間づきあいに学ぶものは多いだろう。



しかし一方で、移住を留んでもいかに良い扶持を得るかは大きなネックだ。  
誰かが岡野さんのように、会社に籍を残したまま活動できるわけではないだろう。

「ところが、地方には仕事がないと考えるのは、実は大きな誤解なんです。  
むしろ働き手が足りず、仕事が残っている地域のほうが圧倒的に多いではないでしょうか。  
もちろん、職種や内容にこだわるのであれば話は別ですが、  
週に何回か山仕事を手伝ったり、地元のお菓を手伝ったり、  
時間を切り分けて働く分には、  
仕事がない、ということはないように思えます」

これも地域に根を下ろさなければ得られない発見のひとつと言えるだろう。



川から汲んできた水で淹れたコーヒー。

### 〈都上カンパニー〉がこれから目指すものは？

今、岡野さんの中では、「仕事」と「遊び」の項目が  
どんどん曖昧になりつつあるという。

「僕にとっては東京から来た企業の人と一緒に山や川で遊ぶのも仕事のひとつですし、  
こっちへ来てから、右ほやそこに区別をつけることにあまり意味はないと感じています。  
たとえば今、東京のビジネスコーチ的な方に  
毎月オンラインで紙を贈ってもらっているのですが、  
お金でギヤフをお支払いするよりも、  
地元でとれた魚やキノコを送ってあげたほうが喜ばれるんです。  
こうした価値交換は、実は無償に提案することができると思っています。  
利根的に関係を清算できるお金は確かに便利でわかりやすいですが、  
見積もりにお金だけを記載しているほうが  
思考停止しているのかもしれないとも思い始めています（笑）。  
僕が知っている都上の人は、マツタケを一緒にとりに行くことで、  
大きな仕事を受注したりしています（笑）」

そんななか、東京と都上をコネクして、新たな事業の創出を目指す岡野さん。  
その体験談がメディアに取り上げられる機会が増えているのも、  
そこに今後の地方創生のヒントを見出そうとする向きが多いからだろう。



力が強い人でも木に登る勇を教えてくれたお婆木さん。さすが自然派びに働いている！

最後に、〈都上カンパニー〉の今後の展開について聞いた。

「これまで、地域の人と都会の人が一緒になって、

アイデアを事業化する取り組みをまずは3か年、徹底的に回し続けてきました。

その結果、現在までに100人以上の、

都上を特別に思い、関わり続けてくれているファンが生まれ、

この土地に根ざした事業に挑戦する仲間たちも増えていっています。

これから先のフェーズでは、

より体系的に、この地域に新しい仕事を生み出す仕組みをつくっていく必要があります。

都上カンパニーで学んだことをさらに広げ、長良川流域の人たちと一緒に、

源流の森を再生しながら新しい事業をつくっていかれたらと思っています。

流域には素晴らしい人と自然と文化があるので、可能性は無限に広がっていると思います」

「カンパニー」の語源をひもとくと、これは「会社」という意味のほかは、

「パンを分け合う仲間」という意味があるという。

つまり、当初から掲げてきた〈都上カンパニー〉の看板が、

100人超のコミュニティを生み、本当の意味でのカンパニーに成長しつつあるわけだ。



よく見ると、表の字を「禁止」しているの、文面を渡し、コミュニティを醸成するため、周辺関係がしっかりしているのだ。

「都上は、人間の『心（おの）ずから然（しか）り』という意味の、

『自然（じねん）』状態を取り戻す学校のような土地だと僕は思っています。

キャリアに悩んだ人や、企業で自分の人格の一部だけを切り取られて

評価されることに慣れた人などに必要なのは、紙上のワークシートではありません。

川に入り、火を囲み、深く呼吸をしていると

自分が動物だったとして、その木の枝の最先端がどっちに行きたがっているのかを、  
身体感覚から気づかせてもらうことができるのです」

日常から離れて心を落ち着かせ、ゆっくりと自然を観照し、自分を観察することで、

生態系の現状も、自分自身の状態をも感知する。

都会ではまず得られない体験がそこにはある。

「自分もこの源流域の深い自然に抱かれながら、

お世話になってばかりしないで、どうやってこの土地に根ざしていけるかを考えています」



きれいな川のほとりでお茶を飲む。あとはちょっとしたコーヒーと焚火。それだけで幸せを感じられた。



岡野さんの掲載もまだ後半は、

しかし、ローカルの可能性をあらためて感じさせてくれるその取り組みに

ワクワクと高揚感を感じる人は決して少なくないはずだ。

〈原上カンパニー〉と、岡野さんの今後にぜひ注目していただきたい。

#### Information



#### 原上カンパニー事務所

TEL : 0575-66-2750 (平日10:00~17:00)

〒一軒社団法人 原上・ふるさと定住機構内]

Web : <https://garden.com/>

※原上カンパニーは原上市の特任役員が取り扱います。

地方創生ワカモノ商会

Web : <https://www.kamai.co.jp/journal/issue/yakamemo/>



## ■ グループインタビュー時の呈示資料

資料 1



## 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」とは

人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し、政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することを目指します。

人口減少を克服し、将来にわたって成長力を確保し、「活力ある日本社会」を維持するため、以下の4つの基本目標に向けた政策を進めています。

- 「地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする」
- 「地方への新しいひとの流れをつくる」
- 「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」
- 「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」

### 人口減少問題の概要

#### ■ 進む人口減少

- 日本の人口は2008年の12800万人がピーク
- このままでいくと、2050年の人口は9700万人に、さらに2100年には5200万人と推計されています

#### ■ 進む東京への一極集中

- 人口減少の中で東京一極集中が深刻な問題になっています
- 東京への流出は大学への進学時や就職時が多く、このため地方では若年層の人口減少が顕著になっています
- 一方、東京圏では出生率が極めて低く、人口減少に拍車をかけています

### まち・ひと・しごと創生総合戦略の主な取組

#### 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする

- 生産性の高い、活力に溢れた地域経済に向けた総合的な取組
- 観光業を強化する地域連携体制の構築
- 農林水産業の成長産業化
- 地方への人材還流、地方での人材育成、地方の雇用対策

#### 地方への新しい人の流れをつくる

- 政府関係機関の地方移転や企業の地方拠点強化
- キラリと光る地方大学づくりや、地域における魅力ある仕事づくり
- 子どもの農山漁村体験の充実
- 地方移住の推進

#### 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- 少子化対策における「地域アプローチ」の推進
- 若い世代の経済的安定
- 出産・子育て支援
- 地域の実情に即した「働き方改革」の推進

#### 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

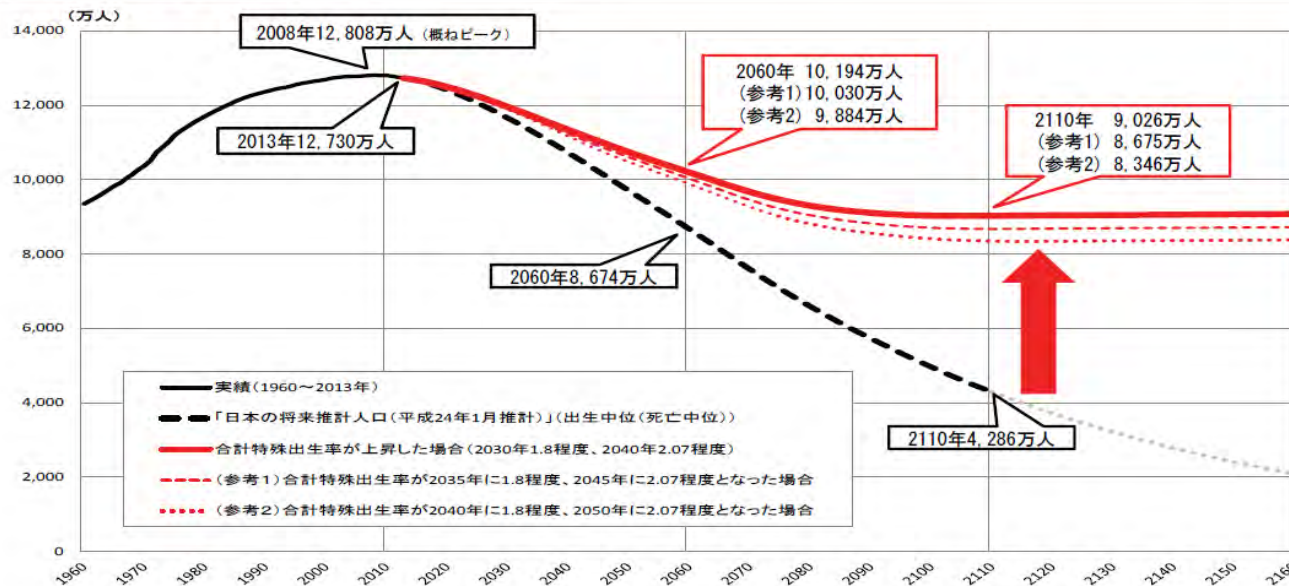
- まちづくり・地域連携
- 「小さな拠点」の形成（集落生活圏の維持）
- 大都市圏の医療・介護問題・少子化問題への対応
- ふるさとづくりの推進

## 資料 1

今のままの出生率が進むと、日本の人口は2050年には9700万人。2100年には5200万人。  
さらに200年立つと1400万人、300年で400万人にまで減少すると推定されています。

## 我が国の人口の推移と長期的な見通し

- 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」（出生中位（死亡中位））によると、2060年の総人口は約8,700万人まで減少すると見通されている。
- 仮に、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度（2020年には1.6程度）まで上昇すると、2060年の人口は約1億200万人となり、長期的には9,000万人程度で概ね安定的に推移するものと推計される。
- なお、仮に、合計特殊出生率が1.8や2.07となる年次が5年ずつ遅くなると、将来の定常人口が概ね300万人程度少なくなると推計される。



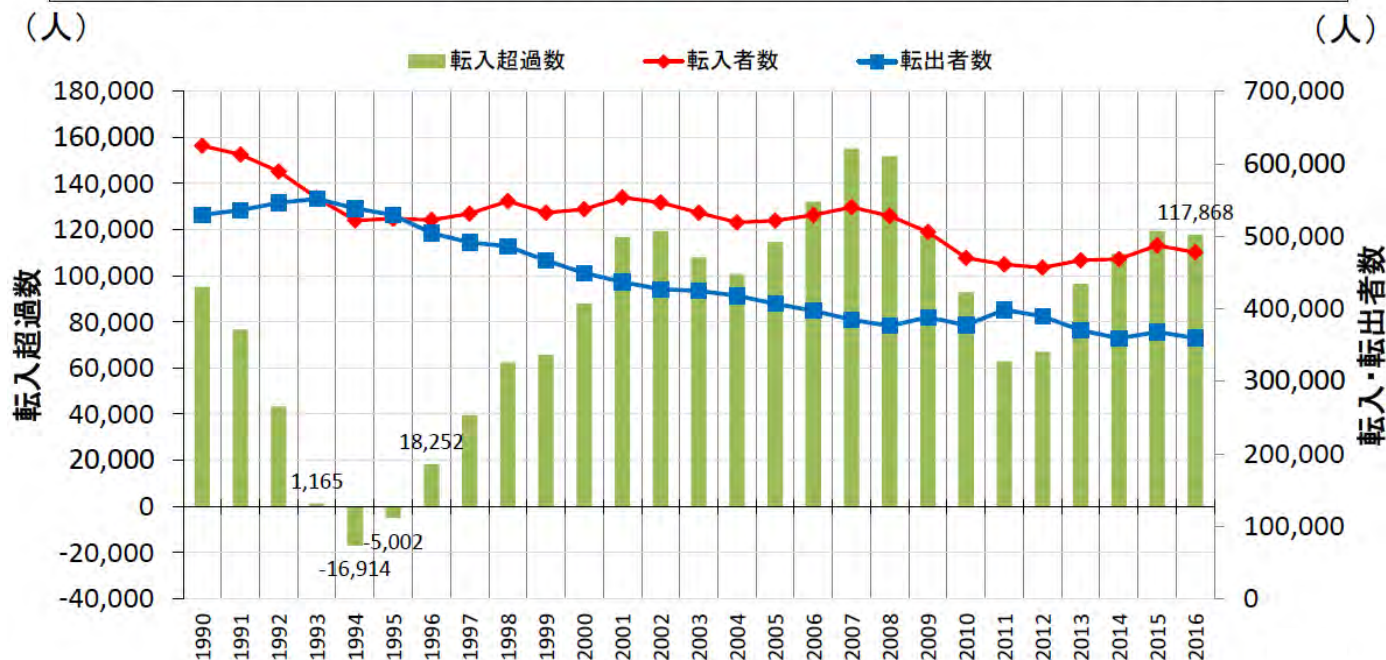
(注1) 実績は、総務省統計局「国勢調査」等による（各年10月1日現在の人口）。国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」は出生中位（死亡中位）の仮定による。2110～2160年の点線は2110年までの仮定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において機械的に延長したものである。

(注2) 「合計特殊出生率が上昇した場合」は、経済財政諮問会議専門調査会「選択する未来」委員会における人口の将来推計を参考にしながら、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度（2020年には1.6程度）となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。

## 資料1

## この人口減少の中で、東京一極集中が問題になっています。

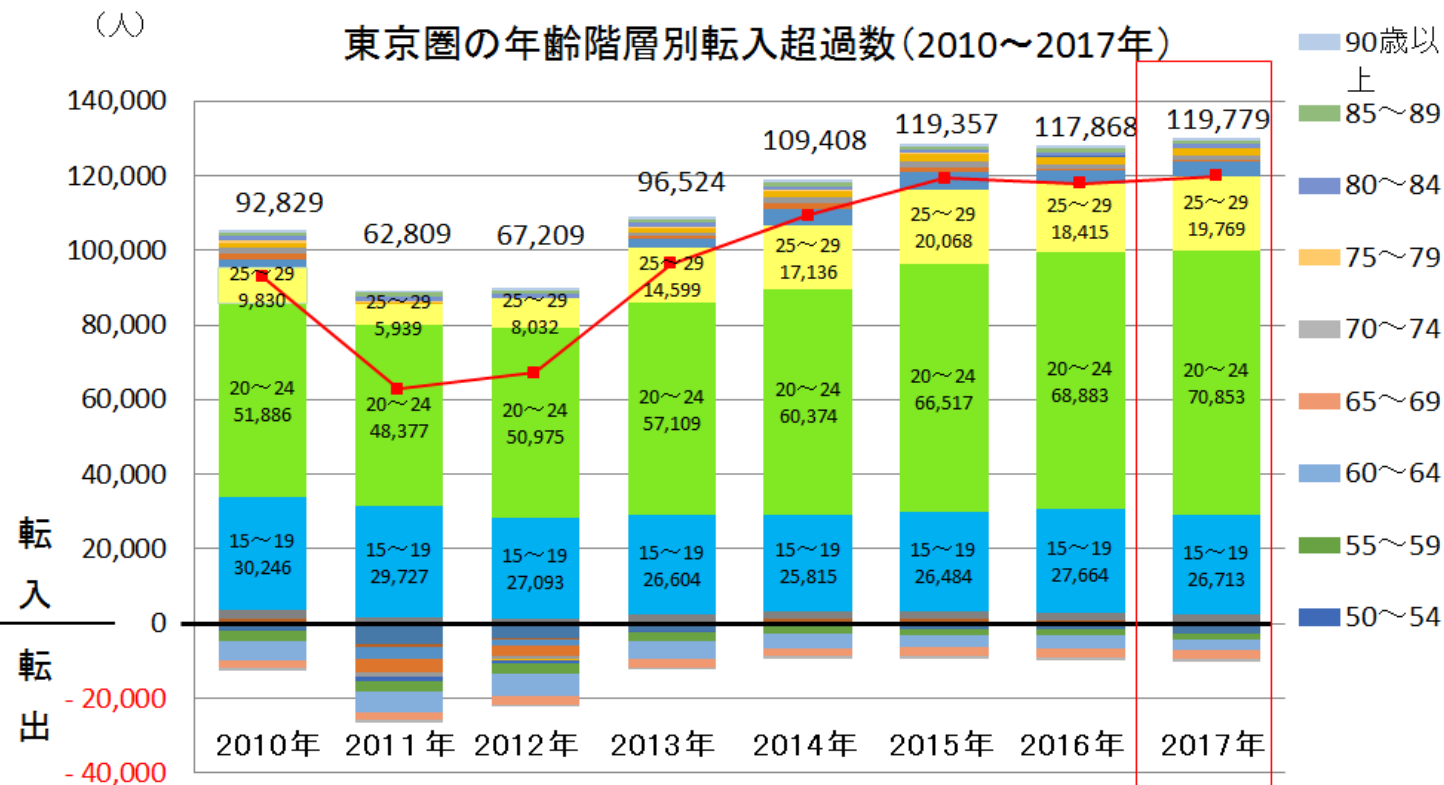
- 1994 (H6) 年、1995 (H7) 年は、東京圏（一都三県）から転出超過となったが、以後は一貫して転入超過。
- 近年では、特に、2011 (H23) 年以降、増加傾向となっている。



## 資料 1

## 特に、大学進学時、就職時に東京に転入しています。

○ 東京圏への転入超過数の大半は15～19歳、20～24歳が占めており、大学進学時、大卒後就職時の転入が多いと考えられる。

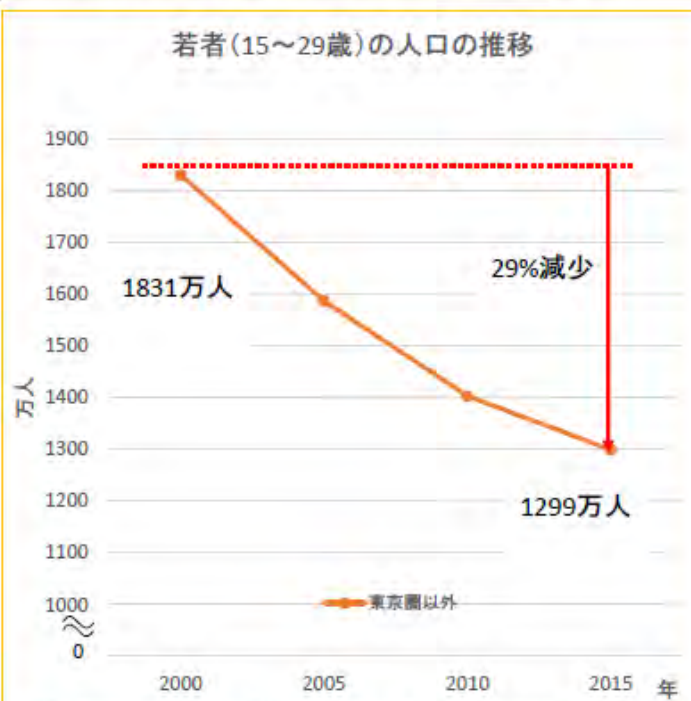


資料出所：総務省統計局住民基本台帳人口移動報告（2010年—2017年）

## 資料 1

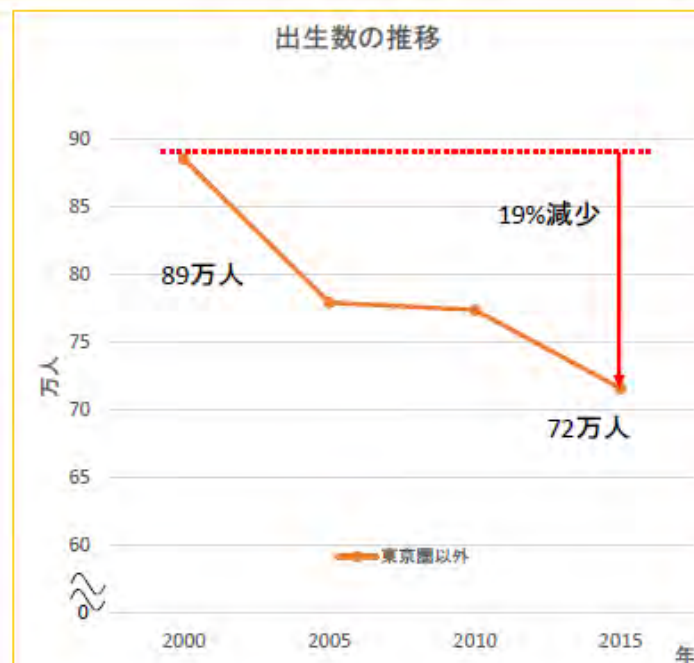
そして、地方においては、出生数の減少と、若年層の人口減少が顕著になっています。

- 2000年から2015年の15年間で、地方（東京圏以外）の若者人口（15～29歳）は、約3割（532万人）の大幅な減少。
- 出生数も、約2割（17万人）の大幅な減少。



出典：総務省「国勢調査」よりまち・ひと・しごと創生本部事務局にて作成

※東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）



出典：厚生労働省「人口動態統計」よりまち・ひと・しごと創生本部事務局にて作成

## 子育て環境のギャップ

資料2

○ 東京圏は、過度の人口の集中により、待機児童が多い、育児と仕事の両立といった課題を抱えている。

### 保育所待機児童数

都道府県	児童数 (人)	都道府県	児童数 (人)
1 青森	0	25 香川	108
2 富山	0	26 北海道	129
3 石川	0	27 岩手	145
4 山梨	0	28 長崎	157
5 岐阜	0	29 熊本	182
6 鳥取	0	30 奈良	201
7 新潟	1	31 広島	207
8 大分	13	32 愛知	238
9 和歌山	16	33 鹿児島	244
10 福井	18	34 静岡	325
11 群馬	28	35 福島	371
12 島根	30	36 茨城	386
13 徳島	33	37 滋賀	439
14 佐賀	33	38 宮城	613
15 山口	36	39 大阪	677
16 秋田	37	40 岡山	698
17 栃木	41	41 神奈川	864
18 山形	46	42 福岡	995
19 愛媛	49	43 千葉	1,392
20 長野	50	44 埼玉	1,552
21 高知	51	45 沖縄	1,870
22 宮崎	63	46 兵庫	1,988
23 京都	75	47 東京都	5,414
24 三重	80	合計	19,895

※保育所等関連状況取りまとめ  
(平成30年4月1日・厚生労働省)より作成

### 育児をしている女性(25~44歳)の有業率

都道府県	割合	都道府県	割合
1 高知	81.2%	25 宮城	67.8%
2 島根	80.7%	26 大分	67.3%
3 福井	80.5%	27 岡山	67.0%
4 山形	79.9%	28 岐阜	66.7%
5 秋田	78.7%	29 京都	66.3%
6 富山	78.6%	30 栃木	66.3%
7 鳥取	78.0%	31 和歌山	65.3%
8 石川	77.7%	32 山口	65.1%
9 岩手	77.1%	33 滋賀	65.1%
10 青森	77.1%	34 三重	64.6%
11 新潟	76.6%	35 広島	64.1%
12 熊本	76.3%	36 静岡	64.0%
13 徳島	75.3%	37 茨城	62.9%
14 佐賀	75.1%	38 福岡	62.9%
15 沖縄	73.7%	39 兵庫	62.8%
16 鹿児島	73.2%	40 東京都	61.2%
17 宮崎	72.8%	41 千葉	61.1%
18 長崎	71.8%	42 北海道	61.0%
19 福島	71.5%	43 愛知	60.1%
20 群馬	71.0%	44 大阪	60.0%
21 山梨	69.1%	45 奈良	59.4%
22 愛媛	69.1%	46 埼玉	58.5%
23 長野	68.4%	47 神奈川	57.2%
24 香川	68.2%	合計	64.4%

※総務省「就業構造基本調査」(平成29年)より作成

### 女性(25~44歳)の有業率と育児をしている女性(25~44歳)の有業率の差

都道府県	割合	都道府県	割合
1 青森	-3.3%	25 宮城	-9.8%
2 高知	-3.4%	26 岐阜	-10.0%
3 秋田	-4.0%	27 山梨	-10.4%
4 徳島	-4.5%	28 和歌山	-10.5%
5 福井	-4.5%	29 山口	-10.6%
6 沖縄	-4.7%	30 兵庫	-10.8%
7 熊本	-4.7%	31 岡山	-10.9%
8 山形	-4.8%	32 大分	-11.4%
9 島根	-5.1%	33 福岡	-11.4%
10 新潟	-5.5%	34 滋賀	-11.4%
11 岩手	-5.5%	35 北海道	-11.7%
12 鹿児島	-5.8%	36 長野	-11.8%
13 鳥取	-6.2%	37 奈良	-12.2%
14 富山	-6.2%	38 広島	-12.4%
15 石川	-6.3%	39 千葉	-12.5%
16 福島	-6.4%	40 静岡	-12.5%
17 佐賀	-7.0%	41 三重	-12.6%
18 愛媛	-7.4%	42 大阪	-12.7%
19 長崎	-8.0%	43 茨城	-13.0%
20 群馬	-8.0%	44 愛知	-14.4%
21 京都	-8.1%	45 埼玉	-14.6%
22 宮崎	-8.1%	46 神奈川	-15.0%
23 栃木	-9.2%	47 東京都	-16.5%
24 香川	-9.7%	合計	-11.7%

※総務省「就業構造基本調査」(平成29年)より作成



## 都市圏が抱える課題（暮らしやすさの違い）

資料2

- 東京圏は、過度の人口集中に基づく通勤時間が長い、住宅面積が狭いといった課題を抱えている。
- 通勤時間を含む仕事に関する時間全体を見ても、東京圏は長く、余暇が少ないことが見て取れる。

都道府県	時間 (分)	都道府県	時間 (分)	
1	大分	56	25 福島	66
2	秋田	57	25 沖縄	66
2	鳥取	57	27 長崎	68
2	鹿児島	57	28 宮城	69
5	島根	58	28 群馬	69
6	青森	59	28 静岡	69
6	山形	59	31 栃木	70
6	福井	59	32 岐阜	71
6	宮崎	59	33 三重	72
10	山口	60	33 広島	72
10	佐賀	60	35 岡山	73
12	富山	61	36 滋賀	75
12	愛媛	61	37 福岡	77
14	北海道	62	38 茨城	81
14	岩手	62	39 愛知	82
14	長野	62	39 京都	82
14	和歌山	62	41 兵庫	84
14	香川	62	42 大阪	89
19	石川	63	43 奈良	96
19	山梨	63	44 東京	97
19	高知	63	45 埼玉	101
22	新潟	65	46 千葉	108
22	徳島	65	47 神奈川	110
22	熊本	65	全国	82

都道府県	面積 (㎡)	都道府県	面積 (㎡)	
1	富山	177.03	25 静岡	131.66
2	福井	173.29	26 茨城	131.13
3	山形	168.01	27 山口	129.40
4	石川	162.51	28 熊本	129.26
5	秋田	162.04	29 和歌山	128.78
6	新潟	161.50	30 愛知	127.94
7	島根	159.22	31 愛媛	127.56
8	鳥取	156.46	32 大分	127.35
9	岩手	154.60	33 広島	125.16
10	長野	154.37	34 長崎	123.66
11	青森	150.10	35 北海道	121.53
12	岐阜	148.23	36 宮崎	120.11
13	滋賀	147.43	37 福岡	119.10
14	福島	146.37	38 兵庫	118.56
15	佐賀	144.97	39 高知	118.28
16	岡山	140.01	40 京都	114.30
17	山梨	138.86	41 千葉	110.29
18	香川	138.31	42 鹿児島	109.54
19	徳島	138.05	43 埼玉	106.96
20	三重	136.36	44 沖縄	104.28
21	栃木	134.24	45 大阪	101.58
22	宮城	133.85	46 神奈川	98.60
23	群馬	133.08	47 東京	90.68
24	奈良	132.03	全国	122.32

※総務省「住宅・土地統計調査」(H25)より作成

都道府県	時間	都道府県	時間	
1	島根	8時間54分	25 福井	9時間30分
2	鹿児島	9時間4分	26 京都	9時間30分
3	和歌山	9時間7分	27 広島	9時間34分
4	高知	9時間7分	28 熊本	9時間34分
5	宮崎	9時間7分	29 静岡	9時間35分
6	大分	9時間8分	30 岡山	9時間35分
7	山形	9時間13分	31 栃木	9時間36分
8	山梨	9時間15分	32 沖縄	9時間36分
9	鳥取	9時間16分	33 岐阜	9時間38分
10	秋田	9時間17分	34 福島	9時間40分
11	岩手	9時間19分	35 宮城	9時間43分
12	山口	9時間19分	36 群馬	9時間43分
13	徳島	9時間20分	37 滋賀	9時間51分
14	愛媛	9時間20分	38 福岡	9時間51分
15	富山	9時間22分	39 愛知	9時間53分
16	北海道	9時間24分	40 茨城	9時間54分
17	青森	9時間24分	41 兵庫	9時間54分
18	長野	9時間25分	42 大阪	9時間57分
19	石川	9時間26分	43 埼玉	10時間3分
20	三重	9時間26分	44 東京都	10時間5分
21	香川	9時間26分	45 奈良	10時間13分
22	新潟	9時間28分	46 千葉	10時間24分
23	佐賀	9時間29分	47 神奈川	10時間33分
24	長崎	9時間29分	合計	9時間49分

※総務省「社会生活基本調査」(H28)より作成

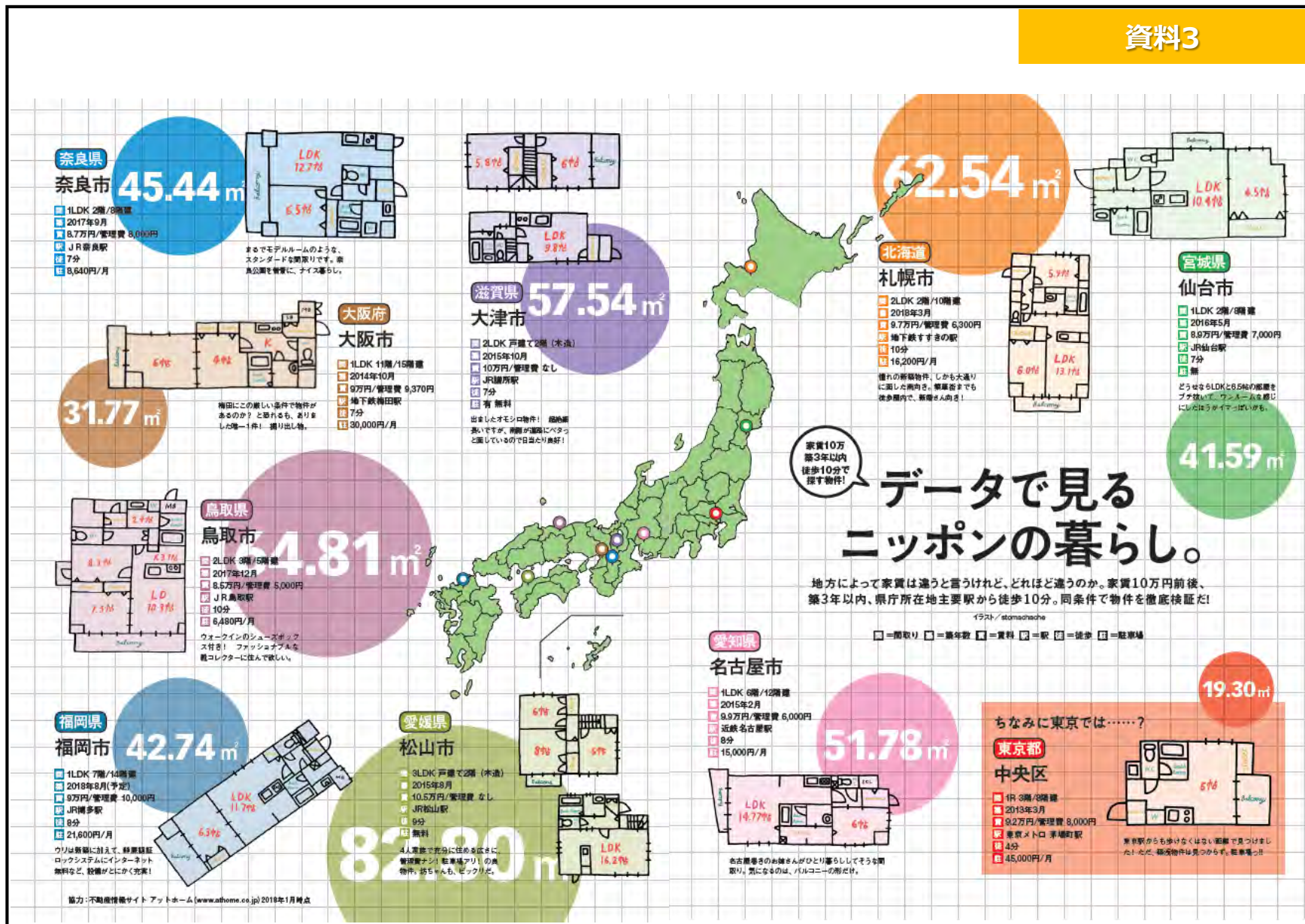
## 資料2

○ 東京圏は、可処分所得は地方に比べて高い傾向にあるが、同時に、消費支出も高い傾向にある。このため、収支差で見ると東京圏は必ずしも高くなく、福井県など、東京圏より高い県が多数存在する。

収支の状況	可処分所得 ①		消費支出 ②		収支差 ①-②	
	(円)	順位	(円)	順位	(円)	順位
福井県	449,794	2	316,859	32	132,935	1
富山県	464,635	1	342,680	46	121,955	2
山梨県	410,319	14	296,865	15	113,454	3
岐阜県	415,424	9	305,038	24	110,386	4
新潟県	408,546	19	298,342	16	110,204	5
秋田県	401,957	24	292,273	13	109,684	6
鳥取県	393,076	27	288,338	12	104,738	7
福島県	404,548	21	301,293	21	103,255	8
島根県	410,749	13	308,699	25	102,050	9
山形県	420,235	7	318,948	36	101,287	10
茨城県	423,543	4	322,730	38	100,813	11
長野県	412,970	12	315,352	28	97,618	12
埼玉県	413,741	11	317,585	33	96,156	13
香川県	421,534	5	326,327	43	95,207	14
滋賀県	409,109	17	315,430	29	93,679	15
徳島県	408,770	18	315,582	31	93,188	16
東京都	436,475	3	345,027	47	91,448	17
愛知県	417,111	8	326,266	42	90,845	18
和歌山県	357,918	42	267,197	3	90,721	19
熊本県	364,732	39	275,370	4	89,362	20
佐賀県	372,791	34	283,798	8	88,993	21
静岡県	409,388	16	320,429	37	88,959	22
岡山県	388,408	29	300,152	19	88,256	23
広島県	401,449	25	313,308	26	88,141	24

収支の状況	可処分所得 ①		消費支出 ②		収支差 ①-②	
	(円)	順位	(円)	順位	(円)	順位
三重県	405,089	20	317,716	34	87,373	25
京都府	389,043	28	303,684	22	85,359	26
神奈川県	421,367	6	336,339	45	85,028	27
千葉県	409,683	15	325,380	41	84,303	28
高知県	370,956	36	287,175	11	83,781	29
栃木県	415,323	10	332,643	44	82,680	30
石川県	404,475	22	322,978	39	81,497	31
青森県	340,994	45	260,726	2	80,268	32
奈良県	403,334	23	323,549	40	79,785	33
兵庫県	393,459	26	313,741	27	79,718	34
群馬県	379,617	32	300,301	20	79,316	35
愛媛県	362,432	40	283,190	7	79,242	36
長崎県	361,555	41	284,140	9	77,415	37
鹿児島県	356,931	43	280,079	6	76,852	38
大阪府	369,904	38	295,452	14	74,452	39
山口県	371,741	35	299,451	18	72,290	40
北海道	370,498	37	298,903	17	71,595	41
福岡県	376,010	33	304,967	23	71,043	42
沖縄県	315,819	47	247,651	1	68,168	43
宮城県	384,490	30	318,181	35	66,309	44
宮崎県	345,036	44	279,133	5	65,903	45
岩手県	380,284	31	315,566	30	64,718	46
大分県	339,005	46	285,638	10	53,367	47
全国	400,194		313,747		86,447	

資料3







人などは、なれて大風が来るとあつてもうはなれけれ、  
たまに寒をなんでも、てに在る努力を人と知るるを、  
もし自分の土地にいたいと思ふ事は、  
もちろん、住んでいる国からすくへに出来るけどもなないが、  
たまたま日本の空で生きて居る人たちが居る国に来た事、  
それのことからいって、もつとソノソノで居るべき、  
有りたつて、それ、それ、それ、それ、それ、それ、  
それ、それ、それ、それ、それ、それ、それ、  
それ、それ、それ、それ、それ、それ、それ、  
それ、それ、それ、それ、それ、それ、それ、

君はどう生きるか。  
そのために、どこで生きるか。



1 長野県北安曇郡  
(メレストシューメーカー) 総務人

2 岡山県岡山市  
「Boulder Garden, Shōjo」 経営

3 東京都高杉区  
「ピダクス、バタレ」 主宰

4 京都府京都市  
「FIRENZE」 オーナー

5 高知県高岡郡  
「Hyoshava」 代表

6 大分県日田市  
「日田シネマテーク・ラ・パレチ」 支那人

7 群馬県群馬市  
「鶴天苑 天栄楼」 鴨の料理

8 福岡県福岡市  
グラスアーティスト

9 東京都鎌倉市  
「智恵」 代表、陶芸家

10 高野橋松本市  
「第11」 代表

11 北海道釧路市  
「Guild Nemuro」 店主

12 兵庫県姫路市  
「farchipolajug」 店主

13 福岡県田川市  
「いっしゅ Palato」 プロジェクト  
マネージャー

14 北海道札幌市  
「SOUTHER WESTS」 デザイナー


15 山形県山形市  
山伏、イラストレーター  
「十三時」 店主

16 静岡県浜松市  
「400Architecture & [ajiba]」 運営


17 京都府京都市  
「MAGASIN KYOTO」 代表

この写真集のアイディアを創出したのは、写真家「増田」が、雑誌「モノ」の掲載の場をに、写真を集めてまとめたものである。

松山県松山市、その中心部に、この写真集の。



山下宏樹  
写真家 (松山県松山市) 代表  
1971年 松山県松山市生まれ  
2012年 松山県松山市在住  
2013年 松山県松山市在住  
2014年 松山県松山市在住  
2015年 松山県松山市在住



「本当にいい靴とは何か?」その疑問から  
職人作りを経て辿り着いた、理想の靴と人



「本当にいい靴とは何か?」その疑問から  
職人作りを経て辿り着いた、理想の靴と人

この写真集のアイディアを創出したのは、写真家「増田」が、雑誌「モノ」の掲載の場をに、写真を集めてまとめたものである。



0119  
佐田裕介  
大木謙太郎

0119 株式会社 大木謙太郎  
大木謙太郎は、愛知県産産物の産地直売店「大木謙太郎」の代表取締役社長を務める。産地直売店を通じて、産地直売場の活性化と産地直売場の活性化を推進している。

大木謙太郎は、愛知県産産物の産地直売店「大木謙太郎」の代表取締役社長を務める。産地直売店を通じて、産地直売場の活性化と産地直売場の活性化を推進している。



サラリーマンから30歳を節目にドゥザマイ履歴でリスタート。最終で取り替えた「高き壁」だったが、一入しやなかった。



0120 株式会社 大木謙太郎  
大木謙太郎は、愛知県産産物の産地直売店「大木謙太郎」の代表取締役社長を務める。産地直売店を通じて、産地直売場の活性化と産地直売場の活性化を推進している。

大木謙太郎は、愛知県産産物の産地直売店「大木謙太郎」の代表取締役社長を務める。産地直売店を通じて、産地直売場の活性化と産地直売場の活性化を推進している。



大木謙太郎は、愛知県産産物の産地直売店「大木謙太郎」の代表取締役社長を務める。産地直売店を通じて、産地直売場の活性化と産地直売場の活性化を推進している。



0120 株式会社 大木謙太郎  
大木謙太郎は、愛知県産産物の産地直売店「大木謙太郎」の代表取締役社長を務める。産地直売店を通じて、産地直売場の活性化と産地直売場の活性化を推進している。



0120 株式会社 大木謙太郎  
大木謙太郎は、愛知県産産物の産地直売店「大木謙太郎」の代表取締役社長を務める。産地直売店を通じて、産地直売場の活性化と産地直売場の活性化を推進している。



大木謙太郎は、愛知県産産物の産地直売店「大木謙太郎」の代表取締役社長を務める。産地直売店を通じて、産地直売場の活性化と産地直売場の活性化を推進している。



0122 航空子

0122 株式会社 航空子  
航空子は、愛知県産産物の産地直売店「航空子」の代表取締役社長を務める。産地直売店を通じて、産地直売場の活性化と産地直売場の活性化を推進している。

山口県は、その歴史と文化を大切に守り、その魅力を国内外に発信しています。伝統の織物や、自然の恵みを活かした農産物など、その豊かな文化と自然を、この冊子を通じて多くの方々に紹介いたします。



### 山口貴史

1980年 山口県生まれ  
1999年 山口大学卒業  
2002年 株式会社 山口県観光局入社  
2015年 株式会社 山口県観光局 退職  
2016年 株式会社 山口県観光局 退職  
2017年 株式会社 山口県観光局 退職

「ここでもっといいという観光から脱却して、異色の山中、ウレシイライトギアをやる。その先に未来のバックミンスター・ワイルを目指す。



### 原茂樹

1971年 山口県生まれ  
1994年 山口大学卒業  
2002年 株式会社 山口県観光局入社  
2015年 株式会社 山口県観光局 退職  
2016年 株式会社 山口県観光局 退職  
2017年 株式会社 山口県観光局 退職

生まれた服の、小さな瞬間にも感動させる。その感動力は日進月歩の「進化」。そして生まれた「他国」のような空間。



### 高野悠花

1980年 山口県生まれ  
2002年 山口大学卒業  
2002年 株式会社 山口県観光局入社  
2015年 株式会社 山口県観光局 退職  
2016年 株式会社 山口県観光局 退職  
2017年 株式会社 山口県観光局 退職

音楽、舞踊で、人と人をつなぐ。その魅力を国内外に発信する。未来を、創り出す。未来の文化、未来の文化。



「僕らの生活の中心は自然にありたい」

122



福岡にいらから生まれた作家の人で、  
最近仕事にやる気があつて来た。  
地元の路上に飾る、グラフィックの看板。

**KYNE**  
福岡県福岡市  
1985年 福岡県福岡市生まれ。グラフィックデザイナーとして活動中。現在は福岡市でグラフィックデザイナーとして活動中。現在は福岡市でグラフィックデザイナーとして活動中。

「僕らの生活の中心は自然にありたい」

126

福岡にいらから生まれた作家の人で、最近仕事にやる気があつて来た。地元の路上に飾る、グラフィックの看板。



**穴山大輔**  
福岡県福岡市  
1985年 福岡県福岡市生まれ。グラフィックデザイナーとして活動中。現在は福岡市でグラフィックデザイナーとして活動中。

福岡の歴史はなんと1000年の「古く」が、  
一人の陶藝家も目覚めた。

「僕らの生活の中心は自然にありたい」

128



福岡にいらから生まれた作家の人で、最近仕事にやる気があつて来た。地元の路上に飾る、グラフィックの看板。

福岡にいらから生まれた作家の人で、最近仕事にやる気があつて来た。地元の路上に飾る、グラフィックの看板。

「僕らの生活の中心は自然にありたい」

132



福岡の地で育つた作家という意識。  
先心病を患ったから、  
どう生き残るのかも考えたという人。

福岡にいらから生まれた作家の人で、最近仕事にやる気があつて来た。地元の路上に飾る、グラフィックの看板。





中島孝介の撮影現場。左から時計回りに、中島孝介がカメラを構える様子、撮影された料理、撮影された中島孝介の食事の様子。



中島孝介

0000 Takahiko Nakajima  
0000 建築写真家

建築写真家として活躍する中島孝介。建築写真の魅力を伝えるための写真表現について、中島孝介に話を聞いた。



建築写真の魅力を伝えるための写真表現について、中島孝介に話を聞いた。建築写真の魅力を伝えるための写真表現について、中島孝介に話を聞いた。建築写真の魅力を伝えるための写真表現について、中島孝介に話を聞いた。



先陣に倒れてしまったと動いた北風の風景で、そこで見た風景が、胸に刺さっていた夢を動かした。

建築写真の魅力を伝えるための写真表現について、中島孝介に話を聞いた。建築写真の魅力を伝えるための写真表現について、中島孝介に話を聞いた。建築写真の魅力を伝えるための写真表現について、中島孝介に話を聞いた。



小菅廣喜

0000 Hiroyuki Kosuge  
0000 建築写真家

建築写真家として活躍する小菅廣喜。建築写真の魅力を伝えるための写真表現について、小菅廣喜に話を聞いた。

が子と風土愛とやりたいことを、丹念にのぞき見で撮影した。



例し直線に透けていた人形、大人にだけ見える風景を撮影する。新たな視点から見た風景も、思いがけず。



建築写真の魅力を伝えるための写真表現について、中島孝介に話を聞いた。

建築写真の魅力を伝えるための写真表現について、中島孝介に話を聞いた。建築写真の魅力を伝えるための写真表現について、中島孝介に話を聞いた。建築写真の魅力を伝えるための写真表現について、中島孝介に話を聞いた。





高野人の「雪」で撮った  
札幌アーバンアウトドアライフ。

札幌のアウトドア文化は、自然の恵みを受け、四季を通じて楽しむことが特徴です。冬は雪の景色を楽しむために、スキーやスノーボードが人気です。夏は川遊びやキャンプが盛んです。また、札幌には多くのアウトドア用品店があり、最新のギアを揃えることができます。高野人の「雪」で撮った札幌アーバンアウトドアライフは、札幌のアウトドア文化を伝えるための取り組みです。この取り組みを通じて、札幌のアウトドア文化を広く知ってもらい、札幌の魅力を伝えることが目的です。

土割村

土割村は、自然豊かな環境に恵まれた自治体です。美しい自然を堪能できる観光地として知られています。また、伝統的な文化や行事も数多くあり、訪れる価値のある場所です。

水田里

水田里は、美しい自然環境と伝統的な文化が息づく地域です。四季を通じて楽しめる観光資源が豊富で、訪れる価値があります。



坂本大三郎

坂本大三郎は、日本の歴史を伝えるための取り組みを行っています。この取り組みを通じて、日本の歴史や文化を広く知ってもらい、日本の魅力を伝えることが目的です。

坂本大三郎の取り組みは、日本の歴史や文化を伝えるための重要な役割を果たしています。この取り組みを通じて、日本の歴史や文化を広く知ってもらい、日本の魅力を伝えることが目的です。

現代の山伏の仕事は、修練道と執業業？  
藤原の日本文化を山から運んでくる。



現代の山伏の仕事は、修練道と執業業？藤原の日本文化を山から運んでくる。

現代の山伏の仕事は、修練道と執業業？藤原の日本文化を山から運んでくる。この取り組みを通じて、日本の歴史や文化を広く知ってもらい、日本の魅力を伝えることが目的です。



現代の山伏の仕事は、修練道と執業業？藤原の日本文化を山から運んでくる。



現代の山伏の仕事は、修練道と執業業？藤原の日本文化を山から運んでくる。



現代の山伏の仕事は、修練道と執業業？藤原の日本文化を山から運んでくる。この取り組みを通じて、日本の歴史や文化を広く知ってもらい、日本の魅力を伝えることが目的です。



現代の山伏の仕事は、修練道と執業業？藤原の日本文化を山から運んでくる。この取り組みを通じて、日本の歴史や文化を広く知ってもらい、日本の魅力を伝えることが目的です。



現代の山伏の仕事は、修練道と執業業？藤原の日本文化を山から運んでくる。この取り組みを通じて、日本の歴史や文化を広く知ってもらい、日本の魅力を伝えることが目的です。

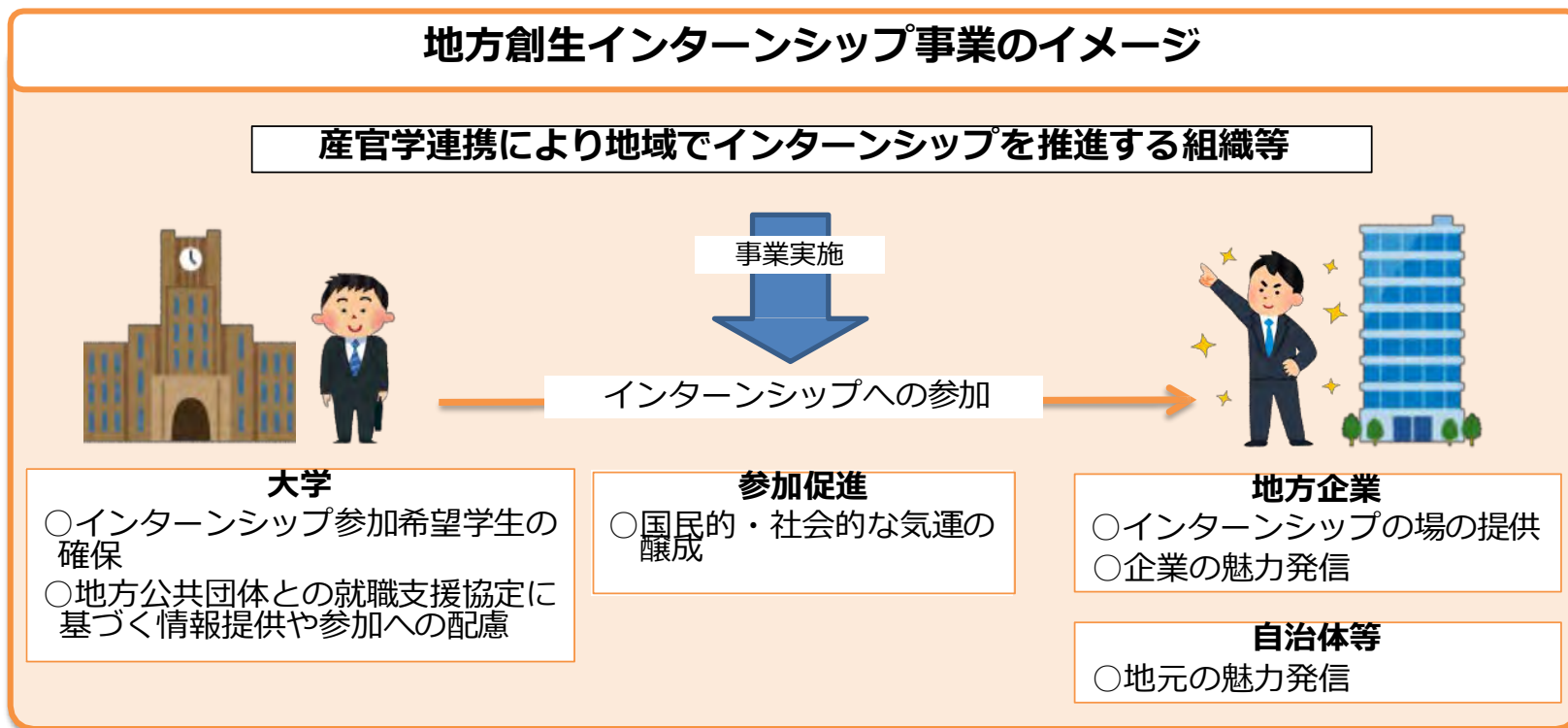
地方創生インターンシップ事業

資料5

東京圏在住の地方出身学生等の地方還流や地元在住学生の地方定着を促進するため、産官学を挙げて、地元企業でのインターンシップの実施等を支援。

地方創生インターンシップ事業のイメージ

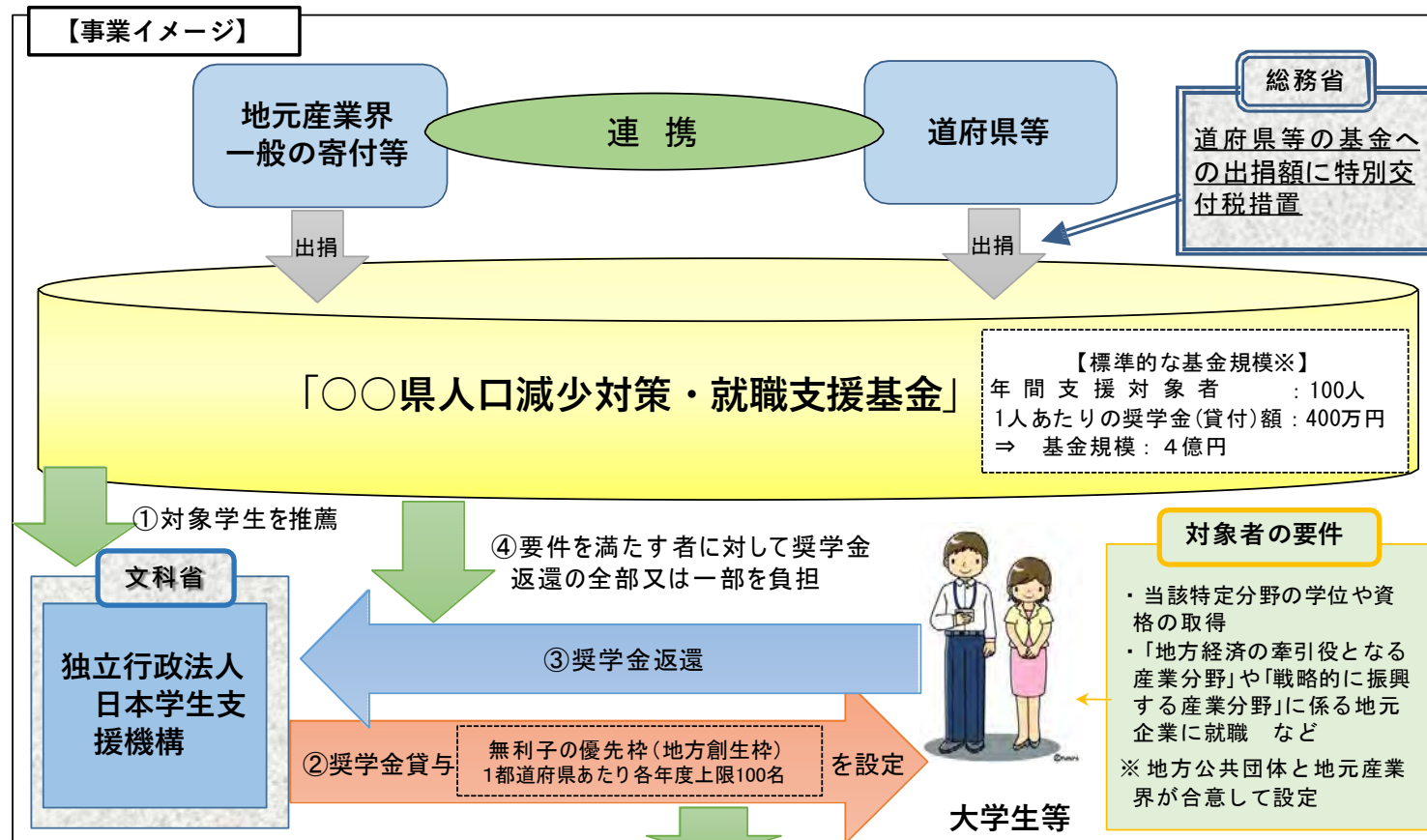
産官学連携により地域でインターンシップを推進する組織等



- ・学生が地方企業を知り、その魅力に気づく機会が充実
- ・就職先として地方企業が有力な選択肢の一つとなることで、地方への人材還流、地元定着が実現

# 「奨学金」を活用した大学生等の地方定着の促進

資料5



地方大学等への進学、地元企業への就職や、都市部の大学等から地方企業への就職を促進

○奨学金返還支援を実施しているのは32府県

(青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、岐阜県、三重県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県)

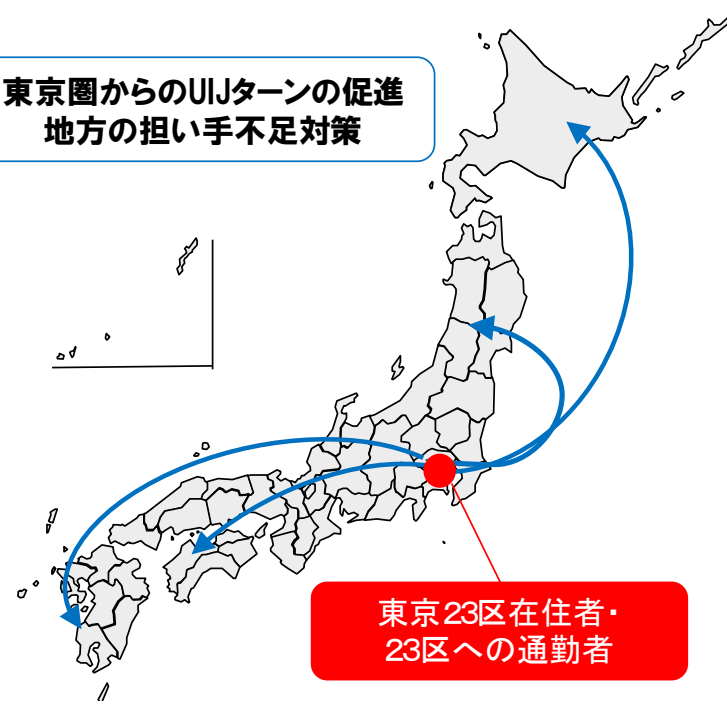
※上記の事業イメージによらず、独自の取組として奨学金返還支援等を実施している府県を含む。

## UIJターンによる起業・就業者創出（移住支援・起業支援）

資料5

## ○ 地方へのUIJターンによる起業・就業者の創出等を地方創生推進交付金により支援。

	地方※1へ移住 (東京23区在住者又は23区 への通勤者※2が移住)	
地方※1での就業 (地方公共団体がマッチ ング支援の対象※3とし た中小企業等に就業)	就業した場合 <b>最大100万円</b>	
地方※1での起業 (地域課題解決に資する 社会的事業を起業)	起業した場合 <b>最大300万円</b> (最大100万円+200万円)	(地方にいたままで) 起業した場合 <b>最大200万円</b>

東京圏からのUIJターンの促進  
地方の担い手不足対策他省庁  
との連携

＜移住支援と連携＞

※1 東京圏の条件不利地域※4を含む。

※2 東京圏在住の23区への通勤者のうち、条件不利地域※4在住者を除く。

※3 都道府県による移住希望者等と中小企業等のマッチングを支援する仕組みの構築を別途支援。

※4 過疎地域自立促進特別措置法、山村振興法、離島振興法、半島振興法及び小笠原諸島振興開発特別措置法において規定される条件不利地域を有する市町村（政令指定都市を除く）。